

# クリスチャンの奉仕

エレン・G・ホワイト  
福音社編集部訳

福音社



Instruction  
for  
Effective Christian  
Service  
The

A compilation From the Writings  
of  
Mrs. Ellen G. White

JAPAN PUBLISHING HOUSE  
1966 Kamikawai-cho, Asahi-ku  
Yokohama, Japan



## まえがき

キリストの一生は奉仕の一生であつた。自然界の空飛ぶ鳥も、地上の動物たちも、みな何かほかの生命のために奉仕している。これは宇宙の生命の大原則である。キリストはすべてのものに奉仕するために父なる神からお受けになつた。その恵みにあずかったものはおのずから、キリストの愛の奉仕の循環に加わり、その奉仕は愛の潮流となつて、すべてのものの根源である神へ回流する。

本書は、そのクリスチャンの愛の奉仕に熱心に従事することの必要性と重要性、また、その方法と報いなどについて、E・G・ホワイトの靈感の書物の中に散在する教訓を便利な形にまとめて、クリスチャン奉仕の百科辞典となるように願つて発行したものである。

もちろん、預言の霊の中にあるクリスチャンの奉仕に関するほう大な資料を全部網羅したわけではない。しかし、本書は、クリスチャンの働き人が、救霊の科学に関して、真理の鉱脈をさらに深

く掘り進めるための、ガイド・ブックであることを信じてやまない。

種々の資料を選択するに当たっては、靈感が与えられ記録されたときの事情を考慮することに努めた。この書が、牧師、教会の各方面の指導者のよい参考資料となると共に、大伝道者イエスの精神に心を動かされたすべての男女に、心から歓迎されることを希望するものである。

## 発 行 者

## 目次

### 1、神の奉仕への召し・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

- 人間の器に期待される
- 個人の召し
- クリスチャンの総合勢力
- 証人
- 光と祝福の器
- 天来の任命
- 普通の身分から召される
- 魂をみちびく生活
- 伝道者としての婦人

### 2、青年の召し・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

- 天の任命
- 教会の働きにおける青年
- 幼い時に
- 青年の前途
- 選ばれた時少年にすぎなかったテモテ
- 隊列を補充する予備軍
- 苦勞と犠牲の中の開拓者たち
- 各方面の働き
- 成功の秘決
- 奉仕のために組織せよ

### 3、神の民の状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

- 伝道精神の欠乏
- 自己満足の階級
- サタンによる致命的麻痺
- 靈的な目のくも
- 靈的に弱い状態
- 天の目業の必要
- 狂言と冷たい形式主義
- 利己心のために狭量になる
- 食欲
- 二十人の中の一人も備えができていない
- リバイバルと改

革の必要 ●遅延は致命的 ●生産者ではなくて消費者 ●戒めを守ることは罪のおお  
い ●罪とがのうちに死せる者 ●人間的な道德家 ●しみのある記録 ●重荷を負う  
ている人々が疲れ果てようとしている ●信仰について賢明な理由をのべることができ  
ない ●ある者は預言の巻き物をたどる ●印象的な夢 ●会うべき試練

#### 4、クリスチャンの働き人が直面している世界情勢・・・・・・・・・・・・・・67

●世界的なドラマ ●ドラマの最終場面 ●時代の危機 ●神の抑制のみたまがとり  
去られつつある ●避病院のような世界 ●罪悪の流行 ●大欺瞞者が働いている  
●戦争の精神にわき立つ世界 ●霊的暗黒 ●麦と毒麦を分ける ●エリヤの経験か  
らの教訓

#### 5、教会は伝道訓練のセンター・・・・・・・・・・・・・・79

●現代の必要 ●教会伝道のカリキュラム ●特別の訓練 ●教えを適用させる ●訓  
練を与える責任 ●訓練の資格を備えた役員を選べ ●教会員は自分を教育すべきである  
●天来の標準 ●例

#### 6、教育期間中 学生は伝道の働きをすべきである・・・・・・・・・・・・88

●教育の目的 ●なすことによって学ぶ ●伝道精神の奨励 ●学校が終わったら  
●歌の奉仕



7、牧師と信徒の協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・93

- 一致協力して奉仕の野に
- 説得力のある結合
- 重大なまちがい
- 牧師の責任
- よい模範

8、クリスチャン勢力の組織・・・・・・・・・・100

- 組織が必要である
- 完全な組織の教訓
- 教会組織の第一歩
- 教会組織のモデル
- 各自の立場にふさわしく
- 成功の秘決
- 時にかなった警告

9、覚醒・・・・・・・・・・107

- 召集
- 行進命令
- 猶予はない
- 重大な質問
- 目ざめよとの召し
- 実行しなければならぬ
- 神のはかり
- こうなっていたはずの事
- 天の記録
- 父祖たちより多く求められている
- 怠惰な教会への訴え
- 力強い例証
- 告白対表現
- 伝道活動に伴う危険
- クリスチャンの奉仕を始める者への奨励
- 風景の中にあるクリスチャン生活
- クリスチャンの標語
- 霊的マヒ状態
- 確実な治療法
- 正当と認められない弁解
- 重い冠をめざして
- すでに支払われた奉仕
- 前進せよ
- 印象的な光景

10、方法・・・・・・・・・・161

- 戸ごとに
- 一人の聞き手
- 密接な個人的交わり
- 霊的リバイバルと個人伝道の

結合 ●人々のもとに行きなさい ●家に招いて聖書研究をしなさい ●社交的になりなさい ●同情的な関心を示しなさい ●個人的経験をあげよ ●効果的例証 ●実際の基礎を論じなさい ●肯定的な真理を保ちなさい ●大街道での代表者 ●二人ずつつかわされた ●医事伝道旅行 ●福音医事伝道者 ●実業教育 ●福音伝道集会に招きなさい ●安息日学校に集めなさい ●ペンと声で

11、医事伝道事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・188

●第一に重要な働き ●聖なる模範 ●福音伝道との結合 ●使命の右腕 ●神のご協力 ●すべての教会の働き ●医事拡張運動計画 ●機関の働き ●料理学校 ●時機を得たメッセージ

12、聖書研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・202

●天来の計画 ●明確な召し ●感銘深い光景 ●働きの準備 ●成功の秘訣 ●たのしい働き

13、印刷物の働き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208

●第一に重要な仕事 ●効果的な機関である出版所 ●出版事業の拡張 ●自由に配布する機会 ●購読を取りなさい ●書籍の販売 ●都市で働きなさい ●健康に関する文書 ●差別なく配布せよ ●真理の書かれた断片を大切にせよ ●保管所を設けよ

●天使が道を備える

14、宗教自由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223

●適切な祈り ●やってくる事件 ●必ずやってくる迫害 ●なぜ迫害は沈滞しているのか ●三者結合による迫害 ●ドラマの最後の場面 ●盲目の目を持つ者たち ●神の民の責任と義務 ●実行すべき賢明な策 ●真理の勝利 ●暗黒にある光 ●神の保護

15、収獲運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・240

●困った問題 ●効果的な計画 ●働き人への諫言 ●成功に欠くことのできない要素 ●自国伝道対外国伝道 ●とうとう模範 ●ネヘミヤの生涯からの教訓 ●現代のネヘミヤたちの召し

16、教会拡張運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・256

●神の計画 ●とうとう模範・アブラハム ●あなたはここで何をしているのか ●クリスチャン家庭への召し ●移植に賢明な養樹園主を必要としている ●結果についての保証 ●古代イスラエルの失敗から学ぶ

17、クリスチャンの援助の働き・・・・・・・・・・・・・267

●主の足跡に従う ●保証 ●覚えられる ●援助の手をのべよ ●もてなしはクリスチャンの義務 ●試みの段階 ●効果的に用いられたたとえ

18、	キャンプミーティングークリスチャンの奉仕における一つの助け	278
-----	-------------------------------	-----

- 重要性
- 目的
- 伝道方法の実際的実践
- 世の終わりににおけるキャンプミーティングの特色
- 出席しないことで重大な損失を得る

19、	米国内の外国人伝道	285
-----	-----------	-----

- 外国伝道地におけると同様に重要な働き
- 天来の機会
- 怠慢
- 働き人の手を強めよ

20、	裕福な人、有力な人への伝道	290
-----	---------------	-----

- おろそかにされてはならない
- 働き人の特別の資格
- 結果は保証される
- 聖書時代の裕福な人々

21、	家庭は伝道者養成センター	296
-----	--------------	-----

- 第一に重要な事について
- 天使の記録
- 子供にも霊的、肉体的責任を負わせる
- 家庭の広い感化
- 家族の旗を選ぼう
- 家庭礼拝の重要性

22、	祈りと伝道集会	304
-----	---------	-----

- 効果的な祈りの秘訣
- 献身的な働きをはかる
- 集会をおもしろくする
- 個人的体験のあかし
- 賛美と感謝
- 危険な方針
- 慰めのみ約束

23、伝道事業の諸分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・310

- 盲人のための思いやり
- 孤児の世話
- 黒人
- 禁酒改革
- ファローアップの重要性
- 財産の管理
- 天の報告方法

24、クリスチャンの奉仕をりっぱに果たす資格・・・・・・・・・・322

- 有能さ
- 教養のある言語
- 知的教養
- クリスチャンの威厳と教養
- 純真さ
- 積極性
- 決意
- 熱意
- 忍耐
- 気転
- 不変性
- 同情と社交性
- 単純さ
- 信仰
- 勇気
- 献身
- 誠実
- 忠誠
- 鋭敏さ
- 高い標準を保持する
- 慎重と用心
- 失望をくじく方法
- やさしさ
- 公平
- 正直―忠実―勤勉
- 無我
- 案ずるな
- 神の信任状を受けよ
- 民兵
- 勇気と真実
- 羊飼いのような思いやり
- けんそん
- 節制
- 休養と内省

25、聖霊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・364

- 約束
- 神は気持ちよく与えられる
- 受けるための条件
- 成功に欠くことのできないもの
- 理解されていないみ約束
- おなしく聖霊の降下を待っている人々
- キリストの後継者
- 初めから聖霊が働く

26、成功の保証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・374

- 神の保証
- 天使たちの協力
- 失敗について考える必要はない
- 相応の成功

● 成功する奉仕の基礎となる動機 ● 結果を神にゆだねる

27、奉仕の報い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・387

● 金で買えない ● 評価の基礎 ● 確かな報い ● 公平な報い ● 現在の報い ● 未来の報い ● 忍耐して報いを待つ

## 第一章

# 神の奉仕への召し

### 人間の器に期待される

神は、人々において神を代表する者として、全然墮落したのではない天使たちではなく、救おうとする相手の人間と同じ情をもった人間をおえらびになる。キリストは人の心をつかむためにご自身に人間性をおとりになった。世に救いをもたらすためには神人としての救い主が必要であった。こうして「キリストの無尽蔵の富」を知らせる聖なる責任が男にも女にも委託されているのである（エペソ三ノ八）。——使徒の働き・一三四ページ

その感動的な光景をごらんなさい。天の大君が、自らおえらびになった十二人にかこまれておいでになるのに注目なさい。イエスはいままさに彼らを働きのために聖別しようとしておられる。これらのかよい器によって、みことばとみたまを通して、イエスは救いをすべての人々の手の届く

ところにおくように計画しておられるのである。——使徒の働き・一八ページ

「ヨッパに人をやって、ペテロと呼ばれるシモンという人を招きなさい」（使徒行伝一〇ノ五）。

こうして神は福音伝道と組織された教会に対する関心の証拠をお示しになった。コルネリオに十字架の話を語る任務は天使に負わされなかった。十字架につけられてよみがえられた救い主についてコルネリオに語ることは、百卒長自身と同じく、人間的な弱さや誘惑を受けやすいひとりの人間であつた。——使徒の働き・一三四ページ

ピリポのもとにつかわされた天使は、エチオピア人のために働くことができたのであるが、しかしそれは神の働かれる方法ではない。人が人のために働くことが神のご計画である。——使徒の働き・一〇九ページ

パウロはつづけてこう言っている、「わたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであつて、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである」（コリント第二・四ノ七）。神はこの真理を罪のない天使たちを通してのべ伝えることがおできになったのであるが、しかしそうすることは神のご計画ではない。神はご自分の計画を遂行なさるのに、人間、弱点だらけの人間をおえらびになる。測り知ることのできない価値をもった宝が土の器に入れられるのである。神の祝福は人を通して世に伝えられねばならない。彼らを通して神の栄光が罪の暗黒の中に照りいでなければならぬ。愛の奉仕を通して、彼らは罪深い人々や必要に迫られている人々に接し、そうした人々を十字架にみちびかねばならない。どんな働きにおいても、彼



## 1 神の奉仕への召し

らはすべてのものの上にいましていっさいに超越したもう神に栄光と誉れと賛美を帰したてまつらねばならない。——使徒の働き・三三〇ページ

救い主が人類の仲保者となるために天へお上りになってからは、キリストに従う者たちが主のお始めになった働きをつづけるようにというのが救い主の目的であつた。人間の器は、暗黒の中にある人々に福音使命の光を与えることに特別な興味を示さないであろうか。真理の光を人々に伝えるために地の果てにまでよこんで出かける人もあるが、神は真理を知っている魂がひとり残らず他の人々を真理への愛にみちびくように要求しておられる。もしわれわれが、いまにも滅びようとしている魂を救うためによこんで特別な犠牲を払わないならば、どうして神の都へはいるに価する者の一人にかぞえられようか。——教会へのあかし・第九巻・一〇三ページ

主は、その知恵によつて、真理を求めている人々を真理を知っている人々に接触させられる。光を受けた人々がその光を暗黒の中にある人々に与えることが天のご計画である。人間は知恵の偉大な源泉から能力をひき出すことによつて仲介手段すなわち働きの器となり、この器を通して福音は魂と心を一変させる力を発揮するのである。——使徒の働き・一三四ページ

神は、罪人を救うのにわれわれの助けがなくても、目的を達することがおできになったのである。だがわれわれがキリストのような品性を発達させるためには、キリストの働きにあずからねばならない。キリストのよろこびすなわちキリストの犠牲によつてあがなわれた魂を見るよろこびにはいるためには、われわれは彼らをあがなうキリストの働きにあずからねばならない。——各時代の希

望・第一巻・一六三ページ

人々の中にあつてキリストを代表する者として、キリストは、全然墮落したことの無い天使たちをおえらびにならず、救おうとする相手の人間と同じ情を持った人間をおえらびになる。キリストは、人性に触れるためにご自分も人性をおとりになった。神性は人性を必要とした。なぜなら、救いを世に伝えるためには、神と人間とが必要だったからである。人性が神と人との間の伝達のチャンネルとなるように、神性は人性を必要とした。——各時代の希望・第一巻・三八三ページ

ほとんどじつとしていられないような熱心さで、天使たちは、われわれの協力を待っている。なぜなら人間が、人間と通信するチャンネルとならねばならないからである。だからわれわれが全霊をもってキリストに献身するときに、天使たちは、神の愛をあらわすのにわれわれの声を通して語ることができるところをよるこぶのである。——各時代の希望・第一巻・三八四、三八五ページ  
われわれは神と共に働く者とならねばならない。なぜなら神は人間の器を通してでなければその働きを完結されないからである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年三月一日

## 個人の召し

ひとりびとりのクリスチャンのためにはつきりした働きが割り当てられている。——サザン・ウ  
オッチマン・一九〇四年八月二日

神はひとりびとりが神のぶどう園の働き人となるように求めておられる。あなたは自分の責任と

## 1 神の奉仕への召し

して定められている働きをとり上げてそれを忠実に果たさなければならない。——バイブル・エコー・一九〇一年六月一〇日

もしあなたがたのひとりびとりが活発な伝道者となるならば、現代の使命はすみやかにすべての国々に、またすべての民と国民と国語にのべ伝えられる。——教会へのあかし・第六巻・四三八ページ

真の弟子はみな伝道者として神の国に生れているのである。生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。魂のうちにあるキリストの恵みは、砂漠の中の泉のようなもので、それはわきあがってすべての人を元気づけ、いまにも死にそうになっている人々にいのちの水を飲みたいと熱望させるのである。——各時代の希望・第一巻・二三四ページ

神は、現代の真理についての知識を委託されたひとりびとりの個人的な奉仕を期待しておられる。みんなが宣教師として外国の地に出て行くわけにはいかないが、しかしだれでもみな家庭や近隣において国内伝道者となることができる。——教会へのあかし・第九巻・三〇ページ

キリストが弟子たちを任命されたとき、彼は天のみ座から幾歩も離れていないところに立っておられた。キリストのみ名を信ずるすべての者を宣教師として含めて、イエスは「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音をのべ伝えよ」と仰せになった（マルコ一六ノ一五）。神の力が彼らに伴うはずであった。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年九月二〇日

魂を救うことがキリストを告白するすべての者の働きでなければならぬ。われわれは神から与

えられた恩恵について、また、われわれを照らしている光について、また真理の中にみいだされる美と力について、世に対する負債者である。——教会へのあかし・第四巻・五三ページ

団体の働きをもって個人的な働きの代わりにしようとする傾向がどこにでも見られる。人間の知恵には、団結し、一つに集結して大きな教会や機関を建設しようとする傾向がある。おおぜいの人々が慈善事業を各種団体、機関にまかせ、自分は社会との接触を避けるため、心はだんだんと冷えてくる。そういう人は自己に没頭し、感受性を失い、神と人に対する愛が絶えてしまう。

キリストは従う者にそれぞれ働きを委任された。それは代理人ではできない働きである。病人や貧しい人々への奉仕、迷った人に福音を伝える仕事は委員会や組織だった慈善事業団体にまかせておくべきではない。福音は個人的な責任、個人の努力、その人自身の犠牲を要求する。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一一九ページ

天来の光を受けた者はだれでもみな、いのちの光であられるキリストを知らない人々の道を照すのである。——各時代の希望・第一巻・一七八ページ

ひとりびとりに働きが割当てられていて、だれも他人の代わりをすることはできない。各人は非常にたいせつな使命を持っているのであって、それを無視したりおろそかにしたりすることはできない。その使命を達成することはある魂の幸福を意味し、それをおろそかにすることはキリストがそのために死なれた魂のわざわいを意味するからである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八

九三年一月二日

## 1 神の奉仕への召し

われわれはみな神と共に働く者とならねばならない。なまける者はだれも神のしもべとしてみとめられない。教会員は、その教会の生命と繁栄が自分たちの行動によって左右されるということを個人的に感じなければならない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八七年二月一五日

キリストに救われたものは、みな、キリストのみ名のもとに、失われた人びとのために働くように召されている。イスラエル人は、この働きをおろそかにしたが、今日、キリストの弟子であると公言している者も、おろそかにしてはいないであろうか。——キリストの実物教訓・一七一ページ  
ひとりびとりしなければならぬことが何かある。真理を信ずる魂はみな自分の境遇と立場に立って、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」（イザヤ書六〇八）と言わねばならない。——教会へのあかし・第六巻・四九ページ

主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチャーの特権である。——キリストの実物教訓・四七ページ

神の子となる者は、そのときから世を救うためにおろされた鎖の一環と自分を考え、イエスのあわれみ深いご計画においてキリストと一つになり、失われた者をたずねて救うために、キリストと共に出て行かなければならない。

——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七六ページ

だれでも何かすることを見いだすことができる。キリストのために自分には働き場がないと考える必要はない。救い主はご自分を人類のすべての子供と等しくなさった。——ミニストリー・オブ

・ヒーリング・七五ページ

奉仕の契約において主と一体となった者は、偉大かつ崇高な救霊の働きにおいてキリストと一つになるきずなにおすばれているのである。——教会へのあかし・第七巻・一九ページ

その働き地は広く、その計画は大きいので、きよめられた心の持ち主は一人残らず天来の力の器として奉仕に急がせられる。——教会へのあかし・第九巻・四七ページ

人間は神のみ手にある器であつて、神の恩恵とあわれみの目的を達成するために神に用いられる。各人はなすべき役割を持っている。各人には多少の光が与えられているが、それはその時代の必要に適し、神がなすようにお与えになった働きを遂行するのに十分である。——各時代の大争闘・英

文・三四三ページ

神は、教会全体が奉仕の精神に満たされ、ひとりびとりがそれぞれの才能に応じて神のために働くようになるのを長い間待ってこられた。——使徒の働き・一一一ページ

神のみ国をのべ伝えるために、キリストが初めに十二人をつかわし、のちに七十人をつかわされたとき、キリストは彼らの義務をお教えになっていた。それはキリストが彼らに知らされたことを他人に分け与えることであつた。キリストのすべての働きにおいて、彼は個人的な働きについて彼らを訓練しておられた。この個人的な働きは彼らの数がふえるにしたがつてひろがつて行き、ついには地の果てにまで達するのであつた。——使徒の働き・三二ページ

この使命を果たすために出て行く責任は牧師にだけ負わされているのではない。キリストを受け

## 1 神の奉仕への召し

入れた者はだれでも同胞を救う働きのために召されているのである。——使徒の働き・一一〇ページ  
教会の真価は、りっぱな告白や教会員名簿にのっている名前によってではなく、教会が実際に主のためにしていることによって、また忍耐強い忠実な働き人の数によってはかられる。個人的な関心と油断のない個人的な努力とは、キリストの働きのために説教や教義よりもっと多くのことをなしとげる。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年九月六日

教会が設立されているところではどこでも、全教会員が伝道の働きに積極的に従事すべきである。彼らは近所の家庭を残らず訪問し、人々の霊的状态を知らねばならない。——教会へのあかし・第六巻・二九六ページ

教会員はみな外国で働くように召されているとはかぎらない。しかし世に光を与えるこの大きな働きにはみんなが果たすべき役割がある。キリストの福音は進取的で普及力がある。神の日には、だれも自分自身の利己的な利害に没頭していたことをゆるされない。どの心にもどの手にもなすべき働きがある。異なった心、異なった能力に応じて、いろいろな働きがある。——ヒストリカル・スケッチズ・二九〇、二九一ページ

彼はあなたに聖なる真理を委託された。教会員のひとりびとりのうちに住まれるキリストはわきあがって永遠の生命となる水の泉である。もしこの生ける水を他人に分配するためにあらゆる努力をしないならば、あなたは神の前に罪を問われる。——ヒストリカル・スケッチズ・二九一ページ  
われわれはクリスチャンとして、魂をキリストにみちびくためになすべきことの二十分の一もし

ていない。警告すべき世がある。まじめなクリスチャンはみな、忠実さにおいて、十字架を負うことにおいて、敏速で活発な行動において、真理の働きに対するゆるがない忠誠において、神の働きを促進するための犠牲と労力において、他人の案内者また模範となるのである。——レビユー・ア  
ンド・ヘラルド・一八八一年八月二三日

真理の光を受け入れた者はだれでも、生きているかぎり、「人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわたしの口から言葉を聞かたびに、わたしに代って彼らを戒めなさい」とのことばがのぞんだイスラエルの預言者と同じ責任を負わされているのである（エゼキエル書三ノ一七）。——教会へのあかし・第九卷・一九、二〇ページ

神の恵みにあずかるすべての者に、主は人のために働く任務をお定めになっている。わたしたちは各自の立場立場において、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」と言わなければならぬ（イザヤ書六ノ八）。み言葉を伝える伝道者、伝道にあたる看護婦、クリスチャンの医者、商人や農夫、知能的な仕事をする者も、職人である者も、クリスチャンであれば、それぞれすべての者に責任を負わされている。人々に救いの福音を示すのがわたしたちの仕事である。わたしたちがやろうとすることは、すべてこの目的に達する手段でなければならない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二〇ページ

家の主人がしもべたちを呼んだとき彼はひとりびとりにそれぞれの働きを与えた。神の全家族は主の財産を用いる責任を負わされている。最も身分の低い者、最もいやしい者から最もえらい者、



## 1 神の奉仕への召し

最も高い位にある者まで各個人は、才能をさずけられている道徳的行為者であって、その才能について神の前に責任があるのである。——バイブル・エコー・一九〇一年六月一〇日

### クリスチャンの総合勢力

同信の兄弟姉妹がたよ。あなたがたの心の中に、「わたしは弟の番人でしょうか」という疑問は起こらないだろうか（創世記四ノ九）。自分は神の子であると主張するなら、あなたがたは兄弟の番人である。主は教会が救うはずの魂を救わなければ、それは教会に責任があるとみておられる。

——ヒストリカル・スケッチズ・二九一ページ

救い主は苦しむ者、悲しむ者、誘われた者に奉仕することのできる教会を建てるために、ご自分のという生命をお与えになった。信者の一団は貧しく無教育で、名もない人々かもしれないが、キリストによって働くとき、家庭において、あるいは社会で、または一越えたさきざきにまで」（コリント第二・一〇ノ一六）にも、永遠に及ぶような働きをすることができ。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七七ページ

教会は弱くて、欠点があるようにみえるかも知れない。しかしそれは神が特別な意味において、最高の関心を払っておられる一つの対象である。教会は神の恵みの舞台で、神は人の心を一変させるご自分の力をそこでよるこんでお示しになる。——使徒の働き・一二ページ

だれかがキリストの委任を果たさねばならない。キリストがこの地上にお始めになった働きをだ

れかが続けなければならない。しかもこの特権は、教会に与えられているのである。教会はこの目的のために組織されているのである。ではなぜ教会員はこの責任を引き受けなかったのだろうか。

——教会へのあかし・第六巻・二九五ページ

主は教会が定められた義務をとりあげ、その教会のある地域に真の改革の標準をかかげ、訓練された経験のある働き人を新しい伝道地に前進させるようにと命じておられる。——教会へのあかし

・第六巻・二九二ページ

テサロニケの信者たちは真の宣教師であつた。∴∴∴真理が示されるときに心がとらえられ、魂が信者の数に加えられた。——使徒の働き・二五六ページ

十二弟子が任命されたときに、教会組織の第一歩が踏み出された。それはキリストがこの世を去られてからこの地上にキリストの働きを続けることになった。——使徒の働き・一八ページ

神の教会は、いろいろな賜物に満たされ、聖霊をさずけられている聖なる生活の庭である。教会員は人々の助けとなり、祝福となって、その人々の幸福の中に自分の幸福を見出すべきである。主のみ名が栄えるように、主が教会を通してなしとげようと意図しておられる働きはすばらしいものである。——使徒の働き・一二、一三ページ

われわれの働きは神のみことばの中にはつきり定められている。クリスチャンはクリスチャンと、教会は教会と一致して、人間は天と協力し、あらゆる力を聖霊に従属させなくてはならない。こうして神の恵みのよきおとずれを世に伝えるためにいっさいを結合しなければならぬ。——世界総

## 1 神の奉仕への召し

会広報・一八九三年二月二十八日・四二一ページ

わが教会はやがて収穫する日を望んで、霊的耕作の働きに協力すべきである。……土は堅いが、休閒地をたがやし、義の種子をまかねばならない。神に愛される教師がたよ、働きを続けるべきかどうか迷って手を休めてはならない。働きは、なされるに従って成長するのである。——教会へのあかし・第六巻・四二〇ページ

教会は人類を救うために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織され、その使命は福音を世に伝えることである。教会を通して神の満ち足りた力が世にあらわれるようにというのが初めから神のご計画であつた。神が暗黒から呼び出して不思議な光へ入れてくださった教会員は、神の栄光をあらわすべきである。——使徒の働き・九ページ

この時代の大いなる働きにおいて、自分たちの教会は小さすぎて感化を及ぼすことも、奉仕をすることもできないと思つてはならない。

兄弟がたよ、働きに出られよ。神から特別な恵みをいただくのは、大きな天幕集会や講習会や協議会ときだけではない。無我の愛からなされるどんな小さな努力も、神の祝福をもって報いられ、大きな報いを受ける。あなたのできることをなさい。そうしたら神はあなたの才能を増してくださるのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

### 証人

われわれは神の証人であるから、われわれの時間と注意を世俗的な関心と計画に奪われてはなら

ない。——教会へのあかし・第九卷・五三、五四ページ

「主は言われる、『あなたがたはわが証人……わたしはさきに告げ、かつ救い、かつ聞かせた。あなたがたのうちには、ほかの神はなかった。あなたがたはわが証人である』」「主なるわたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手を取り、あなたを守った。わたしはあなたを民の契約とし、もろもろの国びとの光として与え、盲人の目を開き、囚人を地下の獄屋から出し、暗きに座する者を獄屋から出させる」(イザヤ書四三ノ一〇、一二、四二ノ六、七)。——使徒の働き・一〇ページ

世界の人々は偽りの神々を拝んでいる。彼らをそのようなまちがった礼拝から引きはなさなければならぬが、それは偶像を非難することによってではなくて、それよりも更にすぐれたものを見せることによってでなければならぬ。神のいくしみを人々に知らせなければならぬ。「『あなたがたはわが証人である』と主は言われる」(イザヤ書四三ノ一二)。——キリストの実物教訓・二七八ページ

神の都にはいたい者はみなこの地上に生活している間に、人々との関係においてキリストを示さねばならない。キリストの使者、キリストの証人としての本質はここにある。彼らはすべての悪習慣に対して明白で断固としたあかしをたて、世の罪をとり除かれるお方として神の小羊を罪びとにさし示さねばならない。——教会へのあかし・第九卷・二三ページ

弟子たちはキリストの証人として出て行き、自分たちがキリストについて見たり聞いたりしたこ

## 1 神の奉仕への召し

とを世にのべ伝えねばならなかった。彼らの任務は人間が召された最も重要な任務で、それはキリストご自身の任務に次ぐものであった。彼らは人類の救いのために神と共なる働き人であった。

——使徒の働き・一九ページ

天来の教師は言われる、「わたしのみたまだけが教えることも罪の自覚を与えることもできる。外見的なものは心に一時的な印象しか与えることができない。わたしは真理を良心に強く印象づけよう。そうしたら人々は、わたしの証人となって、人の時間、金銭、知恵に対するわたしの要求を世界に主張するようになるだろう」。——教会へのあかし・第七巻・一五九ページ

キリストの忠実さについてわれわれが告白することは、キリストを世にあらわすために天のえらばれた方法である。われわれは、昔の聖人たちを通して知らされた神の恩恵を告白すべきであるが、しかし最も効果があるのは、われわれ自身の経験によるあかしである。神の力の働きを自分自身のうちにあらわすとき、われわれは、神の証人である。各個人はそれぞれ他人とちがった人生を持っており、また本質的に他人とちがった経験を持っている。神は、われわれの賛美が、それぞれ特有の個性を帯びてみもとにのぼることをお望みになる。このようなとうとい告白によって神の恵みの栄光を賛美することは、それがクリスチャン生活によって裏づけられるとき、抵抗することのできない力をもって魂の救いのために働くのである。——各時代の希望・第二巻・七五ページ

全地のあちらこちらに証人がいなければ、神はみこころについての知識と恩恵についてのふしぎなわざをお示しになることができない。イエス・キリストを通してこのとうとい救いにあずかる者

が宣教師となり、世界中を照らす光の団体となって人々の道しるべとなり、生きた手紙となって、すべての人に知られかつ読まれ、信仰とわざとによって救い主の来臨が迫っていることをあかしし、彼らの受けた神の恩恵がむだではないことを示すことが、神のご計画である。きたるべき審判に備えるように、人々に警告しなければならぬ。——教会へのあかし・第二巻・六三一、六三二ページ

弟子たちは、純潔で聖なるキリストの生活をめい想し、もし自分たちの生活を通してキリストのご品性の美しさをあかしすることができさえすれば、どんな骨おりも困難すぎることはなく、どんな犠牲も大きすぎることはないと感じた。過ぎ去った三年間をもう一度やり直すことができるとしたら、こんどはどんなにか異なった生活をするのにと、彼らは思った。もし主にもう一度お会いすることができさえしたら、自分たちがどんなに深く主を愛しているか、不信のことばや行為によって主を悲しませたことをどんなに心から悲しく思っているかということを、いっしょうけんめいにあらわそうと彼らは努めることだろう。しかし彼らは、自分たちがゆるされたのだという思いに慰められた。そうして世の人々の前にイエスを勇敢に告白することによって、できるだけ自分たちの不信をつぐなおうと決心した。——使徒の働き・三六ページ

悪鬼から解放されたこのふたりはデカポリス地方に福音をのべつたえるためにキリストからつかわされた最初の宣教師となった。彼らがキリストの教えを聞く特権を与えられたのはほんの数分間にすぎなかった。彼らはキリストから一つの説教さえきかされなかった。彼らは、毎日キリストといっしょにいた弟子たちのように、人々を教えることはできなかった。だが彼らは、自分自身のう

ちにイエスがメシヤであるという証拠を持っていた。彼らは知っていることを語ることができた。キリストの力について自分自身が目に見、耳に聞き、心に感じたことを語ることができた。これこそキリストの恵みにふれたことのある人ならだれでもできることである。愛された弟子ヨハネは「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について——このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである」と書いた(ヨハネ第一・一ノ一、一二)。キリストの証人として、われわれは、知っていること、自分が見、聞き、感じたことを語るのである。もし一步一步イエスに従ってきているならば、われわれは、イエスがわれわれをみちびかれた道について何か要点にふれたことを語ることができるのである。イエスの約束を試みて、その約束が真実であったことを語ることができる。キリストの恵みについて知ったことをあかしすることができる。これこそ主が求めておられるあかしであって、このあかしが欠けているために、世の人々は滅びつつあるのである。——各時代の希望・第二巻・六五、六六ページ

### 光と祝福の器

われわれは聖別された器となり、この器を通して天の生命が他の人々に伝えられねばならない。聖霊が教会全体に充滿して、教会を活気づけ、人々の心をきよめて堅く結びつけねばならない。

——教会へのあかし・第九巻・二〇ページ

イエスに従う者には、ひとりびとり家庭において、近所において、自分の住んでいる町や市において、キリストの宣教師としてなすべき働きがある。神に献身している者はみな光の器である。神は真理の光を他人に伝えるために彼らを義の器とされる。——教会へのあかし・第二巻・六三二ページ

イエスが、疲れ飢えて井戸のそばにすわっておられたとき、その働きの結果は祝福となって広くひろがった。イエスが助けようとされたひとりの魂は、他の人々のところへ行つて彼らをイエスのもとへ連れてくる一つの手段となった。神の働きはいつもこのようにして地上に進展してきたのである。あなたの光を輝かしなさい、そうすれば他の光ともされるであらう。——福音宣伝者・英文・一九五ページ

自分の光と経験は、この地上においてキリストに従う者としてみとめられている人たちとは無関係で、ただキリストに対してだけ責任があるのだと考えている者が多い。イエスは罪びとの友で、イエスの心は彼らの不幸に動かされる。イエスは天においても地においてもいっさいの権力を持つておられる。だが彼は、人々に光を与え、人々を救うために自らお定めになった手段を尊重される。イエスは罪びとを教会にみちびかれる。イエスは教会を世に対する光の器とされたのである。

——使徒の働き・一二二ページ

初代教会には、たえず増大して行く働きが与えられた。それは神の奉仕に進んで献身する正直な魂のいるところにはどこにでも光と祝福のセンターを建設する働きであつた。——使徒の働き・九



太陽の光が地のどんな片すみにもさし込むように、福音の光が地に住むすべての魂にまで及ぶように神は計画しておられる。キリストの教会が主の目的をなしとげていたならば、暗黒の中に座し、死の地と死の陰にいるすべての者の上に光が注がれたことであらう。——祝福の山・五二ページ

神の恵みの富、はかり知ることのできないキリストの富を世界に伝えるための神の生きた通路になるという特権は、だれにでも与えられている。キリストは、他の何ものにもまして、キリストのみ霊と品性とを世界に代表する器があらわれるのを望んでおられる。人間によって救い主の愛があらわされることほど、世界が求めているものはない。人の心に喜びと祝福を与える清い油を注ぐことができる管を、全天は待っているのである。——キリストの実物教訓・三九五ページ

神の教会の栄光はその信者たちの敬けんにある。なぜならそこにキリストの力が隠されているからである。神の誠実な民の感化は大した価値がないようにみられるかも知れないが、その感化は世の終わりまで感じられ、報いの日に正しくあらわされる。真のクリスチャンの光は堅固な敬けんと、ゆるがない信仰の中に輝き、世の人々に生ける救い主の力を証明する。キリストに従う者たちの中にあつて、キリストはわきあがつて永遠の生命にいたる水の井戸のようにあらわされる。彼らは世にほとんど知られないが、神の特殊の民、神からえらばれた救いの器、また光を世に伝える器として認められているのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九一年三月二四日

教会員のかたがたよ、光を輝かしなさい。けんそんな祈りに、また不節制と世の愚かさと享樂に

反対するあかしに声をあげなさい。あなたの声、あなたの感化、あなたの時間——すべては神からの賜物で、魂をキリストにみちびくために用いられなければならない。——教会へのあかし・第九巻・三八ページ

キリストの弟子たちは地上においてキリストを代表する者であることを私は示された。神は彼らがこの世の道徳的暗黒の中にあつて、国中に町中に、村中に、都市のいたるところに点在する光となり、「全世界に、天使にも人々にも見せ物」となるように計画しておられる（コリント第一・四ノ九）。——教会へのあかし・第二巻・六三一ページ

キリストのしもべたちは世の光とならねばならないが、神は、光を輝かすように努力せよとは、命じておられない。神は、おのれのすぐれた善を誇示しようとするうぬぼれた努力をおよるこびにはならない。神は信者たちの心が、天の性質でみたされ、そのために、彼らが社会と接するとき心の中にある光が表われるようにと望んでおられる。生活のすべての行動にあらわれた不変の誠実さによって光は輝くのである。

——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一七ページ

サウロが、その盲目的な過失と偏見のさなかに、彼の迫害しているキリストについての啓示を与えられたとき、彼は世の光である教会と直接接触する立場に置かれた。この場合、アナニヤはキリストを代表し、またキリストの代わりに行動するように任命されているこの地上のキリストの教役者たちを代表している。アナニヤはサウロの目に視力が回復するように、キリストに代わって、彼

## 1 神の奉仕への召し

の目にさわる。キリストに代わって彼がサウロの上に手を置き、キリストの名によって祈ると、サウロは聖霊を受ける。すべてはキリストの名と権威によってなされる。キリストは土台であり、教会はまじわりの手段である。——使徒の働き・一二二ページ

誤りが、至るところに行きわたっている。魂の大きい敵は、その勢力を結集している。かれはもっともらしい誤りによって、人々の心を混乱させようとして、あらゆる手段を用い、こうして、魂を滅ぼそうとしている。真理の宝を神からゆだねられた者は、道德的暗黒のなかで、光を輝かさなければならぬ。——ヒストリカル・スケッチズ・二九〇ページ

神はご自分の民が世の光として輝くように要求しておられる。そうするように要求されているのは教役者だけではなく、キリストの弟子のひとりびとりである。彼らの会話は天来のものでなければならぬ。彼らは神とのまじわりを楽しみ一方では、自分の心を活気づけてくださる神の愛をこゝとばと行為にあらわさんがために、人々とのまじわりを望む。このようにして彼らは世の光となり、彼らを通して伝えられた光は消えることも取り去られることもない。——教会へのあかし・第二巻・一二二、一二三ページ

キリストに従う者は、義の器、働き人、生ける石、光を放つ者となって、天使たちの存在を助長しなければならない。彼らはいわば水路となってそこを真理と義のみたまが流れなければならない。——教会へのあかし・第二巻・一二六、一二七ページ

主はご自分の教会を天来の感化の宝庫とされた。信者が水路となって、そこを生命の流れが世に

向かって流れ、多くの者が悔い改めて、こんどは彼らが水路となり、神の恵みが主のぶどう園の荒れた部分に向かつて流れるのを、天の宇宙は待っている。——バイブル・エコー・一九〇一年八月一二日

神とつながっている者はみな他の人々に光を与える。もし与える光を持っていない人があるなら、それは、彼らが光のみなもとにつながっていないからである。——ヒストリカル・スケッチズ・ニ  
九一ページ

神は民に他の人たちに光を与える任務をおさずけになった。もし彼らが光を与えず、聖霊によって力を与えられていたら当然なしたであろうことをしなかったために魂が誤謬の暗黒の中にとり残されるならば、彼らは神に対して責任がある。われわれは暗黒の中から神のふしぎな光の中へ召し出されたのであるが、それはキリストへの賛美を表わさんがためである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月一日

神に献身している者はみな、光の通路となる。神は彼らを神の恵みの富を他人に伝える代理人とされる。……他人に及ぼすわれわれの感化は、われわれの言うことばよりはわれわれの人格次第である。人々はわれわれの訴えに抵抗するかもしれない。だが利害を超越した愛の生活は、彼らの否定できない議論である。キリストの柔和が目立っている矛盾のない生活は世における一つの力である。——各時代の希望・第一巻・一六二ページ

世の光となるべきだった者が、弱々しいあせた光しか放たなかった。光とは何だろうか。それは

## 1 神の奉仕への召し

敬けん、善、眞実、慈悲、愛であり、品性と生活の中に眞理を表わすことである。福音が積極的な力を持つためには信者の個人的な敬けんによるところが大きく、神は一人一人の魂が「あらゆるよ  
いわざに対して十分な準備ができ」るように、いとし子の死を通して備えをされたのである（テモ  
テ第二・三ノ一七）。一人一人の魂は明るく輝く光となつて、われらを暗黒の中から神のふしぎな  
光に召し出してくださつた神への賛美を表わすべきである。「わたしたちは神の同労者である」（コ  
リント第一・三ノ九）。實際われわれは同労者である。それは主のぶどう園における熱心な奉仕を意  
味する。救われなければならない魂が教会の中に、安息日学校に、近所にいるのである。——レビ  
ユ・アンド・ヘラルド・一八九一年三月二四日

他人のために働くことによつて、彼らは自分自身の魂を生かしておくことができる。もし彼らが  
イエスと共に働く者となるならば、われわれの教会の中には光がますます明るく確実に燃えつづけ、  
その光が彼ら自身の境界の向こうの暗黒の中へさし込むのがみられるであらう。——ヒストリカル  
・スケッチズ・二九一ページ

「あなたがたは、世の光である」（マタイ五ノ一四）。ユダヤ人は、救いの恩恵を自国民だけに制  
限しようと考えた。しかしキリストは、救いは日光のようなものであることを彼らに示された。そ  
れは全世界のものである。——各時代の希望・第二巻・一一ページ

聖霊の感化に応ずる心は、神の祝福が流れるチャンネルである。もし神に仕える人々が地からと  
り去られ、神のみたまが人々の中からひきあげたら、この世は、サタンの支配の結果である荒廃と

破壊にまかされるであろう。悪人たちにはわからないが、彼らに与えられるこの世のよいものでさえ、彼らが輕蔑し圧迫する神の民がこの世にいるために与えられるのである。しかしもしクリスチャンが、名前だけのクリスチャンなら、彼らはききめを失った塩のようなものである。彼らは世にあつてよいことのために感化力を及ぼさない。彼らは神についてまちがった印象を与えるので、未信者よりも悪いのである。——各時代の希望・第二卷・一一ページ

## 天 来 の 任 命

弟子たちがした仕事を、わたしたちもしなければならぬ。クリスチャンは、だれでもみな伝道者でなければならぬ。助けを必要としている人に同情といつくしみをもつて奉仕し、無我の熱心さをもつて、苦しむ人々のわざわいを軽くするように努力しなければならぬのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七四ページ

キリストは天に昇られる前に弟子たちに任務をお与えになった。キリストは彼らに、あなた方は、わたしが永遠の生命という宝をこの世に残すその遺言の執行人となるべきであると言われた。

——使徒の働き・二七ページ

最初の弟子たちに与えられた委託はまた各時代の信者たちにも与えられている。福音を受けた者のひとりびとりは、世にわけ与えるべき聖なる真理を与えられているのである。神の忠実な民はいつも積極的な伝道者であつて、彼らは、その資産を神のみ名の栄えのためにつぎこみ、その才能を

## 1 神の奉仕への召し

神の奉仕に賢明に用いてきた。——使徒の働き・一〇九ページ

福音の任命はキリストの王国の一大伝道憲章である。弟子たちは魂のために熱心に働き、すべての人々に恵みの招待を与えなければならなかった。彼らは人々が自分たちの所へやってくるのを待っていないで、自分の方から使命をたずさえて人々の所に行かねばならなかった。——使徒の働き・二八ページ

神の使者たちは、キリストがこの地上におられた間にされた働きを取りあげるべきである。彼らは、キリストが実行されたあらゆる方面の奉仕に献身しなければならない。熱心に誠実に、天のほかり知れない富と不滅の宝について人々に告げねばならない。——教会へのあかし・第九巻・一三〇ページ

弟子たちに与えられた任命はわれわれにも与えられている。当時と同じように、今日も、十字架につけられ、よみがえられた救い主を、世にあつて神もなく望みもない人々の前にかかげなければならぬ。主は、牧師、教師、伝道者を求めておられる。神のしもべたちは、家から家へ救いの使命をのべ伝えなければならない。どの国民、群衆、民族にもキリストによる罪のゆるしのおとずれを伝えねばならない。この使命を伝えるには、活気のない、無気力な口調でなく、はっきり、断固として、人を動かす口調でなければならない。幾百の人々が、のがれて生命を救えとの使命を待っている。世の人々はクリスチャンのうちに、キリスト教の証拠を見る必要がある。あわれみの使命は、ただ数か所だけでなく、世界中に必要である。——福音宣伝者・二九ページ

イエスが天に昇られたとき、彼は福音の光を受けた人々に地上におけるご自分の働きを委託された。彼らはその働きを完結に向かって進めなければならなかった。イエスはご自分の真理の宣伝のためにこれより他の方法をお与えにならなかった。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ一六ノ一五)。「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ二八ノ二〇)。この厳粛な任命は現代のわれわれにまで及んでいる。神はご自分の教会がこの任命を受けるにしてもこばむにしてもその責任を教会にまかせておられる。

——ヒストリカル・スケッチズ・二八八ページ

われわれの上に聖なる責任がおかれている。われわれには次のような任命が与えられている。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ二八ノ一九、二〇)。あなたは救いの福音を知らせる働きにささげられているのである。天の完全があなたの力とならねばならない。——教会へのあかし・第九卷・二〇、二二ページ

### 普通の身分から召される

普通の人働き人としての地位を占めねばならない。救い主が人類の悲しみを共に味わわれたように彼らも同じ人間の悲しみを共に味わうとき、キリストが共に働いていくくださることを信仰に



## 1 神の奉仕への召し

よって見るのである。——福音宣伝者・三八ページ

遠いところ近いところのすべての伝道地において、農業や、また多くの人々の心を占めている普通の商売から、人々が召され、彼らは経験のある人たちについて教育されるであろう。有効に働くことを学ぶとき、彼らは力強く真理を宣伝する。天の摂理による不思議な働きを通して、山のような困難がとり除かれ、それは海へ投げ入れられるであろう。地の住民にとって重大な意味をもっている使命が聞かれ、理解されるであろう。人々は真理が何であるかを知るであろう。この働きは前へ前へと進み、ついには全地に警告し、そして終わりがくるのである。——教会へのあかし・第九

巻・九六ページ

神は、人間の学校で十分な教育を受けなかった人々を用いることがおできになり、実際お用いになっている。神がそうする力を持っておられることを疑うことは明らかな不信仰である。それは何一つ不可能なことのない神の全知全能の能力を制限することである。どうかこの不必要な、不信の用心がなくなりますように。このために教会の多くの軍勢は使用されないままになり、道が閉ざされて聖霊は人を用いることができなくなる。そのためにキリストの戦線に働きたいと自分から熱望している者は何もすることがなく、公平な機会が与えられるならば、神と共に有効に働く者となる多くの人々が働きにつくのを妨げられている。——福音宣伝者・四八八、四八九ページ

前進することはどの魂にとっても特権である。キリストにつながっている者は、恵みと、神のみ子を知る知識のうちに成長し、一人前の高さにまで達する。真理を信ずると主張する人が、学び働

く能力と機会を活用していたら、彼らはクリストのうちにあって強い者となっていたであろう。彼らの職業が、百姓であらうと、機械工であらうと、教師であらうと、牧師であらうと、何であらうと、もし全的に神に献身していたら、天の主のために有力な働き人となっていたであろう。——教会へのあかし・第六巻・四二三ページ

教師、建築業、製造業、農業など世の中のいろいろな職業に従事するのに十分な才能を持った教員は、一般に委員や安息日学校教師として奉仕したり伝道の働きに従事したり、教会に関連のあるいろいろな役員をつとめたりすることによって、教会を築き上げるためにほねおるように心がけなければならぬ。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年二月一五日

キリストはご自分の働きを進めるために、ユダヤのサンヒドリンの学者や雄弁家、あるいはロマの権力者をおえらびにならなかった。大教師イエスは世を動かすべき真理を宣伝するのに、独善的なユダヤ人教師を見すとして、いやしい、無教育な人たちをえらばれた。イエスはこれらの人たちをご自分の教会の指導者として訓練し教育しようと思図された。その代わりに彼らは他の人々を教育して、その人たちを福音使命をもって送り出さねばならなかった。彼らが働きに成功するためには、聖霊の力を与えられねばならなかった。福音は人間の力や人間の知恵によってではなく、神の力によってのべ伝えられるべきであった。——使徒の働き・一七ページ

「あなたがたは行って、すべての国民を弟子と」するようにとの任命を救い主から受けた者の中には世のいやしい身分の者でありながら、主を愛することを知り、主の無我の奉仕の模範に従う決心

## 1 神の奉仕への召し

をした人々がたくさんいた。これらのいやしい人々は、救い主がこの地上で奉仕しておられた間中そのそばにいた弟子たちと同様に、とうとい責任が与えられた。彼らはキリストによる救いのよるこばしいおとずれを世に伝えなければならなかった。——使徒の働き・一〇五、一〇六ページ

### 魂をみちびく生活

われわれが神のためにあかしをたてるのは、ただ真理を説いたり、文書をくばったりすることだけによってではない。キリストのような生活こそキリスト教にとって最も有力な議論であり、低級なクリスチャン品性は、世俗の人の品性よりもっと世の中に害を与えるということをおぼえていなければならない。——教会へのあかし・第九巻・二一ページ

書かれた本の全部がきよい生活の目的に役立つとはかぎらない。人は牧師が説教していることをきいてではなく、教会の人が生活しているところをみて信ずる。講壇から説かれる説教は、真理の擁護者であることを自称している人々の生活に説かれる説教によって、その効力が失われることがしばしばある。——教会へのあかし・第九巻・二一ページ

キリストの一生は、どこまでも限りなく感化を及ぼした。この感化は、キリストを神と全人類家族とに結びつけた。神は、キリストを通して、人間に感化力を与えておられるから、人は自分だけの生活することができない。わたしたち個人個人は、神の総合体の一つとして、同胞と結ばれていて、お互いに義務づけられている。わたしたちの幸福は他の人にも関係があるものであるから、

だれ一人として、同胞から独立することはできない。各自が、自分は他の人の幸福のために必要であることを感じ、他人の幸福の増進のために努力することを、神は望んでおられる。——キリストの実物教訓・三一四、三一五ページ

聖書の宗教は、本の中や、教会の壁の内側にとじこめておかれるものではない。それは、自分自身のために時々とり出して、それからまた大事にしまいこんでおくものでもない。それは、日常生活をきよめ、どんな実務上の取引にも、またわれわれのどんな社交関係にもあらわされるのである。——各時代の希望・第二巻・一一、一二ページ

神の民によって神の栄えが世にあらわされることが神のみこころである。神はキリストの名を持っている者たちが、思いにおいてことばにおいて、行為において、キリストを代表するように望んでおられる。彼らの思いは純潔で、彼らのことばは気品があつて高尚で、まわりの人々を救い主に引きよせなければならぬ。キリストの宗教は彼らのなすこと言うことのすべてに織りこまれなければならない。彼らのすべての取り引き事務には神の臨在がにあっていなければならない。——教会へのあかし・第九巻・二一ページ

実業家はその誠実によつて、主のみ栄えをあらわすように仕事をしなければならない。彼は、なされるすべてのことに自分の宗教を持ち込み、人々にキリストのみたまをあらわさねばならない。職工は、ユダヤの町のいやしい身分の人間として働かれたイエスを代表する勤勉で忠実な者とならねばならない。キリストの名前をもって呼ばれる者はみな、人々が彼のよいわざを見て創造主であ

## 1 神の奉仕への召し

り、あがない主であるキリストをあがめるようなやり方で働かねばならない。——バイブル・エコー・一九〇一年六月一〇日

### 伝道者としての婦人

婦人もまた男と同じように、真理の種子を、それが芽ばえるような場所にまく働きにたずさわることができる。この危機の時代に婦人たちは働きにたずさわることができ、また主は彼らを通して働かれる。彼らが義務観念を吹き込まれて、神のみたまの影響下に働くとき、彼らは今の時代に必要な落ち着きそのものを持つてあろう。救い主はこうした自己犠牲的な婦人たちの上にご自分のみの顔を輝かせてくださる。そのために彼らは男の力にまさる力を与えられる。彼らは男のできない働き、心の生活にふれる働きを各家族の中ですることができ、彼らは男たちが動かすことのできない人々の心にふれることができる。彼らの働きが必要である。思慮深い、へりくだった婦人は人々にその家庭で真理を説明することができる。神のみことばがこのように説明されるとき、それは発酵作用をして、その影響から全家族が悔い改めるようになる。——教会へのあかし・第九巻・一二八、一二九ページ

神のために働く者はすべてマルタとマリヤの特性すなわち奉仕する精神と真理に対する心からの愛をまぜ合わせなければならぬ。自我と利己主義は片づけてしまわなければならない。神は熱心な婦人伝道者、すなわち思慮深く、心があたたく、やさしく、主義に忠実な働き人を求めておら

れる。自我と自分個人の都合など考えずにキリストに心を集中し真理のことばを語り、近づきになった人々と一しょに祈り、魂の悔い改めのために働く忍耐強い婦人を神は求めておられる。——教会へのあかし・第六巻・一一八ページ

姉妹たちは、わが定期刊行物の購読注文をとり、このようにして多くの人の心に光を与えるために有効に働くことができる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一〇日

証拠の重さから、真理に立つように決心する道徳的勇気を持ったりっぱな婦人たちがいる。彼らは良心的に真理を受け入れたのである。彼らは機知、知覚、すぐれた才能を持ち、主のために成功する働き人となる。クリスチャンの婦人が求められている。——レビュー・アンド・ヘラルド・一

八七八年一月一九日

わが姉妹がたは、雑誌やトラクトを受け取った人々に手紙を書いて、彼らの本当の気持ちを引き出すのに抜け目のない働き人として奉仕することができ。……堅い主義と断固たる性格の婦人、すなわちわれわれは本当に末の世に生存しているのだということと、われわれには世に与えなくてはならない最後の厳粛な使命があるのだということを信じている婦人が必要である。……こういう人こそ神がトラクト配布と伝道のためにお用いになることができる人である。……

こういう人は、トラクトをくばったり、サインズ・オブ・ザ・タイムズを機敏に配布するのに多くの方法を通して神のためにとうとい働きをすることができ。——レビュー・アンド・ヘラルド

・一八七八年一月一九日

## 1 神の奉仕への召し

わたしは、婦人が選挙人になったり、公職にいたりするのをすすめない（注・当時米国では、婦人参政権について世論がやかましかった）。それよりも婦人は、手紙による通信によって真理を教えたり、トラクトをくばったり、現代に対する厳粛な真理を含んでいる定期刊行物の購読注文をとったりなどして、伝道者として多くのことをすることができ。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八七八年一月一九日

この聖なる使命を自分のたいせつな働きとしている婦人が現在一人いるところにもし二十人いるとしたらもっと多くの人々が真理に悔い改めるのがみられるであろう。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八七九年一月二日

働くことのできる婦人、すなわち自負心がなくて心のへりくだった柔和な婦人、魂の救いのために働くことのできるところではどこでもキリストの柔和をもって働くような婦人がいま必要である。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八七九年一月二日

今日その気になれば幾百人の姉妹たちが働くことができる。彼らは自分と子供たちのために、飾りのない、さっぱりした長持ちのする衣服で質素な身なりをして、これまで不必要なみえのために費やされた時間を伝道の働きにささげるべきである。遠くの友に手紙を書くことができよう。

わが姉妹たちは一しょに集まって一番よい働きの方法について相談できるであろう。神へのささげ物として出すために、また友人に送る雑誌やトラクトに投資するために、お金を節約することができる。いま何もしていない人々は働きに出て行くべきである。神の子であると自称しているどの

姉妹も自分の手のとどくかぎりの人を助ける責任を本当に感じなくてはならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八七八年一月一日

わが姉妹たちは、心と頭を使う必要のある責任を負うことをすぐに言い訳をしてさけようとしてきた。しかしこうした責任を負うことはクリスチャン経験を完成する上に必要な訓練である。彼らはわれわれの信仰を正しく表わしているトラクトや文書をくばることに個人的な関心をもって、伝道の分野における働き人となることができる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八七八年一月一日

姉妹がたよ、抜け目なく伝道のために働くことに飽いてはならない。あなたがたが神と結合しさえすれば、だれでもこの働きにたずさわって成功できるのである。

見舞いの手紙を書く前に、野生のぶどうの枝を集めて真のぶどうの枝について、神の栄えのために実をならせることに成功するように、いつもあなた達の心を祈りのうちに神に向けなさい。へりくだった心をもってこの働きに参加する者はみな主のぶどう園の働き人として、たえず自分自身を教育するのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一日



## 第二章

# 青年の召し

### 天の任命

主は青年たちが神の助けの手となるようにお定めになった。——教会へのあかし・第七巻・六四ページ

正しく訓練されたわれらの青少年たちから成るこのような働き人の軍勢が与えられるとき、十字架につけられ、よみがえり、まもなくきたりたもう救い主の使命は、どんなにかすみやかに全世界にのべ伝えられることだろう。——教育・三三七ページ

正しい指導と奨励を受けるならば、多大なことをなすことのできる青年の軍勢がわれわれにある。子供たちに真理を信じてもらいたい。他の青年たちを助けるためによく組織された計画の中で彼らに役割を果たしてもらいたい。彼らが真理を正しく代表し、彼らのうちにある望みの理由をあげ、

彼らが働く資格をもっているどんな部門の働きにおいても神の栄えをあらわすように、すべての者を訓練しなければならぬ。——世界総会会報・第五巻・第二号・二四ページ・一八九三年一月二十九日、三〇日

### 教会の働きにおける青年

よく組織され、よく訓練された青年の才能がわれわれの教会に必要である。青年はその溢れるばかりの精力で何かをする。このような精力を正しい道に向けないならば、その精力は彼ら自身の霊性をそのような方面に用いられ、彼らのまじわる人々にとって害となる。——福音宣伝者・二

一ページ

青年が心を神にささげるとき、彼らに対するわれわれの責任が終わったのではない。彼らは主の働きに興味を持ち、主がみわざの前進のために彼らに何かをさせようと期待しておられることをみとめるようにならなければならない。どれだけのことをしなければならぬかを示して、青年たちにその役割を果たすように奨励するだけでは十分でない。彼らに主のために働く方法を教えねばならない。魂をキリストにみちびく一番よい方法について彼らを教育し、しつけ、訓練しなければならぬ。静かな、自然な方法で若い仲間を助けるように彼らを教えなさい。各部門の伝道を組織的に計画し、それに青年たちを参加させ、彼らに教えと助けを与えなさい。こうして彼らは神のために働くことを学ぶのである。——福音宣伝者・二一〇ページ

## 幼い時に

子供たちをとり扱うのに牧師の親切と礼儀がみられなければならない。牧師は子供たちが小さいおとなであって、主の家族の若い一員であることをいつも心にとめていなければならない。彼らは主にとって非常に近い、親しい者たちであって、もし正しく教え、訓練するならば、彼らは幼い時でも主のために奉仕をするのである。——教会へのあかし・第四巻・三九七、三九八ページ

青少年を無視してはならない。彼らに働きと責任を分担させなさい。他人を助け、祝福することにおいて彼らにも果たすべき役割があるということを感じさせなさい。子供たちにも、自分より恵まれていない人たちのために愛といつくしみの小さなお使いをするように教えなければならない。

——教会へのあかし・第六巻・四三五ページ

親は、時の価値とその用いかたを子供たちに教えなければならない。神の栄えをあらわし、人類を祝福するために何事かをするということは、努力に値するものであることを教えなければならない。子供たちは、幼いながらも、神のために伝道者となることができる。——キリストの実物教訓・三二一ページ

## 青年の前途

ユダヤの家庭のダニエルのように、神のみことばとみわざを学び、忠実な奉仕について教訓を学

んで成長する今日の少年少女たちも、また立法会議や法廷や宮廷に諸王の王なる神の証人として立つてあらう。——教育・三二七ページ

### 選ばれた時少年にすぎなかったテモテ

パウロはテモテが忠実で、堅固で、真実なのを見て、彼を働きと旅行の同伴者として選んだ。テモテを子供時代に教えた人たちは、彼らの世話したおすこが偉大な使徒と密接なまじわりに結ばれたのを見て報いられた。テモテが神から教師として選ばれたとき、彼は少年にすぎなかった。

しかし彼の原則は幼年時代の教育によって確立されていたので、パウロの助手としての立場を占めるのにふさわしかった。彼は若くはあったが、クリスチャンの柔和をもって自分の責任を負った。——使徒の働き・二〇三、二〇四ページ

### 隊列を補充する予備軍

われわれの間の重荷を負っている人たちが死んで行く。われわれが民として始めた改革を先頭に立って実行してきた人たちがもう人生の盛りを過ぎ、体力も知力も衰えて行く。だれが彼らのあとをつぐのだろうという質問が深い関心をもってたずねられるであらう。いま旗をかがけている人たちが倒れたらだれに重大な仕事をまかせるべきだろう。われわれはこれらの重荷を引き受け、責任を負うべき者は、今日の青年であると熱心に期待しないではいられない。他の人たちが働きを離れ

## 2 青年の召し

たところで青年たちがその働きを引き受けねばならない。道德と宗教と生き生きとした敬けんに勝たせるか、それとも不道德と信仰に価値のあるものをいっさいだめにさせるかは彼らの行路によってきまるのである。——福音宣伝者・六八ページ

### 苦勞と犠牲の中の開拓者たち

われわれは、青年たちに対する信頼心を表わさねばならない。彼らは苦勞と犠牲を伴うあらゆる事業の開拓者となり、一方重荷を負い過ぎているキリストのしもべたちは、神のために非常な努力をしている人たちを励まし祝福するために助言者として大事にされなければならない。——教師への勧告・五一六、五一七ページ

若い人たちが必要である。神は彼らを伝道地へ召される。彼らは比較的心配や責任がないので、大家族を養ったり教育したりしなければならぬ人たちよりも働きにたずさわるのに都合がよい。その上若い人たちは新しい風土や新しい社会にたやすく適応し、不便と困難によく耐えることができる。機知と忍耐によって、彼らは人々をそのいるところにおいて動かすことができる。——教師への勧告・五一七ページ

家庭において正しい教育を受けた多くの青年たちは、奉仕のために訓練され、よく計画された、忠実な働きによって新しい場所に真理の旗をかかげるように奨励されなければならない。都市の働きにおいて牧師や経験のある働き人と一しょにまじわることによって、彼らは最上の訓練を受ける。

天来のみちびきの下に行動し、彼らよりも経験のある共労者の祈りにささえられて、彼らは祝福されたりっぱな働きをすることができる。年長の働き人と一しょに働いて、その若々しいエネルギーを最上に用いるとき、彼らは天使を友とするのである。神と共に働く者として、歌い、祈り、信じ、勇気と自由をもって働くことが彼らの特権である。天使たちの存在によって彼らとその共労者たちが感じさせられる確信と信頼は、祈りと賛美と真の単純な信仰となる。——教会へのあかし・第九卷・一一九ページ

## 各方面の働き

青年は多くの方面に有用な努力の機会を見いだすことができる。看護婦、福音を携えて訪問する者、聖書研究を授ける者、文書伝道者、牧師、医事伝道者として働くために組を作って、彼らを十分に教育すべきである。——教師への勧告・五四六ページ

われわれは、青年たちがお互いに助け合うように教育しなければならない。彼らがこの働きをしようとしてとめるとき、彼らは経験を得て、もっと広い分野における献身的な働き人としてふさわしい資格を持つようになる。——教会へのあかし・第六卷・一一五ページ

青年男女が自分自身の近所やその他の場所で働く者となるように、彼らを教育しなくてはならない。今の時代の働きについて賢明になり、自分が一番適している働きをなす資格のある者となるように、みなが決心しなければならない。——教会へのあかし・第九卷・一一八、一一九ページ

## 成功の秘訣

青年がたよ、主を知ること続けなさい。そのときあなたがたは、主が「あしたの光のように必ず現われいで」ることを知るであろう（ホセア書六ノ三）。たえず進歩を求めなさい。主と一体となるように熱心につとめなさい。キリストのうちにある信仰によって生きなさい。主がなさった働きをなさい。主がご自分の生命をお捨てになった魂を救うために生きなさい。あなたが接触する人を助けるようにあらゆる方法を試みなさい。・・・あなたがたの長兄たるイエスと語りなさい。彼は「教訓に教訓・・・規則に規則、ここにも少し、そこにも少し教え」て、あなたがたの教育を完成してください（イザヤ書二八ノ一〇）。滅びる世を救うためにご自身を犠牲としてささげられたイエスに密接につながっているとき、あなたは神によるこばれる働き人となるのである。――教会へのあかし・第六巻・四一六ページ

## 奉仕のために組織せよ

若い青年男女がたよ、あなたがたは魂を滅びから救うために組を作り、キリストの兵士として働きの参加し、あなたがたの機知と技倆と才能のいっさいを主の奉仕に注ぐことはできないだろうか。この働きをするためにどの教会でも組を組織しなければならぬ。・・・真にイエスを愛する青年男女は、安息日遵守者であることを告白する人たちのためばかりでなく、われわれと信仰を同じくし

ない人々のためにも、働き人として組織を作りたいものである。——サインズ・オブ・ザ・タイムズ・一八九三年五月二九日

青年男女も子供たちもイエスの名によって働きに出て行かねばならない。彼らを、何かの計画や行動に参加させなさい。あなたがたは働き人の組を作って主があなたがたに恵みを与えられるように共に祈る時間を定め、歩調をそろえた行動をとるようにできないだろうか。——ユース・インストラクター・一八九四年八月九日



## 第三章

# 神の民の状態

### 伝道精神の欠乏

安息日を守っているアドベンチストの間にこれまで伝道精神があまりなかった。もし教役者と信者が大いに目ざめるならば、彼らはこんなに無関心のままではいらないであろう。一方、神はその律法を彼らの頭にきざみつけ、またその心に書きつけて、彼らを神の律法の保管者とする栄誉をお与えになっているのである。——教会へのあかし・第三卷・二〇二ページ

□ではりっぱなことを言っている教会から真の伝道精神が失われている。彼らの心はもはや魂に対する愛、人々をキリストのありにみちびこうという望みに燃えていない。熱心な働き人が必要である。「来てわたしたちを助けてください」と、四方からあがっている叫びに応ずる者はひとりもないのであろうか。——教会へのあかし・第四卷・一五六ページ

われわれは民として欠けたところがある。われわれのわざは信仰と一致していない。われわれの信仰は、われわれがかつて人間に与えられた最も厳粛にして最も重要な使命の宣布の下に住んでいることをあかしする。しかしこの事実には照らしてみると、われわれの努力、われわれの熱意、われわれの自己犠牲の精神は、この働きの性格と比べものにならない。われわれは死んだような状態からめざめねばならない。その時キリストはわれわれに生命をお与えになるのである。——教会へのあかし・第二巻・一一四ページ

わが教会が神に対する厳粛な責任に気づいていないことを思うとき、わたしの心は痛む。教役者だけが兵隊であるのではなく、キリストの軍隊に入隊した男女のひとりびとりが兵隊なのである。彼らはちょうど、キリストがご自分の生活を通して克己と犠牲の模範を示されたように、兵隊の身分を自ら進んで受け入れる気持ちがあるだろうか。わが教会は全体としてどんな克己心をあらわしたであろうか。彼らはお金を寄付したかも知れないが、自分自身をささげていない。——世界総会公報・一八九三年・一三一ページ

キリストに従うと自称している者の多くは、世の人々と同じように魂に対する重荷を感じていない。眼の欲、生活の誇り、見えの欲、安楽を愛する心などが自称クリスチャンを神から引き離し、伝道精神はほんの少数の人々の中にしかみられない実状である。どうしたらシオンの罪人の目を開き、偽善者を戦いつさせることができるだろうか。——世界総会公報・一八九三年・一三二ページ

メロズによって代表されるところの階級がある。伝道精神は決して彼らの魂を捕えたことがない。

### 3 神の民の状態

外国伝道の呼び声は彼らの心を動かし、彼らを行動させたことがない。神のために何もしない人、すなわちキリストに魂をみちびくために何もしない人は神の前に何と申し開きをするのだろう。このような人は、「悪い怠惰な僕よ」とのとがめを受けるのである（マタイ二五ノ二六）。——ヒストリカル・スケッチズ・二九〇ページ

神の働き（の標準）に達することがあなたの特権であつたのに、あなたがそれに達しなかつたことについて、一つの例として、わたしは次のことばを示された。「メロブをのろえ、激しくその民をのろえ、彼らはきて主を助けず、主を助けて勇士を攻めなかつたからである」（士師記五ノ二三）。——教会へのあかし・第二巻・二四七ページ

#### 自己満足の階級

自分は、物惜しみしない精神や、信心深い思いや、よいことをするのが好きな性分を持っている意識しながら、同時に、何もしていない階級をわたしは目の前に示された。彼らは自己満足の気分を持っていて、もし機会があつたら、またもっと都合のよい事情のもとにあつたら、大きなよい仕事をしたいしまたできるのだが、いまは機会を待っているのだとうぬぼれる。彼らは困っている人にならずかなお金を与えるのさえ惜しむあわれなけちんぼうの狭量さを軽べつする。彼らはこのよくな人が自分のためだけに生活し、われを忘れて他人のためによいことをしようと思せず、用いるために委託されている勢力と財力という才能をもって人々の祝福となろうとしないのを見る。そうし

た才能は悪用したり、さびるままにしておいたり、地中に埋めておいたりするために委託されているのではない。けち臭さと利己心に身をまかせている者はそのけちな行為について責任があり、またその悪用している才能について責任がある。しかし物惜しみしない性分を持ち、生まれつき靈的事物を認識するのが早いのに、何の活動もしないで、まだ機会がないと考えてただ待っていて、しかも彼らが何かしようと待ちかまえていることを、けちんぼうな人々の自発的な心と比較して、自分たちの状態はけちな根性を持った隣人の状態よりもっとよいのだと考えている人々は、もっと責任があるのである。このような人は自らをあざむいているのである。特性を持っているだけでそれを用いないならば、そのことによって彼らの責任が加わるばかりである。もし彼らが主から与えられた才能を活用しなかったり、死蔵しておいたりするならば、彼らの状態は、彼らが心の中で軽べつしている隣人の状態とかわるところがないのである。彼らに向かつて、「主があなたを主のみこころを知っていたのに、それをなさなかった」と言われるであろう。——教会へのあかし

・第二卷・二五〇、二五一ページ

### サタンによる致命的麻痺

神の民は目をさまして時のしるしを見わけねばならない。キリスト来臨のしるしははっきりしていて疑う余地がない。こうしたことを考えるときに真理を告白するものはひとり残らず生きた説教者とならねばならない。神は、説教者にも民にも、みんなの者に目をさますように呼びかけてあら

### 3 神の民の状態

れる。全天は活動している。地上歴史の場面は急速に閉じられつつある。われわれは終末時代の危険のさなかにある。もっと大きな危険がわれわれの目の前にあるのに、われわれの目はさめていない。神のみわざにおけるこのような活動と熱心の不足は恐るべきものである。この致命的な麻痺はサタンから出たものである。——教会へのあかし・第一巻・二六〇、二六一ページ

不信は、死の棺衣のようにわが教会をおし包んでいる。なぜなら彼らはこのとうとい真理を知らない人々に光を与えることによって、神から与えられているタレントを働かそうとしないからである。主は罪をゆるされて、光の中によるこんでいる魂が、この真理を他の人々に与えるように求めておられる。——世界総会公報・一八九三年・一三三ページ

サタンはいま神の民を不活動の状態にとじこめて彼らが真理の宣伝に役割を果たさないようにし、ついにははかりにかけられて足りないことが発見されるようにしようとしている。——教会へのあかし・第一巻・二六〇ページ

人類は危険にさらされている。大衆は滅びようとしている。だがキリスト教徒といわれている人の間で、これらの魂に重荷を感じている者はなんと少ないことだろう。世界の運命が決定しようとしているのに、これまでに人類に与えられた最も遠大な真理を信ずると主張する者たちでさえ、この事実ほとんど心を動かされていない。キリストが天の家郷を去り、人性をもって人性に接触し、人性を神性に引きつけるために、みずから人間の性質をおとりになったあの愛が、彼らに欠けている。神の民は、無感覚のまひ状態におちいって、今何をすべきかに気づかないのである。

——キリストの実物教訓・二八二ページ

サタンは、自己の勢力を強め、魂を自分の側にかち取るために、クリスチャンと称する者の、ものうくねむたげで怠惰なところを用いるのである。自分はキリストのために実際の働きはしていないが、キリストの側にあると考えている多くの人は、敵に有利な立場を与えているのである。主のための勤勉な働き人とならないことによって、あるいは義務を果たさずみことばを語らずにいることによって、彼らは、キリストのためにかち得られたはずの魂をサタンが支配するままにさせているのである。——キリストの実物教訓・二五六、二五七ページ

聖書を研究してみて、わたしはこの末の世における神の民に驚くのである。彼らは偶像礼拝から離れるように勧告されている。神に仕えている者と仕えていない者を見分けることが困難なほど、彼らは眠り、世に順応しているのではないかとわたしは恐れる。キリストとその民の間の距離はますます遠くなり、神の民と世との間の距離はますます近くなっている。キリストを告白している者と世の人々との間の区別のしはほとんどなくなってしまった。昔のイスラエルのように、彼らは周囲の国民の憎むべきことをまねている。——教会へのあかし・第一巻・二七七ページ

### 霊的な目のくもり

教会がキリストの戦線で働くことを怠った結果は世にみられるだけではない。この怠慢によって、神の働きに対する深く聖なる興味をかげらせるような事態が招来された。批判と冷酷の精神が教会

### 3 神の民の状態

にはいり、多くの者の霊的な目がくもった。このためにキリストのみわざは非常な損失をこうむっている。——教会へのあかし・第六巻・二九七ページ

民としてのわれわれの状態を考えると、わたしは悲しみに満たされる。主が天をわれわれに対してとざされたのではなくて、たえず背信するわれわれ自身の行動がわれわれを神から隔てたのである。高慢、貪欲、世俗への愛着が心の中に住みついて、天国からの追放や罪の宣言を恐れない。悲しむべき僭越な罪がわれわれの間に住みついていて、それにもかかわらず教会は盛んである。教会の内部には平安と霊的な繁栄があるというのが一般の見解である。教会は指導者なるキリストに従うことからまわれ右して、エジプトへ向かって着々と退却している。それなのに彼らの霊的な力の欠乏に驚く人は少ない。神のみたまのあかしに対する疑いと、はなはだしきは不信がいたるところわが教会内にめばえつつある。サタンは教会をこのような状態にしておきたいのである。——教会へのあかし・第五巻・二一七ページ

#### 霊的に弱い状態

蓄積された光が神の民の上に照りいでたが、多くの者はこの光に従うことを怠っている。この理由のために彼らは霊的に非常に弱い状態にある。神の民がいま滅びつつあるのは知識の欠乏のためではない。彼らは道と真理と生命を知らないからといって罪の宣告を与えられない。真理が彼らの理解の届くところにあり、光が彼らの魂の上に照りいでたにもかかわらず、それがなおざりにされ、

こばまれたために彼らは罪の宣告を受けるのである。拒もうにも光を受けたことのない人々は、罪の宣告を受けない。神のぶどう園のためにこれまでなされたよりもどれほどもっと多くのことがなし得られたことだろう。光、とうとい光が神の民の上に輝いている。だが彼らがその光によって救われることに同意し、その光一ぱいの生活をし、その光を暗黒の中にある他の人々に伝えるのでなければ、彼らはその光によって救われないのである。——教会へのあかし・第二巻・一二三ページ

## 天の目葉の必要

教会は、神に仕える機会が周囲のいたるところにたくさんあることを見ることができるよう、目に天の目葉をさしてもらう必要がある。道やまがきのあたりに出て行って、人々をむりに連れてきて神の家を一ぱいにするようにと、神はご自分の民に幾度も呼びかけられた。それなのにわれわれの家は、すぐ隣には、われわれが彼らの魂を心配していることを気づかせるまでに十分な関心をまだ示していない家族がある。神が教会に着手するようにいま呼びかけておられるのは、われわれの一番手近にあるこの働きである。われわれは、「わたしの隣人とはだれだろう」と言って立ちどまるようなことがあってはならない。われわれの隣人は、われわれの同情と助けを必要としている者であるということをおぼえてはならない。われわれの隣人は、敵から打たれ、傷つけられている魂のひとりびとりである。われわれの隣人は神の財産であるひとりびとりである。ユダヤ人が彼らの隣人について設けた区別はキリストのうちにあって一掃された。そこには地域的な境界線もなければ、



人間の設けた区別もなく、階級制度もなければ、貴族もない。——教会へのあかし・第六巻・二九四ページ

#### 狂信と冷たい形式主義

サタンはいま、偉大な力をもって宣伝されるべき第三天使の使命の働きから人々を引き離すために、巧みに人をだます力の限りをつくして働いている。敵は、主がご自分の民を祝福し、サタンの欺きをみわけるように備えさせておられるのを見ると、魂を収獲するために一方には狂信を一方には冷たい形式主義を持ちこむことに支配的な力をつくして働くのである。いまはたえず見張っていないければならない時である。サタンがわれわれの間にふみ込もうとするその第一歩を警戒しなさい。

——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月二四日

わが教会の中には霊的冰山がある。人目をひくような見せびらかしはできるが、世の光として輝くことのできない形式主義者がたくさんいる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九一年三月二四日

#### 利己心のために狭量になる

神の民がもっと霊的になれない理由、もっと信仰的になれない理由は、彼らが利己心のために狭量になっているためであることをわたしは示された。……神が受け入れたもうのは、あなたごたの

集会が多いことではない。それはたくさんの祈りではなくて正しいことをすること、すなわちしかるべき時にしかるべきことをなすことである。——教会へのあかし・第二巻・三六ページ

## 貪 欲

それでもある者たちは改心を拒む。彼らは神の道によるこんで歩もうとしない。そして神の働きを前進させるために自由献金をするように訴えられると、ある者たちは利己心のために地上の財産に執着する。このような貪欲な者たちは信者の群れから離れた。——教会へのあかし・第九巻・二六ページ

## 二十人の中の一人も備えができていない

わたしは教会に厳粛な訴えをしたい。それは教会名簿に名前ののっている人々の中で、地上の生涯を終わる備えができている人は二十人に一人もなく、その他の人々は普通の罪人と全く同じに世にあって神もなく望みもないということである。彼らは口では神に仕えると言っているが、それよりももっと熱心に富に仕えている。この半々の働きは、キリストを告白するよりもキリストをたえず拒むことになる。自分自身の克服されていない精神を洗練しないままに教会に持ち込む人が非常に多い。彼らの霊的な味覚は彼ら自身の不道德で墮落的な腐敗によって毒され、精神においても心においても目的においても世を象徴し、肉欲的な慣習はますます強くなり、彼らの自称クリスチャ

### 3 神の民の状態

ン生活は幾度もくりかえされる欺瞞に満ちている。罪人として生活しながら、クリスチャンと称しているのである。クリスチャンと称しキリストを告白する者は罪人の中から出てきて、けがれたものにさわらず離れていなければならない。

枯れた骨のような背信の民が生きかえるように主が彼らの上に息をかけてくださるように、わたしはペンをおいて、祈りのうちに魂を主に向ける。終わりは近い。それは足音を消したどろぼうが警告と用意を怠って眠っている人々をふいに襲うように、こっそりと、知らないうちに、音もなくやってくる。願わくは主が、いま安心してゐる人々の心に聖霊をくだし、彼らがもう他の人のように眠ることなく、目をさまして身を慎むように祈るものである。——世界総会公報・一八九三年・一三二、一三三ページ

#### リバイバルと改革の必要

クリスチャンは、まもなく圧倒的な驚きとして世を襲うところのものに対して備えなければならぬ。この備えは忠実に神のみことばを学び、生活をその戒めに一致させるように努力することによってなさるべきである。……神はリバイバルと改革を要求しておられる。——預言者と王・六二六ページ

われわれの間における真の敬けんのリバイバルこそわれわれのすべての必要の中で最大にして最も緊急な必要である。これを追求することがわれわれの第一の働きである。——レビュー・アンド

・ヘラルド・一八八七年三月二二日

徹底的な改革の行なわれるべき時がきている。この改革が始まるとき、祈りの精神がひとりびとりの信者を活気づけ、教会から不和と争いの精神を追い出すであろう。——教会へのあかし・第八巻・二五一ページ

聖霊の働きのもとにリバイバルと改革が行なわれなければならない。リバイバルと改革は二つの異なったものである。リバイバルは霊的生活が新しくなること、心と思いの力がめざめること、霊的な死からよみがえることを意味する。改革は再組織、考え方や理論、習慣や行為の変化を意味する。改革はみたまによるリバイバルと結合しないかぎり、義のよき実を結ばない。リバイバルと改革は割りあてられた働きをなすべきであり、この働きをなすのに両者は融合しなければならない。

——レビユー・アンド・ヘラルド・一九〇二年二月二五日

聖書には、われわれがこれまでに見たよりもっと純粋で聖なる働きが要求されていないだろうか。……神は徹底的な改革の働きを指導するのに聖霊によつて支配していただくことを望む人々を要求しておられる。わたしは目の前に危機を見る。主は働き人に標準に達するように要求しておられる。ひとりびとりの魂が、過ぎ去った年月の間におけるよりもっと深い、もっと真実な神への献身の立場にいま立つべきである。……わたしは夜のまぼろしを通して最近わたしに示された光景に深く感動した。一つの大きな運動、——リバイバルの働きが多くの場所でおし進められているようであった。わが民は神の召しに応じて標準に近づきつつあった。——世界総会公報・一九一三年

### 3 神の民の状態

五月一日・三四ページ

夜のまぼろしの中で、神の民の間における一大改革運動がわたしに示された。多くの者が神を賛美していた。病人はいやされ、その他の奇跡が行なわれた……幾百幾千の者が家庭を訪れて、人々の前に神のみことばを開いているのがみられた。心は聖霊の力によって罪をさとり、真の悔い改めの精神が明らかにみられた。真理の宣伝に対して四方の門戸が開かれた。世は天の力に照らされているようにみえた。真実でけんそんな神の民は、大きな祝福を受けた。——教会へのあかし・第九卷・一二六ページ

神の民の間に改革の一大必要がある。教会の現状をみるとき、これがわれわれのために生命をさげられたおかたを正しく表わしているであろうかとたずねなくなる。——教会へのあかし・第三卷・四七四ページ

怠惰と無精の罪が教会からぬぐい去られるとき、主のみたまが恵みに満ちてあらわされ、天の力があらわされる。教会は万軍の主の摂理的な働きをみるであろう。真理の光ははっきりした、強い光となって照りいで、使徒たちの時代のように、多くの魂が誤謬から真理にみちびかれるであろう。地は主の栄光に照らされるであろう。——教会へのあかし・第九卷・四六ページ

#### 遅延は致命的

わたしは、神の民が何か変化が行なわれるのを、すなわち一つの強制的な力にとらえられるのを

待っているのを示された。だが彼らは失望するであろう、彼らはまちがっているのだから。彼らは行動しなければならぬ。自らの働きにとりついて、自分自身の真の姿を示してもらうように熱心に神に叫ばねばならない。われわれの目の前を過ぎる光景はまことに重大であって、それはわれわれを奮起させ、聞く者のすべての心に事実をもって迫る。地の収穫はほとんど熟している。——教会へのあかし・第一巻・二六一ページ

一方、現在の機会を賢明に利用しないで、ある特別な霊的清新の時が来て、それによって他人に光を与える能力が大いに増大するのをむなしく待っている人々がいる。彼らは現在の義務と特権をおろそかにし自分の光を暗いままにしておきながら、一方では自分で何の努力もしないで、特別な祝福を受ける者となり、それによって一変させられて奉仕にふさわしい者となる時を待ち望んでいるのである。——使徒たちの働き・五四ページ

### 生産者ではなくて消費者

キリストに従う者であると公言する者たちは宇宙の前でさばかれている。ところが、彼らの神に対する奉仕が不熱心で努力が足りないために、彼らは不忠実のそしりをまぬかれることはできない。もし彼らのしていることが全力を尽くしているのであれば、彼らは非難を受けないであろう。だが、神の働きに心をこめてするなら、彼らはさらに多くのことをなしうるはずである。彼らが自己否定と十字架を負う精神を大部分失っていることは、彼ら自身も知っていれば世も知っている。天の記

### 3 神の民の状態

録に、生産者ではなく消費者としてその名前が書きこまれる者がおおぜいいる。キリストのみ名をかかげる多くの者によって、キリストの栄光は曇らされ、その美はおおわれ、その誉れははばまれている。

名前は教会の名簿にのっていても、実際にキリストの統治のもとにいない者が多い。彼らは主の教えをかえりみず、主の働きを行なっていない。従って彼らは敵サタンの支配下にいる。彼らは積極的な善をしない。したがって彼らは、はなはだしい害を及ぼしている。なぜなら、彼らの感化は生命から生命に至るかおりでなく、死から死に至るかおりだからである。——キリストの実物教訓

・二八三ページ

#### 戒めを守ることは罪のおあい

同じ危険が今日も神の律法を委託されていると自称している民の間にある。彼らは、自分たちは戒めをとつとんでいるから神のさばきの力をまぬかれるとうぬぼれがちである。彼らは悪を責められることをこばみ、神のしもべたちが罪を陣営から追い出すのに熱心の度が過ぎるといって非難する。罪を憎まれる神は、律法を守ると称している者たちに、すべての不義から離れるように呼びかけておられる。悔い改めて神のみことばに従うことをなおざりにすることは、同じ罪が古代イスラエルにもたらしたのと同じ重大な結果を招来する。神がもうこれ以上さばきを遅らせることがおできにならないという限界がある。——教会へのあかし・第四卷・一六六、一六七ページ

## 罪とがのうちに死せる者

こんにちわが教会信徒の大きな部分が罪とがのうちに死んでいる。彼らはちようつがいのように動く。長年彼らは最も厳肅な、魂を感動させる真理を自己満足のうちに聞いてきたが、それを実行していない。したがって彼らはだんだん真理のとうとさが感じられなくなっている。∴□先では敬虔なことを言うが実際には敬虔の力を否定している。もし彼らがこの状態をつづけるならば、神は彼らを拒否される。彼らは神の家族の一員としてふさわしくない。——教会へのあかし・第六巻・四二六、四二七ページ

## 人間的な道德家

みずからクリスチャンと称する者の中には、単なる道德家にすぎない者が多い。彼らは、キリストを世にあらわして主をあがめる唯一のたまものを拒んでいる。聖霊のお働きについては彼らは何も知らないのである。彼らはみことばを行なわない。キリストと一体である者と、世に結ばれている者とを区別する天の原則は、ほとんど識別することができなくなっている。キリストに従うと表明する者は、もはや特別にわかたれた民ではない。その境界線は明りようでない。民は世と、そのならわしと、習慣と、利己主義のとりこになっている。世が教会と共に律法に従わなければならぬのに、逆に教会が世とともに律法を犯している状態である。教会は日ごとに世に転向しつつある。



——キリストの実物教訓・二九五ページ

#### しみのある記録

多くの者は、敬けんの形をもち、その名が教会名簿にのっているが、天にある彼らの記録にはしみがある。記録天使が忠実に彼らの行為を記録してきた。記録天使がつけている記録の書には、あらゆる利己的行為、あらゆる悪いことば、果たされなかったあらゆる義務、あらゆる秘密の罪が忠実に書き留められている。——教会へのあかし・第二巻・四四二ページ

#### 重荷を負っている人々が疲れ果てようとしている

ある人々が、自分で持ちあげることのできる重荷を持ちあげなかったり、自分でできる働きをしないうちに、この働きは、それに従事している少数の人々にとって大きすぎる。彼らはしなくてはならない多くのことが目について、無理な努力をするので、急速に疲れ果てようとしている。

——教会へのあかし・第二巻・六四五ページ

#### 信仰について賢明な理由をのべることができない

最後の時代の真理を信ずると口で言っている人々の多くは足りないことが発見されるであろう。彼らはもっと重要なことをおろそかにしてきた。彼らの悔い改めは表面的であって、深く熱心で徹

底的なところがない。彼らは自分たちが真理を信ずる理由がわからなくて、ただ他人が信じたから信じたのである。そして彼らはそれが真理だと思いこんでいる。彼らは信仰の理由を賢明にのべることができない。……他の人たちは、彼らの経験や、あるいは彼らが特権また義務として手に入れた知識から光を受けることも教化されることもない。力と堅固さは真心からの信仰告白者のうちにある。——教会へのあかし・第二巻・六三四ページ

### ある者は預言の巻き物をたどる

神は、信仰と聖なる望みをもつて、急速に成就しつつある預言の巻き物をたどっている民をこの地上に持つておられる。彼らはキリストが現われたもうときに結婚の衣服をつけていないようなことがないように、真理に従うことによって、自らの魂をきよめようとつとめている。——教会へのあかし・第四巻・三〇七ページ

### 印象的な夢

一八八六年九月二九日に与えられた夢の中で、わたしは木いちごをさがしている大きな一団と歩いていた。その群れの中には、実をとる助けをしてくれる若い男女がいた。空地があまりなかったところを見ると、われわれは都の中にいるようだった。しかし都のまわりにはひらけた野や美しい森やたがやされた畑があった。われわれの一団の食糧をつんだ大きな車がわれわれの前を行った。

### 3 神の民の状態

まもなく車がとまり、一行は実をさがすために四方へちらばった。車のまわりにはいたるところ高いやぶや低いやぶがあつて、大きな美しい木いちごがなっていた。しかし一行はみなずっと遠いところを見ていてそれらが目にはいらなかった。わたしは近くの実を集めはじめたが、熟した実は一ふさから一つか二つしかとれないほど、青い実がたくさんまじっているの、その青い実をつまみないようによく注意した。

幾つかの大きな木いちごが地面に落ちていて、それがうじ虫や昆虫になかば食われていた。「ああ、前にこの野原に人がきていたら、このりっぱな実は助かつたであろうが、もう遅すぎた。しかしわたしはこの実を地面からひろってまだいじょうぶかどうか見てみよう。たとえこの木いちごが全くくさっていても、少なくともわたしは兄弟たちがくるのがこんなに遅すぎなかつたら、どんなりっぱなものを見つけ出せたかを示すことができる」と思った。

ちようどその時、一行の中の二、三人がわたしのいるところにぶらぶらやってきた。彼らはおしやべりをしていて、お互のつきあいに心をうばわれているようにみえた。わたしを見ると、彼らは、「どこをさがしても実はみつかりませんでした」と言った。彼らはわたしがたくさん持っているのをびっくりして見た。わたしは「このやぶからもっと集められますよ」と言った。彼らは実をとりはじめたが、すぐやめて、「わたしたちがここで実をとるのはよくない。あなたがこの場所をみつけたのだから、実はあなたのものです」と言った。しかしわたしは答えた、「そんなことはどうでもよいことです。どこでもみつかるところで集めなさい。ここは神の野原で、これは神の木いちご

です。その実をとることはあなたがたの特権です。」

しかしすぐにわたしはまたひとりきりになったようだった。しばらくすると、わたしは車のあたりでしゃべったり笑ったりする声を聞いた。わたしはそこにいる人たちに、「何をしているのですか」と叫んだ。彼らは、「木いちごはみつかりません。わたしたちは疲れておなかがすいたので、車のところへ来ておべんとうを食べようと思ったのです。しばらく休んだら、また出かけます」と答えた。

「しかし」とわたしは言った、「あなたがたはまだ何にも集めないではありませんか。あなたがたはわたしたちにくれないで、わたしたちの食物を全部食べてしまうのですか。わたしはいま食べることができません。つまなくてはならない実がたくさんあります。あなたがたは念入りに見なかったからみつからなかったのです。実はやぶの外側にぶらさがっていません。それをさがさなくてはなりません。なるほど手に一ぱいづおことはできないでしょうが、青い実の間を念入りにさがせば、すばらしい実がみつかります。」

わたしの小さな手おけはまもなく木いちごで一ぱいになったので、わたしはそれを車のところへ持って行った。「これはいままでつんだうちで一番上等の木いちごです。あなたがたが遠くをむださがして疲れてしまっている間に、わたしは近くでこれを集めました」とわたしは言った。

するとみんながわたしの実を見にやってきました。彼らは言った、「これは背の高いやぶの木いちごで、固くて上等だ。わたしたちは高いやぶにあると思わなかったので、低いやぶしか見ませんでし

### 3 神の民の状態

た。それでほんの少ししかありませんでした。」

そこでわたしは言った、「この実を保管しておいてください。そうしてわたしと一しよに高いやぶの実をもっとさがしに行きましょう。」しかし彼らは実を保管する準備ができていなかった。皿や袋がたくさんあったのに、それらは食物を入れるのに使われていた。わたしは待ちきれなくなつて、ついにたずねた、「あなたがたは実を集めにきたのではありませんか。だのになぜそれを入れるものを準備しなかったのですか。」

ひとりが答えて言った「ホワイト姉妹、実はわたしたちは、こんなにたくさんの方がたてこみ、人が生活しているところに実があるとは思っていませんでした。しかしあなたが実を集めたがつておられるようだったので、いっしょにくることにきめたのです。わたしたちは食物を充分持参し、実を集めなくてもレクリエーションを楽しもうと思ったのです。」

わたしは答えた「そんなことはわたしには理解できません。わたしはもう一度すぐにやぶのところへ行きます。日はもうとつくに暮れかかつて、夜になろうとしています。そうしたらもう実を集めることはできません。」幾人かの者がわたしといっしょに行つたが、他の者は食べるために車のそばに残つた。

一つの場所に小さな一団が集まって、おもしろそうに何か一しよけんめいにしゃべっていた。近よつてみると、ある婦人の手に抱かれた小さな子供が彼らの注意をひいているのだった。わたしは、「みなさん、時間がありませんから、いまのうちに働いたほうがよいですよ」と言った。

多くの者の注意は、車のところまで駆けっこをしている若い男女にひかれた。車のところへ着くと、彼らは疲れてしまい、すわりこんで休まねばならなかった。他の人たちも草の上に身を投げ出して休んでいた。

こうして一日が過ぎ、何もできなかった。ついにわたしは言った、「あなたがたは、この遠足が成功しなかったと言われる。あなたがたの働きぶりがこんなふうなら、成功しないのに不思議はありません。成功も失敗もみなさんの働きに対するやり方次第です。木いちごはここにありません。わたしはそれを見つけました。みなさんの中には、低いやぶをさがしておだだった人もあります。またある人たちは幾らかみつけました。しかし高いやぶはみすごしました。あなたがたはそこに木いちごがみつかる**期待**しなかったからです。ごらんのように、わたしの集めた実は大きくて熟しています。まもなく、他の木いちごも熟するでしょうから、わたしたちはもう一度やぶのあたりに来て実をとることができます。わたしはこのように実を集めることを教えられたのです。あなたがたも車の近くをさがされたら、わたしと同じように実をみつけていたでしょうに。

この種類の働きを習い始めたばかりの人たちは、あなたがたがきょう与えた教訓を、まねするでしょう。主は実のなっているこのやぶをこんなにいろいろなやぶがはえている場所のまん中におかれ、あなたがたがそれを見つけるのを期待しておられます。しかしあなたがたは食べた、楽しんでる事ばかりに熱中しました。あなたがたは、実をみつけようとの堅い決心で野原へきたのはありませんでした。

### 3 神の民の状態

これからはあなたがたはもっと熱心に、そして全然異なった目的を念頭において働かねばなりません。そうでないとあなたがたの働きは決して成功しません。正しく働くことによって、あなたがたは若い働き人にも食べることやレクリエーションなどがたいして重要なことではないということを教えることができます。食物を積んだ車をここまでひっぱってくることはたいへんな仕事でしたが、結局あなたがたは家へ持って帰る実のことよりも、食物のことを考えていました。あなたがたは熱心に、まず一番身近な木いちごをつみ、それから遠くの木いちごをさがさねばなりません。それからまたもどって来て、もう一度近くで働かねばなりません。そうしたら成功します。」——福音宣伝者・英文・一三六―一三九ページ

#### 会うべき試練

最後の厳粛な働きには、えらい人たちはほとんどさわっていない。彼らは自己満足し、神によりたのまないで、神は彼らをお用いになることができない。主は忠実なしもべたちを持っておられるが彼らはふるわれて試みられる時に人々の目の前にあらわれる。バアルにひざをかがめなかったとうとい人々がいまはかくされている。彼らはあなたがたの上に集中された輝きとなって輝いている光を持っていなかった。だが粗野な、魅力のない外面の下に真のクリスチャン品性の輝きがあらわされることがある。昼間は、天を見ても星は見えない。星は大空に固着してそこにあるのだが、目に見わけられない。夜になると、その真の光輝が見られるのである。

各々の魂に試みがやってくる時はそんなに遠くない。……そのとき、教会の中では金とくずとが分けられる。真の敬けんとそのまねやめつきとはっきり区別される。われわれがその光輝を称賛した多くの星がそのときやみに消え去る。豊かな穀物の床しかみえなかったところからさえ、もみながら雲のように風にのってはこび去られる。聖所の飾りだけを身につけて、キリストの義を着ていない者はみな自分自身の裸の恥をさらしながら現われる。——教会へのあかし・第五卷・八〇、

八一ページ



## 第四章

### クリスチャンの働き人が

### 直面している世界情勢

#### 世界的なドラマ

世界は劇場である。その役者たる世界の住民は、最後の大きいなるドラマのために役割を演じようとしている。これだけ多くの人類がいるのに、人々は利己的な目的のために同盟する以外に何の一致もない。神は見ておられる。そゝいた民に対する神の目的は達成される。神は混乱と無秩序が勢いをふるうことを一時おゆるしにはなるが、世界は人々の手に渡されなかった。下からの勢力がドラマの最後の場面を展開させようとして働いている。――すなわち、サタンがキリストとして現われ、秘密結社に関係している人々の中にあらゆる不義のまどわしをもって働こうとしている。同盟の欲望に負ける者は、敵の計画を実行しているのである。原因には結果が伴うのである。――教会へのあかし・第八巻・二七、二八ページ

## ドラマの最終場面

今日ほどこの使命が大きな力であてはまる時代はこれまでになかった。世はますます神のご要求を無視している。人々は罪を犯すのに大胆になった。世界の住民の悪は不義のさかずきをほとんど満たした。この世は神が、破壊者に意のまま働くのをお許しになるところまで来ている。人間の律法を神の律法に入れ代え、人間の権限だけで聖書の安息日の代わりに日曜日を高めることが、このドラマの最後の場面である。この入れ代えが世界的になる時、神はご自身をあらわされる。神はそのご威光のうちに立ちあがり、激しく地をふるわれる。「主はそのおられる所を出て、地に住む者の不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやおおうことがない」(イザヤ書二六ノ二二)。——教会へのあかし・第七巻・一四一ページ

## 時代の危機

われわれは時代の危機の入口に立っている。神の刑罰は、火、洪水、地震、戦争、流血となつて次々にすみやかに続く。この時代にわれわれは大きくて決定的な事件にも驚くべきではない。あわれみの天使はさし迫ったできごとをおさえるためにもはやこの地上にとどまることができないからである。——預言者と王・二七八ページ

危機は徐々にわれわれにしのびよっている。太陽はあいかわらず天に輝きながらきまった軌道を

#### 4 クリスチャンの働き人が直面している世界情勢

通り天は依然として神の栄光を語っている。人々はいかかわらず飲み食い、植え、建て、めとり、とつぎなどしている。商人はいかかわらず売り買いしている。人々は互におしのけながら最高の地位を争っている。享樂を愛する者はいかかわらず劇場や競馬場やとばく場にゐらがり集まっている。極端な興奮が行き渡っているが、恩恵期間は急速に過ぎ、各人の立場が永遠に決定されようとしている。サタンは自分の時が短いことを知っている。彼は、ついには恩恵の日が過ぎ、恵みの戸が永遠にしまるまで、人々をあざむき、だまし、占領し、魅惑するように全部の部下を働きに向けた。

——サザン・ウォッチマン・一九〇五年十月三日

不法はほとんどその頂点に達した。混乱が地に満ち、大いなる恐怖がまもなく人類にのぞもうとしている。終わりは非常に近い。真理を知っているわれわれは圧倒的な驚くべき事件としてまもなく世にのぞもうとしていることに對して備えなければならない。——教会へのあかし・第八卷・二八ページ

現在は、罪惡が世にあふれて、最後の大危機が近いことを告げている。神の律法が全世界的に無視され、神の民がその同胞からの圧迫と迫害を受けるようになるそのときに、主が介入なさるのである。——キリストの実物教訓・一五九ページ

われわれは大いにして嚴肅な事件の門口に立っている。預言は成就している。不思議な事件に富んだ歴史が天の書に記録されている。世界のすべてのものが動揺している。戦争と戦争のうわさがある。国民は怒り、死人がさばかれる時がきている。すみやかに近づいてくる神の日をきたらせる

ために事件が移りかわっている。いわばほんの一瞬間だけがまだ残っている。しかしすでに国民は国民に向かって王国は王国に向かって立ちあがりつつあるが、まだ大戦争はない。四方の風は、神のしもべたちがそのひたいに印をおされるまでまだひきとめられているが、それがすむと、地の勢力は最後の大戦に向かって進軍するのである。——教会へのあかし・第六巻・一四ページ

### 神の抑制のみたまがとり去られつつある

神の抑制のみたまはいま世からとり去られつつある。暴風、嵐、火事、洪水、海陸の災害が次々と急速に起こっている。科学はこれらのすべてを説明しようと試みる。われわれの周囲に頻繁に起こっているしるしは、神のみ子の来臨が近づいた事を告げているのであるが、それは真の原因よりも他のせいになされている。人々は、神のしもべたちが印されるまで風を吹かせないように四隅の風をひきとめている見張りの天使たちをみとめることができない。だが神が天使たちに風をゆるめるようにお命じになると、描写することのできないような争闘の光景が現われるのである。——教会へのあかし・第六巻・四〇八ページ

われわれが生存している時代は厳粛にして重大である。神のみたまは徐々にではあるが、確実に地からとり去られつつある。神の恩恵をあざける者たちの上に災害や刑罰がくだっている。海陸の災害、社会の不安状態、戦争の警報などが危機をはらんでいる。それらは最大の規模をもった事件が近づいていることを予告している。悪天使たちは勢力を結集して、陣地を固めている。彼らは最

後の大危機のために強化されつつある。まもなくこの世界に大変化が起ころうとしているが最後の運動は急速なものとなるであろう。——教会へのあかし・第九巻・一一ページ

人間の香油ではいやすことのできない悲しみがこの世に起こる時が近づいている。神のみたまはとり去られつつある。海陸の災害は次々と急速に起こっている。地震やたつまきによって、また火事や洪水による破壊によって、多くの人命や財産が失われたことを何度きかされることだろう。これらの災害は組織することも抑制することもできない自然の力が気まぐれに突発するものであり、かつ人間の力では全く統制することのできないもののように見られている。しかしそうしたすべてのことの中に、神の目的が読みとれるのである。それらは神が人間をその危機感にめざめさせようとされる方法の一つである。——預言者と王・二七七ページ

### 避病院のような世界

人間はすばらしい進歩と知識とを盲目的に誇っている。だが天の看視者たちは地が墮落と暴虐に満ちているのを見ている。罪のためにこの世の空気は、避病院の空気のようになってしまった。

——教会へのあかし・第六巻・一〇、一一ページ

### 罪悪の流行

全国各地の思慮深い、神をおそれる人がびっくりするような「罪悪の流行」の中に、わたしたちは生活している。このように流行している墮落は、とうてい筆舌につくし得ない。毎日、新しい政

争、贈賄事件、詐欺行為が発覚する。また心を痛める暴動、不法、人間の苦痛に対する冷淡、さらに極悪、残忍な人命破壊の話を聞く。また精神病、殺人、自殺も日々増加していく。サタンの使が人間の間に働いて、人心を迷わし、墮落させ、身体を汚し、破壊しようとして、ますます活動していくのをだれも疑うことができない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一一四ページ

無秩序の精神がすべての国々に浸透しており、時々世人の恐怖心をかきたてるような突発事件は、激情と不法精神というおさえつけられた火の徴候にすぎず、それはいったん抑制がとり除かれると、全地に災害と荒廃を満たすであろう。ノアの大洪水前の世界について靈感によってえがかれている状態は、現代の社会が急速に近づいている状態をそのままあらわしている。いまでさえも、今世紀において、キリスト教国と自称する国々において、古代世界の罪人がそのために滅ぼされたあの凶悪で恐るべき罪悪が毎日行なわれている。洪水前に神は人々が悔い改め、きたるべき滅亡からまぬかれるようにノアをつかわして世に警告された。キリストの再臨の時が近づくにつれて、主はその大いなるできごととに備えるように世に対する警告をたずさえたしもべたちを送られる。多くの人々は神の律法に反した生活をしているが、いま神はあわれみをもって彼らに聖なる戒めを守るように呼びかけておられる。神に対して悔い改め、キリストを信じて、罪を捨てる者はみなゆるしを受ける。——預言者と王・一〇二ページ

世の状態は、まさに乱れた時代が到来していることを示している。毎日の新聞は、近い将来における恐るべき争闘の徴候に満ちている。大胆な強盗行為がしばしば起こっている。ストライキは珍

#### 4 クリスチャンの働き人が直面している世界情勢

しくない。盗みや殺人は四方に行なわれている。悪鬼につかれた人間どもが男や女や子供たちの生命をとっている。人々は悪事に夢中になり、あらゆる種類の罪悪が行き渡っている。——教会へのあかし・第九巻・一一ページ

##### 大欺瞞者が働いている

地上のすべてのものの終わりが急速に近づいている現在、サタンは世をわなにかけするために必死の努力をしている。彼は人の心を占領し、救いに大切な真理から人の注意をそらすために多くの計画を工夫している。あらゆる都市で、悪天使たちは神の律法に反対する者たちを団体に組織するのに忙しい。大欺瞞者は混乱と反逆の要素を持ち込むために働き、人々は知識を抜きにした熱意に燃やされている。——使徒の働き・二一九ページ

サタンは忠実に聖書を研究している。彼は自分の時が短いことを知っているので、あらゆる点で地上における神の働きを妨害しようとする。——教会へのあかし・第九巻・一六ページ

サタンは神の民を不活動の状態にとじこめ、彼らが真理の宣伝に各自の分を尽くさないようにし、最後にはかりにかけられて重さの足りないことが発見されるようにしようといま努力している。

——教会へのあかし・第一巻・二六〇ページ

##### 戦争の精神にわき立つ世界

世界は戦争の精神でわき立っている。ダニエル書第十一章の預言はほとんど完全な成就をみてい

る。まもなくこの預言に告げられている苦難の光景が起こるであろう。——教会へのあかし・第九巻・一四ページ

わたしは地上の住民が極度の混乱に陥っているのを示された。戦争、流血、欠乏、不自由、飢饉、疫病がひろく国中にひろがっている。……その時わたしの注意はその光景にひかれた。しばらく平和の時があるように見えた。もう一度地上の住民がわたしの前に示された。そしてもう一度何もかもが極度に混乱していた。争鬭、戦争、流血が飢饉や疫病とともにいたるところに猛威をふるっていた。他の国々はこの戦争と混乱の中で怒っていた。戦争は飢饉をひき起こした。欠乏と流血が疫病をひき起こした。その時人々の心は、「世界に起ろうとする事を思い」恐怖に度を失った（ルカ二一ノ二六）。——教会へのあかし・第一巻・二六八ページ

## 霊 的 暗 黒

いまは世の教会における霊的暗黒の時である。神に関することがあろうそかにされているために、神と真理は目に見えないところにかくされている。悪の勢力は力を結集している。サタンは世をとりこにするような働きをしてみせると仲間にも慢している。教会が部分的な不活動に見舞われている間、サタンとその軍勢は熱心に活動している。自称キリスト教会は世を悔い改めにみちびいていない。なぜなら彼ら自身が利己心と誇りに墮落しているので、他の人々をいっそう清く高い標準にみちびくには彼ら自身の中に神の悔い改めの力を感じずる必要があるからである。——教会への



#### 4 クリスチャンの働き人が直面している世界情勢

あかし・第九巻・六五ページ

今日も、おかしと同じように、神のことばの重大な真理は無視されて、人間の理論や推論が重んじられている。福音の牧師と称する人びとの中にも、聖書を全部神の靈感によることばとして信じていない者が多い。ある学者がある部分を拒否すると、他の人が別のところを疑うといったありさまである。彼らは、自己の判断をみことばよりも重んじる。彼らの教える聖書は、彼ら自身の権威に基づく。聖書が神から与えられた信頼すべき書であるという事実は、かえりみられなくなった。こうして、不信の種がまき散らされ、人びとは、何を信じてよいのかわからなくなる。――キリストの実物教訓・一六ページ

悪はかつてなかったほどの高さに達しようとしているが、多くの福音伝道者たちは「平和だ、安全だ」と叫んでいる。しかし神の忠実な使者は、働きをたずさえて着々と前進すべきである。彼らは、天のよいを着て、手の届くかぎりの魂が現代の真理のメッセージを受けるまで決して戦いをやめることなく恐れず、勝利のうちに前進すべきである。――使徒の働き・二二〇ページ

今日、宗教界の状態には警告すべき理由がある。神のあわれみは軽んじられている。多くの人々はエホバの律法をおなしのものとし、「人間のいましめを教えとして教え」ている（マタイ一五ノ九）。わが国の多くの教会の中に不信仰がひろがっている。聖書を公然と否定するというひろい意味における不信仰ではなくて、キリスト教という衣服をまといながら、一方では聖書を神の啓示として信ずる信仰を害している不信仰である。熱烈な信心と生命のある敬けんはおなしの形式主義に座

をゆずってしまった。その結果、背信と肉欲主義がひろがっている。キリストはこう断言された、「□トの時にも同じようなことが起った。人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう」（ルカ一七ノ二八、三〇）。移り変わる事件の毎日の記録は、キリストのみことばの成就を証明している。世は急速に滅亡に向かつて進んでいる。まもなく神の刑罰がそがれ、罪と罪人が焼き滅ぼされようとしている。——創世時代と父祖の生活・英文・一六六ページ

### 麦と毒麦を分ける

神の破壊的な刑罰の時は、真理がどういうものであるかを知る機会のなかつた者にとって恵みの時である。主はやさしく彼らをごらんになる。主のあわれみの心は動かされる。中にはいろいろとしないものに対しては戸がとざされているが、主のみ手は救おうとしてさしのべられている。——教会へのあかし・第九卷・九七ページ

まもなく神に仕える者と仕えない者との間に戦いが行なわれる。まもなくふるわれるものはみなふるわれ、ふるわれることのできないものが残る。——教会へのあかし・第九卷・一五、一六ページ  
諸国民の苦悩と困難の時に、世の墮落的な影響とサタンの奉仕に全く身をまかせないで、全全霊をもって神によりたのみ、受け入れられ、ゆるされる多くの人がいる。——教会へのあかし・第一卷・二六九ページ

聖書を読みながらその本当の意味がわからない人がたくさんいる。全世界の男女が天へあこがれ

#### 4 クリスチャンの働き人が直面している世界情勢

の目を向けている。光と恩恵と聖霊を求めている魂から祈りと涙と質問がのぼって行く。多くの者はみ国の入口にあつて、中に集められるのを待っているだけである。——使徒の働き・一〇九ページ

##### エリヤの経験からの教訓

落胆と敗北に見えた日のエリヤの経験から、多くの教訓がひき出される。それは一般の人々が正しいことから離れているのが目立っている今日の時代にとって測り知れない価値を持った教訓である。今日ひろがっている背信は、この預言者の時代にイスラエルにひろがっていた背信に似ている。人間を神よりも高くし、世俗的な指導者を礼賛し、富をあがめ科学の教えを聖書の真理よりも上におくことなどによって、今日多くの人々はバアルのあとに従っている。疑いと不信は心と思いに有害な影響を及ぼし、多くの者が人間の理論を神のみことばとおきかえている。人間の理性がみことばの教えよりも高められるべき時代になったと公然と教えられている。正義について天来の標準である神の律法は効力がないと宣言されている。すべての真理の敵は、人々に神のおられるべきところに人間の制度をおかせ、人類の幸福と救いのために定められたものを忘れさせようと、欺瞞的な力で働いている。しかしこの背信は、ひろくひろがってはいるが、世界的なものではない。世界中の者がみな不法で罪深いというわけではない。すべての者が敵のがわについているわけではない。バアルにひざをかがめない幾千の者、キリストと律法についてもっと充分に理解したいと熱望している多くの者、罪と死の支配を終わらせるためにイエスがまもなくこられることを「望み得ないの

に、なおも望みつつ信じ」ている多くの者を、神は持つておられる（ローマ四ノ一八）。しかも知らないでバアルをおがんできたのに、神のみたまがなおとどまっている多くの人々がいる。――預言者と王・一七〇、一七一ページ

## 第五章

### 教会は伝道訓練のセンター

#### 現代の必要

わが教会を築きあげるのに今必要とされているものは、教会の中のタラントすなわち主のご用のために教育できるタラントをみわけて、これを伸ばすために賢明な働き人がよい働きをすることである。

働き人が、大小にかかわらずすべてのわが教会に行って、教会員に教会を築く働きやまた未信者のために働く方法を教えるように、働き人の用い方によく組織された計画がなくてはならない。

必要なのは訓練、すなわち教育である。教会を訪問するのに働いている人は兄弟姉妹たちに伝道の働きをする実際的な方法について教えるべきである。――教会へのあかし・第九巻・一一七ページ

神はご自分の教会が世に光を与える働きのために教会員を訓練し、用意することを期待しておら

れる。貴重なタラントを銀行に投資する幾百の人々を世に出すような教育がなされなければならない。こうしたタラントを用いることによって、信頼と責任の地位を占め、純潔でけがれない原則を保つ用意のできた人々が育てられるのである。こうして主のために大いなるよきことがなしとげられるのである。——教会へのあかし・第六巻・四三一、四三二ページ

どの働き人も思慮深く有能でなければならない。その時、高く広い意味において、彼はイエスにある真理を示すことができる。——教会へのあかし・第七巻・七〇ページ

教会員を教育するため、このよく計画された努力を遅らせるようなことがあってはならない。

——教会へのあかし・第九巻・一一九ページ

わが民に与えることのできる最大の助けは、彼らに神のために働くことと、牧師にたよらず神にたよることを教えることである。——教会へのあかし・第七巻・一九ページ

確かにこれまでなされた説教のどれもが多数の自己犠牲的な働き人を生んだわけではない。この問題は最も重大な結果を意味しているものとみなされるべきである。永遠のためのわれわれの将来は危険に瀕している。教会は光をひろめるのにタラントを用いていないので衰えつつある。すべての者が光を実際に用いるように、主から与えられる教訓となるような注意深い教えを与えるべきである。——教会へのあかし・第六巻・四三一ページ

人々はあまりに説教されすぎている。彼らはキリストが死んでくださった人々のために働く方法を教えられているだろうか。各人がこの働きに参加する必要をみとめるような方法で、働きの部門

が計画され、人々に示されているであろうか。——教会へのあかし・第六巻・四三一ページ

どんな突発事が起ころうとも、人々がこれに対処する備えができるのは教育と実行によってである。そしてまた各人をしかるべき分野に置いて、責任をになうにふさわしい経験を得させるには、賢明な計画が必要である。——教会へのあかし・第九巻・二二一ページ

### 教会伝道のカリキュラム

どうして始めるかを教えられさえすれば多くの人は喜んで働く。彼らには教えと励ましが必要である。すべての教会がクリスチャンの働き人を養成する学校でなければならない。その会員には聖書研究の授け方や安息日学校の組の運営と教授法、貧しい人を助け、病人を看護する最善の方法、悔い改めていない人のために働く方法を教えなければならない。また衛生問題を教える学校や料理学校、あるいはクリスチャン的ないろいろな方面の助けになる働きを教えるクラスが経営されるべきである。そして単に教えるばかりでなく、経験のある教師の下に、実際の仕事をしなければならぬ。教師が先に立って人々の間で働くならば、他の人はそれと協力し、その模範から学ぶのである。一つの模範は多くの言葉にまさる。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二一ページ

### 特別の訓練

衛生改革の原則について人々を教育するためにもっと大きな努力がなされなければならない。料理学校を設け、健康によい食物の料理法について家ごとに教えなければならない。老いも若きも

つと単純な料理法を学ばねばならない。真理の教えられるところではどこでも、人々に単純でしかも食欲をそるような料理法を教えねばならない。肉食を用いなくても栄養的な食事を用意することができるところを示すべきである。——教会へのあかし・第九巻・一六ページ

教会のあるところではどこでも、健康の法則に一致した生活を送りたいと望む人々のために、単純で健康的な食物を作ることを教えるべきである。そして教会員は、この問題について自分たちが受けた光を近隣の人々に与えるべきである。——福音宣伝者・英文・三六二ページ

### 教えを適用させる

神の働きにおいてどれほど多くの有能な名誉ある働き人が、人生の最も低い地位における目だたない務の中で訓練を受けたことだろう。モーセはエジプトの未来の統治者であったが、神はモーセを王室から召して彼に割り当てられた働きをさせることがおできにならなかった。忠実な牧羊者として四十年を過ごしたのちにはじめて彼は民の救済者となるためにつかわされた。ギデオンはイスラエルの軍勢を救うために神のみ手のうつわとなるべく召されたのは穀物の打ち場からであった。エリシャはすきを捨てて神の命令を行なうように召された。アモスが伝えるべき使命を神から受けたとき、彼は土地をたがやす農夫であった。キリストの共労者となる者はすべて非常に困難で、性に合わない働きをしなければならないから、彼らに与えるべき教えは賢明に選択し彼らの特殊な性格や彼らのなす働きに適應したものでなければならない。——福音宣伝者・英文・三三二、三三



### 訓練を与える責任

テモテの場合のように、有望で才能のある人が悔い改めると、パウロとバルナバはぶどう園で働く必要を熱心に説いた。だから使徒たちが他の場所へ移った時にも、この人たちの信仰は衰えず、かえって増した。彼らは主の道に従って忠実に教えられ、同胞の救いのために利己心をまじえず、熱心に、忍耐強く働くことを教えられていた。新しい改心者をこのように注意深く訓練することが、異邦の地におけるパウロとバルナバの福音宣伝に伴ったためざましい成功の重大な原因であつた。

——使徒の働き・一八六、一八七ページ

教会ができること、その教会員の中から他人に真理を伝えて新しい教会を起こすような人が召されなければならぬということ、従って彼らはみな働いて神から与えられたタラントを最大限に用い、主の奉仕にたずさわるために知能を訓練しなければならぬということを示さねばならない。

——教会へのあかし・第三卷・二〇五ページ

正しい心を持った働き人すなわち、われわれの信仰を正しく表わすような献身と敬けんの心を持った働き人が足りないために、伝道事業はいつも困難に直面している。伝道者になるべくしてこの分野に進まない人が多くいるが、それは教会や大学で彼らといっしょの人々が彼らとともに働く重荷を感じず、また彼らのすべての能力に対する神の要求を彼らに示さず、彼らとともにまた彼らの

ために祈ることをしないためである。——教師への勧告・五〇〇、五〇一ページ

教会の靈的監督の任にある人は、教会員のひとりびとりが神の働きの何らかの役割を果たすような機会を与えるようにその方法を計画すべきである。これがなされていないことがこれまでに幾度もあった。すべての人のタラントが活発な奉仕に用いられるように計画をはっきりたててこれを全面的に実行することがなされていなかった。そのためにどれほどの損失があったかをみとめている人は少ない。——教会へのあかし・第九卷・一一六ページ

どの教会においても、教会員が魂をキリストにみちびくために時間をささげるように訓練しなければならぬ。教会員が実際に光をわけ与えていないならば、どうして教会について「あなたがたは世の光である」ということができよう。キリストの群れに責任を負っている者はその責任にめざめて、多くの魂を働かせなければならない。——教会へのあかし・第六卷・四三六ページ

### 訓練の資格を備えた役員を選べ

新しい教会の役員を選ぶ時には十分な注意を払わねばならない。そうした役員は完全に悔い改めた男女でなければならない。教えを授けるのに最も資格のある人、ことばにおいても行為においても奉仕することのできる人々を選ばねばならない。あらゆる方面の働きに根強い必要がある。

——教会へのあかし・第六卷・八五ページ

長老や教会内の指導的な立場を占めている人々は働きを進める計画にもっと意を用いなければならぬ。

らない。彼らは物事の手はずをきめて、教会員のひとりびとりに活動の役割を与え、だれもこれという目的のない生活を送ることなく、みんながそれぞれの才能に応じてできることをなしとげるようにしなくてはならない。……利己心がなくて献身的で有能な神の働き人となるように、教会員にこのような教育をさずけることは非常にたいせつである。このような方法を通してのみ、教会は実をむすばずに死んだものとなることを避けることができるのである。……教会員のひとりびとりが活動的な働き人すなわち、神の宮において光を放つ生ける石となるようにしよう。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九〇年九月二日

### 教会員は自分を教育すべきである

教会員は働かなくてはならない。彼らは自分自身を教育し、目の前におかれている高い標準に到達するように努力しなければならない。もし彼らが主と協力するならば、主はこの標準に到達させてくださるのである。——教会へのあかし・第九巻・一四〇ページ

神のために働くために、知的の準備をする機会は、一つでも見のがしてはならない。——キリストの実物教訓・三〇八ページ

### 天来の標準

修得した知識を他に分け与えるために、できる限りの教育を受けるように、神はわたしたちに望んでおられる。人がどこでどのような働きに召され、神に代わって語るようになるかは、だれにも

わからないのである。人が将来どのようなかを知っているのは、ただ、わたしたちの天の父だけである。わたしたちの弱い信仰では認めることのできない可能性が、わたしたちの前途にはある。そこで、わたしたちは、よく知性をみがいて、必要ならば、この地上の最高の権威者の前に立って、みことばの真理を明らかにし、神のみ名の栄光を輝かすようにしなければならない。——キリストの実物教訓・三〇八ページ

だれが主のぶどう園に出て行って働く準備をしてきただろうか。神は未熟な者をおよろこびにならない。神はわれわれが神から与えられた才能をできるだけ最善に、そしてまた最高に用いるように望んでおられる。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八九年四月二日

## 例

わたしは、ある人が白い織物布地をわたしのところへ持って来て、それをあらゆるサイズ、すなわちあらゆる種類の性格や人生の環境にある人々に適する衣服に裁断するようにわたしに命じた夢を見た。わたしはそれを裁断して、要求されたらすぐ間に合うようにつりさげておくように言われた。わたしが衣服を裁断するように要求された相手の人たちの多くは価値のない人たちであるという印象をわたしは受けた。わたしが裁断しなければならぬ布地はこれで全部かどうかをたずねると、そうではないという返事だった。そしてわたしがそれを裁断し終わったら、とりかからねばならない他のものがあるということだった。

わたしは目の前の仕事の量にがっかりして、自分は二十年以上も他人のために衣服の裁断をやってきたが、その骨折りは感謝もされず、また自分の働きによってよいことが達成されたようにもみえないと述べた。わたしは布地を持って来た人に特にひとりの婦人のことを話した。その婦人のために衣服を裁断するようにわたしは彼から言われたのだった。その婦人は衣服をたいせつにしないので、それを彼女にプレゼントすることは時間と物の損失だとわたしは言った。彼女は貧しく、知能が劣り、だらしない習慣のある人だから、衣服をすぐによごすだろうとわたしは言った。その男の人は答えて言った、「衣服を裁断しなさい。それがあなたの義務です。損失はあなたの損失ではなくわたしの損失です。神の見方は人の見方とはちがいます。神はしてもらいたい仕事を計画される。あなたには、これが成功するかあれが成功するかわからない。このような多くの貧しい魂がみ国にはいる一方では、人生のあらゆる祝福に恵まれていた人たちがあらゆる向上の特典を持ちながらとり残されることかわかるだろう。」——教会へのあかし・第二巻・一〇、一一ページ

なん時間ものあいだ、兵隊たちはいのうを背中からはずしたり、それをまたすぐに背負ったりする訓練をする。彼らは銃を組んだり、それを敏速に手にとったりすることを教えられる。彼らは敵を攻撃する訓練を受けまたあらゆる種類の演習を仕込まれる。こうして訓練が続けられて、どんな危急にも応ずる準備ができる。イマヌエルの君のために戦っている者は霊的な戦いに対する準備にこうした兵隊たちよりも不熱心だったり、骨身を惜しんだりしてよいだろうか。——福音宣伝者

## 第六章

### 教育期間中 学生は

#### 伝道の働きをすべきである

#### 教育の目的

真の教育とは伝道者を養成することであって、神のおすこ、娘はすべて伝道者となるように召されている。わたしたちは神と人とに奉仕するために召されている。そしてこの働きに適した者となることが、わたしたちの教育の真の目的でなければならない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六四ページ

われわれが学校を設けたのは敵の誘惑に対して青年の備えを固くするためであって、青年たちはその学校でこの世に役立つ者となるようにそしてまた永遠にわたって神に奉仕する者となるように資格を得ることができる。——教師への勧告・四九五ページ

無知にして滅びつつある者のために働く目的で知識を身につけようと努力する者は人類に対する

神の大いなる目的を達成するのに自分の立場を果たしているのである。他人の祝福となる無私の奉仕を通して、彼はクリスチャン教育の高い理想に到達しつつあるのである。——教師への勧告・四五ページ

主は強くて献身的で自己犠牲的な青年男女を求めておられる。彼らは前線に急行し、あるいはまた学校で短期間をすごしてから世に使命を伝える備えをして出て行くのである。——教師への勧告・五四九ページ

### なすことによって学ぶ

学生たちに伝道の働きをする時間——すなわち周囲の地域にある家族の霊的な必要を知るために時間を与えることが彼らの教育の完成に必要なものである。彼らが獲得した知識を用いる時間がないほど勉強の重荷を負わせてはならない。学生たちが誤謬のうちにある人々に対する伝道のために働き、そうした人々と知り合いになって彼らを真理にみちびくように学生たちを奨励しなければならない。謙遜のうちに働き、キリストから知恵を求め、目をさまして祈ることによって、彼らは自分の生活を豊かにした知識を他人に伝えることができるのである。——教師への勧告・五四五、五四六ページ

可能なかぎり学生たちは、在学中に都市の伝道活動にたずさわるべきである。彼らは周囲の町や村の伝道活動をすべきである。彼らは組をつくって、クリスチャンとして人々を助ける働きをする事ができる。学生たちは神に対する現在の自分の義務について広い見解を持つべきである。彼らは

学校が終わってから神のために何か大きな働きをする時がくるのを待っていないで、学生生活の間に、人々のために無私の奉仕をする事によってキリストとくびきとともにすべきである。——教師への勧告・五四七ページ

青年たちの心に重大な教訓をつめこむだけでは充分ではない。彼らは受けたものを与えることを学ばねばならない。——教師への勧告・五四五ページ

われわれの大学や伝道学校から宣教師を遠い国々に送り出さねばならない。学生たちは在学中にあらゆる機会を利用してこの働きに備えねばならない。彼らの適応性がどこにあるか、彼らが天来の正しい立場を占めているかどうかをみるために、彼らは試みられたためされるべきである。——教師への勧告・五四九ページ

### 伝道精神の奨励

わが学校の教師と学生は天との接触が必要である。昔は神の道は制限されていたが、神はいまはこれまでよりももっと多くのことを彼らのためになさることができ、伝道精神を奨励するならば、そのために正規の勉強時間が幾らか失われることがあっても信仰と霊的熱心が増し加わり、神のなしたもうことをもっとよく認めることができ、天の多くの祝福が与えられる。——教師への勧告・五四六ページ

### 学校が終わったら



学校が終わったら、多くの者が文書伝道者として野に出て行く機会がある。忠実な文書伝道者は多くの家庭にはいつて行って、現代の真理を含んでいる読み物を置いてくる。わが学生たちはわれわれの本を売ることを学ばねばならない。深いクリスチャン経験をもった人、バランスのとれた頭脳の人、教育のある強い人がこの部門の働きにたずさわる必要がある。現在なされているよりもっと多くのことを達成するような方法で文書伝道の働きをするように青年を教育するような才能と教育と経験のある人々がいるのである。こうした経験のある人は、人々を教えるために果たすべき特別な義務があるのである。——教師への勧告・五四六、五四七ページ

## 歌の奉仕

美しい賛美歌を調子よくはつきりと歌うことを学んだ学生は賛美歌伝道者として多くのよいことをすることができ。彼らは悲しみと苦しみによって暗くなった多くの寂しい場所にメロデーと日光をもたらし、教会に出る特権に恵まれない人々に歌ってきかせることによって神から与えられた才能を用いる多くの機会があるからである。

学生がたよ、道やかきねのあたりに出て行きなさい。下層階級はもちろん上流階級の人々のところにも行くように努力しなさい。貧しい人はもちろん金持ちの家にも行って、機会をみては、「何か賛美歌をうたってさしあげましょうか」とたずねなさい。そうして心がやわらげられたら、神の祝福を求めてふたことみこと祈りをささげる道が開かれるかもしれない。聞きたくないという人は

シ 多くはない。このような奉仕は真の伝道の働きである。——教師への勧告・五四七、五四八ペー

## 第七章

# 牧師と信徒の協力

### 一致協力して奉仕の野に

牧師も信徒も実っている野にはいつて行こう。忘れられた聖書の真理がのべ伝えられるところにはどこでも収穫がみいだされる。真理を受け入れる者、魂をキリストにみちびくために一生をささげる者がみいだされる。——オーストラリア・サイNZ・オブ・ザ・タイムズ・一九〇三年八月三日

真理の種子をまく働きの大部分を牧師にだけまかせることは主のみこころではない。牧師として召されていない者も、その才能にしたがって主のために働くように奨励しなければならない。現在何もしていない幾百の男女はりっぱな奉仕ができるのである。友人や隣人の家庭に真理を持ち込むことによって、彼らは主のために大きな働きをすることができる。——教会へのあかし・第七卷・

二一ページ

神は牧師たちにのべ伝えるべき真理をお与えになった。この真理を教会は受け入れ、光の最初の輝きをつかんでこれをひろめながら、あらゆる方法で伝えなくてはならない。——教会へのあかし・第六卷・四二五ページ

民は牧師の働きに力をそえ、その努力をあと押しし、その重荷を負い合わねばならない。そうすれば牧師が過労になったり、落胆したりするようなことはなくなるであろう。民が原則にもとづいて賢明に行動し、働きを進めるためにできるだけのことをしなければ、教会は永続的な感化力を与えることはできない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年八月二三日

### 説得力のある結合

世は講壇から教えられることによってではなく、教会の人々の生活によって説得される。講壇の伝道は福音の理論を宣言するが、教会の生活における敬けんは福音の力を実地に示す。——教会へのあかし・第七卷・一六ページ

この世における神の働きは、わが教会員となっている男女がこの働きのために奮起し、牧師や教会員と努力を共にするまでは完結しない。——福音宣伝者・三五二ページ

救霊の働きにおいて説教は小さな部分である。神のみたまが罪人に真理をさとらせ、彼らを教会の腕におかれるのである。牧師はその役割を果たすだろうが、教会員がなすべき働きまですることはできない。——教会へのあかし・第四卷・六九ページ

神の真理の宣伝は少数の牧師にだけまかされているのではない。この真理は、キリストの弟子と称するすべての者によってひろめられなければならない。それはすべての水のほとりにまかれなければならない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九九年八月二二日

牧師は力強くて快い説教をし、また教会を築き、繁栄させるために多くの労力がそそがれるかもしれない。だが教会員のひとりびとりがイエス・キリストのしもべとしてその役割を果たすのであれば、教会はいつも暗黒のうちにあって、力がないであろう。世は困難で暗いが、ほんとうに矛盾のない模範の感化は善のための一つの力である。——教会へのあかし・第四巻・二八五、二八六ページ

### 重大なまちがい

救霊の働きが牧師にだけまかされていると考えるのは重大なまちがいである。ぶどう園の主から魂のための重荷を負わされているけんそんで、献身的な信者は、主からもっと大きな責任を置かれている人々から激励を受くべきである。神の教会の指導者として立っている人は、イエスのみ名を信ずるすべての者に救い主の任命が与えられていることを認むべきである。神は按手礼を受けた牧師ではない人々をたくさん主のぶとう園に送られる。——使徒の働き・一一〇ページ

牧師が全部の重荷を負い、すべての働きをしなくてはならないという考えは大きなまちがいである。彼は主が意図されたように重荷を分けあっていたら生きていられるものを、働き過ぎて体をこ

わし、墓にはいるかもしれないのである。重荷を分けあうためには、働き人が主に従ってその働かれた通りに働くように教えることができる人々が教会員を教育しなくてはならない。——教会へのあかし・第六巻・四三五ページ

牧師は全部ひとりでしゃべり、全部ひとりで働き全部ひとりで祈るのが自分の義務だと思つてはならない。彼はどの教会でも助手を教育しなければならない。別な人たちがかわるがわる集会を指導し、聖書研究を授けるようにしよう。そうすることによって彼らは神から与えられた才能を用い、同時に働き人として訓練を受けているのである。——福音宣伝者・一九七ページ

牧師は教会員のなすべき働きをすることによって自分自身を疲労させ、また他の人々が義務を果たすのを妨げてはならない。彼らは教会と社会において働くことを教会員に教えるべきである。

——ヒストリカル・スケッチズ・二九一ページ

われわれの信仰を未信者に紹介する努力がなされるときに、教会の会員はあたかも関係者ではないかのように手出しもしないで、全部の重荷を牧師に負わせていることがよくある。そのためにわが最も有能な牧師の骨折りも時として益をもたらさないことがある。——福音宣伝者・一九六ページ

## 牧師の責任

牧師が教会員に与えることのできる最上の助けは説教することではなくて、彼らのために働きを計画することである。各人に何かすることを与えなさい。キリストの恵みを与えられる者として、キ

## 7 牧師と信徒の協力

リストのために働く義務があることをすべての人にみとめさせなさい。そしてすべての人に働く方法を教えなさい。特に新しく信者になった人々が神と共に働く者となるように教育すべきである。

——教会へのあかし・第九巻・八二ページ

牧師がたよ、キリストを知らない人々のために個人的に働くようにしむけるような真理を説きなさい。あらゆる方法で個人伝道をするように奨励なさい。——教会へのあかし・第九巻・一二四ページ

教会員が霊的に成長するには主が彼らにお与えになっている重荷すなわち魂を真理にみちびく重荷を負わねばならないということを、牧師は教会員に教えよう。自分の責任を果たしていない人々を訪問し、共に祈り、彼らのために骨折らねばならない。教会員を牧師にたよらせてはならない。むしろ、彼らが周囲の人々に真理を伝えるのに自分のタラントを用いるように教えなさい。このように働くとき、彼らは天使の協力を受け、信仰を深める経験をし、神につよい信頼を持つようになる。——福音宣伝者・二〇〇ページ

すでに何人かの信者のいるところで働くときには牧師の最初の働きは、未信者の悔い改めよりもむしろ教会員が満足に協力してくれるように彼らを訓練することである。牧師は教会員ひとりびとりのために骨折り、彼らが自らいっそう深い経験を求め、他人のために働くように覚醒させるために努力しよう。教会員が祈りと働きによって牧師をささえる用意ができているときに、牧師の働きにはいっそう大きな成功がともなうのである。——福音宣伝者・一九六ページ

ある意味において牧師の立場は一群の労働者の監督や船の乗組員を指揮する船長の立場に似ている。彼らは自分の監督下にある人々が割り当てられた働きをまちがいに敏感にやるのを見とどけ、危急の場合にだけこまかいことを自分でやればよいのである。ある大きな工場の所有主が、ある時機現場の監督が何か簡単な修理をしていて、その部門の六人の従業員がそばに立ってぼんやり眺めているのを発見した。所有主は事実を調べて、何も不都合なことがなかったことを確かめてから、その監督を事務室に呼び、給料全額を支払って解雇を申し渡した。監督は驚いて説明を求めた。すると所有主は説明してこう言った「わたしは六人を働かせるために君を雇ったのだ。ところがその六人が何もしないで君が一人分だけの仕事をしているのを発見した。君のしていたことは六人の中のだれでもできるはずのことだった。君が六人になまけさせているのにわたしは七人分の賃金を払うわけにゆかない。」

このできごととは適用できる場合とそうでない場合がある。だが多くの牧師は教会員を教会の働きのいろいろな部門に活発に働かせる方法を知らないかあるいは働かせようとしなない。もし牧師が自分の群れを活発に働かせることにもっと留意したら、もっとよい働きができ、勉強と訪問伝道にもっと時間をかけられるようになり、また多くの摩擦の原因が避けられるのである。——福音宣伝者・一九七、一九八ページ

## よい模範

使徒パウロは自分の骨折りの結果悔い改めた人々の霊的な幸福に非常な責任を感じた。パウロが



彼らに望んだことは、彼らがただひとりの真の神と、神がつかわれたイエス・キリストについての知識を増し加えるようにということだった。彼は伝道中しばしばイエスを愛している男女の小さな群れと会い彼らと共にひざまずいて祈り、神が彼らに神との生ける関係を維持する方法を教えたもうように請い求めた。しばしば彼は福音の真理の光を他の人々に伝える最善の方法について彼らと相談した。そして自分がこのように骨折った人々から離れたとき、彼は神が彼らを悪から守り、彼らを熱心で活発な伝道者とならせたもうように神に祈った。——使徒の働き・二六二ページ

## 第八章

# クリスチャン勢力の組織

### 組織が必要である

時は短いので、もっと大きな働きをなすために、われわれの勢力を組織しなければならない。

——教会へのあかし・第九巻・二七ページ

わたしは、誤ることのないお方から、クリスチャンの働きの基礎として小さな組を組織するように示された。——教会へのあかし・第七巻・二一、二二ページ

どの教会でも、その教会の付近で働くためによく組織された働き人の組をつくるがよい。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九一年九月二十九日

どの都市にも、よく組織され、訓練された働き人の軍団がなければならぬ。それも一つや二つでなく、幾十の軍団が働きに着手しなければならない。——世界総会会報一八九三年三七ページ

わが教会において、奉仕のために組を組織しよう。それぞれ異なった人たちが人をすなどる者として協力するようにしよう。彼らは世の墮落の中から魂を集めてキリストの愛という救いの純潔さのみちびくように努力しなければならない。——教会へのあかし・第七卷・二一ページ

地上におけるキリストの教会は伝道の目的をもって組織されたのであって、主は身分の高い者にも低い者にも富める者にも貧しい者にも真理のことを聞かせるように教会全体がその方法を工夫することを望んであられる。——教会へのあかし・第六卷・二九ページ

教会員数の多いところでは、教会員を小さな組にわけて、教会員のためばかりでなく未信者のために働かせなさい。真理を知っている者が一か所に二、三人しかいないならば、その人たちで働き人の組をつくりなさい。——教会へのあかし・第七卷・二二ページ

戦場における作戦を成功させるために訓練と秩序が必要であるならば、われわれの従事している戦いにおいてはそれ以上に訓練と秩序が必要である。というのは、われわれの到達すべき目的は戦場で敵対している軍勢が争っている目的よりもっと高貴だからである。われわれの従事している戦いには永遠の利害がかけられているのである。——教会へのあかし・第一卷・六四九ページ

神は秩序の神である。天に關係のあることはすべて完全な秩序のうちにある。天使たちの働きには服従と用意周到な訓練が目だっている。成功は秩序と調和のとれた行動にのみ伴う。神はご自分の働きにイスラエル時代におとらず今日も秩序と組織を要求される。神のために働いている者はみな不注意ででたらめなやり方でなく、賢明に働くべきである。神はご自分の働きに嘉納の印をおす

ことがおできになるように、その働きが忠実に正確になされることを望んでおられる。——創世時代と父祖の生活・三七六ページ

教会員がどのようにして光を他人に与えるかを理解し、そうすることによって自分自身の信仰を深め知識を増すために、よく組織された働きが教会でなされなければならない。彼らは、神から受けたものを与えるときに、その信仰に堅く立つようになる。働いている教会は生きている教会である。われわれは生きた石として立てられているのであって、どの石も光を放たねばならない。どのクリスチャンも、神の栄光を受けてそれを反射する宝石にたとえられている。——教会へのあかし・第六卷・四三五ページ

### 完全な組織の教訓

神は、われわれが、モーセの時代にイスラエルの子らのために定められた完全な秩序から秩序と組織についての教訓を学ぶように計画しておられる。——教会へのあかし・第一卷・六五三ページ

### 教会組織の第一歩

キリストが去られてから地上におけるみわざを進めるために教会組織の第一歩がふみ出されたのは、十二弟子の任命の時であつた。——使徒の働き・一八ページ

### 教会組織のモデル

エルサレムの教会の組織は、真理の使者が改心者を福音にみちびくべき他のあらゆる場所における教会の組織のモデルとなるべきであった。……のちに初代教会の歴史において、世界の各地で信者の群れが教会に組織されたとき、秩序と調和のある行動が維持されるように教会組織がいっそう完全なものとされた。教会員は各々その役割を果たすようにすすめられた。各人は自分に委託されたタラントを賢明に用いるべきであった。——使徒の働き・九一、九二ページ

### 各自の立場にふさわしく

悔い改めて信者の群れに加わる者は各々義務の立場をわりあてられるべきである。各人はこの戦いにおいて自ら進んで何かの役に立たねばならない。——教会へのあかし・第七巻・三〇ページ

神が求めておられるのは多数の機関、大きな建物あるいは大きなみせものではなくて、特殊な民すなわち神に選ばれたとうとい民の一致した行動である。各人はそれぞれの身分と立場において、神のみたまに一致して考え、話し、行動すべきである。その時、そうなってはじめて、完全で、すべてに均整のとれた働きが行なわれるようになる。——教会へのあかし・第六巻・二九三ページ

軍隊の力は主として兵隊の能力ではかられる。賢明な將軍は兵隊のひとりびとりが活動的に勤務するようにその訓練を士官たちに指示する。彼は全部の者の最高の能力を啓発することにつとめる。もし彼が士官だけにたよれば、作戦を成功させることは期待できない。彼は軍隊内のひとりびとりの忠実なうむことのない勤務をあてにする。責任は主として兵隊にかかっているのである。——教

会へのあかし・第九卷・一一六ページ

主は福音の働き人を求めておられる。だれが応ずるであろうか。軍隊にはいる者の全部が將軍、大將、軍曹あるいは伍長になるわけではない。全部の者が指揮官としての苦勞や責任をになうわけではない。しなくてはならない他の種類の困難な仕事がある。ざんごうを掘って防備を固めなければならぬ者もあれば、歩哨として立たねばならない者もあり、命令を傳達しなければならぬ者もある。軍隊の隊伍をつくるには士官は少数で足りるが兵隊が多くいなければならない。それにしてもその成功は兵士のひとりびとりの忠実さにかかっている。一人の人間のおくびようや裏切りによって全軍に災害が及ぶかもしれないのである。——福音宣伝者・八四、八五ページ

## 成功の秘訣

神のみわざにおける成功の秘訣はわが民が一致して働くことにある。力を集中して活動しなければならぬ。キリストの体の各部は、神から与えられた才能に応じて、神のみわざにおける自分の立場を果たさねばならない。われわれは肩と肩を組み、心と心を合わせて障害と困難にぶつからねばならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九〇年一月二日

もしクリスチャンが一つの目的を達成するために一つの力なる聖霊のみちびきの下に一致して行動し一つとなって前進するならば、彼らは世界を動かすであろう。——教会へのあかし・第九卷・

二二一ページ

天使たちは一致して働く。完全な秩序が彼らのすべての行動の特徴である。われわれが天使軍の一致と秩序をもっと綿密にまねるとき、われわれのためになされるこれらの天使たちの努力はいつも成功する。もしわれわれが調和的な行動の必要を認めず、われわれの行動が無秩序で訓練も組織もないならば、用意周到に組織され完全な秩序をもって行動する天使たちはわれわれのために効果的に働くことができない。彼らは混乱や騒乱や無秩序を祝福する権限がないので、悲しみながら立ち去る。天の使者たちの協力を望む者はみな彼らと一致して働かねばならない。天から聖霊の油をいただいている者たちは、彼らのすべての努力において秩序と訓練と行動の一致を奨励する。その時神の天使たちは彼らと協力することができる。一方、これらの天の使者たちは決して、不規則、無計画、無秩序を是認することができない。——教会へのあかし・第一巻・六四九、六五〇ページ

### 時にかなった警告

組織的に働く必要がある。しかしあなたがたのうちの有人々が働きのために工夫したり、計画したり準備したりするのに手間どっている間に、サタンは魅惑的な欺瞞で勢力を占め、人々の注意は大詐欺師の欺瞞に集中されるようになる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

用意周到な組織が必要で、この組織がにせものの使命者を防ぎ神のみことばに裏づけられていない主張を論破するのに最大の力となるときにあたって、サタンはこの働きの組織を破壊することに成功するならば、どんなによろこぶことだろう。われわれは賢明にして注意深い骨折りによって築

かれた組織と秩序の体系が破壊されることがないようにまっすぐな道を進まねばならない。この時代に働きを支配しようと望む無秩序な分子を承認してはならない。——福音宣伝者・四八七ページ



## 第九章

### 覚

### 醒

#### 召 集

福音の使命をわが教会に高らかにひびかせ、彼らを世界的な働きに召集しよう。教会員は、彼らの見えない、天の同盟軍から、尽きることのない知識の源から、彼らが従事する計画の偉大さから、また、彼らの指導者なる神のみ力から熱意を得て、信仰を深めよう。自ら神に従い、導きと指導を仰ぐ人々は神が起こるとお定めになったさまざまなできごとの着実な足音を聞くであろう。世の人の生命のためにご自分のいのちをお与えになったお方の霊に励まされ、彼らはもはや、自分たちのできないことをさし示して無力に立ちつくすことはない。彼らは天の武具をまとい、自発的に戦争に出て行き、全能の神が必要を満たしたもうことを知って、神のためには危険をいとわない。

——教会へのあかし・第七卷・一四ページ

われわれは覚醒しよう。戦いがかわされている。真理と誤謬は、その最後の闘争に近づいている。われわれはインマヌエル王子の血潮に染ったみ旗のもとに行進し、信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠の名誉を獲得しよう。真理はやがて勝利し、われわれを愛してくださったお方を通してわれわれはいよいよ勝利者になれるからである。恩恵期の貴重な時間の終わりは迫っている。われわれは、天父をあがめ、キリストが犠牲となられた人々の救いの力となることができるよう、永遠のいのちを得るために着実な働きをなそう。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

## 行 進 命 令

かつてウェリントン公爵は、クリスチャンたちが異教徒たちの中で伝道集会を開く場合、成功の可能性があるかを論議していた会に出席した。彼らは公爵に、そのような伝道集会が出費に比較して成功しそうかどうか公爵の意見を聞かせてほしいと言った。その老將軍はこう答えた。「皆さん、あなたがたの行進命令は何ですか。成功は、あなたがたが論議する問題ではありません。あなたがたの命令を正しく読むと、『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ』と書かれてあります。皆さん、あなたがたの行進命令に従いなさい」と。——福音宣伝者・一一五ページ

## 猶 予 は な い

「主の大いなる日は近い、近づいて、すみやかに来る」(ゼパニヤ書一ノ一四)。われわれは福音の

靴をはき、通知のあり次第、行進の用意ができていようようにしよう。——教会へのあかし・第九巻・四八ページ

教会員は……主のご命令に従って、いつでも行動に移る用意ができていなければならない。すぐにもなさるべき仕事を見つけたらいつでも、われわれはそれを取り上げ、絶えずイエスを仰ぎ見つそれを行なわねばならない。……教会員がみな活気に満ちた伝道者であれば、福音はあらゆる国、国民、民族、国語にすみやかに宣べ伝えられるであらう。——教会へのあかし・第九巻・三二ページ

われわれはこの地上歴史の終わりに近づいている。われわれの前には偉大な仕事、すなわち罪深い世界に最後の警告の使命を与えるという終結の仕事が控えている。農業から、ぶどう園から、その他さまざまな職業から召され、そして、世界にこの使命を与えるために主からつかわれる人々がいる。——教会へのあかし・第七巻・二七〇ページ

地にあまねく警報をひびかせなさい。主の日が近く、非常に急いでやってくることを人々に告げなさい。警告を聞きもらす者が一人もないようにしよう。われわれは、誤りを犯している哀れな人々の代わりになっていたかもしれない。あるいは、未開人たちの中に混じっていたかもしれない。われわれは、他人より以上に受けた真理によって、それと同じだけを彼らに教える義務がある。

——教会へのあかし・第六巻・二二ページ

わが兄弟姉妹がたよ、時間と力を自分のことに当てるには遅すぎる。終わりの時になってあなた

が、天の宝のない有様となっていないようにしよう。十字架の勝利を追い求めるように努め、人々を教化するように努め、同胞の救いのために働きなさい。そうすれば、あなたの働きは、苦しい火の試練に堪えるであろう。——教会へのあかし・第九巻・五六ページ

われわれは、規則に規則、教訓に教訓と、この使命をすみやかに伝えねばならない。人々はやがていや応なしに大いなる決心をしなければならなくなる。そして、彼らが真理を知る機会を持ち、賢明に正しい側に立つことができるよう気をつけることが、われわれの役目である。主はその民に働くように、恩恵期の続いている間に、熱心に、賢く働くようにと命じておられる。——教会へのあかし・第九巻・一二六、一二七ページ

われわれに浪費する時はない。終わりは近づいている。真理を宣べ伝えるために所々方々に通じる道はやがて右も左も危険になるであろう。彼らの道を妨げるためにあらゆるものが置かれ、その結果主の使者たちにとって今でできることがなくなるようになる。われわれは真正面から公平にわれわれの仕事に直面して、攻撃的戦いにできるだけすみやかに進まねばならない。神から与えられた光によりわたしは、暗黒の権力が下から猛烈な勢いで働いており、サタンが獲物を捕えるおおかみのように、今眠っている人々を捕えようと、忍び足で進んでいることを知っている。われわれには今、与えることのできる警告と、なすことのできる仕事がある。しかしやがてそれは、われわれの想像以上に困難になるであろう。神がわれわれを常に光の道の中におき、われらの指導者であるイエスに目を向けながら働かせ、忍耐し、しんぼう強く勝利を得るためにまい進させてくだ

さるよう祈るものである。——教会へのあかし・第六卷・二二ページ

遅らせることには危険がある。あなたが見つけたかもしれないその人、あなたが聖書を開いたかもしれないその人は、あなたの及ばない所を通っている。サタンはその人の足にかけるわなを用意しているので明日は神の大敵サタンの計画を実施するかもしれない。なぜ一日遅らせるのか。なぜすぐ働きに出ないのか。——教会へのあかし・第六卷・四四三ページ

どの時代にあっても、キリストに従う者たちには警戒と忠実が要求されてきた。しかしわれわれは、真理を把握し、大いなる光と、重大な仕事を持ってまさに永遠の世界の境に立っているのであるから、われわれの熱意を倍加しなければならない。すべての者が能力の及ぶ限りを尽くさねばならない。兄弟よ、あなたは今、しりごみするならば、あなたの救いを危くする。神は、あなたが神からゆだねられた仕事を怠れば、あなたに責任を問われるであろう。——教会へのあかし・第五卷・四六〇、四六一ページ

### 重 大 な 質 問

永遠はわれわれの前に広がっている。幕は今にも引き上げられようとしている。われわれの周囲で人々が滅びようとしている時に、利己的な安楽に執着するとは、われわれは何を考えているのであろうか。

われわれの心は全く無感覚になってしまったのだろうか。

われわれは、他人のためになす働きがあることを知り、また理解することができないのだろうか。兄弟姉妹がたよ、あなたがたは目を持ちながら見ず、耳を持ちながら聞かない人々の中にいるのだろうか。

神があなたがたにみこころの知識をお与えになったのはむだであろうか。

神が終わりの近いという警告をあなたがたに次々にお送りになったのはむだであろうか。

この世にのぞもうとしていることについて宣言されたみことばをあなたがたは信じるか。

神のさばきが地上の住民に下ることをあなたがたは信じるか。

それならなぜ、安易な気持ちで、不注意に、無関心にすわっていることができようか。――教会

へのあかし・第九巻・二六、二七ページ

### 目ざめよとの召し

みわざはすみやかに終結しようとしている。そして、至る所で不法がはびこっている。われわれには働く時がわずかしかない。われわれは霊的眠りから目ざめ、われわれの持っているもの、われわれ自身のすべてを、主にささげよう。聖霊は真の伝道者と共に住み、奉仕に必要な力を与えるであらう。――サザン・ウォッチマン・一九〇三年四月九日

目ざめよ、兄弟姉妹がたよ、目ざめよ。もはや眠ってはならない。「なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか」とイエスはあなたをお呼びになり、「きょう、ぶどう園へ行って働いて

くれ」とお命じになっておられる。聖霊を受けた者はだれでもそれを明示する。彼はすべての力を最も活動的な奉仕に用いるからである。信仰によって実際にキリストを受け入れる者はみな働く。彼らは人々に責任を感じる。神は今、真理の知識を持っている者、聖なる真理の受託者にことごとく、起きて、他の人々に天の光を伝えよと命じておられる。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一二月六日

目ざめよ、兄弟がたよ。あなた自身のために、目ざめよ。キリストのみめぐみなくして、あなたは何もすることができない。できるうちに働きなさい。——サザン・ウォッチマン・一九〇六年七月一七日

もしわれわれの目が、安心して自分は心配ないと思っている人々に働きかけている墮落天使たちを見分けることができたら、われわれはそんなに安心していられないであろう。悪天使たちは常にわれわれの歩む路上にいるからである。——教会へのあかし・第一巻・三〇二ページ

神は、牧師にも信徒にも、すべての者に目ざめよと命じておられる。全天は活動している。地上歴史の場面はすみやかに終わろうとしている。われわれは終わりの時代の危険のさ中にいる。より大きな危険がわれわれの前にある。だが、それでも、われわれは目をさましていない。このように神のための活気と熱意に欠けていることは恐ろしいことである。この死んだような混迷状態はサタンから来ている。——教会へのあかし・第一巻・二六〇、二六一ページ

神の残りの民を目ざめさせるために、わたしは何と言ったらよいだろうか。恐るべき場面がわれ

われの前にあることをわたしは見せられた。サタンとその天使たちは、神の民に圧迫を加えようと全力をあげている。サタンは、神の民がもう少し長く眠っていれば、彼らを必ず手中に入れられるということを知っている。彼らの滅亡が確実だからである。——教会へのあかし・第一巻・二六三ページ

すべての者の運命がもう間もなく永遠に決定される。人の子らのための恩恵期の最後の時にあって天と地の主はその教会に、これまでにない活動に奮起するようにと期待しておられる。とうとい真理の知識を通し、キリストにあって自由を得た人々は、主イエスに選ばれた者とみなされ、地上の他のどんな人々より恵みを受ける。そして、暗黒から不思議な光に彼らを呼び出したもうた主に賛美を示すよう主は彼らに期待しておられる。そのように惜しみなく授けられた祝福を他の人々にも伝えねばならない。救いのよきおとずれは、あらゆる国民、部族、国語、民族に伝えられねばならない。——預言者と王たち・七一六、七一七ページ

われわれの中の百人中の一人として、一般の世的な仕事でない事に携わっている者がいない。われわれはキリストが犠牲となられた人々の価値を半分もさとしていない。——教会へのあかし・第八巻・一四八ページ

もし、キリストに従う者がみな、自分の義務にめざめるならば、今日ただ一人いるところに数千の者がいて、異邦の地に福音を宣べ伝えていることでしょう。また、直接、個人的にみわざに従事できない人は、資金によってまたは同情や祈りによって、それをささえることができます。キリス



ト教国にあつても、もっと熱心な努力があつてよいはずであります。——キリストへの道・一〇三ページ

幾千もの人々が偉大な光と、とうとい機会を与えられていながら、彼らの受けた感化やお金を他の人々を啓発することに活用していない。彼らは、教会の負担にならないように、神の愛の中に自らを保つ責任すら取らない。そのような者は天の重荷でありじゃまものとなるであろう。キリストのために、真理のために、彼ら自身のために、そのような者は立ち上がり、永遠のために熱心に働かねばならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年三月一日

キリストの教会は軍隊によくたとえられる。兵士の生活は骨の折れる、困難な、また危険なものである。四方には、決して居眠りをしたり、自分の持ち場を去らない、暗黒の権威の君に導かれていた油断のない敵がいる。クリスチャンが油断するといつてもこの強力な敵が突然に、激しく襲いかかってくる。教会員は活動的に油断なく見張っていなければ彼らの策略に打ち負かされる。

軍隊の半数の兵士が、勤務命令のでている時に怠けていたり、眠っていたらどうだろう。その結果は敗北か、捕虜か、死となるであろう。敵の手からのがれることができたとしても、彼らはほろびを受ける価値があると思われるだろうか。否、彼らは猶予なく死の宣告を受けるだろう。だからキリストの教会は不注意で、不忠実にしているとそれよりはるかに重大な結果に陥る。クリスチャン兵士の眠っている軍隊、これより恐ろしいことがあるだろうか。暗黒の王の支配下にある世に向かつてどれほど前進できようか。戦争の日に無関心に引き込んでいて、まるで興味がなく、戦いの

成行きに責任を感じない人々は彼らの方針を変えるか、ただちに軍隊を離れるがよい。——教会へのあかし・第五卷・三九四ページ

### 実行しなければならぬ

わたしは、神の民が、何か変化の起こることを、強制的な権力に支配されるのを待っていることを示された。しかし彼らはまちがっているのだから、あてがはずれるだろう。彼らは行動しなければならぬ。彼らはみわざを自分たちの手中に握り、自分たちでみわざについての真の知識を神に熱心に求めねばならぬ。われわれの前を過ぎ行く場面は、われわれを立ち上げらせるに十分重大なものであり、聞く者すべての心に切実に真理を訴えている。地上の収穫はほとんど熟している。

——教会へのあかし・第一卷・二六一ページ

宇宙のすべてのものは真理を知っている人々に、第三天使の使命の中で彼らに知らされているように真理の宣伝に全全霊をもって専心するようにと求めている。われわれが見たり、聞いたりする事はわれわれに義務を行なうようにと呼びかけている。悪魔のような人々の働きは、すべてのクリスチャンに彼の運命に立ち向かうよう呼びかけている。——教会へのあかし・第九卷・二五、二六ページ

キリストが間もなくこれられるというメッセージは地上のすべての国民に伝えられねばならない。敵の軍隊に打ち勝つために油断のない、たゆまぬ努力が必要である。われわれの本分は、じっと座

して、歎き悲しみに手をもみ絞ることではなく、立ちあがって今と永遠のために働くことである。

——サザン・ウォッチマン・一九〇二年五月二九日

「何かせよ。全力をつくして、それを直ぐにせよ。われわれが長く休めば、天使の翼は衰えてしまう。われわれが怠惰であれば、神はもはやあがめられたまわない。」——教会へのあかし・第五巻・三〇八ページ

だれも、手をこまねいて何もしないでいてもそれは自分の勝手であるなどと考えてはならない。怠惰と不活動であって人が救われることはあり得ないのである。キリストが地上でのご生涯でなさったいろいろのことを考えなさい。彼は、いかに熱心にたゆまぬ努力をお払いになったか。何物も、彼に与えられた働きから彼を離すことができなかった。私たちは彼のみ足跡に従って歩んでいるであらうか。——文書伝道・七六ページ

天と信徒たちは救霊事業に協力している。神はご自分の分を果たされた。だからクリスチャンは今、活動する必要がある。神はこれを求めておられる。神はその民がすべての国民に真理の光を与える役割を持つよう期待しておられる。主イエス・キリストと協力する者はだれだろうか。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年三月一日

教会が活発な教会となるためには、働く教会とならねばならない。罪や誤りの敵対する権力に対して単に自分の立場を守っているということでは満足したり、遅々たる前進にあまんじているのではなく、キリストのくびきを負い、途中で新兵を募りつつ指揮官であられるキリストと共に前進しつつ

けねばならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九一年八月四日

戦いを押し進める時は、わずかしかない。それからキリストは来られて、この反逆の場面は終結する。その時われわれは、キリストと共に働き、彼の王国を来たらせる最後の努力をなし終えていくはずである。戦闘の最前線に立って、熱心に悪の襲来を撃退しているある者は持ち場で倒れる。その他の者は倒れた勇士を残念そうに見つめるが、働きをやめる時間はない。彼らは隊を詰めて、死んで無力となった人の手から旗を取り、活気を盛り返して真理とキリストの名誉を維持しなければならぬ。かつてなかったような、抵抗が罪に対して、すなわち暗黒の権力に対してなされねばならない。現代の真理を信じる人々は、活気にあふれた、決然とした活動を要求されている時である。彼らは教訓と模範によって真理を教えねばならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八一年一〇月二五日

主は今、各地にいるセブンスデー・アドベンチストに、主に献身し、彼らの環境に応じて最善を尽くし、みわざに協力するようにと命じておられる。——教会へのあかし・第九卷・一三二ページ

怠惰と宗教と手を結ぶことはない。クリスチャン生活と経験における大いなる欠乏の原因は、神のみわざにおける怠惰にある。あなたのからだの筋肉は絶えず運動していなければ弱くなり、役に立たなくなる。ゆえに霊的性質においても同じである。じょうぶでいたいと思えば、あなたの力を訓練せねばならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

われわれは勤勉な働き人となるはずである。怠惰な者はみじめな者である。しかしキリストが完

成するためにご自分の命を与えたもうた大事業において怠惰に対し何という言いわけができれば。霊的能力は、用いられなければ、なくなってしまう。そして、それを滅ぼすことがサタンの計画である。全天は人々に、この世界にキリストが再臨されるための準備をさせる仕事に積極的に携わっており、「わたしたちは神の同労者である。」すべてのものの終わりは間近い。今こそ働く機会である。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月二四日

必要なのは良心的な伝道者である。断続的な努力は少しも良くない。われわれは注意を引かねばならない。われわれは心から熱心にならねばならない。——教会へのあかし・第九巻・四五ページ  
われわれの中には、ゆっくり考えれば、自分たちの何もしない立場を顧みて、自分は神から授けられている才能を活用しない罪深い者だと思ふ人々がいるであらう。——教会へのあかし・第六巻・四二五ページ

この世界におけるわれわれの地位は何であらうか。われわれは待っている時にいる。しかしこの期間を漠然と献身して過ごすというのであってはならない。目をさまし、見張り、油断なく働くことを共に行なわねばならない。われわれの生活は、世の中の事に奔走し、それを追い求めて、一人の敬神の念と神から要求されている奉仕を怠るものであってはならない。仕事をなまけてはならないと同時に、主に仕え、霊的熱心さがなければならぬ。魂のランプは芯を切っており、ランプの器にめぐみの油が入っていないければならない。霊的墮落を防ぐためにはあらゆる予防手段を用いねばならない。でなければ主の日は盗人のように襲ってくる。——教会へのあかし・第五巻・二七

六ページ

われわれは、靈的怠惰があつてはならない時代に住んでいる。すべての者は天のいのちの流れに満たされていなければならない。——教会へのあかし・第八卷・一六九ページ

この人生において、できるかぎりのよい仕事をやりなさい。——教会へのあかし・第五卷・四八八ページ

イエスは、イエスのみ名を信じる信仰のあかしを立てる者みんなを、熱心な働き人にさせられる。おのおの教会員が岩なるイエス・キリストの上に建てる必要がある。すべての者の靈的基礎を極力くじき試みる嵐が起こっている。だから、砂床を避け、岩を求めなさい。深く掘り、基礎を確立しなさい。築きなさい、ああ、永遠に築きなさい。涙を流し、心からの祈りをこめて築きなさい。これから後、あなたがたはめいめい、自分の生活をよい働きで美しく飾りなさい。この終わりの時代に最も必要な人々はカレブたちである。——教会へのあかし・第五卷・一二九、一三〇ページ

## 神のはかり

絶えず品性がはかられている。神の天使らは、あなたの道德的価値を評価し、あなたの必要を確かめあなたの事情を神に上申する。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八九年四月二日

わたしたちのできることから少しでも足りなければ、それに対する責任を負わなければならない。主は、わたしたちにどんな奉仕ができるかを正確にお計りになる。活用した能力と同様に、活用し

なかった能力も調べられる。わたしたちの才能を正しく用いたならば、到達し得たはずのことに対して、神はその責任を問われる。わたしたちは当然なし得たにもかかわらず、才能を神の栄えのために用いなかったために、なし得なかったことを、さばかれる。自分の魂を失わないまでも、用いなかった才能の結果がどんなものであるかを永遠にわたって知らされることであろう。なぜなら、得べきであって得なかったところのすべての知識と才能とは、永遠の損失となるからである。

——キリストの実物教訓・三三九、三四〇ページ

### こうなっていたはずの事

キリストのすべての兵士が各自の義務を果たしていたら、シオンの城壁にいるすべての見張人がラッパではっきりした音を出していたら、世界はこれより以前に警告のメッセージを聞いていたにちがいない。しかしみわざは何年も遅れている。人々が眠っている間にサタンはひそかにわれわれを出し抜いていた。——教会へのあかし・第九巻・二九ページ

われわれは任命されている仕事を今、とりあげて、人々に危険を感じさせるメッセージを宣伝しよう。すべてのセブンスデー・アドベンチストが各自に与えられている仕事を行っていたら、今日信者の数は現在よりはるかに多くなっていたであろう。アメリカのすべての都市には、神の律法に従えとの使命に心を向けるようになっていた人々がいるはずである。——教会へのあかし・第九

巻・二五ページ

あわれみのメッセージを世に与えるという神の御目的がその民らによって実行されていたら、これより以前にキリストは地上に來られたであろう。また聖徒は神の都で歓迎を受けていたであろう。——教会へのあかし・第六卷・四五〇ページ

## 天の記録

世界は伝道者を、献身した信徒伝道者を必要としている。そして、クリスチャンとして天の書に登録される者で、伝道精神を持っていない者は一人もない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九二年八月二三日

教会員が各自でこの仕事を手中に握っていないければ、彼らは神との活発な連絡がないことを示すことになる。彼らの名は、怠惰なしもべとして記録される。——教会へのあかし・第五卷・四六二、四六三ページ

どの宗教運動においても、その目的が神のためだということを否定できないにもかかわらず、援助する努力を拒んで遠ざかっている人々がいる。そのような人々は、天に保存されている記録すなわち、脱落も誤りもなく、それによってさばかれるあの書の事を思い出せばよい。神に奉仕すべき機会で無視していたものはことごとく記録される。そして、信仰と愛の行為はことごとく、永久に記録に留められる。——預言者と王・六三九ページ

一八七九年一〇月二三日の朝、二時ごろのこと、主の霊がわたしに臨み、わたしは來たるべきさ



ばきの光景を見た。……幾百千万もの人々が、威厳のある風格を備えたお方のすわっておられる大きなみ座の前に集められた。数冊の書がそのお方のみ前にあったが各表紙には燃える炎のように見える金文字で「天の書」と書かれてあった。真理を信じると主張する人々の名の書かれている、これらの書の一冊が、その時、開かれていた。突然わたしは、み座の周囲にいる無数の人々が見えなくなり、□では光と真理の子であるとなえていた者だけがわたしの注意を引いた。……

また別の書が開かれた。そこには、真理を公言する人々の罪が記録されていた。利己主義という表題のところにその他のすべての罪が記録されていた。……一部類は、地上でのやつかい者として記録されていた。裁判官であられる神の洞察なさる御目がこれらの人々に注がれると、彼らの怠惰の罪は明瞭に示された。彼らは、青ざめた顔で、くちびるを震わせ、自分たちが聖なるご信任に対する反逆者であることを認めた。彼らは警告と特権を受けていたにもかかわらず、それに耳を傾けず、それを活用しなかった。彼らは、神の恵みにつけ上がり過ぎていたことをやっと知ることができた。たしかに彼らは、墮落した者や、卑劣に汚れた者たちが言ったような事は言わなかったが、いちじくの木のように、実を結ばなかったために、彼らに委託されていたタラントを活用しなかったためにのろわれた。この部類は、利己的利益のためにのみ働き、**自己**を最高のものとした。彼らは、神のご要求に答えず、神に対して富まない者であった。キリストのしもべだと公言しながら、魂を神にみちびかなかった。もし神のみわざが彼らの努力にかかっていたら、みわざは衰えていたであろう。彼らは神から委託された資力をささげなかったばかりでなく、自分自身をもささげな

かったからである。……彼らは、他の人々に主のぶどう園で働かせ、重い責任を持たせておきながら、自分自身は利己的で一時的な利益をむさぼっていた。……

裁判官であられる神は「すべての者は信仰によって義とされ、行いによってさばかれる」と言われたゆえに彼らの怠慢は実にはつきり現われた。そしてすべての者に、みわざを推進させ、同胞を救うための仕事を与えたもうために神は実に賢明な準備をされた。各々は、貧しい者に親切にし、悩み苦しむ者に同情し、伝道の仕事に携わることにより、また、自分の資力を用いて神のみわざを援助することによって、自分の家族や隣人に生きた信仰を実行するはずであった。しかし、メロズのように、彼らが実行しなかった事のために、神のろいが彼らに注がれた。彼らは、この地上での生活に最大の利益となるような仕事を愛した。そして、よいわざを記録する帳面に書かれた彼らの名の反対側は、悲しい空白となっていた。——教会へのあかし・第四巻・三八四—三八六ページ

### 父祖たちより多く求められている

われわれの上には、父祖たちが受けたよりもっと大いなる光が輝いている。われわれは、父祖たちが行なったと同じ奉仕をしたり、同じ仕事をして、神に受け入れられ、名誉を与えられることはできない。父祖たちのように神に受け入れられ、祝福されるためには、彼らの忠実さと、熱意とをまねねばならない。すなわち、彼らが彼らの光を増進させたように、われわれの光を増進させ、彼らが今日生きていたら行なったであろうように行なうことである。われわれはわれわれを照らし

ている光の中を歩まねばならない。でなければ、その光は暗くなってしまう。——教会へのあかし  
・第一巻・二六二ページ

### 怠惰な教会への訴え

現在一人しかない所に、幾百人もの働き人がいないことが不思議である。全天は、神のむすこ、  
おすめだと公言する者たちの無感覚、冷淡、無関心さに驚いている。真理の中に生きた力がある。

——教会へのあかし・第九巻・四二ページ

わたしたちは、怠慢や無為であって救われることはできない。真に改心した人が、無力な役に立  
たない生活を送ることはないのである。慢然と天国に流れつくというようなことは、あり得ない。地  
上において神と協力しようとしないうちは、天国においても神と協力しないであろう。彼らを天国に  
連れて行くことは安全ではないであろう。——キリストの実物教訓・二五七ページ

全天は、教会の各会員が暗黒にいる人々を啓発するために何をしているか見ようと、教会を非常  
な興味をもって見ている。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九四年二月二七日

あなたがたは偉大な神と交渉を持っているのだという事を厳粛に考え、神が軽く扱えるような子  
供であられないことを常に心に銘記しているべきである。あなたは神への奉仕に気ままに携わり、  
随意に放り出すことはできない。——教会へのあかし・第二巻・二二一ページ

天使たちは人類と協力しようと待っていたが、われわれは彼らの居場所を見きわめることができ

なかった。——教会へのあかし・第六巻・二九七ページ

天使たちは、働き人を、すなわち、なすべき偉大な仕事に協力してくれる教会員を長い間待っていた。彼らはあなたを待っている。——教会へのあかし・第九巻・四六、四七ページ

多くの人々は、何もせず、責任を回避しながら神の日に近づいている。そしてその結果、宗教的な成長が妨げられている。神のための働きに関するかぎり、彼らの生涯を語るページは悲しい空白状態にある。彼らは神の園にある木であるが、実を生じない枝を広げて、実のなる木々が生長するはずの地上を暗くおおうやっかいものにすぎない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年五月二二日

キリストのためにわずかしかな奉仕しない者、あるいは何もしない者は危険である。神のみめぐみは、大いなる特権と機会を持ちながら沈黙を続けている者の魂に長く留まらない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九九年八月二二日

今眠る時間はない。無益にくよくよと悔んでいる時間はない。今、あえて眠っている者は、良い行ないをする貴重な機会を失うのである。われわれは大収穫の束を集める祝福された特権を授けられている。救われたすべての魂は、敬愛する救い主、イエスの冠に加えられる星となる。もう少し戦いを遂行すれば、新しい勝利を得て、永遠に戦利品を集められるはずの時に、しきりに武装を解きたがる者はだれか。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年一〇月二五日

天使たちは彼らの仕事をしているが、われわれは何をしているだろうか。兄弟姉妹がたよ、神は今の時をいかして用いるようにと命じておられる（エペソ五ノ一六参照）。神に近づきなさい。あ

あなたの内にある才能を発揮させなさい。われわれの信仰の条理に親しむ機会のあった人々には、今こそこの知識を効果的に用いさせよう。——ヒストリカル・スケッチズ・二八八ページ

「み国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」と主の祈りをくり返すあなたがたは、真理のたいまつを他の人々に運ぶ協力をせず、家に安閑としていられるだろうか。他人を助けようとせずに、どうして、神のみ前に手を上げて、神の祝福を求めることができようか。——ヒストリカル・スケッチズ・二八八ページ

よくよく考えてみれば、自分がいま何もしない状態にあることは、神から与えられた才能をないがしろにする罪を犯していることになる。とみとめる人々がわれわれの中にいる。兄弟姉妹がたよ、あなたがたの救い主とすべての聖天使たちは、あなたがたのかたくなな心を嘆いておられる。キリストは魂を救うためにご自分の命を与えられた。それにもかかわらず、あなたがたは、キリストの愛を知っていないがら、キリストが犠牲となられた人々にみ恵みの祝福を一向に伝えようとしない。そうした義務への無関心、怠慢が、天使たちにとっては驚異なのである。さばきの時に、あなたがたは、おろそかにした魂に会わねばならない。その大いなる日に、自ら有罪を認め、自責するであろう。どうか主があなたがたを今、悔い改めに導きたもうように。主がなすようにとその民らにお与えになったかどうかどう園での働きを怠ったことに対し、主が彼らをゆるしたもうように。——教会へのあかし・第六巻・四二五、四二六ページ

怠惰な教会員に、タラントを掘り出し、銀行に預ける必要を認識させるために何と言い得るか。

天の王国にはのらくら者や、怠惰な者はいない。どうか神がこの事の重大性を眠っている教会に明白に示したもうように。シオンは立ち上がり、美しい衣を着るように。また、どうかシオンが輝くように。——教会へのあかし・第六巻・四三四ページ

ちょうどあなた方が暗黒にいた時、あなた方のためになされたように、真理を知らない人々のためになされる仕事がある。眠ったり、何もせず怠惰になるには遅すぎる。家の主人であられる神はひとりびとりに仕事を与えておられる。後退するのではなく、前進しよう。われわれには日々新たな改心が必要である。われわれは、多くの魂を救う器となれるようわれわれの心に脈打つイエスの愛が必要である。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一〇日

主イエスは、神のむすこ、娘と主張するすべての者に、あらゆる不義から離れるばかりでなく、慈善、自制、けんそんの行為を豊かに行なわねばならないと要求しておられる。主は、われわれの仕事に関し、われわれに警告すべき精神と行動の確実な法則の働きを示しておられる。「持っている人は、持っていると思っっているものまでも、取り上げられるであろう」と主は言われる。与えられた機会を活用しない者、神から与えられたみ恵みを働かせない者は、そうしようとする傾向が薄らぎ、ついには、眠たげな無感覚状態になり、これまで所有していたものを失う。彼らは、試練や誘惑がやってきた時に立ち得るよう経験をひろめ、聖なる事に関する知識を深めて、未来の必要な時に備える準備をしていない。迫害や誘惑がやってくると、この種に属する人々は勇氣と信仰を失い、彼らの土台を確立させる必要がわからなかったために、その土台を一掃される。彼らは精神を

永遠の岩なるお方に集中させていなかった。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九四年三月二七日最後の大きいなる日に、われわれが親しく交っていた者たちと永遠に引き離されるのを見たり、身の者たち、あるいは自分の子供たちが救われないのを見たり、家に遊びに来て、食事を共にした人々が失われる者たちの中にいるのを見ることは、どんなにか恐ろしいことであろう。それでわれわれはこう自問する、彼らがキリストの宗教を嫌うようになったのは、わたしに忍耐がなく、わたしがキリストのような性質になれなかったためだろうか、自制心がなかったためだろうか。

世界は、間もなく主が来られるという警告を受けねばならない。われわれには働く時はわずしかない。まず神の王国と神の義を求めて、光を他の人々に放つことに活用されたはずの幾歳月が、すでに永遠に去ってしまった。神は今、大きい光を持ち、真理を確立している人々に授ける仕事をたくさん持ってあられて、これまでに彼らが行なわなかったのだから彼ら自身のために、また他の人々のために働くようにと彼らに命じておられる。すべての才能を活用せよ、すべての能力、ゆだねられたタラントを働かせよ。他人の役に立つようにと神から与えられているすべての光を用いよ。説教者になろうとするのではなく神に仕える者となりなさい。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年六月二〇日

### 力強い例証

神の愛は人類のためにはかり知ることのできないほど深く動かされたのに、これほど大きな愛を

受けている者たちに表面的な感謝しかないのを見て、天使たちは驚く。天使たちは、神の愛に対する人々の浅薄な認識に驚き、天は、魂に対する人々の無関心さに憤慨している。そのことについてキリストがどう思っておられるか知りたいだろうか。父母は、自分の子供が寒さと雪の中に行き暮れているのに、それを救えたはずの人たちからみすごしにされ、死ぬがままにほうっておかれたことを知ったらどう思うだろうか。彼らはひどく悲しみ、狂気のように憤慨しないだろうか。彼らはその涙のように熱く、その愛のようにはげしい怒りをもって、そうした殺人者たちを攻撃しないであろうか。ひとりびとりの人間の苦難は神の子の苦難であって、滅びつつある同胞に助けの手をさし出さない人々は神の正義の怒りをひき起こすのである。——各時代の希望・第三巻・三七四ページ

わたしは、ひとりの男がある冬の日、吹き寄せられた深い雪の中を旅をしていて、寒さに感覚を失いかけ、知らず知らずのうちに活力がほとんど奪われそうになったという話を讀んだ。そして彼は、寒気に包まれてこごえ死にそうになり、もう生きるための戦いをあきらめようとしていた。ちょうどその時に、彼と同じように凍死しかかっている別の旅人のうめき声を聞いた。彼はその人を助けたいというけんそんな気持ちになった。彼は雪だるまになっているその気の毒な人のからだをさすり続け、かなりたつて後その人を立たせた。彼は、その人が立つことができなかったので、自分ひとりでは行けないと思っていたその雪の中を、親切にその人をだきかかえていった。そして、彼は、仲間の旅人を安全な場所にまで運んだその瞬間に、隣人を救ったことで自分をも救ったのだという事実気づいた。もう一人を救いたいという彼の熱心な努力が、彼自身の血管の中で凍りか



けていた血液を生気づけ、手の先まで健康的な暖かみを生み出した。若い信者がクリスチャン経験において、同様の結果を認められるように、説教ばかりでなく模範によって、絶えず彼らにこれらの教訓を力説しなければならない。――教会へのあかし・第四巻・三一九、三二〇ページ

あなたは自分の殻に閉じこもり、自分が真理の知識を受けて祝福されているからといって、それで満足してはならない。だれが真理をあなたに伝えたか。だれが神のみ言葉の光をあなたに示したか。神は光をますの下におくためにお与えになったのではない。わたくしは、ジョン・フランクリン卿を探しに派遣された派遣隊について読んだことがある。勇者たちは家を去り、不自由と飢えと寒さと疲労に苦しみつつ、北海のあたりをさ迷った。いったいそれは何のためにであつたか。それはただ、この派遣隊の死体を発見することになるか、できれば、おりよく救援隊が彼らに到着しないかぎり必然的に彼らに襲いかかる恐ろしい死からその隊の幾人かを救い出すということになるにすぎなかった。彼らはひとりの人間さえ救うことができれば、彼らの苦しみはりっぱに償われると考えたのである。これは彼らのすべての慰みと幸福を犠牲にして行なわれた。

これを考えてみよ、そして、われわれの周囲にとうとい魂の救いのためにわれわれが自発的犠牲をいかにわずかしか払っていないかを考えよ。われわれは、ひとりの死にかかった人間を救うために家を離れて、長い、たいくつな旅に出ることをしいられているのではない。われわれのいる屋根の下に、周囲に、四方八方に救われるはずの魂が、滅び行く魂――希望がなく、神もなく死んで行く男女がいる。それでもなお、われわれは、たとえば言葉では「わたしが弟の番人でしょうか」と

言わないにしても、行動でこう言っており、無関心である。他人を救おうとして命をおとした人々は、英雄とか殉教者として世人に称賛される。未来に永遠の命を期待できるわれわれは、人々の魂の救いのために神から求められている小さな犠牲を払わずにいれば、どう感じなければならぬか。

——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年八月一四日

ニュー・イングランドのある町で井戸を掘っていた。仕事が完成近くなった時、まだ一人の人夫が底にいた時に土が中に落ち込み、その人が生き埋めにされた。すぐさま警報が発せられ、機械工、農夫、商人、弁護士たちが息せききって救出にかけつけた。縄、はしご、鋤、シャベルが救出に一心をこめる人々により運び込まれた。「彼を救え、彼を救え」というのがその叫びであった。

人々は、額から玉のような汗が出て、力仕事のために両腕が震えてくるまで、死にもの狂いで働いた。やっとパイプが投げ下され、彼らはその人にまだ生きているか答えるようにとパイプを通じて叫んだ。「生きているが早くしてくれ。ここはひどい所だ」という返事があった。彼らは歓声をあげ、救出作業に更に活気が出た。ついに彼のところに救いの手が届き救われた。どっとあがった喝采は、全天をとどろかすばかりであった。「彼は救われた」この言葉が町中に伝えられた。

ひとりの人間を救うためには、これは熱意と興味が多過ぎただろうか。熱中し過ぎただろうか。もちろんそうではないが、魂の損失に比較すると、一時的なこの世の生命の損失はどうであろうか。一個の生命が失われるというおそれが人間の心にそれほど激しく起こるならば、キリストを離れる人々の危険を認識していると主張する人々の心に、魂の損失に対するもっと深い憂慮が起こるべき

ではないだろうか。神のしもべたちは、井戸に埋まった人の生命を救うために示されたと同じ熱意を魂の救済のために示すべきではないだろうか。——福音宣伝者・三一、三二ページ

## 告白対表現

心に重要な真理を受け入れたら、それを生活に表わさねばならない。人々がキリストの愛の力を他の人々に宣伝したいと望む度合は、その愛を受け入れる度合に比例している。そして、それを宣べ伝える行為そのものにより、彼ら自身の魂にその愛の価値が深められ、強められる。——レビュ  
ー・アンド・ヘラルド・一八八九年二月一九日

われわれの信仰は良い働きをたくさん生じねばならない。働きのない信仰は死んだものだからである。——教会へのあかし・第四巻・一四五ページ

福音の使命を心に受け入れたものは、みな、その使命を他の人びとに宣べ伝えたいと願うものである。天から与えられたキリストの愛は、どうしても表わさなければならぬ。——キリストの実物教訓・一〇三ページ

わたしたちは実質的な奉仕をして——み名の栄光を増すためにできるかぎりのことをして——神をたたえるべきである。——キリストの実物教訓・二七九ページ

現時代におけるわれわれの信仰は、第三天使の使命論に同意するとか、それを信じるだけに止まっているとはいけない。われわれは、ランプの火を燃やし続け、暗黒にいる人々に道を示し、前方を

照らして生活の光となるようなキリストのめぐみの油を持たねばならない。——教会へのあかし・第九巻・一五五ページ

あなたの霊的力と祝福は、あなたが実行する愛の働きと良い仕事に比例する。——教会へのあかし・第三巻・五二六ページ

真理の光を持っている者みんなが信仰を実行していれば、キリストのためにより多くの事がなされるはずである。——教会へのあかし・第九巻・四〇ページ

わたしは、われわれが一つの民として不完全であることを示された。われわれの働きはその信仰と一致していない。われわれの信仰は、われわれがかつて人類に与えられたことのないほどの厳粛な、重大な使命の宣言下に生活していることをあかししている。しかし、この事実を直視するとき、われわれの努力や、熱意や犠牲的精神はみわざの特性とくらべものにならない。われわれは死から目ざめねばならない。そうすればキリストがわれわれにいのちを与えてくださる。——教会へのあかし・第二巻・一一四ページ

信仰をもって出て行き、心から信じているように真理を宣伝しなさい。あなたが働きかける人々に、それがあなたにとって、ほんとうに生きた現実のものだということをつわかせなさい。——教会へのあかし・第九巻・四二ページ

キリストのような生活は、キリスト教を支持して提出し得る最も有力な論証である。——教会へのあかし・第九巻・二一ページ

キリストのみ名を信じると告白している者で、心はみわざに携わっていない者が多くいる。彼らは単に信仰の告白で身を装っているだけである。そしてこの行為によってかえって彼らが受ける非難を高めいっそう欺瞞的になり、魂の滅亡に効果的なサタンのてだてになっているのである。

——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月二七日

主を待ち望んでいる者たちは真理に従うことによって自らの魂をきよめる。彼らは油断のない警戒に熱心な働きを結合する。彼らは、主が戸口におられることを知っているので、魂の救いのために天使たちと協力して働くように熱意をよび起こされる。こういう人たちが主の家族に、「時に応じて定めのある食事をそなえさせる忠実な思慮深い」しもべたちである（ルカ二二ノ四二）。彼らはいま特にあてはまる真理を宣べ伝えている。エノク、ノア、アブラハム、モーセがそれぞれの時代のために真理を宣べ伝えたように、キリストのしもべたちはいまこの世代に対する特別の警告を与えているのである。——各時代の希望・第三巻・一〇三ページ

神の前におけるわれわれの立場は、われわれが受けた光の量によってきまるのではなくて、われわれが持っているものをどう用いるかによってきまるのである。だからたとえ異教徒であっても、みとめることができるかぎり正しいことをえらぶとき、彼らは、大きな光を与えられて、神に仕えると公言しながらその光を軽視し、その日常生活が告白と矛盾しているような人たちよりも、好ましい状態にあるのである。——各時代の希望・第三巻・二九五、二九六ページ

主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチャ

ンの特権である（ペテロ第二・三ノ一二文語訳参照）。キリストの名をとねえるすべての者が、神のみ栄えのために実を結ぶなら、福音の種は、どんなにすみやかに、全世界にまかれることである。世界の最後の大収穫は、急速に熟すであろう。そして、この尊い実を集めるために、キリストはおいでになるのである。——キリストの実物教訓・四七ページ

クリスチャンは目ざめ、怠っている義務を始めねばならない。自分の魂の救いは、彼らの個人的な努力いかんによるからである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年八月二三日

真の礼拝はキリストと共に働く事にある。祈りと勧めと話は、しばしば結びつけられる安い実である。しかし良い働きや、困っている人、父のない子、やもめなどの世話をする事に表わされる実とはほんとうの実であって、当然良い木にみのるものである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年八月一六日

各教会員は、光を受けるばかりでなくまき散らすという定められた仕事に従事しよう。主のぶどう園で怠けることは一人も許されない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八九年二月一九日

**実行の原則**は、キリストがわれわれに結ぶようにと求めておられる実である。すなわち慈善の行為とか、親切な言葉を語ったり、貧しい者や困っている者や苦しんでいる者にやさしい心づかいを示すことなどである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年八月一六日

ヤコブの井戸でイエスとお話をしたサマリヤの女は、救い主を見いだすやいなや、他の人々をキリストの所へつれてきた。彼女はキリスト自身の弟子たちよりも有力な伝道者であることを証明し

た。弟子たちは、サマリヤにはこれが有望な伝道地であるという何のしるしも見なかった。弟子たちは、未来にしなければならぬ大きな働きのことばかり考えていた。そして自分のすぐまわりに刈り入れなければならない収穫があるのを見なかった。しかし弟子たちが軽べつした婦人によって、町中の人たちがイエスの話をきくようになった。彼女は、ただちにその光を自分の国びとに伝えたのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七三ページ

セブンスデー・アドベンチストは、教会員を倍にふやしたり、伝道部会を建てたり、地上の暗黒の場所に、真理のみ旗をひるがえすことに進歩しつつある。だがみわざは、神が望まれるより、遙かに遅々として進んでいない。（なぜだろうか。）教会員各自が目ざめて、なし得るかぎりの熱心な努力を払おうとせず、みわざの各分野は、燃えるような敬神と、献身した、けんそんで神をおそれる働き人に欠けているためにかたわになっっている。キリストの十字架の兵士たちはどこにいるのか。神の栄光を着実に待ち望む神をおそれる者、正直な者、純真な者は、誤りに立ち向かう戦いのために備えよう。この霊的戦いの時にありながら、活気のないおくびよう者がたくさんいる。どうか彼らがその弱さから強められ、おおしく戦い、異教徒軍を壊走させることができるように。

——ヒストリカル・スケッチズ・二九〇ページ

神から与えられた能力を拒んで用いないと、いつでも、それらの能力が衰えて、滅びるという事は、普遍的な原則である。実践されていない分ち与えられていない真理は、その生命を与える力、そのいやしの力を失う。——使徒たちの働き・二〇六ページ

あなたが愛すると公言するみわざを束縛するのでなく、これを進めるために働くことほど、あなたの敬けん、心の骨となり筋肉となるものはない。——教会へのあかし・第四巻・二三六ページ

恵みによって与えられる祝福を受動的に受け、キリストのためなにもしないでいながら、クリスチャンのいのちを保とうと努力している人は、働かないでただ食べてばかりいて生きようとしているのと同じであります。自然界と同じように霊界でもこれではおとろえてしまうよりほかありません。——キリストへの道・一〇二ページ

### 伝道活動に伴う危険

活動が活発になり、成就されるべきみわざが効果的に行なわれるようになればなるほど、人間の計画や方法に頼る危険が多くなるということを忘れないようにしよう。ますます祈らなくなり、信仰を持たなくなる傾向が出てくる。われわれはやがて、働きを成就させることがおできになる唯一のお方、神に頼る気持ちを失う恐れがやってくる。しかし、たとえ、この傾向にあるとはいっても、人間がこれ以下の仕事をしていればよいと考えてはならない。否、これ以下の仕事をするのではなく、天来の賜物、聖霊を受け入れて、これ以上に働かねばならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年七月四日

教会が神のみ力によって奮起する時が来る。その結果、熱心な活動が行なわれるであろう。聖霊のいのちを与える力が、出て行って、キリストに魂を導くようにと教会員を励ますからである。し



かし、この活動が示される時、最も熱心な働き人は、絶えず、熱心に祈りつつ神に頼らなければ安全にいられないであろう。彼らは、キリストのみ恵みを通して、彼らの働きを誇ったり、彼らの活動を救済者に仕立てたりすることから救われるように、熱心な祈禱をささげる必要がある。彼らは、みわざを進めるものはイエスのみ力であることを認識できるように、絶えずイエスに頼らねばならない。こうしてこそ彼らはすべての栄光を神に帰することができる。われわれは、神のみわざを進展させるために最も断固たる努力をするよう要求される。そのためには天父に祈ることが最も重要になる。密室において、また、家庭や教会において祈ることが必要となる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年七月四日

ラビたちの意見によれば、宗教の本質はいつも忙しく活動していることにあるのであった。彼らは、人よりもすぐれた自分たちの信仰を示すために、何か外見的な業績にたよった。こうして彼らは自らの魂を神から引き離し、自己満足のうちに自己を築きあげた。同じ危険が今も存在している。人々は、活動が増し、神のためのどんな働きにも成功するようになる、人間的な計画や方法にたよる危険がある。祈りが少なくなり、信仰がうすくなりがちである。弟子たちと同じように、われわれは、神によりたのむことを忘れて、自分の活動を救い主にしようとする危険がある。われわれは、たえずイエスをながめて、働きをなすのはキリストの力であることをみとめる必要がある。われわれは、失われた者の救いのために熱心に働く一方では、瞑想と祈りと神のみことばの研究に時間をとらねばならない。多くの祈りによってなしとげられ、キリストの功績によってきよめられ

た働きだけが、善に対して力のあるものであったことが最後にわかるであろう。——各時代の希望  
・第二巻・九九、一〇〇ページ

### クリスチャンの奉仕を始める者への奨励

最も成果をあげる労苦者は、小さな事で神への奉仕に快活に携わる人々である。すべての人間は生涯の糸を用いて織り物を織り上げ、模様を完成するよう働かねばならない。——教会へのあかし  
・第六巻・一一五ページ

われわれは日常の義務を献身の行為とし、絶えず役立つものに向上させねばならない。なぜなら永遠の光の中にわれわれの働きを見るからである。——教会へのあかし・第九巻・一五〇ページ  
主はその偉大なご計画の中に一人びとりの役目を備えておられる。必要でないタラントは授けられない。——教会へのあかし・第九巻・三七ページ

すべての者は、天の永遠の計画の中に自分の占めるべき場所があるのである。だれでも、魂を救うために、キリストと協力して働かなければならない。天の住居の中に、わたしたちの場所が確実に用意されているのと同じように、わたしたちがこの地上で神のために働くべき場所が、定められているのである。——キリストの実物教訓・三〇一ページ

主はその民一人びとりに目をつけておられ、その一人びとりに関するご計画を持っておられる。

——教会へのあかし・第六巻・一二ページ

すべての者はみわざにおいて何かをすることができる。救霊のために熱心に、無我の気持ちで働いてきた者でなければ、神のみ前に無罪であると宣言されない。——教会へのあかし・第五卷・三九五ページ

あなたの義務を他人に転嫁することはできない。あなたの仕事をできる者はあなた以外にない。もしあなたがあなたの光を与えずに控えておけば、その怠慢のためにだれかが暗黒に残されねばならない。——教会へのあかし・第五卷・四六四ページ

神の召しに従順に応じるならば、どのような卑しい働き人にも、必ず神からの援助が約束されている。このように大きなきよい責任を受けいれること自身が品性を高める。それは、知的、霊的能力を最高に活動させることを要求し、心と思いとを清めるのである。神の力を信じることによって、弱いものがどんなに強くなって不屈の努力を続け、大きな成果を生むようになるかは、驚くばかりである。たとえば、知識はわずかしなくても、その少しの知識をへりくだった気持ちで人びとに伝えるものは、全天の宝庫が彼の要求に応じて開かれることを知るであろう。光を伝えたいと望めば望むほど、さらに光が与えられるのである。魂を愛して神のことばを人に説明しようとすればするほど、ますますみことばの意味が明らかに示される。知識を用い、能力を活用すればするほど、さらに多くの知識と能力とを持つようになるのである。——キリストの実物教訓・三三〇ページ

めいめいが神と魂のために働こう。各々は知恵を示し、だれかが仕事につかせてくれるまで怠けて待っているような状態でいてはならない。あなたを仕事につかせてくれることのできる「だれか」

には山のような責任があり、彼の指示を待っていれば時間をむだにしてしまう。神はすぐさま改革できるようなあなたに知恵を与えられるであらう。なぜなら、今もなお「子よ、きょう、ぶどう園へ行って働いてくれ」と命令されているからである。「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら……あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない」（ヘブル三ノ七、八）。主は「子よ」という親愛を表わした言葉で呼びかけて命じておられる。何と優しく同情に満ちていることであらう。その上まことに緊急なのである。神の招待は命令でもある。——教師への勧告・四一九ページ

悪に反抗する力は積極的な奉仕によって最もよく得られる。——使徒たちの働き・一〇五ページ

すべての行為、すべての正しい行ないやあわれみと慈善の行為は、天において音楽をかなでる。

——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年八月一六日

キリストのご精神は伝道のご精神である。心が新たにされるとまず第一に、他の人々も救い主に導きたい衝動が起こるものである。——大争闘・英文・七〇ページ

恵みに成長する唯一の方法は、キリストがわれわれにお命じになった働きを興味をもってなすことである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八七年六月七日

神のために働くといっても、なにか大きい機会を待つ必要はなく非凡な才能などをもたなくてもよいのであります。——キリストへの道・一〇五ページ

社会を祝福し、生活に成功している人は、学問があろうとなかろうと、全力を尽くして神と同胞の奉仕にあたっている人である。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年四月二日

すぐれた働きをするように神から資格をさずけられた人びとの多くがなぜ、なんらなすところがないかという、彼らは、何もしようと努力しないからである。——キリストの実物教訓・三〇六ページ

たとえ百回のうち九十九回失敗しても、破滅から一人の魂を救うことに成功したら、主のみわざのためにりっぱな行ないをしたことになる。——教会へのあかし・第四巻・一三二ページ

神と各々の魂との関係は、あたかも神がただそのひとりのために愛するみ子を与えたもうたかのごとくに、はつきりとした完全なものであります。——キリストへの道・一二九ページ

主は見て、おわかりになる。だからあなたが才能を主の奉仕のためにささげる賜物として提供するならば、たとえ弱くとも主はあなたをお用いになる。私欲を捨てて活発に奉仕する時、弱い者は強くなり彼のとうとい称賛を享受するようになるからである。主のよろこびは、力の要素である。もしあなたが忠実であれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安がこの人生においてあなたの報いとなり、未来の生活においてあなたは主のよろこびに入るであろう。——教会へのあかし・第八巻・三四ページ

わずかな才能しかない人々は、神の愛の中に心を保つことに忠実であれば、多くの魂をキリストに導くことができる。ハーラン・ページは平凡な才能しか持たず、かぎられた教育を受けたにすぎない貧しい機械工であった。しかし彼は神のご計画を進展させることを第一の仕事にし、努力の甲斐あってすばらしい成功をおさめた。彼は個人との会話において、また熱心な祈りによって同胞の

救いのために働いた。祈祷会を設け、日曜学校を組織し、トラクトやその他の宗教的な読み物も配布した。そして彼は臨終に顔に永眠のかげをたたえつつこう言い得たのである。「わたしは、それがすべて神のみめぐみであって、わたしがした事の功績ではないことを知っています。でもわたしは、百人以上の魂がわたし個人の助けをかりて神に改心させられたのだということをあかしできると思います」と。——教会へのあかし・第五巻・三〇七、三〇八ページ

この世界はクリスチャンの天国ではなく、単に神の仕事場にすぎない。ここでわれわれは、聖なる天にいる罪を犯したことの無い天使たちと結合するのに適したものとならなければならない。

——教会へのあかし・第二巻・一八七ページ

イエスのどんな卑しい貧しいでしでも、他の人々への祝福となることができます。かれらは自分が特別に善をしているとは少しも気づかないかも知れませんが、知らず知らずの間に与えた感化が祝福の波となり、それがますます広く、ますます深くなっています。しかもその結果は、最後の報いの日まで決してわからないでしょう。なにか大きなことをしていると感ずることもなく知ることありませんが、成功するかどうかなどと思わずらう必要ありません。ただ静かに前進して、神が摂理のもとに与えたもう仕事を忠実にすれば、その生涯はむだにはならず、魂はますますキリストに似てきます。かれらはこの世で神と働いて、きたるべきみ国でのより高き働きと変らざる喜びにあずかるにふさわしい者となるのであります。——キリストへの道・一〇五、一〇六ページ

キリストに自分たちをささげはしたものの、まだ、主のご用のために大きな仕事をしたり、大

な犠牲をする機会を得ない人びとがたくさんいる。このような人びとは、神が一番お喜びになることは、必ずしも、殉教者の自己犠牲でないことを知って慰めを得るべきである。天の記録の最高位に立つのは、必ずしも、日ごとに危険と死に当面する宣教師であるとは限らないのである。その私生活においてクリスチャンである者、日ごとの自己犠牲において、心の真実さと純潔において、のしられても柔和なことにおいて、信仰と敬けんにおいて、小さいことに忠実なことにおいて、家庭生活において、キリストの品性を代表する者、このような人は、世界的に名高い宣教師や殉教者以上に、神の前には尊いのである。——キリストの実物教訓・三八二ページ

神の前に価値があるのは、なしとげた働きの量や目に見える結果などではなくて、働きをした精神である。——キリストの実物教訓・三七六ページ

主のご承認は大きな事を成し遂げたとか、多くのものを得たとかいうことで与えられるのではなく、わずかな事にも忠実であったということとで与えられる。神が重要視される事は、われわれがrippana結果に達することではなく、われわれの行動する動機である。神は成し遂げた働きの量よりも、善意と忠実さとを賞賛される。——教会へのあかし・第二巻・五一〇、五一一ページ

小さな事を無視して、大きな働きを求めてはならない。でなければ小さい仕事に成功しても、大きい仕事を試みれば完全に失敗し、失望するであろう。なすべき仕事があるとわかったら、どこでも捕えなさい。たとえあなたが豊かであろうと貧しくとも、rippanaであるのとみすばらしくとも、神はご自分のための活発な奉仕にあなたを召しておられる。あなたがみわざのための才能と適応性

を發達させるのは、あなたが自分の手で見つけた仕事を全力を尽くして行なうことにある。また、実を結ばず、しぼんでしまうのは、日常の機会を無視するからである。主の園に実を結ばない木々がそのようにたくさんあるのはこのためである。——教会へのあかし・第九卷・一二九ページ

神は、わたしたちが、すべてのたまものを活用することを望んでおられる。そして、今持っているたまものを活用すれば、さらに大きなたまものをを用いるようになる。神は、わたしたちに欠けている特質を超自然的にお与えになったりしない。しかし、わたしたちが、持っているものを活用するとき、神はわたしたちと共に働いて、すべての能力を増大し強化してくださる。主の奉仕のために全心をこめて熱心に犠牲をするならば、そのたびにわたしたちの能力は増すのである。——キリストの实物教訓・三二九、三三〇ページ

キリストのみ心はあらゆる意味で、貧しい人々をgoranになつて励まされる。柔和な人が虐待されるのをgoranになつて励まされ、義を渴望して飽き足らないらしい人、仕事に着手できない多くの無能者により励まされる。彼は、いわば多くの牧師が失望するような事態を歓迎される。——福音宣伝者・英文・三七ページ

もし家庭内に、キリストのためになすべき働きがあるとすれば、私どもは、異邦の地に行ったり、家庭から離れる必要はありません。家庭内でも、教会内でも、あるいは私どもと交際する人、取引する人々の間においてでも働くことができます。——キリストへの道・一〇三ページ

もしわれわれがキリストのご生涯と教えを研究課題にしていれば、現在の事件はことごとく感銘



深い説話としての論題を提供するであろう。——教会へのあかし・第九卷・六三ページ

地上の生活は天上の生活の始まりである。地上の教育は天の原則の初歩である。この世の人生の働きは来世の人生の働きのための訓練である。品性においても、聖なる奉仕においても、現在のわれわれの姿は、来世におけるわれわれの姿をうつした確かな影である。——教育・三七八ページ

奉仕においてキリストと交わる特権をしりぞける者はキリストと共に栄光にあずかる資格をあたえる唯一の教育をしりぞけているのである。彼はこの世において品性に力ととうとさをあたえる教育をしりぞけているのである。——教育・三三〇ページ

利己的で自己中心の生活を送りながら、主と一緒に喜ぶことができると思ってはならない。彼らは無我の愛の喜びにあずかることはできない。彼らは天の宮廷にふさわしくない。天にみなぎっている清い愛のふんい氣を理解することができない。天使たちの声も、立琴の音楽も、彼らには満足を与えない。彼らにとって、天の科学は、一つの解き得ぬなぞである。——キリストの実物教訓・三四一ページ

キリストは、無人島にのり上げた難船のような様で各地にまかれて、罪のために滅び行く幾千もの人々のために、忍耐し、しんぼう強く働くようにとわれわれを召しておられる。キリストの栄光にあずかる者は、弱い者、不幸な者、落胆している者を助けてキリストの奉仕にもあずからねばならない。——教会へのあかし・第九卷・三一ページ

普通の人々は働き人として仕事に携わらねばならない。救い主が人類の悲しみを共にされたよう

に同胞の悲しみを分かち合う時、彼らは信仰によって主が彼らと共に働いてくださることを知るようになる。——教会へのあかし・第七巻・二七二ページ

キリストは弟子たちひとりびとりのうちにご自分が再現されるのを待っておられる。神はひとりびとりを「御子のかたちに似たもの」としようとして、あらかじめ定めて下さった」（ローマ八ノ二九）。ひとりびとりのを通して、キリストの寛容と愛、聖潔、柔和、あわれみ、まことが世にあらわされるのである。——各時代の希望・第三巻・三七六、三七七ページ

奉仕の祭壇にすべてをささげよとの召しが一人一人にやってくる。われわれの全部がエリシヤのように奉仕するようにと要求されているのではなく、またわれわれの所有している物をことごとく売るようにと命ぜられているでもない。しかし神はわれわれの生活において神への奉仕を第一になし、地上におけるみわざの進展のために一日でも無為に送ることのないようにと求めておられる。神はみんなから同じ種類の奉仕を期待しておられるのではない。ある者は外地の伝道に召されるであらう。またある者は福音事業をささげるために資力をささげるよう要求されるであらう。神はおののささげ物をお受けになる。必要なことは生活とそこから生じるすべての利益をささげることである。この献身をなす者は神の召しに聞き従うであらう。——預言者と王たち・二二一ページ

熟考して計画し、常に仕事の事を心に留めている世の賢者は、永遠の利益に関しても賢くなるよう求めねばならない。もし彼が天の宝と、神のいのちに比べるべきいのちを得るために、世的な物を得ようとして使い果たすその精力を注ぎさえすれば、それを成し遂げられないことがあるうか。

——教会へのあかし・第六巻・二九七ページ

神は身分の卑しい者を動かされ、現代の真理のメッセージを宣伝される。そのような多くの人々が聖霊に促され、暗黒にいる人々に光を与えるためにここかしこ急ぎ行くのが見られるであろう。真理は彼らの骨の中で火のようになり、暗黒にいる人々に光を注ぎたいという燃えるような熱意を彼らに満たす。多くの者は、教育を受けていない者でさえ、主のみ言葉を宣伝するであろう。子供らは聖霊に促され、天のメッセージを宣べ伝えに出かける。聖霊は神のご命令に従った人々の上に注がれる。人間の拘束的な規則や用心深い行き方をかなぐり捨てて、彼らは主の軍隊に加わるであろう。——教会へのあかし・第七巻・二六、二七ページ

### 風景の中にあるクリスチャン生活

神のみ言葉を受ける心は、蒸発する水たまりとか、その宝を失うこわれた水槽のようなものではない。それは枯れない泉から流れ出る水の流れのようである。きらめくその冷たい水は岩から岩へ飛び散り、疲れた者、かわいた者、重荷を負っている者を元気づける。それは絶えず流れている川のようにあり、先に流れるにしたがいますます深く広くなり、その生命を与える水はついに全地にまで広がる。途中で歌を歌いながら流れて行く流れは、新緑と豊かな実りという賜物を後に残す。流れの兩岸に生える草はいっそう新鮮な緑であり、木々は更にしたたるような緑をたたえ、花々もいっそう豊富である。灼熱の夏の暑さに大地がかっ色の地はだをあらわしている時に、一すじの新

緑が川岸をふち取っている。

神の真の子においてもそうである。キリストの宗教は、活力を与え、広範な原則として、活気に満ちた、働く、霊的力となつてあらわれる。心が真理と愛に関する天の感化を受ける時、これらの原則は、再びさばくの中の流れのように流れ出て、現在不毛で欠乏状態にあるところを豊饒な地とさせる。——預言者と王たち・二三三、二三四ページ

### クリスチャンの標語

クリスチャン生活には三つの標語がある。それはサタンにつけ入らせぬようにするために留意せねばならないもので、すなわち、**目をさまし、祈り、働くこと**である。——教会へのあかし・第二巻・二八三ページ

キリストを信ずる信仰を告白した人はみな、霊的な働き人のようになるとか、主の奉仕において活発に、熱心に、有能になるとかいうように、自分のできるかぎり何でもやることを誓った。キリストはすべての者が各自の義務を果たすように期待しておられる。これをキリストに従う者みんなの標語にしよう。——教会へのあかし・第五巻・四六〇ページ

### 霊的マヒ状態

力は訓練によって現われる。神から授けられた才能を活用する者はみな、神への奉仕にささげる

能力を増し加えられる。神のみわざのために何もしない人々はめぐみと真理の知識に育つことができない。寝そべっていて手足を動かさない者は、やがてそれらを用いるすべての力を失うだろう。このようにして神から授けられた能力を使用しないクリスチャンは、キリストにあって成長できないばかりか、すでに持っている力まで失う。彼らは霊的マヒ状態になる。真理を確立させ、強化し、安定させるようにするものは、神と同胞に対する愛をもって、他人を助けようと努力している人々である。真のクリスチャンは、衝動的に一日とか一か月間だけ働くのではなく、原則により、生命の続くかぎり、神のために働く。——教会へのあかし・第五卷・三九三ページ

### 確実な治療法

落胆している者に信仰、祈り、仕事という確かな治療法がある。信仰と活動は確信と満足を受け、それは日ごとに増し加わる。あなたがたは不安な予感や、全くの失望の気持ちに負けそうになることがあるか。どんなに喜びのない日で、どんなに形勢の悪そうに見える時でも、恐れてはならない。神を信ずる信仰を持ちなさい。神はあなたの必要を知っておられる。神はあらゆる力を持っておられる。神の無限の愛とあわれみはつかれることがない。神がみ約束を守らないのではないかと恐れてはならない。神は永遠の真理であられる。神は、神を愛する者と共に結びたもうた契約を決してお変えにならない。そして神はその忠実なしもべたちが必要に応じて要求するだけの能力をお授けになる。——預言者と王たち・一六四、一六五ページ

靈的怠慢を本当になおす治療法はただ一つだけある。それは仕事である。すなわち、助けを必要としている魂のために働くことである。——教会へのあかし・第四卷・二三六ページ

これはキリストがおくびような者、疑う者、恐れおののく者のためにお勧めになった処方である。主の面前を悲しげに歩む悲嘆にくれた人々は立ち上がり、助けを必要としている人を助けよう。

——教会へのあかし・第六卷・二六六ページ

まじめさと、熱意と、熱情と愛に絶えず成長しているクリスチャン、そのようなクリスチャンは決して墮落しない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年六月七日

いやな経験を持ち、本当の宗教を構成するものが何であるか全くわからなくなってしまいうまで苦しみ、疑い、不平をこぼし、罪を犯し、後悔して疲れ果てる人々は、この無我の働きに携わっていない人々である。彼らは世の中にもどって行くことができないと感じているので、つまらぬねたみ、うらやみ、失望、後悔をいだいてシオンのすそにすがりついている。彼らはあら捜しのかたまりであり、兄弟たちの誤りや過失で生きている。彼らの宗教生活には希望のない信仰のない、あじけない経験しかない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九〇年九月二日

## 正当と認められない弁解

イエスはあ去りになった時、すべての者に仕事を残して行かれた。だから「何もすることがない」とは、正当と認められない弁解である。「何もすることがない」とは兄弟たちの間の試練の原因で

ある。というのは、サタンは怠惰な人々の心にサタンの計画を満たし、それを働かせるからである。……「何もすることがない」は兄弟たちに対する悪いあかしとなり、キリストの教会に不和をもたらす。イエスは「わたしと共に集めない者は、散らすものである」と言われる。——レビユー・ア  
ンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

兄弟姉妹がた、あなたがたの多くは、他人のために働く能力を持っていないという口実で、仕事をのがれようとする。しかし神はあなたをそのように無能力者にお造りになっただろうか。これはあなたの怠惰から出た、またあなたが故意に選択したために永続している無能ではなかったか。神は、あなた自身の都合や満足のためでなく、神のために、少なくとも一つ、タラントをお与えになり、ふやすようにと言いたまわなかったであろうか。あなたは神から雇われたしもべとして、この委託された資金を賢くじょうずに用いて、神にその収益を携えて行く義務を感じなかったか。あなたはこの目的のためにあなたの能力を増進させる機会を怠っていたのではなかったか。神に対する責任感を感じている者がほとんどいないことは明確すぎるほどの事実である。——教会へのあかし・第五卷・四五七ページ

多くの人々は、自分たちの生活が仕事や商売の生活ならば、救霊のために救い主の御目的を推進させることは何もできないという考えを持っている。彼らは物事を半分ずつすることはできないと言って、宗教的な義務や運動からのがれて、世の中の事に没頭する。彼らが自分たちの仕事を第一にして、神を忘れるので、神は彼らを不快になられるのである。もしだれでも聖なる生活や、神を

恐れる全き神聖さを深めることができないような仕事に携わっている人があれば、その人たちはいつでもイエスと共にいることができるような仕事に変わらねばならない。——教会へのあかし・第二巻・二三三、二三四ページ

### 重い冠をめざして

われわれはあきたり、弱気を起こしてはならない。永遠の栄光を安易さ、便利さ、楽しみと交換することは、恐ろしい損失になるだろう。神のみ手から授けられる賜物は、勝利者を待っている。われわれはだれもそれを受ける資格はない。それは神がお授けになる無償の賜物である。この賜物は実にすばらしい輝かしいものであるが、「この星とあの星との間に、栄光の差がある」ということを覚えていよう。しかしわれわれは勝利を求めて努力するよう切に勧められているのであるから、イエスのみ力により、多くの星で重みのついた冠をめざそうではないか。「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう。」

——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八一年一〇月二五日

### すでに支払われた奉仕

主はご再臨にあたってすべてのタラントを精査される。主はご自分が委託なさった元金の利子を要求なさる。キリストは、ご自身で受けられた屈辱と苦悩により、ご自分の労苦のご生涯や恥辱の



死によりみ名を取って、キリストのしもべたることを告白するすべての者の奉仕に支払われた。

——教会へのあかし・第九卷・一〇四ページ

すべての者は、魂を主に導くみわざに對しあらゆる才能を延ばす最も重い責任を負っている。「あなたがたは、もはや自分自身のものではない」と主は言われる。「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」、だから、男女を罪から義へ導く奉仕の生活によつて神の栄光をたたえなさい。われわれはキリストご自身の命の値で買われている。すなわち忠実な奉仕によつて神ご自身のものを神にお返しすることができるようにならなければならないのである。——教会へのあかし・第九卷・一〇四ページ

神はその民たちに当てた使命をわたしにお与えになった。彼らは目をさまし、天幕を張り、彼の領地を広げねばならない。兄弟姉妹がた、あなたがたは値をもつて買われたのであるから、あなたの持ち物はすべて、また、あなたのすべてを神の栄光をあらわすために、同胞のために用いねばならない。キリストは罪に滅び行く世界を救うために十字架上でなくなられた。彼はこのみわざに協力するよう求めておられる。あなたがたは主の助け手とならねばならない。熱心に、たゆまぬ努力を払って失われた者たちを救うようつとめねばならない。十字架を必要とさせたのがあなたがたの罪であつたことを覚えていなさい。——教会へのあかし・第七卷・九ページ

キリストに従う者は、奉仕をするためにあがなわれた。主は、奉仕が人生の眞の目的であることをお教えになった。キリストご自身が、勤労者であられて、彼に従うすべての者に、神と人類に仕

えるという、奉仕の法則をお与えになる。ここで、キリストは、彼らが、これまで考えもしなかったところの人生に対する高尚な見方をお示しになった。他のための奉仕に生きるということは、人をキリストに結合させる。奉仕の法則が、わたしたちを、神と同胞とに結びつける鎖となるのである。——キリストの実物教訓・三〇〇ページ

## 前進せよ

クリスチャンの生涯は、危険に襲われ、義務の履行が困難なように思われる時がしばしばある。前途に滅亡が迫り、背後から束縛と死が追ってくることをさまざまに想像する。しかし神のみ声は明瞭に、前進せよとお命じになる。たとえわれわれの目で暗黒を見通すことができなくとも、このご命令に従おう。われわれの前進をはばむ障害は、逡巡したり、疑う精神の前から消え去ることはない。いっさいの不安が消え去り、失敗や敗北のおそれがなくなるまで服従をのぼす者は、決して服従しない。信仰は困難のかなたを見つめ、見えないもの、全能なるお方をさえとらえるから、意気沮喪するはずがない。信仰はあらゆる危急に際してキリストのみ手をしっかりと握るものである。

——福音宣伝者・英文・二六二ページ

われわれの考えは全く狭すぎる。神は光をまき散らす働きに絶えず前進するようにと求めておられる。われわれは人々に接する進歩した方法や手段を研究せねばならない。われわれは、主の軍勢の偉大な指揮官が「前進せよ」と言われるのを、信仰の耳を傾けて聞かねばならない。われわれは

行動しなければならぬ、そうすれば神はわれわれを見捨てたまわぬであろう。われわれが信仰をもってわれわれの分をなすならば、神はご自分の分をなさる。長い間信仰を持っている兄弟姉妹がた、あなたがたは、神がせよと命じておられる仕事をしてこなかった。人々に対するあなたの愛はどこにあるのか。——ヒストリカル・スケッチズ・二八九、二九〇ページ

魂を救うことはキリストの喜びであつた。これをあなたの仕事となし、あなたの喜びとしなさい。キリストのためにあらゆる義務を実行し、あらゆる犠牲を払いなさい。そうすればキリストは絶えずあなたの助け手となされる。義務の声が叫ぶところにはどこへでもまっすぐに行きなさい。外観上の困難に妨げられてはならない。神から与えられた責任を取り、重い重荷をになうことがあつても「なぜわたしの兄弟は怠けて立っているのだろう。彼にかけるくびきはないのだろうか」と言うてはならない。最も身近な義務を尽くし、賞賛を切望するだけでなく、主に属しているのだから、主のために働き、それを完全に、りっぱに果たしなさい。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年四月二日

神の民の道は勝利に向かって上へ、前へと前進するものでなければならぬ。ヨシユアよりも偉大な人がイスラエルの軍隊を率いている。その方はわれわれの中におられ、われわれの救いの大指揮官でもあられて、励ましの言葉を述べられた。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ二八ノ二〇)「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ一六ノ三三)彼はわれわれを確実な勝利に導かれる。神は約束されたことは、いつでも実行す

ることがおできになる。また、神の民になすようにとお与えになった仕事を、神は彼らによって完成することがおできになる。——教会へのあかし・第二巻・一二二ページ

われわれはなぜ、キリストのみたまによって熱心にならないのか。なぜ、悩み苦しむ世人のあわれな叫びに少しも動かされないのか。われわれはキリストの冠に星を加えるという、すなわちサタンの拘束の鎖を切って、魂をとき放すという、神の王国に魂を救うという、高尚な特権を考えないのか。教会は、現代の真理の福音をすべての人々に伝える義務を認識せねばならない。わたしはあなたにゼカリヤ書の三章と四章を読むように勧める。これらの章が理解され、受け入れられれば、義に飢えかわく者のための仕事がなされ、教会が「前進し、向上する」働きがなされるであらう。——教会へのあかし・第六巻・二九六ページ

この地上の大多数の住民は敵に忠誠をささげている。しかしわれわれは欺かれていない。外観はサタンが勝利しているように見えても、キリストは天の聖所において、また地上においてみわざを遂行しておられる。神のみことばは、この終わりの時代に現われる悪と堕落を描き出している。預言の成就を見るごとに、キリスト王国の最後の勝利を信じる信仰が強められねばならない。そしてわれわれは任命されている仕事をなすために勇気を新たにして前進しなければならない。——福音宣伝者・二六、二七ページ

## 印象的な光景

夜の幻のうちに、非常に印象的な光景がわたしの前を通り過ぎた。巨大な火の玉が美しい住居の間に落ち、一瞬の間に破壊されたのをわたしは見た。わたしはだれかが「われわれは神のさばきが地上にやってくることを知っていた、だがこれほど早くやってくるとは思わなかった」と言っているのを聞いた。他の人々は苦しい声で「お前は知っていたのか。それなら、なぜわれわれに話してくれなかったのだ。われわれは知らなかった」と言った。あちこちから、同じような非難の言葉を叫んでいるのが聞こえた。

わたしは非常に苦しい思いをして目がさめた。わたしは再び眠った。そして大集会の中にいるようであった。一人の権威者が会衆に演説をしていた。彼らの前には世界地図が広げられてあった。その人はその地図は神のぶどう園を描いたもので、耕さねばならない地であると言った。天来の光がだれかの上に輝いたら、その人は他の人々にその光を反映させねばならなかった。光は多くの場所でもされるはずであった。またこれらの光から更に他の光がともされるはずであった。

みことばはこう繰り返された。「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人にふみつけられるだけである。あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家中のすべてのものを照らさせるのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」

い」(マタイ五ノ一三―一六)。

わたしは幾条かの光が都市や村落から、また、地の高い所や低い所から輝き出ているのを見た。神のみことばが守られて、その結果、すべての都市や村に神に対する記念物ができた。神の真理は全世界に宣伝された。――教会へのあかし・第九巻・二八、二九ページ

## 第一章

# 方法

### 戸ごとに

人々の家庭における戸ごとの働きは、特別公衆伝道と同様に重要である。大都市においては、公の集会では行き届かないある階層がある。羊飼いがいなくなつた羊を捜すようにこれらの人々を捜し出さねばならない。彼らのために個人的に勤勉な努力を払わねばならない。個人の働きがおりそかにされると利用していれば確実にみわざを進めるはずの多くの貴重な機会をのがしてしまう。

——教会へのあかし・第九巻・一一一ページ

同情の言葉ばかりでなく行為も必要である。キリストはメッセージをお与えになる前に愛と情け深い行為をお示しになつた。これらの働き人は戸ごとに訪問し、必要とされるところに助けを与え、機会があれば十字架の物語を語ろう。キリストを彼らのテキストとすべきである。彼らは教理的論

題を詳説する必要はない。キリストのみ働きと犠牲について話せばよい。彼らは生活にキリストの純潔を示し、キリストの義を掲げよう。——教会へのあかし・第七卷・二二八ページ

神はかたよりみるお方ではない。彼は、たとえ他の人々のように十分な教育を受けていない人々であっても、けんそんで献身的なクリスチャンをお用いになる。そのような人々は、戸ごと訪問によって神への奉仕に携わろう。炉端にすわって、けんそんに、慎しみ深く敬けんに接するならば、按手礼を受けた牧師よりもっと家族たちの必要にかなった事をなすことができる。——教会へのあかし・第七卷・二一ページ

われわれの教会員たちの間に、もっと戸ごと訪問が行なわれ、聖書研究や文書配布がなされねばならない。——教会へのあかし・第九卷・一二七ページ

戸ごと訪問に携わる人々はあらゆる方面で伝道する機会を見出すであろう。彼らは病人のために祈り、病人を苦痛から救うためにできるかぎりをつくさねばならない。彼らはみすばらしい人、貧しい人、しいたげられた人の中で働かねばならない。われわれは欲望のために墮落した食欲を制する強い意志を持たない無力な人々のために、あるいは、その人々と共に祈らねばならない。心の中で関心がめざめている人々の救いのために、熱心に、たゆまぬ努力をささげねばならない。多くの人の心を動かし得るのは私心のない親切な行為以外にない。彼らの物質的需要が第一に満たされねばならない。彼らがわれわれの無我の愛の証拠を見れば、キリストの愛を信じることは、彼らにとってより容易なものとなる。——教会へのあかし・第六卷・八三、八四ページ



働き人は戸ごと訪問をして、人々に聖書を開き、出版物を配布し、彼ら自身の魂を祝福した光のことを他の人々に語ろう。——教会へのあかし・第九巻・一二三ページ

われらの救い主は戸ごと訪問に出かけられ、病人をいやし、悲しむ者を慰め、苦しむ者を和らげ、やるせない者に平和をお語りになった。彼は幼い子供たちをお抱きになり、彼らを祝福なさって、疲れた母親たちに、希望と慰めのみことばをかけられた。また尽きることのない慈愛と親切を示したまい、人類のあらゆる悲哀と苦悩に接したもうた。彼はご自身のためにでなく、他の人々のために働かれ、すべての人々のしもべとられた。彼が接したもうたすべての人々に、希望と力をお与えになることが、彼の飲食物であつた。——福音宣伝者・英文・一八八ページ

戸ごとに、愛と純粋な気持ちで真理を伝えることは、キリストが弟子たちを初めて伝道旅行に送り出された時、彼らにお与えになったご教訓に一致する。賛美の歌により、けんそんで心からの祈りにより多くの人々の心を得る。働き人であられるお方が人々を改心させるためにご臨在される。「わたしは、いつもあなたがたと共にいる」とは、キリストのみ約束である。そのような助け手が共にいると保証されているのであるから、われわれは、信仰と希望と勇氣を持って働くことができる。——教会へのあかし・第九巻・三四ページ

戸ごと訪問の働き人が必要とされている。主は、聖書の真理について何も知らない人々のいるところに果敢な努力が払われるようにと求めておられる。人々の家庭で歌ったり、祈ったり、聖書研究をすることが必要とされている。今、たった今こそ「あなたがたに命じておいたいいさいのこと

を守るように教えよ」という任務に従う時である。この働きに携わる人々は、聖書に関する知識を備えていなければならない。「こう書かれている」というのが、防御の武器となるのである。

——教師への勧告・五四〇ページ

兄弟姉妹がた、あなたがたの近くに住む人々を訪問し、同情と親切で彼らの心に接するようにしなさい。偏見を持たせるのではなく、それを取り除くような方法で必ず働きなさい。そして、現代の真理を知っていながら、自分の教会にのみ努力を集中させて改心していかない隣人たちのために働くことを拒む人々は義務を果たしていないと言われるであろうということを覚えていなさい。——教会へのあかし・第九巻・三四ページ

この最初の旅行で、弟子たちは、イエスが前に行って友だちをおつくりになったところに行きくのであった。彼らの旅行の準備は、最も簡単なものであった。彼らの心をこの大きな働きからそらしたり、あるいは何かのことで反対を引き起こして今後の働きの門戸をとざしてしまうようなものは、何もゆるされないものであった。彼らは宗教教師の服を着たり、いやしい農夫たちと区別をつけるような服装をしたりしてはならなかった。彼らは会堂にはいつて人々を公の礼拝に呼び集めてはならなかった。彼らは戸ごと訪問の働きに努力を集中するのであった。もてなしを受けるために家から家をまわったり、不必要なあいさつなどに時間を浪費してはならなかった。しかしどこでも、価値のある人々やキリストご自身をもてなすかのように心から彼らを歓迎する人々のもてなしは受けてよかった。彼らは、「平安がこの家にあるように」との美しいあいさつで住居にはいつて行く

のであった（ルカー〇ノ五）。その家庭は、彼らの祈りや、賛美の歌や、家族が集まって聖書を開くことなどによつて祝福されるのであった。——各時代の希望・第二巻・八三ページ

親しみのある方法で隣人を訪問し、彼らと知り合いになりなさい。……この仕事を引き受けない人々、ある人々が示したような無関心な態度をとる人々はやがて最初の愛を失い、彼ら自身の兄弟を非難し、批判し、責めるようになる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一九〇二年五月一三日

使徒の努力は公衆伝道にばかり限られていなかった。その方法では行き届かない人々がたくさんいた。彼は、戸ごと訪問に多くの時を過ごし、こうして、家庭団らんの親しい交わりを利用した。彼は病人や悲しむ人を訪問し、悩む者を慰め、しいたげられている人を励ました。また、彼のすべての言動においてイエスのみ名を表わした。こうして彼は「弱くかつ恐れひどく不安であった」人々のために働いた。彼は、自分の教えが神よりもむしろ人間の特徴を示すことがないようにと恐れた。——使徒の働き・二五〇ページ

隣人を一人ずつ訪問し、彼らの心があなたの無私の関心と愛によつて暖められるまで、彼らと親しくなりなさい。彼らに同情し、彼らと共に祈り、彼らのためになる事をする機会を見守り、そして、できる時に二、三の人々を集めて、彼らの暗い心に神のみことばを開きなさい。人々の魂のために申し開きをし、神の道德的ぶどう園で神と共に働く特権を十分用いねばならない人として目をさましていなさい。「何とかして幾人かを救うために」、隣人に語りかけ、できるかぎりの親切をつくすことを怠ってはならない。われわれは、使徒パウロが戸ごとに訪問し、涙を流して懇願し、

「神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰」を教えないではいられなかったその精神を求める必要がある。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

主はわれわれの町でなさるべきはずの仕事を私に示された。これらの町にいる信者たちは、彼らの家の近隣で神のために働かねばならない。彼らはどこへ行くにも天の雲囲気を携えて、静かに、けんそんに働かねばならない。——教会へのあかし・第九卷・一二八ページ

## 一人の聞き手

キリストのみ働きは主として個人的な会見から成っていた。彼は一人の聞き手を大いに重んじておられた。その一人から、受けた情報が多くの人々に伝えられた。——教会へのあかし・第六卷・一一五ページ

イエスは疲れ、弱っておられた。それでも彼は、他国人であり、イスラエルの異邦人であり、あきらかに罪のうちに生活している一人の女に語りかける機会をのがされなかった。——各時代の希望・第一卷・二三三ページ

救い主は会衆が集まるのを待たれなかった。たびたび主はご自分のまわりに集まっているほんの少数の人々に教えはじめられたが、通りかかった人々が一人二人と立ちどまって聞き入り、ついには群衆がこの天から送られた教師イエスを通して、驚嘆と尊敬の念をもって神のみことばを聞くのだった。キリストの働き人は、少数の聴衆に対しては大きな会衆に対するのと同じ熱心さでしゃべ

ることができないと思つてはならない。説教を聞いているのはたった一人であるかもしれないが、しかしその影響がどれほど遠大なものであるかをだれが知ることができよう。救い主がサマリヤの女のために時間を費やされたことは、弟子たちにとってさえ小さなことに思われた。しかしイエスは、王や議官や大祭司たちに対するよりもっと熱心に、雄弁に論じられた。イエスがその女にお与えになつた教訓は、地のはてにいたるまでくりかえされた。——各時代の希望・第一巻・二三三ページ

### 密接な個人的交わり

個人的に努力をして、人々に近づいていくことが必要である。説教に用いる時間を減らし、個人伝道にもっと多くの時間を使うならば、さらに大きな結果をもたらすだろう。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一一五ページ

主はめぐみのみことばがすべての魂に深い感銘を与えることを望んでおられる。このことは大部分個人的な働きによつてなしとげなければならない。これがキリストの方法であつた。——キリストの実物教訓・二〇九ページ

救霊に最も成功した人々は、彼らの能力を誇らずけんそんに、信仰をもつて周囲の人々を助けようとすると人々であつた。イエスはこの仕事をなさつた。彼は接したいとお望みになつた人々に近づいて行かれた。——福音宣伝者・英文・一九四ページ

キリストの持つておられたような同情をいだいて、個人的に人に近づき、永遠の生命という大き

な事さらに彼らの注意を呼び起こさなければならぬ。彼らの心はふみつけられた道のように固く、救い主について語ってもむだのように思われる場合がある。しかし、論理が動かし得ず、議論も説得する力がないと思われるときにも、個人的な奉仕のうちにあらわされるキリストの愛は、石の心をも和らげ、真理の種が根をおろすようになるのである。——キリストの実物教訓・三四ページ

個人的な奉仕によって周囲の人々に接し、彼らと知り合いになりなさい。説教をしても、なされねばならない仕事を成し遂げないであろう。神のみ使たちは訪問しようとする人々の住居まであなたについて行く。この仕事は、代理ではなされ得ない。それは金銭を貸したり与えることでは成し遂げられない。説教はそれをなし得ない。人々を訪問し、彼らに話し、祈り、同情すること人々の心をとらえるのである。これこそ、あなたがたにできる最高の伝道の働きである。それをなすためには、堅い屈せぬ信仰と、たゆまぬ忍耐と人々に対する深い愛が必要である。——教会へのあかし・第九卷・四一ページ

ヨハネとアンデレとシモン、またピリポとナタナエルの召しによって、キリスト教会の基礎が置かれた。バプテスマのヨハネは自分の二人の弟子をキリストにみちびいた。その中の一人アンデレは自分の兄弟をみつけて救い主のもとへ呼んだ。それからピリポが呼ばれ、ピリポはナタナエルをさがしに行った。このような模範は、個人的な努力、すなわち肉親や友人や隣人に直接訴えることの重要さをわれわれに教えねばならない。一生の間、キリストを知っていると告白しながら個人的な努力によってたった一人の魂さえ救い主にみちびいたことのない人たちがいる。彼らは働きの全

部を牧師にまかせている。牧師は自分の職責をりっぱに果たすだろうが、しかし神が教会員におまかせになった働きまですることはできない。

愛に満ちたクリスチャンの心からの奉仕を必要としている人々がたくさんいる。もし普通の男女である隣人たちが個人的な努力をしていたら救われたかもしれない人々がたくさん滅んでしまった。多くの人々は個人的に語りかけられるのを待っている。われわれの住んでいる家庭の中に、隣り近所に、町に、キリストの伝道者としてわれわれのなすべき働きがある。われわれがクリスチャンなら、この働きは楽しみとなるであろう。人は信仰を持つとすぐ、自分がイエスというとうとい友をみいだしたことを他人に知らせたいという願いが心の中に生ずる。人を救いきよめる真理を、心の中にとじこめておくことはできないのである。——各時代の希望・第一巻・一六一、一六二ページ

光が伝達され得る最も効果的な方法の一つは、個人的な努力によるものである。家庭のだんらんで、隣人の家の炉端で、病人の枕べで、静かに聖書を読み、イエスと真理のためにみ言葉を語ることができる。こうして、芽を出し、実を結ぶまで成長するとうとい種をまくことができる。——教会へのあかし・第六巻・四二八、四二九ページ

塩は、それを加えた物質とよく混ぜねばならない。保存するためには、塩は浸透しなければならない。そのように人々に福音の救済の力が及ぶのは、個人的な接触と交わりによってである。人々は集団としてではなく、個人として救われるのである。個人的な感化には力がある。わたしたちは益を与えたいと思う人に近づいて行かなければならない。——祝福の山・四五ページ

イエスはひとりびとりの魂を、神のみ国への招待を与えられなければならない者としてごらんになった。イエスは人々の幸福を願う者として、彼らの中にはいつて行くことによつて、彼らの心をとらえられた。彼は大通りで、個人の家々で、舟の上で、会堂の中で、湖の岸辺で、婚宴の席で、彼らを求められた。彼は人々が日常の働きをしているところと彼らに会い、彼らの俗事に興味を示された。イエスはご自分の教えを家庭に持ち込み、家族をそれぞれの家庭においてイエスのきよいご臨在の感化のもとにおかれた。イエスの個人的な強い同情は人々の心をとらえる助けとなった。

——各時代の希望・第一巻・一七六、一七七ページ

人の心を動かすにはキリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間と交際しておられた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして「わたしについてきなさい」とご命令になった。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一一五ページ

まだキリストを知らない人びとに、キリストのことについて語るようにしなければならない。わたしたちは、キリストがなさったようにしなければならぬ。キリストは、会堂であつたと、路傍であつたと、岸から押し出された舟の中であつたと、パリサイ人の宴会であつたと、取税人の食卓であつたと、どんな場所であつても、高尚な生活に関することを人びとに語られた。主の教えの中には自然の事物や日常のできごとなどが織り込まれていった。また、イエスは、病をいやし、悲しんでいる人を慰め、子供たちを腕に抱いて祝福されたりしたので、聴衆の心は、イエスにひきつけ



られた。イエスが一度、口を開いてお語りになると、人びとは、すいこまれるように聞き入り、その一言一言は、だれかの魂にとって、いのちからのちにいたらせるかおりであった。

わたしたちも同様でなければならない。たとえどこにいようとも、救い主のことについて、人びとに語る機会をとらえるようにしなければならない。わたしたちも、キリストの模範に従って善を行なうならば、人びとがキリストに心を開いたように、わたしたちにも心を開くのである。無作法な態度で話すのではなくて、神の愛から生じた気転を働かせることによって、「万人にぬきんで」「ことごとく麗しい」救い主のことを彼らに語ることができる（雅歌五ノ一〇、一六）。これこそ、ことばのタラントを最高に用いる方法である。ことばは、わたしたちがキリストを罪からの救い主として、人びとにのべ伝えるために与えられたのである。——キリストの実物教訓・三一三、三一四ページ

イエスがいらつしやると家庭の中には一段ときよい雰囲気が生じ、イエスの生活は社会の各階級に働くパンだねのようであった。イエスは、何の害もけがれも受けないで、無慮な人々や粗暴な人々や礼儀知らずな人々の中に、また不正な税吏たちやでたらめな放蕩者たちや不義なサマリヤ人たちや異教の兵士たちや荒くれた農夫たちやその他のいろいろな人間のまじった群衆の中に生活された。疲れはててもなお重荷を負わねばならない人々をごろんになるたびに、イエスは同情のことはをここで一ことあちらで一こととお語りになった。イエスは彼らの重荷を共に負い、神の愛とあわれみと恵みについて自然から学ばれた教訓を彼らにくりかえされた。

イエスは、すべての人が自分にはとうといタラントが与えられていると考えるように、そしてそのタラントを正しく用いるならば永遠の富が得られるのだということを教えになった。彼は生活からすべての虚栄をとり除き、ご自身の模範によって、一刻一刻が永遠の結果を伴っていること、したがってその一刻一刻は宝として大切にし、聖なる目的のために用いなければならぬことをお教えになった。イエスはどんな人間も無価値な者としてみすぐすようなことをなさらず、ひとりびとりに救いの療法を試みられた。どんな種類の人々の中におられても、イエスはその時と事情にふさわしい教訓をお与えになった。どんなに乱暴な、見込みのない人でも、責むべき点もなければ、害を与えることもない者となり、神の子たることをはっきりあらわすような品性の持ち主になるとができるという保証を示すことによって、イエスは彼らのうちに望みを起そうとされた。イエスは、サタンの支配下におし流されて、そのわなを破る力のない人たちをしばしばごらんになった。落胆したり、病気だったり、試みられたり、墮落したりなどしているこれらの人々に、イエスは最もあわれみ深いことば——彼らが必要とし、理解のできることをお語りになるのだった。イエスはまた魂の敵とはげしい戦いをたたかっている者にも出会われた。これらの人々をイエスは耐え忍ぶように励まし、神の天使たちが彼らの側について勝利を与えてくれるから、勝てるのだと保証された。——各時代の希望・第一巻・九一、九二ページ

## 霊的リバイバルと個人伝道の結合

教会が一新されるのは、個人が神の祝福を熱心に求めるからである。神を渴望し、信仰をもって求めれば、それ相応のものを受けるのである。彼は、大いに神に頼る気持ちをいだいて働きに出て行く。すると、人々は同様の祝福を求めたい気持ちに目ざめ、靈的に元気づく—ときが人々の心によってくる。手広い仕事は軽視されないであろう。更に大きい計画がよい時期に立てられるであろう。しかし友だちや隣人に対する個人的な努力と関心は想像以上の事を成し遂げる。この種の働きが、じゅうぶん行なわれていないために、キリストが犠牲となられた人々の魂が滅びつつある。

一人の魂には無限の価値がある。カルバリーがその価値を語っている。真理に導かれた人は他人を導く器となるであろう。そして、その結果、祝福と救いが増し加わるであろう。たとえ更に手広い集会を開いても個人的な努力に欠けているならば、あなたの働きの方がそれら以上にりっぱな成果をあげる事ができるであろう。両者が神の祝福を受けて結合されると、もっと完全で十分な働きがなされる。しかしもし一部だけしかできないものなら、家庭で聖書を開き、個人的な訴えをなし家族の人々と親しく、重要でないものについてでなく、救いの大切な論題について語り合いなさい。あなたの心が魂の救済という重荷を負っている事を彼らにわからせなさい。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

### 人々のもとに行きなさい

わたしたちは人々が自分のところにくるまで待っていてはならない。わたしたちは人々がいると

ころへ出て行って、彼らをさがし求めねばならない。みことばが講壇から説教されたとき、働きは始まったばかりである。こちらからもっていかねければ、福音に接することができない人々がおびただしくいるのである。——キリストの実物教訓・二〇九ページ

福音の任命はキリストの王国の大伝道憲章である。弟子たちは、すべての人々にめぐみの招待を与え、彼らのために熱心に働くことになっていた。彼らは人々がやって来るのを待つのではなく、使命を携えて人々のところに行くことになっていた。——使徒の働き・二八ページ

### 家に招いて聖書研究をなささい

自分の家に隣人を招き、尊い聖書や、真理を説明する書籍を一しよに読みなささい。賛美と祈りを共にするように招待なささい。こういう小さな集まりでもキリストは約束の通りそこに臨在され、人の心はキリストの恵みによって感動を受けるのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二五ページ

アポロはエペソにいた時に「会堂で大胆に語り始めた。」会衆の中のアクラとプリスキラはアポロがまだ福音の光を十分受けていない事を悟って「彼を招きいれ、さらに詳しく神の道を解き聞かせた。」彼らの教えを受けて、アポロは聖書の事を更に明白に知るようになり、キリスト教信仰を語る最も有能な代弁者の一人となった。——使徒の働き・二七〇ページ

### 社会的になりなさい

キリストと共に働いているすべての者にわたしはこう言いたい。炉ばたで人々に近づく機会を持つ事ができる時にはいつでも、その機会を利用しなさい。聖書を取り上げ、その偉大な真理を彼らに紹介しなさい。あなたがたの成功は、知識や業績にあるのではなく、人の心に触れる道を見い出す才能にある。社交的になり、人々に親しく近づく事により、あなたがたは最もりっぱな講話によるより更にたやすく彼らの思想の傾向を変える事ができる。炉ばたで家族にキリストを紹介したり、個々の家の少数の人々にキリストを紹介する事は、戸外で、動いている群衆に、あるいは会堂や教会でなされる説教より、もつとよく人々をイエスに導く事のできる場合がしばしばある。

——福音宣伝者・英文・一九三ページ

人類と利害を一つにされたキリストの模範は、キリストのみことばをのべつたえる者やキリストの恵みの福音を受け入れた者のすべてが従わねばならない模範である。われわれは社交的なまじわりをたちきるのではない。他の人たちから孤立してはならない。あらゆる階級の人々に接するためには、われわれは彼らのいるところで彼らに会わねばならない。彼らの方からわれわれを求めてやってくることはめったにない。講壇からだけでは人々の心は天来の真理に動かされない。もう一つの働きの領分がある。それは目立たないかもしれないが、大いに有望である。それは身分のいやしい人々の家庭に、身分の高い人々の邸宅に、もてなしの食卓に、無邪気な親睦の集まりの中にみいだされる。——各時代の希望・第一巻・一七七、一七八ページ

キリストは排他的でなかったので、この点において、キリストがパリサイ人の厳格な規則からは

ずれておられることが、特にパリサイ人たちを不快にしていた。イエスは、宗教の領域が日常生活にとつてはあまりに神聖すぎるものとして隔離の高い壁にかこまれているのをごらんになった。この仕切りの壁をイエスはうちこわされた。人々と接触して、イエスは、あなたの信条は何ですか、あなたはどの教会に属していますかなどとおたずねにならなかった。彼はだれでも助けの必要な者のために助けの力をお用いになった。イエスはご自分の天来の品性を示すために世捨て人の小屋にこもるようなことをなさらず、熱心に人類のために働かれた。聖書の宗教は肉体の苦行にあるのではないという原則を、イエスはこんこんとお教えになった。イエスは、純潔でげれのない宗教は一定の時間や特別な場合にだけ限られるものではないことをお教えになった。いつでもどんな場所でも、彼は人々へのやさしい関心をあらわし、まわりに快活な信仰の光を放たれた。——各時代の希望・第一巻・八四、八五ページ

ユダヤ人の偏見に直面しながら、主はこの軽蔑された民のもてなしを受けられた。主はサマリヤ人の屋根の下に眠り、彼らと同じテーブルで食事をし、彼らの手で料理されて食卓に出された食物を食べ、彼らの町の通りで教え、できるだけの親切と礼儀をつくして彼らに対応された。——各時代の希望・第一巻・二三一ページ

### 同情的な関心を示しなさい

人生の戦いにおけるさまざまな障害と戦っている人々は、ほんの小さな励ましによって元気づけ

られ、力づけられる。簡単に述べる親切な言葉、簡単に与える小さな励ましは、魂の上にのしかかっている誘惑と疑いの雲を一掃するであろう。単純に与えるキリストのような同情のこもった誠実な表現は、キリストのみたまの単純で繊細な接触を求める人々の心の戸をあける力を持っている。

——教会へのあかし・第九卷・三〇ページ

最も単純でけんそんな方法で多くの人々の心に接する事ができる。世の中で最も才能に恵まれた人々として、賞賛されている最も知的な人々が、しばしば、神を愛する者の心から出る言葉や、一般の人々が心を向けて楽しむことを話すように自然にその愛を語る事のできる人の心から出る単純な言葉に励まされる。よく準備され、研究された言葉にほとんど影響力のない事がよくある。しかし、自然の単純な気持ちで語られた神のむすこ娘の真実のある、まじめな言葉は長い間閉ざされていた人々の心の戸を開くであろう。——教会へのあかし・第六卷・一一五ページ

### 個人的経験をあげよ

キリストを着たものは、聖霊が一步步導いてくださったことを振りかえって、その経験を語るのである。すなわち、自分が神と、神のおつかわりになったイエス・キリストとを知ろうとして、飢えかわいたことや、聖書研究の成果や祈りや自分の経験した魂の苦悩のことを話す。そして、キリストが「あなたがたの罪はゆるされた」といわれたことを語る。だれでも、このようなことを秘密にしておくことはできない。キリストの愛に満たされたものは、かくしておかない。主が自分を

聖なる真理の保管者にしてください。その度合に応じて、他の人びとも同じ祝福をあたえようと思ふ。そして、彼らが神の豊かな富を人びとに語れば語るほど、キリストの恵みがますます彼らに与えられる。——キリストの実物教訓・一〇三ページ

あらゆる霊的力をふるい起こして行動しなさい。すべてのものの終わりが間近に迫っていることを、あなたが訪問する人々に話しなさい。主イエス・キリストは彼らの心の戸をあけて、彼らの心に永遠の感銘を与えてくださる。人々を霊的無感覚状態から目ざめさせなさい。あなたがイエスを見いだした方法、主に対する奉仕の経験を得て以来祝福されてきたことについて彼らに話しなさい。あなたがイエスのみ足もとにすわるときに受ける祝福と、みことばからとうとい教訓を学ぶことを彼らに話しなさい。クリスチャンの生活にある喜びと楽しみを彼らに話しなさい。あなたの温かい熱心な言葉は、あなたが非常に高価な真珠を見いだしたことを彼らに悟らせるであろう。あなたの快活な、励ましの言葉によって、あなたがほんとうにより高い道を見いだしたことを示しなさい。これがほんとうの伝道の働きであり、それがなされる時、多くの者は夢から目ざめるであろう。

——教会へのあかし・第九卷・三八ページ

神が器としてお用いになる人々は、ある人々には役に立たないと思われるかもしれないが、彼らが祈ることができて、彼らの愛している真理を単純に語ることができれば、彼らは聖霊の力を通して人々に達することができる。彼らがみことばを読み、経験したできごとを思い出しつつ、真理を簡明に紹介する時、聖霊は心と品性に感銘を与えるのである。その意志は神のご意志に従うようにな



り、これまでわからなかった真理が生き生きとした確信をもって心に入り靈的な事がわかってくる。  
——教会へのあかし・第六卷・四四四ページ

### 効果的例証

イエスのめぐみのみことばは聴衆に向くようにいろいろ変えられた。彼は「疲れた者を言葉をもって助けることを知」っておられた（イザヤ書五〇ノ四）。それは人々を最もよくひきつける方法で真理の宝を彼らに伝えることができるように、イエスのくちびるに恵みがそそがれていたからであつた。彼は、心に偏見をもっている人たちに接して、彼らの注意をとらえるような実例によつて彼らを驚かせる気転をもつておられた。想像力を通してイエスは心にふれられた。イエスの例話は日常生活の事物からとられた。それは単純な例であつたが、驚くほど深い意味をもっていた。空の鳥、野のゆり、種、羊飼と羊——こうした事物によつてキリストは永遠の真理を例示された。聴衆は、その後いつでもそうした自然界の事物を見るたびに、イエスのみことばを思い出した。キリストの例話はたえずその教訓をくりかえした。——各時代の希望・第一卷・三一七ページ

使徒たちはこれらの異教徒たちに創造主であられる神と、人類の救い主であられるみ子に関する知識を授けようと努めた。彼らは最初神のすばらしいみわざ、すなわち、人間の力では理解できないほどの巧妙さを表わした太陽、月、星、四季の輪転の美しい秩序、雪をいただいた勇大な山々、高くそびえた木々、その他、自然のさまざまな不思議に注意を向けさせた。全能者であられる神の

これらのみわざを通し使徒たちは異教徒の心を全宇宙の偉大な統治者であられるお方を見つめるよう導いたのである。——使徒の働き・一八〇ページ

### 実際の基礎を論じなさい

パウロは雄弁な話し家であつた。彼は改心する前雄弁にしゃべりまくることで聴衆に感銘を与えようとした。しかし、今、彼はこれをいっさい退けた。感覚を楽しませ、想像力を養うが、日常の経験に感化を与えない詩的表現や、空想的描写に浸る代わりに、パウロは単純な言葉で、きわめて重大な真理をしみじみ心に訴えようとした。真理を空想的に表わせば、無我の境地にさせるが、往々にしてこの方法で示された真理は、どれも、人生の戦いのために信者を強め堅固にさせるに必要な糧を補給しない。苦しみと戦う人々の緊急の必要、すなわち、現在の試練、これらの事はクリスチャンの根本原則の中にある健全な实际的な教えによって解決されねばならない。——使徒の働き・二五一、二五二ページ

### 肯定的な真理を保ちなさい

真理を紹介しようとする時に、しばしば反対が起こる。その反対に議論で対抗しようとするれば、その反対を募らせるに過ぎず、議論することができなくなる。肯定的な事を保っていないさい。神の天使たちはあなたを見守っており、あなたが人々の反対に議論でなくその人々に感銘を与える方法

を知っている。持ち上がる問題の否定的な点をいつまでも論じないで肯定的な真理を頭にまとめ、熱心な祈りと献身によって、それらを心にしっかりと保ちなさい。——教会へのあかし・第九卷・一四七、一四八ページ

### 大街道での代表者

時代の召しに答えて、主の奉仕に携わっている人々は、主の働きの方法をよく研究することができ。救い主は、地上の伝道時代に、旅中の大路で見いだされるさまざまな機会を利用された。イエスが旅の合間にとどまれたのはカペナウムで、それは主ご自身の町として知られるようになった。この町は救い主のみわざの中心地としてふさわしかった。ダマスコからエルサレムやエジプト、あるいは地中海に行く本街道にあり、旅の大街道であった。あちこちの国々から来る人々がその町を通ったり、往復旅行の途中休むためにとどまった。ここでイエスはあらゆる国々のあらゆる階級の人々——富豪家や、身分の高い人ばかりでなく貧困者や身分の低い人にお会いになることができた。そして主の教訓は他の国々の人々や、たくさん家族に運ばれるようになり、預言の研究はこのようなして喚起された。救い主に注意が向けられ主の使命が世界に紹介されるようになった。

——教会へのあかし・第九卷・一二一ページ

世界的に有名な保養地であり、旅行者の集まる中心地で、健康と娯楽を求める人々で雑踏しているところには群衆の注意を引く事のできる牧師や伝道者が派遣されねばならない。これらの働き人

はこの時代に対する使命を紹介する機会を待ち受け、機会を捕えたら集会を開かねばならない。また人々に話しかける機会を早くつかまねばならない。聖霊の力に伴われ「悔い改めよ、天国は近づいた」というバプテスマのヨハネの伝えたメッセージを携えて人々に会わねばならない（マタイ三ノ二）。神のみ言葉は、聞く耳を持っている人々が真理を聞く事ができるように明確に力強く紹介されねばならない。こうして現代の真理の福音は、それを知らない人々の道に置かれ多くの人々に受け入れられ、彼らによって世界のあらゆる方面にある彼らの家へ携えられて行くのである。

——教会へのあかし・第九卷・一二二ページ

「ミニストリー・オブ・ヒーリング」や「キリストの実物教訓」は特に観光の中心地で用いるのに適している。それゆえ、読む暇があり、読む気持ちのある人々の手にこれらの書物が渡されるためにできるだけの事をしなければならぬ。——教会へのあかし・第九卷・八五ページ

健康的なレストランや治療室が設けられねばならない。これらの方面におけるわれわれの努力は海岸の大保養地をも含むものでなければならぬ。バプテスマのヨハネの声が「主の道を備えよ」と荒野で呼ばわったように、主の使者たちの声が大観光地や海岸の保養地で聞かれねばならない。

——教会へのあかし・第七卷・五五、五六ページ

## 二人ずつつかわされた

イエスは、十二人をみもとにお呼びになって、二人ずついっしょになって町々や村々をまわるよ

うにお命じになった。だれも一人ではつかわれず、兄弟と兄弟、友だちと友だちが組み合わせられた。こうして彼らは、互いに助け合い、励まし合い、共に助言したり祈ったりして、一方の力で他方の弱さを補うことができた。同じやり方で、イエスはのちに七十人をつかわされた。福音の使者たちがこのように組み合わせられることが、救い主のみこころであつた。今の時代にこの模範にもっと忠実に従うなら、伝道の働きはもっとずっと成功するであろう。——各時代の希望・第二巻・八〇ページ

### 医事伝道旅行

主がわたしに時々お与えになつた指示によつて、町や村を医事伝道旅行する働き人がいなければならぬことを知っている。この働きをする人々は、階級の上層の者から下層の者から、魂の収穫を豊かに集めるであろう。この働きのための道は、忠実な文書伝道者たちの努力によつて最もよく備えられる。——教会へのあかし・第九巻・一七二ページ

### 福音医事伝道者

働き人たち——福音医事伝道者たち——が今必要とされている。あなたがたは準備に何年も費す余裕はない。今、真理に対して開かれている戸は、まもなく永遠に閉ざされる。今、使命を携えて行きなさい。今あなたの前に開かれている地が敵の手に渡るのを、そのまま見てはならない。キリストが弟子たちに任命された仕事をなすために小さい組をつくって出て行きなさい。彼らは伝

道者として働き、会う人々に印刷物をまき散らし、真理を語らねばならない。病人のために祈り、薬でなく自然の治療法で彼らの要求を満たし、健康を回復し、病気を避ける方法を教えねばならない。——教会へのあかし・第九巻・一七二ページ

わが兄弟姉妹がた、奉仕のために主にあなた自身をささげなさい。機会を利用せず見のがしてはならない。病人や悩む者を訪問し、彼らに親切な関心を示しなさい。できれば彼らをもっと楽にさせるような事をしなさい。この方法を通して、彼らの心に達することができし、キリストのために一言、話すことができる。そのような方面の仕事がいかに遠大なものであるかは、永遠だけが告げ得るのである。その他にもさまざまな有益な仕事が、最も身近にある務めを喜んで果たそうとする人々の前に備えられている。——教会へのあかし・第九巻・三六ページ

## 実 業 教 育

社会には貧しい家庭が多く、こうした人を土地に定着させ、そこから生計をたてる方法を学ぶように助けることほどりっぱな伝道の働きはない。こうした助けや教育の必要は都市ばかりとはかぎらない。より良い生活ができそうな可能性がある地方においてさえ、多数の貧困者がいる。地域全体に実業方面、衛生方面の教育が欠けているところが多い。家族があら家にならずかな家具と衣類をもって住み、仕事をする道具も書籍もなく、生活の慰安も便宜も教育を受ける方法もなく生活している。悪い遺伝と誤った習慣の結果、虚弱な、奇型的身体をもった、野獣のような人があらわれて

いる。こうした人は根底から教育されなければならない。彼らは不精で怠慢で墮落した生活を送っている。正しき習慣に改めるように教育されなければならない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一六七ページ

貧しい家族が職業を得るために各種の工業施設に注目しなければならない。大工やかじ屋その他各種の有益な仕事を理解している者はみな、無知な人や失業者を教え、助ける責任を感じなければならない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一六九ページ

クリスチャンの農夫は、貧困者がその地方に家を持ち、土地を耕作し、農作物がとれるようにする方法を教えることによって真の伝道事業をすることができ、農具の使用法、各種農作物の栽培方法、果樹の植え方、取り扱い方を教えなさい。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一六八ページ

貧しい人に対する働きにおいては婦人にも男子と同様に多くの仕事がある。じょうずな料理人、家政婦、裁縫師、看護婦等すべての助けが必要とされている。貧しい家の人に料理の仕方、自分の衣類のつくろい方、ぬい方、また病人の看護、正しい家事などを教えなさい。少年小女にも何か有益な商業や職業をよく学ばせるべきである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一六九ページ

### 福音伝道集會に招きなさい

働く気さえあれば、人々にはできることがたくさんある。真理が説教される時に教会に聞きに行かない人々が大きい。単純に賢く個人的に努力することによってその人々の足を神の宮へ向け

させるよう説得することができ。現代の真理を説く説教を彼らは聞いて最初に確信の心を固めることができる。あなたの訴えが拒絶されても、失望してはならない。成功するまで忍耐すれば、あなたの努力は報いられる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一〇日

### 安息日学校に集めなさい

すべての者が携わることのできる別の仕事は、子供や青年たちを安息日学校に集めることである。青年は、この方法で愛する救い主のために有能な働きをすることができる。彼らは人々の運命を方向づけることができる。彼らは教会と世のために働くことができる。その範囲と偉大さは、善良で忠実な者に「良くやった」と語りかけられる、その最後の評価を下される日まで知られない。

——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一〇日

### ペンと声で

ペンと声で、イエスがわれわれをとりなしてくださるために生きておられることを宣べなさい。

働き人の偉大な主であられる方と結合し、地上における主の愛の巡礼を通して、犠牲的な救い主に従いなさい。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月二四日

ある者はある方法で、またある者はまた別の方法で、主に召されて、導かれるままに働くである。しかし彼らはみな共に骨折り、全体的に完全な仕事となるようにしなければならない。ペンと声で彼らは主と共に働かねばならない。——教会へのあかし・第九巻・二六ページ



キリストが十字架にかけられた、その事を語り、それを祈り、それを歌いなさい、そうすれば、それは人々の心を砕き、導くであろう。——教会へのあかし・第六巻・六七ページ

真理が心の祭壇の上で燃えていると感じる人々や、正しい判断を持ち、心の平均を保って神に対し理性的熱意を持つ人々の手に握られる時、ペンは力である。純粹の真理の泉に浸されたペンは、地の暗い隅々に光線を送ることができる。そしてその光は光線を反射し、新しい力を加え、あらゆるところにまきちらすための光をますます増し与える。——ライフ・スケッチズ・二一四ページ

われわれの牧師たちは、説教することに全力を使い果たして、そこで働きをおしまいにしてはならない。彼らは教会員を指導し、みわざの一端（通信伝道）に携わり、これをりっぱに進める方法を教えねばならない。それは、トラクト配布や信徒伝道会にとって輪の中の輪のようなものである。この中の輪の回転が、外の輪に健全な、力強い働きをさせているのである。この中の輪の働きを止めさせればその結果、トラクト配布や信徒伝道会における生命と活力が減少して行くようになる。

——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一日

油断のない伝道者でいることにあきてはならない。これは、神と結びついていさえすれば、うまく携わることでできる仕事である。ようすを尋ねる手紙を書く前に、真のぶどうの木に接ぎ木され、神の栄光のために実を結ぶことでできる野生の枝を集める仕事に成功するよう、神に祈りをささげなさい。けんそんな心でこの働きに携わる人々は、みな、主のぶどう園の働き人として、絶えず自分を訓練していることになる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一日

## 第一章

# 医事伝道事業

### 第一に重要な働き

彼（イエス）の伝道生涯においては、説教よりも、病人をいやすために多くの時間が費やされた。

——ミニストリー・オブ・ヒーリング・五ページ

真の改革者の前に、医事伝道事業は多くの戸を開くであろう。——教会へのあかし・第七巻・六二ページ

本当の医事伝道事業とは、福音の実践である。——教会へのあかし・第八巻・一六八ページ  
医事伝道の働きは福音の開拓事業である。み言葉の宣伝と医事伝道の働きとによって福音はのべ伝えられ、実践されなければならない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一四四ページ  
世の救い主は、説教よりも病気に苦しむ人々をいやすためにもっと多くの時間と働きをささげら

れた。地上における主の代表者であった使徒たちにお与えになった最後のご命令は、病人が回復するように彼らの上にいやしの手をおくことであつた。主はこの地上に來られた時、病人を見舞つたり、悩み苦しむ者の困窮状態をやわらげた人々を賞賛されるのである。——教会へのあかし・第四卷・二二五ページ

主は、医事伝道事業によつて現代に対する救いの真理の紹介、すなわち、第三天使の使命宣伝の道を備えようと計画しておられる。この計画に應ずるとき、使命が光を失つたり、その進展がさまたげられたりすることはない。——教会へのあかし・第六卷・二九三ページ

まずはじめに、困っている者たちの物質的な必要を満たし、彼らの肉体的な要求や苦しみをやわらげなさい。そうすれば、あなたは彼らの心に通じる道を見出し、彼らの心に徳と宗教のよい種を植えつけることができる。——教会へのあかし・第四卷・二二七ページ

病人や失望落胆している人々を訪問し世話し、彼らに光を見てイエスを信ずる信仰を固めさせることほど、大きな靈的力が与えられ、より大いなる熱意を高め感情を深めるものはない。——教会へのあかし・第四卷・七五、七六ページ

## 聖なる模範

偉大な医事伝道者であられるキリストはわれわれの模範であられる。……主は病人をいやされ、福音を宣べ伝えられた主のみ働きにおいて、いやしと教えは密接につながっていた。今日もこれら

の二つは分離されるべきものではない。——教会へのあかし・第九巻・一七〇、一七一ページ  
 キリストのしもべは、主の模範に従うべきである。主はあちらこちら歩まれたとき、苦しむものを慰め、病気の者をいやされた。そして、そのあとで、主の王国の偉大な真理を彼らの前に示されたのである。これが主に従う者の働きである。——キリストの実物教訓・二一三ページ

主の子らと主張する人々は、キリストの模範に従わねばならない。同胞の肉体的苦しみをやわらげなさい。そうすれば彼らの感謝の気持ちは障壁をくずし、あなたが彼らの心に達することができるようになる。この事をよく考えなさい。——教会へのあかし・第九巻・一二七ページ

医事伝道者たちは特に、精神、言葉、性格において、自分たちが医事伝道事業の聖なる模範であるイエス・キリストに従っていることを示さねばならない。——教会へのあかし・第七巻・一二七ページ

### 福音伝道との結合

福音と医事伝道事業とは共に進まねばならない。福音は、真の健康改革の原則と結ばれるものである。キリスト教は実生活にとり入れられるものである。熱心に完全な改革事業が行なわれねばならない。……われわれは人々に健康改革の原則を紹介し、これらの原則の必要をわからせ、実行させるためにわれわれの力でできるだけのことをしなければならぬ。——教会へのあかし・第六巻・三七九ページ

わたしたちも弟子たちのように働くことは神の計画である。肉体をいやすことは福音伝道の任務と一つに結びつくものであり、福音の働きの中では、教えることと病をいやすことは決して分離させてはならない。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二ページ

医事伝道事業と福音伝道は、神が絶えずめぐみを注ぐうとしておられる通路である。彼らは神の教会の灌漑のためにいのちの川のようになるはずである。——バイブル・エコー・一九〇一年八月一二日

みことばを説く経験をした牧師たちは簡単な治療法を学び、それから医事伝道者として聡明に働こう。——教会へのあかし・第九巻・一七二ページ

文書伝道者は場所から場所へ歩きまわって、多くの病人を見つける。彼は病氣の原因に関する実際の知識を持ち、簡単な治療法を知っていて、苦しむ人々をやわらげねばならない。こればかりでなく彼は病人のために信仰をもって、簡単に祈り、彼らに偉大な医師であられる主を示さねばならない。彼がこうして神と共に歩み、共に働くとき、保護天使は彼のそばに仕え、人々の心に近づかせてくれる。忠実な、献身した文書伝道者たちに何と広い伝道分野がくり広げられていることだろう。彼は自分の仕事を勤勉に行なうことで実にすばらしい祝福を受けるのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇二年十一月二〇日

すべて福音宣伝者は、健康的な生活法則を人々に教えるのが自分に定められた仕事の一部と感じなければならぬ。この働きは非常に必要であって、世界はそのために開かれている。——ミニス

トリー・オブ・ヒーリング・一一八ページ

## 使命の右腕

医事伝道事業は、腕と手がからだについているように、第三天使の使命の働きに同じ関係を持っているべきことを、わたしは何度も教えられた。かしらであられるお方の指図のもとに、彼らはキリストの来臨のために道を備えるに当たって団結して働かねばならない。真理というからだの右腕は絶えず活躍し、絶えず働かねばならない、そうしてこそ神はそれを強めてくださる。しかしそれはからだの役をするのではない。また同時にからだは腕に向かって「おまえはいらない」とは言えない。からだは活動的、積極的な仕事をするために腕が必要である。両者にはそれぞれ定められた仕事がある、だから各々は互いに無関心に働くなら、大いなる損失を受けるであらう。――教会へのあかし・第六卷・二八八ページ

医事伝道事業は行なわれねばならない。・・・それは、手がからだのためにあるように、神のみわざのためにあるべきものである。――教会へのあかし・第八卷・一六〇ページ

## 神のご協力

キリストは苦しんでいるひとりびとりの魂の不幸をお感じになる。悪霊が人間の肉体を破滅させるときに、そのわざわざいをお感じになる。高熱に生命の流れが焼きつくされるときに、イエスはそ

の苦悩をお感じになる。そして主はご自分がこの地上にあられたときと同じに、いまもよろこんで病人をいやされる。キリストのしもべたちはキリストの代表者であって、キリストの働きのうつわである。主は彼らを通していやしの力を働かそうと望まれる。——各時代の希望・第三巻・三七一ページ

神はそのしもべをとおして病人や不運な者、悪霊につかれた者たちが、神のみ声をきくように計画なさっている。働き人をとおして、世がまだ知らないほどの慰め主となることをお望みになるのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七七ページ

キリストは医事伝道に携わる人々と協力なさる。——教会へのあかし・第七巻・五一ページ  
主は彼らを通して働かれた。彼らが行くところではどこでも、病人がいやされ、貧しい者は福音を説き聞かされた。——使徒の働き・一〇六ページ

キリストはもはやわれわれの都市や町や、村を歩かれ、病人をいやされるために人性をとられてこの世界に住んではおられないが、ご自分が始められた医事伝道事業を前進させることをわれわれにゆだねておられる。——教会へのあかし・第九巻・一六八ページ

### すべての教会の働き

すべての教会で伝えられるはずの、健康改革に関するメッセージがある。——教会へのあかし・

第六巻・三七〇ページ

医事伝道事業は、わが国においてはすべての教会の働きの一部でなければならない。——教会へのあかし・第六卷・二八九ページ

教会のすべての教会員が医事伝道事業に携わらねばならない時代にわれわれはやってきている。

——教会へのあかし・第七卷・六二ページ

健康改革の働きは、この世界に苦しむ人々を少なくし、神の教会をきよめるための主の手段である。肉体的、精神的健康を回復するために主であられる働き人と協力することによって、神の有用な手として働くことができるのだということを人々に教えなさい。この仕事は天の署名入りであり、その他のとうとい真理の入口の戸を開くのである。この働きを賢明にささえて働こうとする者すべてのために働き場がある。——教会へのあかし・第九卷・一一二、一一三ページ

われわれの前には嵐の時代がある。だが不信や失望の言葉を口に出さないようにしよう。われわれは罪と病を負う人々に満ちた世界にいやしの使命を伝えるのだということを覚えていよう。

——特別のあかし・シリーズB・八号・二四ページ

この働きは、正しく行なわれれば、教会に無視されていた気の毒な罪人をたくさん救うであろう。われわれの信仰を持っていない多くの人々は、与えるべき義務を持っているクリスチャンのその助けを待ち望んでいる。神の民たちが近隣の人々にほんとうの関心を示すなら、多くの人々はこの時代に与えられた特別の真理に導かれるはずである。近隣の人々を助けることほどこの働きを特色づけるものはないであろうし、また特色づけることはできないのである。神を愛し、神の戒めを守つ



ていると主張する人々が、キリストが働かれたように働くなら、今日多くの人々が使命を享有するにちがいない。医事伝道事業がこのようにして人々をキリストと真理に関する救いの知識に導くとき、そこに金銭と熱心な働きを投入しても安全である。なぜならそれは持続する働きだからである。

——教会へのあかし・第六巻・二八〇ページ

医事伝道には生き生きした興味があることをわれわれの信徒たちに示そう。これらの分野における指示として書かれた書物を研究することによって、役立つものとなるよう彼らに準備させよう。これらの書物はこれまでよりもっと注意を引き、評価を受ける価値のあるものである。健康の原則を教える特別の目的のために、理解されればすべての人々のためになる多くの事が書かれた。これらの原則を研究し、実行する人々は、肉体的にも、霊的にも大いに祝福される。健康の原理を理解することは、絶えず増加しているさまざまな悪に対する保護となる。——教会へのあかし・第七

巻・六三ページ

医事伝道事業は、墮落のどん底にある人々が不節制な、道楽癖に没頭していても、正しい仕事に応じるようになるということを知るようになることとわたしは教えられている。しかし彼らは認められ、励まされる必要がある。彼らを引き上げるためには、堅実な、忍耐強い、熱心な努力が要求される。彼らは自分でもと通りになることはできない。彼らはキリストの召しを聞くことはできるが、彼の耳は鈍いためにその意味を理解することができない、また彼らの目は盲目なために彼らのために貯えられているよいものを見ることができない。彼らは罪のうちに死んでいるのである。それでも

なお、これらの人々は福音の喜びから閉め出されてはいない。彼らは「来なさい」という招待を受けるのである。彼らはそれを受けるに値しないと感ずるかもしれないが、主は「彼らをはいらせなさい」と言われる。言いわけを聞いてはならない。愛と親切な心で正しく彼らをつかみなさい。

——教会へのあかし・第六巻・二七九、二八〇ページ

この方面の仕事（文書配布）に携わる人々は、医事伝道をする準備をして出かけねばならない。病人や苦しむ人々を助けねばならない。このめぐみの働きを受ける多くの人々はいのちのみ言葉を聞いて、受け入れるであらう。——教会へのあかし・第九巻・三四ページ

医事伝道事業を思慮深く行なう準備をしている者はだれか。……働き人はみな思慮深く有能でなければならぬ。それでこそ、高く広い意味で、イエスの中にあるような真理を伝えることができるのである。——教会へのあかし・第七巻・七〇ページ

主のみわざを進展させよう。医事伝道や教育事業を前進させよう。熱心な、献身的な、知的で有能な働き人が大いに不足しているのである。——教会へのあかし・第九巻・一六八、一六九ページ

健康改革の生きた原則をまるで知らない社会の人々に、これらの原則を彼らに携えて行かせよう。

——教会へのあかし・第九巻・一一八ページ

わたしは、健康改革教育者に前進せよと勧めるように教えられている。世界はあなたがたが道德的害悪の潮を押返すために働かすことができるすべての感化力を必要としている。第三天使の使命を伝える人々は自分たちの旗じるしに忠実でなければならない。——教会へのあかし・第九巻・一

## 医事拡張運動計画

働きがすでに確立されているわれわれの病院に新しく設けられた計画を助ける事で主に協力する機会を主はお与えになる。新しくできる機関はいずれも、第三天使の使命を宣伝する偉大な仕事において、姉妹関係にある助力者とみなされるはずである。神は、目に見えない手によってころがされる時、成長していく生氣に満ちた石のようになる一つの仕事を施行させる機会をわれわれの病院に与えておられる。この不思議な石に運動を始めさせよう。――教会へのあかし・第七卷・五九ページ

## 機関の働き

健康料理店や治療室が設立されねばならない。この方面におけるわれわれの努力はにぎやかな海岸の保養地をも包括していなければならない。荒野で「主の道を備えよ」というバプテスマのヨハネの声がきこえたように、主の使者たちの声が大きい旅行者や海岸の保養地で聞かれねばならない。――教会へのあかし・第七卷・五五、五六ページ

多くの都市では、料理店が治療所と続いていることが得策だという知識をわたしは与えられた。正しい原則を奨励するに当たってこの両者は協力することができ。これらに関係して、時には病

人が泊るのに役立つ部屋を持つことが賢明である。これらの施設はいなかにある病院の紹介所のよ  
うな役目を果たす。——教会へのあかし・第七巻・六〇ページ

主はわれわれの都市に与えるメッセージを持っておられる。われわれはこのメッセージをキャン  
プ集会や、その他の公衆伝道会や、また印刷物を通して宣伝しなければならない。これに更に衛生  
的な料理店が都市に設立され、これらを通して節制のメッセージが宣伝されねばならない。われわ  
れの料理店と連絡してさまざまな集会を開く取りきめがなされねばならない。できる時にはいつで  
も、健康学やクリスチャンの節制について講演をしてもらうためにお客たちを招くことができるよ  
うに、また、健康食の作り方や、その他重要な論題について教えを受けることができるように一部  
屋を準備しておくがよい。——教会へのあかし・第七巻・一一五ページ

われわれの料理店にはいる人々には読み物を与えねばならない。彼らの注意を節制や食事の改善  
について書かれたわれわれの印刷物に向けさせ、またキリストの教えを扱った小冊子も彼らに与え  
ねばならない。この読み物を補給する責任はわれわれ教会員みんなが負担しなければならない。や  
ってくる者みんなに何か読む物を渡さねばならない。トラクトを読まずに置いて行く人も多いであ  
ろうが、あなたがたが渡した人々の中には光を求めている人もいるであろう。そのような人々はあ  
なたがたが渡したものを読み、研究して、更にそれを他の人々に渡すであろう。——教会へのあか  
し・第七巻・一一六ページ

健康的な料理店と治療所を大都市の中心部に設立しなければならない主な理由の一つは、この方

法で指導的立場にある人々が第三天使の使命に注意を向けるようになるからだ。わたしは教えられた。これらの料理店が普通に経営されている料理店と全く違った方法で経営されていることに気づき、知的な人々は経営方法の違って理由を尋ねはじめ、そして、すぐれた食物をサーブするわれわれを導いている主義を研究するようになる。こうして彼らは現代のメッセージを知るようになるのである。——教会へのあかし・第七巻・一二二、一二三ページ

## 料理学校

医事伝道事業の行なわれているところではどこでも料理学校を開くよう奨励するようにとわたしは教えられた。人々を改心させる動機となるものをすべて彼らに紹介しなければならぬ。できるだけ多くの光を彼らの上に輝かせねばならない。食物を用意するにあたり、改良できることを全部教え、彼らが学ぶ事を他の人々に伝えるよう彼らに奨励しなさい。——福音宣伝者・三六二、三六三ページ

料理学校が設立されねばならない。健康食の作り方を人々に教えねばならない。身体に害のある食物を捨てる必要のあることを人々に示さねばならない。しかしわれわれは断食を主張してはならない。お茶、コーヒー、肉を使用せずに健康的で栄養のある食物をとることはできる。健康によく、食欲をもそそる食事の作り方を人々に教える働きは最も大切である。——教会へのあかし・第九巻・一二二ページ

## 時機を得たメッセージ

すべての教会員に、本当の伝道者たちに、第三天使の使命を信じている人々に安息日から背を向けて行った人々に、イザヤ書五八章のメッセージを考えるよう強く勧めても勧め過ぎることはないと思う。この章の中に命ぜられているよい働きは、現時代に神がその民に行なうようにと求めておられる働きである。それは神ご自身が任命された働きである。われわれはこのメッセージがどこに適用されるかと、その著しい成就の時にについて疑ってはいはならない。なぜなら「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる」と書かれているからである（イザヤ五八ノ一二）。

神の記念、第七日の安息日、世界の創造における神のみわざのしるしは罪の人によって置き換えられた。神の民は、神の律法の中にできた破れをつくらうことではなければならない特別の仕事を持っている。われわれが終わりに近づけば近づくほど、この仕事はますます緊急なものとなっていく。神を愛する人々はみな、神の戒めを守ることで神のしるしを保持していることを示すのである。彼らは市街をつくらって住むべき所となす者である。…ほんとうの医事伝道事業と、神の働きの大きい記念である安息日の事が特に述べられている神の戒めを遵守することとは分離できないほどに切っても切れない関係にある。またその遵守と人間の中に神の精神的像を再建する働きも互

いに深い関係にある。これこそ、神の民が現代遂行すべき仕事である。この仕事が正しく行なわれれば、教会は豊かに祝福されるのである。——教会へのあかし・第六巻・二六五、二六六ページ

## 第一二章

# 聖書研究

### 天来の計画

聖書研究を持つ計画は、天来の計画であつた。伝道事業のこの部門に携わることのできる人々は男も女もたくさんいる。働き人はこうして進歩し、神の有能な人々になるのである。この手段によつて神のみことばは多くの人々に与えられてきた。そして働き人はあらゆる民族、国語を持つ人々に個人的に交わるようになる。聖書は家族の中に運ばれて行き、その聖なる真理は良心にしみじみ訴えるようになる。人々は自分で読み、調べ、判断するよう求められ、神の啓発を受けるか拒むかの責任を取らねばならない。神はご自分のためのこのとうとい仕事に報いられないままに放任してはおきたまわない。神はみ名によってなされるけんそんな努力にはことごとく成功の栄冠をかむらせてくださるのである。——福音宣伝者・一九二ページ



われわれの働きは天父によって計画されてきた。われわれは聖書を取り、世界の人々に警告するために出て行くのである。われわれは救霊において神の手助けになる手、すなわち、神の愛が日々滅び行く者に流れて出て行く通路にならねばならない。——教会へのあかし・第九卷・一五〇ページ

### 明確な召し

多くの人々は戸別に訪問し、聖書研究を受け、求道者と共に祈るよう伝道地で働くようにと召されている。——教会へのあかし・第九卷・一七二ページ

多くの働き人は、戸別訪問の働きをなし、家庭において聖書研究を受けて、各自の分を果たさなければならぬ。——教会へのあかし・第九卷・一四一ページ

神に献身した婦人たちは戸ごとに訪問して聖書研究を受ける仕事に携わらねばならない。——教会へのあかし・第九卷・一二〇、一二一ページ

われわれは、キリストのみ足跡に従う者であるならば、われわれの奉仕を求めている人々に親しく近づかねばならない。さとり者に聖書を開き、神の律法の要求することを紹介し、ためらう者にみ約束を読み、不注意な者を覚醒させ、弱い者を強めなければならぬ。——福音宣伝者・三三六ページ

ピリポとエチオピア人の経験の中で、神がその民を召しておられる仕事を紹介されている。エチオピア人はピリポのような伝道者を、すなわち神のみ声に従い、神のおつかわりになるところに行

く伝道者たちを必要としている大きな社会を代表している。世には聖書を読んでいながらその意味を理解できない人々がいる。神についての知識を持っている人々は男も女も、これらの人々にみことばを説明する必要がある。——教会へのあかし・第八巻・五八、五九ページ

教会員の中には、もっと戸別訪問をして、聖書研究を授ける働きがなければならない人々がたくさんいる。——教会へのあかし・第九巻・一二七ページ

働き人は戸別訪問に行き、人々の前に聖書を開こう。——教会へのあかし・第九巻・一二三ページ  
多くの州には、現代の真理を受けたことのない、しかし勤勉で、裕福な農夫の開拓地がたくさんある。そのような地に働きかけねばならない。信徒をこの方面の働きに携わらせよう。書物を貸したり、売ったり、印刷物を配ったり、聖書研究を授けることによって、信徒は自分の近隣に多くの事をなすことができる。魂に対する愛に満たされ、多くの人々を改心させることができるような力でメッセージを宣伝することができるのである。——教会へのあかし・第九巻・三五ページ

### 感銘深い光景

たくさんの信徒が家庭を訪問し、神のみ言葉を開いている光景が見えた。人々は聖霊の力で罪を自覚し、本当の改心の気持ちを表わした。——教会へのあかし・第九巻・一二六ページ

二人の伝道者がある家庭にすわっていた。この二人は聖書を開いて、主イエス・キリストを罪をお許しになる救い主として紹介していた。神に熱心な祈りがささげられ、人々の心は和らげられ、

聖霊の感化力により心を動かされた。彼らの祈りは新鮮に、力強くささげられた。神のみ言葉が説明されたとき、わたしは、やわらかい、輝かしい光が聖書を明るく照らしたのを見た。そしてわたしは静かに、「道やかきねのあたりに出て行ってこの家がいつぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい」と言った。——教会へのあかし・第九巻・三五ページ

聖書を読んでいる人々で、本当の意味を理解することのできない人々がたくさんいる。世界中で人々が物思いに沈んで天を眺めている。祈りと涙とさまざまな質問が、光とめぐみと聖霊を求める人々から出る。王国の門の前に待っていて、みんなといっしょに入るばかりに用意のできている人がたくさんいる。——使徒の働き・一〇九ページ

### 働きの準備

イエスに従う者たちは、神のみ言葉を無視したまま満足していれば、神のみ心とご意志に従っていることにはならない。すべての者が聖書の研究者にならなければならない。キリストはしもべたちに、「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書はわたしについて、あかしをするものである」と言われた(ヨハネ五ノ三九)。「ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい」とペテロはわれわれに勧めている(ペテロ第一・三ノ一五)。——教会へのあかし・第二巻・六三三、六三四ページ

本当に改心した者は、暗黒の中にいて罪に滅びようとしている人々に光と救いのみ言葉を伝えることができるよう、聖書を知る知識にますます聡明にならねばならない。——教会へのあかし・第九卷・一一一ページ

われわれは、人々に神の最後の警告を与えなければならない。聖書研究にまた光をまき散らすことにどんなに熱心にならねばならないことか。聖なる光を受けている人々はみな、それを他の人々に与えよう。働き人は戸ごとに家を訪問し、人々に聖書を開き、印刷物を配布し、自分の魂を祝福してくれた光の事を他の人々に告げよう。——福音宣伝者・英文・三五三ページ

聖書研究を受ける働き人のための養成学校が進展しているとき、最もよく平均のとれた働きが遂行される。公衆伝道集会が開かれるときに、深い霊的理解力のある経験を積んだ働き人で、聖書研究を受ける信徒に毎日指示を与えたり、また一般の公衆伝道が進められるにあたって心から協力できる人がこの養成学校なり伝道センターに携わっていなければならない。——教会へのあかし・第九卷・一一一ページ

## 成功の秘訣

あなたが他の人々に紹介している聖なる真理があなたにとって生きた現実であるという印象を残すことができるように祈りにおいても、聖書研究や説教を受けるにも、熱意と熱情をこめなさい。イエスのためになす事は何でも、あるだけの力を注いで熱心に行ないなさい。自分は最高点にまで

達したのだ、だからもうそれ以上高くのぼれないと思ってはならない。…彼らに興味を起こさせるような方法で真理を紹介することができるよう、仕事にあなたの心を向けていなさい。彼らに紹介できる最も興味深い点を把握し、要点に正しく触れ、彼らの注意を集中させ、主の道に彼らを導きなさい。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八七年七月二六日

聖書を書いてある通りに人々に教えることで大きな働きをすることができ、人々の家にもれなく神のみことばを携えて行き、ひとりびとりの良心にそのわかりやすいことばを説き、「聖書を調べよ」という救い主のご命令をすべての人にくり返しなさい。聖書をありのままにとるよう、また神の教えを熱心に求めるよう勧めなさい。それから、光が輝いたときにその光線をことごとく喜んで受け入れ、恐れなく結果を待つよう勧めなさい。——教会へのあかし・第五巻・三八八ページ

### たのしい働き

聖書を他の人々に開くのはたのしい仕事である。——教会へのあかし・第九巻・一一八ページ  
暗黒にいる人に聖書を開きなさい。そうすればあなたは、真理のために働くことにあきたり、興味を失ったと言って不平をもらすことはないであろう。あなたの心は魂を切望することを悟るであろう。そして信仰のさまざまなあかしの中にあるよろこびが心に満ち、「物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される」ということを知るようになる（箴言一一ノ二五）。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八八年三月一三日

## 第一三章

# 印刷物の働き

### 第一に重要な仕事

もしどの働きよりもたいせつな働きがあるとすれば、それは私たちの出版物を人々に紹介し、聖書を学ぶように彼らを導く働きである。家庭に出版物を紹介し、彼らと共に語り、祈る伝道の働きはりっぱな働きであり、牧界の働きに携わるように人々を教育する働きである。――文書伝道・七ページ

セブンスデー・アドベンチストはみな「第三天使の使命を宣伝するためにわたしは何をすることができるだろうか」と自問してみよう。キリストは、弟子たちを通してこの使命を教会にお与えになるためにこの世界にこられた。それはあらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えられねばならない。そうするには、どうしなければならぬか。われわれの文書を配布することは、使命が宣伝

される一手段である。信者はみな、現代に対する使命を含んでいるトラクト、小冊子、書籍を広くまき散らそう。われわれの印刷物をあらゆるところに配布しに出かける文書伝道者が必要である。

——サザン・ウォッチマン・一九〇四年一月五日

トラクトや書籍は、現時代に当てられた使命を常に人々の前に紹介する主の手段である。魂を真理について教化させ、確認させるためには、印刷物は、牧師の言葉だけで成し遂げられるよりはるかに大きな働きをなすのである。文書伝道者の働きで人々の家庭に配られる無言の使者たちは、あらゆる方法で福音伝道を強める。なぜなら聖霊は、説教を聞く者の心に感銘を与えるように、それらの書物を読む者の心に感銘を与えるからである。真理を包含している書物には、牧師の言葉と同じように天使たちの奉仕が伴っているのである。——教会へのあかし・第六巻・三一五、三一六ページ

文書伝道事業を無気力な状態にしておいてはならない。現代の真理についての知識が包含されている書物ができるだけ多くの人々に紹介しなければならぬ。部会の部長や責任ある地位にいる人にはこの問題においてなすべき義務がある。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年四月二五日

世界はわれわれの書籍や定期刊行物に書かれた言葉の伝道を通して真の光を受けねばならない。われわれの印刷物は、すべての物の終りがもう間近いことを示していなければならない。——コルポーター・エバンジェリスト・一〇〇ページ

神はその民に活気のある人のように行動し、怠惰で、不活発で、無関心な者にならないようにと

求めておられる。われわれは人々に印刷物を紹介し、それを受けるよう勧めねばならない。——サ  
ザン・ウォッチマン・一九〇五年四月二五日

われわれの印刷物は今、福音の種をまいている。そして、説教をするのと同じように多くの魂を  
キリストに導くのに役立つている。すべての教会は印刷物の普及の結果起こったのである。キリス  
トの弟子はだれでもこの働きに参加することができる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八  
〇年六月一〇日

天からつかわされた使者がわれわれの真中に立って、警告と指示の言葉を語った。彼は、王国の  
福音がメッセージの欠乏のために滅び行く世界に与えられているメッセージであり、すでに印刷さ  
れたものや、これから発行されるわれわれの印刷物の中に書かれているような、このメッセージが  
近くや遠くにいる人々に普及されねばならないということをわれわれに明瞭にわからせた。——教  
会へのあかし・第九巻・六七ページ

書物の働きは、現時代の真理の聖なる光をすみやかに世の人々に与える手段とならねばならない。  
——教会へのあかし・第九巻・六九ページ

サタンは、道徳を低下させ、青年の心を毒するような文書をまき散らす、自分の仕事のこの部門  
に多忙である。信仰のない印刷物が国中にまき散らされる。教会員はみな、なぜ人々の心を高揚さ  
せる印刷物を配布し、彼らに直接真理を携えて行くことに深い興味を持たないのか。これらのパン  
フレットやトラクトは世の光のためであり、また、これまでしばしば魂を改心させる器となってきた



たのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一〇日

私たちは、よく準備された文書の配布によって達成される働きについて目ざめていなかった。今、私たちはキリストがパトモス島でヨハネにお与えになった使命を世の人々に理解させるために、雑誌や書物を賢明に用いて、断固とした態度で力を集中してみ言葉を伝えなければならない。——文書伝道・一四五ページ

教会員よ、われわれの文書配布の重要性に目ざめ、この仕事にもっと時間をささげなさい。幾つかの部門における福音を宣べ伝えるパンフレット、トラクト、書籍を人々の家庭に配りなさい。むだにする時間はない。多くの教会員は文書伝道の働きに自発的に、献身的に奉仕し、こうして非常に必要とされている警告を与える助力をしなければならない。教会は任命された仕事を始める時、「日のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のよう」に出て行くのである（雅歌六ノ一〇）。——サザン・ウォッチマン・一九〇二年一月二〇日

真理の光は牧師の働きを通してその輝かしい光線を世に発散している。しかし出版物は、牧師の働きでは手の届かない多くの人々に達する一手段である。——教会へのあかし・第五卷・三八八ページ

試練の夜はほとんど過ぎた。サタンは自分の時の短いことを知っているので、自分の老練な力を知らせようとしている。神の懲罰は世界にかかり、真理を知っている人々みんなに主であられる岩のさけ目に身をかくし、神の栄光を見るようにと命じるのである。真理はおおい隠されていてはな

らない。明瞭な言葉で述べられねばならない。ありのままの真理が小冊子やパンフレットに書かれ、秋の木の葉のようにまき散らされねばならない。——教会へのあかし・第九巻・二三一ページ

真理が書かれているこれら無言の使者を人々に運んで行く仕事に従事する文書伝道者が必要である。その文書伝道者とは、魂のために責任を感じる人、また光を求めている人々に好時期に言葉語る事ができる人である。「わたしは牧師ではない。わたしは人々に説教する事はできない」とある人は言うかもしれない。あなたは説教をする事はできないかもしれないが、あなたは伝道者になって、接する人々の必要にこたえることができる。あなたは弟子たちが働いたように働いて神の助け手となる事ができる。あなたは会う人々に主イエスを愛するかどうかを尋ねることができる。

——サザン・ウォッチマン・一九〇二年一月二〇日

### 効果的な機関である出版所

セブンスデー・アドベンチストは、世と分離した特別の民として、神に選ばれている。神は、真理という偉大な道具で石切場である世から彼らを切り出され、神につながるよう導かれたのである。神は彼らを神の代表者となし、救いの最後の仕事における神の大使とするために彼らを召されたのである。かつて人類にまかせられたことのないほど偉大な真理の富、神から人類にこれまで与えられたことのないほど壮厳で、恐ろしい警告がこの世界に与えられるようにと彼らにゆだねられている。この働きの完成にあたり、われわれの出版所は、最も効果的な機関の一つである。——教会へ

のあかし・第七巻・一三八ページ

われわれの出版事業は神の指示により神の特別な監督のもとに設立された。——教会へのあかし・第七巻・一三八ページ

大いなる権威を持って天から下ってきて、地を彼の栄光で輝かすもう一人の天使の働きが出版所を通して、広範囲に完成されねばならない。——教会へのあかし・第七巻・一四〇ページ

わたしは、われわれの出版所に次の事を言うよう命じられている。「旗を掲げなさい。その旗をより高く掲げなさい。全世界の人々が第三天使の使命を聞くことができるように、それを宣伝しなさい。『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』』ということをお知らせよう（黙示録一四ノ一二）。われわれの文書が全世界の人々に対するあかしとしてその使命を伝えるようにさせよう。——教会へのあかし・第九巻・六一ページ

## 出版事業の拡張

現時代に与えられた真理を信じるあなたがたは、目をさましなさい。真理を知っている人々がそれを宣伝するのに役立つ手段をことごとく取り入れることはあなたがたの義務である。われわれの印刷物を売った収入の一部は、盲目の目を開き、耕されていない心の地を耕す文書を更に発行する設備をふやすために用いられねばならない。——教会へのあかし・第九巻・六二ページ

数年前主は、現代の真理に関する知識を包含する文書を発行するために、アメリカ、ヨーロッパ、

その他の国々のあちこちに印刷所が建てられるよう、特別の指示をわたしにお与えになった。招待と警告のメッセージを印刷所から世に送り出すためにあらゆる努力を払わねばならないという指示を神はお与えになった。ある人々は他の方法では接触できないがわれわれの文書に接するのである。われわれの書籍や文書から知識の輝かしい光線が現代の真理に関し、この世を教化するために輝くのである。——教会へのあかし・第八卷・八七ページ

われわれの印刷物が種々の国語に印刷され、たとえどんな犠牲を払っても文明国に送られねばならないことをわたしは示された。魂の価値に比べれば現代のお金の価値はどうだろうか。われわれの財産の一つ一つのお金は自分のものでなく主のものともみなされねばならない。そして、神からわれわれにゆだねられたものとして、不必要な道楽のために浪費するのではなく、神の御目的のために、人々を破滅から救う働きのために慎重に用いられねばならない。——ホワイト夫人略伝・二一四ページ

印刷された真理のみ言葉は、いろいろな国語に翻訳され、地の果てにまで運ばれて行かねばならない。——教会へのあかし・第九卷・二六ページ

これらの印刷物はあらゆる国語に訳されねばならない。なぜなら全世界に福音は宣べ伝えられねばならないからである。すべての働き人にキリストは働きを成功させる天来の能力を約束しておられる。——教会へのあかし・第九卷・三四ページ

私たちの出版物はどこにでも行かなければならない。多くの国語で発行しなさい。第三天使の使

命はこの手段によって、またいける教師によって宣伝されなければならない。現代に与えられた真理を信じるあなたがたは目ざめなさい。——文書伝道・四ページ

神の民の多くは、第三天使の使命が宣べ伝えられていないところへわれわれの印刷物を携えて行かねばならない。われわれの書物は多くの違った国語で出版されねばならない。これらの書物を携えて他の方法では決して教化されないであろう人々に真理を携えて行くために、文書伝道者として、けんそんに、忠実に出て行かねばならない。——教会へのあかし・第九卷・三三、三四ページ

都市から都市へ、いなかからいなかへ救い主が間もなく来られるというみ約束の書かれている印刷物を運んで行かねばならない。——教会へのあかし・第九卷・三四ページ

印刷物がすでに他の国々ではある人々の心に働きかけて、偏見や迷信の壁を打ち砕いていることをわたしは示された。わたしは、人々が現時代の真理について書かれた文書や数ページのトラクトを非常に興味深く研究している人々を示された。これまで不明であつた真理の論題が明らかにされ、特に、第四条の戒めである安息日に関しての知識が明らかにされる時、彼らはそうした驚くべき、新しい証拠を読み、深い新たな興味を持って聖書を開くであろう。これらの事が真実かどうかと聖書を探求した時、新しい光が彼らの理解力の上に輝いた。天使たちが彼らの上を舞っていて、彼らが読んでいた出版物に含まれている真理を彼らの心に刻みつけていたからである。

わたしは、彼らが片手に文書やトラクトを持ち、片手に聖書を持っているのを見た。彼らの両ほは涙にぬれていた。彼らはすべての真理に導かれるようにと神のみ前にぬかずき、熱心に、けん

そこに祈っていたのであるが、その事は、彼らが求める前に神が彼らを導いておられたのである。そして彼らが真理を受け入れて、真理の調和したつながりを見た時、聖書は彼らにとって新しい書物となった。彼らは感謝と喜びに満ち、それを胸にしっかりだいた。彼らの表情は幸福と聖なる喜びに輝いていた。

これらの人々は単に光をたのしむことで満足したのではなく、他の人々のために働き始めたのである。ある者は真理のために大きな犠牲を払って、暗黒にいる人々を助けた。このように、他の国語で書かれたトラクトや文書の配布に大きな働きをする道が備えられつつあるのである。——ホワイト夫人略伝・二一四、二一五ページ

### 自由に配布する機会

汽車の中や市街で、また定期的に海を幾マイルも往復する大船の中で文書を賢明に配布しよう。

——福音宣伝者・三五三ページ

旅行のしやすくなった近年はイスラエルの時代より遙かに、あらゆる階級の人々、諸国民と交わる機会が多い。交通の往来は非常に増加してきた。神はすばらしい道を備えておられる。多様の設備のある印刷所をわれわれは自由にできる。聖書や多くの国語に訳された出版物は、現時代の真理を示していて、われわれの手中にあり、世界のあらゆるところに、すみやかに運ばれて行けるのである。——福音宣伝者・三五二ページ

小冊子、トラクト、雑誌、書籍類をあらゆる方面に配ろう。出かけるところにはどこへでも、機会がある時に手渡すことができるよう、選んだトラクトの包みを携えて行こう。あなたが自分で売れると思うものを売り、必要な場合には、それらの印刷物を貸したり、与えたりなさい。たいせつな結果が伴うであろう。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一日

わたしは、われわれが小さな印刷物の無料配布においての義務を果たしていないことを示された。この手段によってのみ真理に導かれる正直な人々はたくさんいる。……四ページ、あるいは八ページ、十六ページの小さなトラクトは、自発的な気持ちのある人々の寄付で集められた資金からわずかの金額で備えることができる。友だちに手紙を書く時、郵便料金を余計に払わずにトラクトを一、二部同封することができる。車や船や駅の中で、聞く耳を持っていそうな人に会ったら、トラクトを渡すことができる。——教会へのあかし・第一巻・五五一、五五二ページ

### 購読を取りなさい

姉妹がたは定期刊行物の購読を取り、こうして、多くの人々の心に光を携えて行くことができる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八〇年六月一日

われわれは今日、真理をまき散らすために大いに便宜がある。しかしわれわれの信徒は、与えられている特権を受けるまでに至っていない。彼らはどの教会でも自分たちの才能を救霊のために用いることの必要を知らず、また感じていない。彼らは健康に関する雑誌を含めたわれわれの定期刊

行物の購読を取ったり、書籍やパンフレットを紹介する義務を認識していない。——教会へのあかし・第四巻・三九一ページ

## 書籍の販売

悲しみ落胆して信仰と信頼に弱くなっている人々がたくさんいる。そういう人々は何かをして自分たちよりもっと乏しい人々を助けよう。そうすれば自分たちも神の力によって強められるのである。彼らは文書販売に携わるようにしよう。こうして他の人々を助ければその経験によって、自分たちが神の助け手であるという確信を持つようになる。彼らが主にみ助けを求めるとき、神は光を求めている人々のところへ導いてくださる。キリストは彼らのそばにあられて、彼らの語るべきことを行なうべきことを教えてくださる。彼らは他の人々を慰め励ますことによって、自分自身も励め励まされるのである。——文書伝道・二二ページ

## 都市で働きなさい

われわれは、偉大な仕事を成し遂げるべき時代に住んでいる。この国には純粹の福音に対する飢饉が起こっているのであるから、いのちのパンを飢えた人々に与えねばならない。この仕事をするにあたって献身している文書伝道者に提供されている以上によい機会はない。現時代のとうとい光を包含する多くの書物を大都市に住む人々の家庭に配らねばならない。——サザン・ウォッチマン



・一九〇二年一月二〇日

祝福された、救霊の聖書の真理は、われわれの印刷物に印刷されている。われわれの定期刊行物を売る仕事を助けることのできる人々がたくさんいる。主は滅び行く魂を救うようにと、われわれすべての者を召しておられる。サタンはその選民をあざむこうと働いている。今こそ警戒を怠りなく、われわれの働く時である。現代の真理の福音は、猶予なく都市に伝えられねばならない。われわれは自分の義務に目ざめないのだろうか。——教会へのあかし・第九巻・六三ページ

### 健康に関する文書

文書伝道者は、訪問する人々の注意をわれわれの健康に関する印刷物に向けさせ、病人の世話や病気の治療に関する事を包含するこれらの定期刊行物に貴重な指示の与えられていることを彼らに話さねばならない。この指示は、研究され、実行されれば家族に健康を運んでくるのだということ、を彼らに話さない。すべての家族にとって生命の科学を理解することがどんなにたいせつであるかを説明しなさい。身体という驚くべき機械を造られ、それを常に運転させておられる神に彼らの心を向けさせ、神と協力してわれわれのすべての機能や器官を賢く管理することがわれわれのなすべき分であることを彼らに教えなさい。

身体に正しい注意を払うことは大きな義務であり、身体各部分について聡明な知識を要求する。食欲や情欲を満足させるために身体の機械を酷使し、その働きを弱めたり、困難にさせれば、それ

は神をけがすことになる。彼らに教えなさい。あなたが売るために持っている書物は健康に関していろいろ貴重な指示を与えてくれること、また、この指示を実行することによって、苦しみや、医者への請求書の支払いに使われるお金をかなり節約できるということ。彼らに教えなさい。またこれらの書物の中には、彼らが医者をつねる短い時間に医者から与えてくれる忠告からは得られない忠告があることを彼らに告げなさい。——サザン・ウォッチマン・一九〇二年一月二〇日

青年が同胞を救いたいという熱望に満たされて文書伝道に従事するとき、彼らは人々が改心するのを見るのである。彼らの働きから主のための収穫が刈り取られる。それから、いやになっている人々に時にかなって話す言葉を知る事ができるよう、絶えず光と知識がまし加えられるよう祈りつつ、伝道者として、現代の真理を伝えるために出て行かせよう。彼らは、こうして主のために使命を果たしているのだという事を自覚しつつ、親切な行為をなすためにあらゆる機会を利用しなければならぬ。……彼らは働きに携わる時、常に何か健康に関する書物を携えて行かねばならぬ。なぜなら健康改革は使命の右手だからである。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年一月一五日

### 差別なく配布せよ

牧師の声を聞くことのできないところで、人々が必要とする聖書の真理に満たされている書籍、雑誌、トラクトなど、印刷物だけを配達できるところがたくさんある。われわれの文書はどこにでも配布されねばならない、真理はすべての水のほとりにまかれねばならない。なぜなら、われわれ

は、これか、あれか、どちらが成長するかわからないからである。われわれの誤った判断力で、最もすみやかに真理を受けるはずの人に、文書を与えるのは愚かなことだと考えてしまうかもしれない。現代の真理が書かれている小冊子を配布することで、どれがよい結果になるか、われわれにはわからないのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年一月五日

### 真理の書かれた断片を大切にせよ

二、三個のパンと魚で群衆を養った奇跡の中で、食物は、キリストから、それを受ける人々の手に渡った時にふえたのである。われわれの文書配布においてもこのようなことは起こるであろう。神の真理は、伝えられて行く時、大いに増加して行くのである。そして、キリストの指示により、弟子たちが、一つもなくならないよう、そのくずを集めたようにわれわれも、現代に対する真理の書かれた文書の断片をことごとく大切にしておかねばならない。第三天使の使命の書かれた破れた一枚でさえ、真理を求める者の心に及ぼすかもしれないその影響を判断できる者はだれもない。

——サザン・ウォッチマン・一九〇四年一月五日

### 保管所を設けよ

重要な場所にはどこにでも印刷物の保管所がなければならぬ。そして真理の価値を本当に評価する者は、これらの本を読みそうな人々の手にもれなく渡すことに興味を示さねばならない。

——教会へのあかし・第一巻・四七三ページ

### 天使が道を備える

わたしは、現代の真理についての働きがすべての者の関心を引かねばならないことを見た。真理を発行することは、その無言の声なき使者である印刷物を手にするすべての人を警告し、慰め、叱り、忠告し、あるいは自覚させる手段として神がお定めになった計画である。神の天使は、人々の心が出版された真理によってきよめられ彼らの前にある厳粛な光景に備えができるようにと準備させる役目を持っている。——教会へのあかし・第一巻・五九〇ページ

## 第四章

# 宗教自由

### 適切な祈り

「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」とダビデは祈った。この祈りは、現代にも同じように適切である。世界は神から迷い出た。人々はその不法な状態に当然恐怖をいだくだろう。そして偉大な王であられる主に忠実な人々はみな、改革のために働くようになるだろう。ローマ法王の権力は偽りの安息日をエホバの安息日と置きかえて、神の律法を変えようと思った。そして、宗教界全体にわたって偽りの安息日があがめられ、一方、真の安息日は不信心な者たちに踏みつけられている。...

キリストとその天使たち及びサタンとその天使たちの間にやってくる闘争の最後の大きな争いは、神の律法に関するものであり、それは全世界を終局に導くものであろう。...責任ある地位にいる

人々は、安息日を無視したり、軽んじるばかりでなく、神聖な講壇から、週の第一日を遵守するよう人々に勧め、この人間の作った制度のために伝説や慣習を強調するだろう。彼らは陸地や海上の災害、すなわち、暴風、洪水、地震、火災をさし、日曜日をきよく遵守しないための、神の不快を示すさばきとするだろう。これらの災害はますます増加し、次々に続く。そして神の律法を無効にする人々は第四の戒めの安息日を守っている少数の人々を世に怒りをもたらす者として指摘する。このいつわりは、軽率な者をわなに陥れようとするサタンの計画である。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年六月二八日

### やってくる事件

われわれの民は、注目に値しない、取るに足りないものとみなされてきた。しかし、変化がやってくる。今やキリスト教界は、戒めを守る民を必然的に顕著なものにさせるような運動を起こしつつある。人間が作り出した論理や教理で絶えず神の真理を押しつけようとするものがある。神に忠実でありたいと願う人々の良心を盲従させる運動が起こりつつある。立法の権力が神の民に立ち向かうであろう。人々はみな試みられる。——教会へのあかし・第五卷・五四六ページ

人々は、まっとうから神の律法に反対する法律を称揚し、厳しく強要する。彼らは熱心に彼らの戒めを強要するが「主はこう言われる」という明白な言葉を顧みようとしない。彼らは、偽りの安息日を称揚し、ご品性の写しであるエホバの律法を汚すよう人々に強要する。神のしもべたちは何

も悪いことをしないのに、サタンにそそのかされて、ねたみと宗教的頑迷に満たされた人々によって、屈辱とのしりの苦しみを受ける。——教会へのあかし・第九卷・二二九ページ

信仰の告白によって天に結ばれ、小羊の特性を持つと主張する宗教的権力は、彼らが龍の心を持ち、サタンに扇動され支配されていることをその行動によって示すであろう。神の民たちが、第七日をきよく保つという理由で迫害を受ける時は迫っている。∴しかし神の民たちは神のために堅く立つのである。そして主はご自身が神々の神であられることをはっきりお示しになり、彼らのために働かれる。——教会へのあかし・第九卷・二二九、二三〇ページ

サタンが人間を扇動して考え出させるあらゆる軽べつ、恥辱、残酷な行為が、イエスに従う者たちに投げかけられた。そしてそれは再び著しい方法で実行されるであろう。なぜなら肉の心は今もなお神の律法に反目しており、神の戒めに従わないであろうから。世界は、使徒時代と同様に、今日もキリストの原則と一致していない。「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」と扇動的に叫んだ同じ憎しみ、弟子たちの迫害へと導いた同じ憎しみが、今なお、不従順の子らに働きかけている。暗黒時代に人々を監獄に渡し、追放し、死に至らせた同じ精神、尋問の巧妙な拷問を考え、セント・バーソロミューの虐殺を計画し実行し、また、スミスフィールドの火を燃やした同じ精神が今もなお更生しない心に有害な力で働いている。真理の歴史は常に善悪間の闘争の記録であった。福音の宣伝は、この世界において、反対、危険、損害、苦悩に直面しながらも、進められてきた。

——使徒たちの働き・八四、八五ページ

残りの教会は大いなる試練と災難に引き込まれるであろう。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ち続ける者は龍とその軍勢の怒りを受ける。サタンは世界を自分の臣下とみなし、背信の教会を支配している。しかしここに彼の主権を拒むある小団体がある。もしサタンが彼らを地から抹殺できれば、彼の勝利は完成するであろう。彼はイスラエルの人々を滅ぼすために異教国を扇動したように神の民を滅ぼそうと近い将来に地上の悪の権力をかきたてるであろう。すべての者は神の律法を犯して人間の法令に従うことを要求される。神と義務とに真実な者はおびやかされ、非難され、追放される。彼らは「両親、兄弟、親族、友人」にさえ裏切られる。——教会へのあかし・第

九巻・二三一ページ

試みがすべての者にやって来る時は、遠いことではない。われわれは偽りの安息日遵守を強制されるようになる。神の戒めと人間の戒めとの争いがあるだろう。世的な要求に一步步つ屈服し、世の習慣に従っている人々は、ちよう笑、侮辱、おどしの投獄、そして死に身をゆだねるよりはむしろ、時の権力に屈服するのである。その時、金とかすは分離される。∴われわれが輝かしさを称賛していた多くの星は、その時暗黒の中に消えて行く。聖所の装飾を身につけているが、キリストの義をまわっていない人々は、その時彼らの裸を恥じるようになるのである。——預言者と王・一八八ページ

われわれの前途には、人間の法律によつて無効にされる神の律法を擁護するために投獄されたり、財産あるいは生命さえも失う危険のある戦いが続くであろう。——教会へのあかし・第五巻・七一



## 二ページ

真理の防衛に立つ人々が、キリストの苦悩を共にすることの意味を経験によって知る時が近づいている。ひどい圧制者は、働く時の短いこと、また、人間を手中に入れることができなくなることで、彼の力が取り去られることを知り、滅び行く人々にあらゆる不義のまどわしで働きかける。迷信や誤謬が真理と正義と公正を踏みにじっている。真理に敵対する力はことごとく強固になってきている。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年一〇月三一日

教会は、平和で繁栄している時にしなかった働きを恐ろしい危機に、最も失望的な陰悪な環境のもとに行なわねばならないであろう。世俗への迎合のため、これまで沈黙し、差し控えていた警告を、信仰の敵からの最も恐ろしい反対のもとに与えねばならない。そしてその時、みわざの進展を着実に遅らせる影響力を与えてきた、浅薄で、保守的な階級は信仰を捨て、これまで長らく共鳴してきた自ら認めた敵たちの側に立つてであろう。これらの背信者は、それから、以前の兄弟を迫害し、そしり、また彼らに対する怒りをあおりたてるために全力をしぼって、最も痛烈な敵意を示すのである。この日がまさにわれわれの前に迫っている。教会員は各々試みられ、ためされる。彼らは真理のためにあかしを強要されるような環境に置かれる。多くの者は呼び出されて、恐らく他の人と別々に一人で会議や法廷で話さねばならないであろう。この危急に彼らの役に立つはずの経験を彼らは怠って受けずにきた。そして、彼らはこれまでおだにした数々の機会や、怠ってきた特権に対する後悔に心のつぶれる思いをする。——教会へのあかし・第五卷・四六三ページ

今日の新教界は安息日を守っている小グループの中に、門にすわっていたモルデカイのような人を見る。神の律法を崇拜する彼の品性と態度は、主に對する恐れをかなぐり捨てて、主の安息日を踏みにじっている人々を絶えずけん責する。招かれない侵入者を何とかしてその道から引き出さねばならないのである。——教会へのあかし・第五卷・四五〇ページ

サタンは、良心的に一般の習慣や因襲を受け入れない、けんそんな少数の人々に怒りを爆発させるであろう。身分のある人や、名声のある人々は、法律に従わない者や、いやしい者に加わって神の民に反対しようと協議するであろう。富、天才、教育のある者たちが彼らを軽べつしようと共に働くであろう。迫害する指導者や牧師や教会員は彼らに對して計略をめぐらすであろう。声を出して語り、ペンで書き、誇り、おどし、ちよう笑して彼らの信仰をくつがえそうとするだろう。誤った主張と怒りの訴えで人々の激情をかき立てるであろう。彼らは、聖書の安息日擁護者に反対しようとして、「聖書にこう書いてある」という証明もせず、不足を補うために苛酷な法令に助けを求めるであろう。一般からのよい評判と後援を得るために法律制定者は日曜日法令に對する要求を許すであろう。……この戦場に真理と誤りとの間に一大闘争がやってくる。——教会へのあかし・第五卷・四五〇、四五一ページ

### 必ずやってくる迫害

彼らは迫害によってまき散らされた時、伝道の熱意に燃えて出て行った。彼らは自分たちの使命

の責任を認識していた。彼らは飢えている世界のためにいのちのパンを持っていることを知っていた。そしてキリストの愛に強く迫られて、困っていた人々にこのパンをさき与えた。——使徒の働き・一〇六ページ

神は試みの真理を前面におし出し、たとえそれが侮られても、それを通して調査と討論の主題になるようにという意図であられる。人々の心は興奮するにちがいない。あらゆる闘争、あらゆる叱責、あらゆる誹謗は感情を刺激して研究させ他の方法では眠ってしまう人々の心を目覚めさせる神の手段となるであろう。——教会へのあかし・第五卷・四五三ページ

### なぜ迫害は沈滞しているのか

使徒パウロは「いったい、キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」と宣べている。では、迫害が大いに沈滞しているように見えるのはどうしたことか。唯一の理由は、教会が世俗の標準に妥協しているため、反対も起こらないのである。今日世に迎合されている宗教は、キリストやその使徒たちの時代にクリスチャンの信仰を特色づけた、純潔な、神聖な性格を持っていない。キリスト教が世に人気があるようにみえるのは、ひとえに罪と妥協する精神、つまり、神のみ言葉の偉大な真理が著しく無視され、また、教会にたいせつな敬けんの念が乏しいからである。ゆえに初代教会の信仰と能力が復興するなら迫害精神も復興し、迫害の火は点ぜられるであろう。——大争闘・英文・四八ページ

### 三者結合による迫害

靈魂不滅、日曜日神聖説の二大誤謬を通し、サタンは人々をまどわしに陥れる。前者は降神術の基礎となるものであり、後者は□ーマ教会に共鳴するきずなとなる。米国の新教徒は率先して手を伸ばし深淵の向こうにある降神術の手をとると共に、奈落の向こうにある□ーマ教会の権力と握手しようとして手を伸ばすであろう。この三者の結合による勢力のもとに、米国は良心の権利を踏みにじる□ーマのあとに従うようになるのである。——大争闘・英文・五八八ページ

### ドラマの最後の場面

人間の律法を神の律法に置き換えることが、すなわち、単に人間の権威により、聖書の安息日の代わりに日曜日を高めることが、ドラマの最後の場面になる。この置き換えが世界的になる時、神はご自身を現わされる。神は威厳をもって立ち上がりこの地を激しくゆり動かされる。神はそのおられる所を出られ、地に住む者の不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやあおうことがない。——教会へのあかし・第七巻・一四一ページ

わが国（注・米国）が、その政治の原則を放棄して日曜日休業令を制定するとき、新教はこの行為において、法王と提携する。それは活動的な専制政治へと再び躍進する機会を長い間、熱心に待ち受けていた専制主義に生命を与えることにほかならない。——教会へのあかし・第五巻・七一二

ページ

神の律法を犯して法王の制度を強制する法令を出すことによって、わが国（注・米国）は全く義から絶縁される。新教教会が手を伸ばし、深淵の向こうにあるローマ教会の権力の手を取り、奈落の向こうにある降神術と握手しようと手をのばす時、また、この三者の結合による勢力下に米国が新教共和国政体としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王のいつわりとあざむきの宣伝に道を備えるその時こそ、われわれは、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである。——教会へのあかし・第五卷・四五一ページ

初代の弟子たちのように、われわれも、わびしい、人里離れた場所にかくれがを捜さねばならない時はほど遠くない。ローマ軍によるエルサレム包囲がユダヤのクリスチャンに対する逃避の合図となったように、米国が権力を帯びてローマ教の安息日を強要する法令を出すようになったら、それはわれわれに対する警告となる。その時こそ、比較的小さな都会に先立ってまず大都会を離れ、山間の人里離れた所にかくれがを求める時である。——教会へのあかし・第五卷・四六四、四六五ページ

### 盲目の目を持つ者たち

多くの者が、日曜休業令の運動に携わっている人々でさえ、この運動に従う結果について盲目的になっている。彼らは自分たちが直接宗教自由に打撃を与えているのだということを知らない。聖

書の安息日の主張や、日曜日休業制度が置かれている誤った根底を全く理解していない者が大ぜいいる。——教会へのあかし・第五卷・七一一ページ

### 神の民の責任と義務

当時から福音教会の創始者や、神の証人たちにより何世紀もの間、かかげられてきた真理と宗教自由のみ旗は、この最後の闘争において、われわれの手にゆだねられている。この大きな賜物に対する責任は、神がみ言葉を知る知識を与えたもうた人々の上にかかっている。われわれはこのみ言葉を至高の権威として受け入れねばならない。われわれは人間の政治を神が任命された条令として認め、その正当な範囲において神聖な義務としてそれに従うよう教えねばならない。しかしその主張が神の主張に相反する場合、人々よりむしろ神に従わねばならない。神のみ言葉は、人間のどんな法律より上位のものと認められねばならない。「主はこう言われる」ということは、「教会はこう言う」とか「国家はこう言う」ということでわきにのけられてはならない。キリストの冠は、地上の主権者の王冠の上にかかげられるはずである。——使徒の働き・六八、六九ページ

われわれは、一つの民として神からゆだねられている働きを完成していない。日曜日休業令もたらす結果に対し準備ができていない。危機の近づいているしを見ているのであるから、立ち上がって実行するのがわれわれの義務である。この働きは預言されているのだから進展するにちがいないとか、主はその民を保護してくださるなどと思い込んで安閑とすわっている者のないように

しよう。良心の自由を保つことを何もせずに、じっとすわっているだけならば、神のみこころを行なっていることにはならない。長い間おろそかにされていたみわざを完成することが出来るまで、この災難が延ばされるよう、熱心な、効果的な祈りが天にのぼって行かねばならない。もっと熱心に祈ろう。そして、その祈りと調和した働きをしよう。——教会へのあかし・第五巻・七一三、七一四ページ

今にも起こりそうな危険を避けるよう全力をつくすことがわれわれの義務である。人々の前にわれわれ自身を正しく紹介することによって偏見を取り除くよう努力しなければならない。また、論争中の本当の問題を彼らの前に持って行き、こうして、良心の自由を制限しようとする種々の手段に最も効果的に反対すべきである。——教会へのあかし・第五巻・四五二ページ

神がわれわれに危険を示す光をお与えになっている時に、それを人々に携えて行くためのあらゆる努力を払うことを怠るとすれば、どうしてわれわれは神の前に立つことができようか。いったいわれわれは、警告せずに彼らをこの重大な結果に直面させるままに満足できるだろうか。——教会へのあかし・第五巻・七一二ページ

国家の改革者たちが宗教の自由を制限する法律を強要し始めた時、われわれの指導者たちはこの状態に気づかなければならなかった、そして、これらの運動を妨げるために熱心に働くべきであった。光、すなわち、この時代にわれわれの民が必要とした現代の真理を彼らに知らせないでおくことは、神のご命令中にはない。第三天使の使命を与えている伝道者たちのみんながみんなその使命

を構成しているものを本当に理解してはいない。国家改革運動は、ある者たちにほとんど重大なものでないとみなされてきた。そして彼らはそれに大して注意を向ける必要はないと思っており、またそうすることで第三天使の使命とは別個の諸問題に時間をかけていることになると思っていた。現時代のこの使命をこのように解釈したわれわれの兄弟たちを主がゆるしたまわんことを。

——教会へのあかし・第五巻・七一五ページ

われわれはこの国（注・米国）で日曜日休業令が制定されることを何年も見守ってきた。そして、この運動が正にわれわれの上にかかっているからには、われわれの民はこの事で義務を果たしているだろうかと尋ねたい。われわれは旗をかがげ、また、宗教の権利と特権を尊重する人々を前戦に呼び出すことに助力できないだろうか。人より神に従うことを選ぶ人々が迫害の手を感じさせられる時はすみやかに近づいている。神の聖なる戒めが足の下に踏みにじられているのを黙って見ていれば、神をけがしたことになるだろうか。新教界がローマに譲歩する態度を取っている間に、われわれはこの事態を理解するために覚醒し、目前に起こっている争いの真の立場を検討しよう。見張りの者は今、声をあげ、現時代の真理であるメッセージを与えよう。われわれが今、預言的歴史のどこにいるかを人々に示し、真のプロテスタント精神をかきたてるようにし、これまで享受してきた宗教自由の特権の価値を認識するように世の人々を目ざめさせよう。——教会へのあかし・第七巻・七一六ページ

われわれの国（注・米国）の人々は、国民の自由と宗教の自由に対するこの最も危険な敵が押し



寄せてくるのをくいとめるために目ざめさせられる必要がある。——預言の霊・第四卷・三八二ページ

われわれは手をこまぬいて、この危機に何もせずわってよいだろうか。……神よ何年もの間われわれの陥っているマヒ状態から目ざめさせたまえ。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八八年一月一八日

### 実行すべき賢明な策

日曜日休業令を無視することは、それを強要しようとしている宗教的熱狂者の迫害に油を注ぐだけであろう。あなたがたを法律の違反者と呼ぶ機会を彼らに与えてはならない。もし神も人も恐れぬ人々を自由に支配しても、彼らはその支配すること自体に何の目新しさも感じなくなるだろう。そして、日曜日遵守に関して厳格にすることが矛盾していて、彼らにとって都合がよくないということがわかるようになる。聖書を手にして、伝道のわざを続けなさい。そうすれば敵は自分自身の立場を悪くしていたことに気づくであろう。人は不法に問われるような仕事をやめて、その時間を最も重要な仕事に携わることと平和を保つことの賢明さを悟っていることを示したからといって獣のしるしを受けるのではない。——教会へのあかし・第九卷・二三二ページ

われわれが日曜日を伝道の仕事にささげる時、セブンスデー・アドベンチストをはずかしめることに満足するであろう専横な狂信者の手からむちが取り去られる。彼らは、われわれが日曜日に人

人を訪問し、彼らに聖書を開くのを見れば、日曜日法令を作ってわれわれの働きをさまたげようとすることが無益だということを知るようになる。——教会へのあかし・第九卷・二三二、二三三ページ

日曜日は、主のために多くを成し遂げるさまざまな働きを前進させることに用いることができる。この日野外集会や家庭集会を開くことができる。戸ごとの伝道もできる。書く人はこの日を書き物をする日に当てることができる。日曜日にはできるだけ宗教方面の集会を開き、これらの集会を特に興味深くさせなさい。真のリバイバル賛美歌を歌い、力強く、確信をもって救い主の愛を語りなさい。節制について、また、宗教に関する実際の経験について話しなさい。——教会へのあかし・第九卷・二三三ページ

われわれの学校の教師たちは日曜日を伝道集会に当てよう。彼らはこうして敵の目的をくじくことができるといふ事をわたしは示された。教師は生徒に手伝わせて真理を知らない人々のための集会を開こう。こうして彼らは他の方法でなせる以上の事を成し遂げるようになる。——教会へのあかし・第九卷・二三三ページ

## 真理の勝利

無神論は神の律法の要求をちよう笑・愚弄・否認するかもしれない。世俗的精神は多数の者を悪に染まらせ、また少数の者を完全に支配するであろう。神の御目的は大きな努力と絶えざる犠牲に

よつてのみ進められる。しかも最後に真理は輝かしい勝利をするのである。——預言者と王・一八六ページ

地上における神のみわざの終わりにあたり、神の律法の標準は再び高められるであろう。偽りの宗教は広まり、不義は満ち、多くの者の愛は次第に冷たくなり、カルバリーの十字架は見えなくなり、暗黒は死のとばりのように世界に広がるだろう。一般大衆の力は真理に逆らうだろう。神の民を倒すためにつぎつぎに計画が立てられるだろう。だが、最も大きな危険の時にエリヤの神は、伝えられずにはおかenないメッセーヂを伝えるために人間を呼び集められる。人口の多い都市やいとお方を最も悪く言っている人々のいる場所で、きびしい譴責の声が聞かれるだろう。神に任命された人々は、教会と世との結合を大胆に非難するだろう。彼らは人間によつて作られた制度の遵守からまことの安息日遵守に転ずるよう人々に熱心に呼びかけるであろう。——預言者と王・一八六、一八七ページ

### 暗黒にある光

各地に散らばった地上の住民の中で、バアルの神にひざまずかない人々がいる。夜にだけ現われる天の星のように、これら忠実な者たちは、暗黒が地をおおい、濃い暗黒が人々を包む時に輝き出る。異教徒のアフリカで、ヨーロッパや南アメリカのカトリックの国々で、中国、インド、海の島、地のあらゆる暗い隅々にも、神は、背信の世に神の律法に服従することによつて性質を変える

力を明らかに示し、暗黒のただ中に今もなお輝き出る選ばれた者たちの大空を準備しておられる。今でさえ彼らはあらゆる国民、国語、民族の中から現われている。そして最もひどい背信の時代にあつて、サタンが「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも奴隷にも、すべての人々に」、違犯の場合死刑に処するという条件のもとに偽りの休日に忠誠をつくすしるしを受けさせようと絶大な努力を払う時、「責められるところのない純真な者……傷のない神の子」であるこれら忠実な者たちは「星のようにこの世に輝く」のである。夜が暗ければ暗いほど、彼らは明るく輝くのである。——預言者と王・一八八、一八九ページ

迫害の嵐が突然われわれの上にふりかかつて来る時、真の羊は真の羊飼いのみ声を聞くであろう。失われた者を救うために献身的努力がそがれる。そして困いから迷い出た多くの者は、偉大な羊飼いいエスに従うためにもどってくるであろう。——オーストラリア・サインズ・オブ・ザ・タイムズ・増刊・一九〇三年一月二六日

## 神の保護

しかし、たとえ戦いは間断なく行なわれても、たった一人で戦う立場におかれる者は一人もいない。天使たちは神のみ前をけんそんに歩く人々を助け、守る。主は、ご自身に信頼する者を裏切りたまわない。民たちが悪から守られるよう保護を求めて近づいてくる時、主はあわれみと愛をもって彼らのために敵に向かって旗をあげられる。彼らに触れてはならない、彼らはわたしのものだ

主は言われる。わたしは、たなごころに彼らを彫り刻んだ。——預言者と王・五七一ページ

天は義のために苦難を受ける人々のすぐ近くにある。キリストはご自分の利害を忠実な民の利害と同一にみなされる。キリストは聖徒たちの身になってお苦しみになる。だから彼の選ばれた者たちにはさわる者はキリストにさわっているのである。肉体的害悪や苦悩から救い出すのに近くにある力はまた、更に大きな悪から救い出すためにも近くにある。そして神のしもべにとってどんな環境下にあっても自分の誠実さを保持する事ができるようにさせる。——預言者と王・五四五ページ

時々主は教会の危機や敵から加えられた危害をお忘れになったように見えるかもしれない。しかし、神はお忘れにはならなかった。この世界において神の教会ほど神にとってたいせつなものはない。世的な方針が教会の記録を腐敗させるということは神のみこころではない。神はその民がサタンの誘惑に打ち負かされるままにはおきたまわない。神はご自身を誤り伝える者を罰したもうが、心から悔い改める者を祝福してくださる。——預言者と王・五九〇ページ

## 第一章

# 収 穫 運 動

### 困 っ た 問 題

何年も前からわれわれの前に困った問題が起こっている。主がすでにわれわれの前に開いておられる伝道部会をささえるために十分な資金をどうして作る事ができるだろうか。福音の明瞭なご命令が書かれている。そして伝道部会は、本国にある部会も外国伝道地にある部会ともにそれぞれ要求を出す。み摂理の表われは、更にまたみ摂理の積極的な啓示と共に、なされるのを待っている。——教会へのあかし・第九巻・一一四ページ

### 効果的な計画

未信者に近づく新しい計画の一つは、伝道部会のために収穫運動をすることである。多くの場所で、過去二、三年の間にこの運動は多くの人々に祝福を与え、伝道部会の会計に財力をどんどん増し加えて成功を納めてきた。われわれと同じ信仰を持たない人々が異教の国々における第三天使の使命の進展を知るようになるに従い、彼らの関心は高まってきた。そしてある者は、心や生活を変えるような力を持つ真理をもっと学ぼうとしてきた。あらゆる階級の男女が福音に接し、神のみ名があがめられている。——原稿「未信者を導く献身的努力」一九一四年六月五日

ある人々は未信者から寄付を受けることの是非について疑問を持つかもしれない。そのような人はこう自問してみよう。「われわれの世界の本当の所有者はだれだろうか。家や土地、それに金銀の宝物はだれのものだろうか」と。神はわれわれの世界に豊富に持つておられて、従う者にも不従順な者にも、すべての者の手にご自分の財貨を置かれた。神は世的な人々の心を、偶像礼拝者の心さえもいつでも動かし、みわざを支えるために彼らの持つているものを十分与えさせようと準備しておられる。だから神はその民がこれらの人々に賢く近づいて、彼らの特権であるその事に注意を向けさせることを学ぶ時に、すぐこれをしてくださる。もし主のみわざに必要なものが、財力や影響力を持つ人々の前に正しい姿で示されれば、これらの人々は現代の真理の働きを進める上に大いに役立つであろう。神の民は、世から独立して立つことを選んでいなかったなら、彼らが利用できたはずの多くの特権を失ってしまっていたであろう。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三

月一五日

主は今もなおその民のために王や支配者の心を動かされる。神のために働いている人々は、神のみわざを進展させるために献金するように神が人々を促される助けを利用しなければならない。これらの賜物をささげる行為者は、真理の光が多く、暗黒の地に与えられる道を開くのである。これらの人々は神のみわざに共鳴していないし、キリストを信じていない、またみことばを知っていないが、それだからといって彼らの贈り物を拒むべきではない。——サザン・ウオッチマン・一九〇四年三月一五日

主はご自分の財貨を信者の手にも未信者の手にもゆだねておられた。すべての者は、墮落した世界のためになされねばならない働きをするために、神ご自身のものを神にお返しすることができ。われわれは、この世界にいるかぎり、聖霊が人の子らと共に努力するかぎり、めぐみを伝えるばかりでなく、それを受けるのである。われわれは、聖書に示されているように、真理の光を世に与えねばならない。そして、神が人々の心を動かされて神の御目的のために与えてくださるのを世から受けねばならない。——サザン・ウオッチマン・一九〇四年三月一五日

富と宝を含むこの全世界は、現在ほとんど全部が悪い人たちの所有物になっているが、神に属するものである。「地とそれに満ちている物とは、主のものだからである。」

「銀はわたしのもの、金もわたしのものであると万軍の主は言われる」（ハガイ二ノ八）。「林のすべての獣はわたしのもの、丘の上の千々の家畜もわたしのものである。わたしは空の鳥をことごとく知っている。野に動くすべてのものはわたしのものである。たといわたしは、飢えても、あなた



に告げない。世界とそこに満ちるものとはわたしのものだからである」(詩篇五〇ノ一一二)。  
 この世界に神の王国を進めるための天来の機会を正しい原則を守りつつことごとく利用することが  
 彼らの特権であり、義務だということを、クリスチャンにもっともっと認識してもらいたいもので  
 ある。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月一五日

### 働き人への諫言

収穫運動に用いるようにと用意された印刷物を携えて、特別伝道に出かけようとする人々に、私は、熱心に努力しなさい、聖霊の導きのもとに生活しなさいと申し上げたい。あなたのクリスチャン経験を日ごとに増し加えなさい。特別の才能を持つ者たちは社会的に高い地位にある未信者のためにも、低い地位にある未信者のためにも働こう。滅びゆく魂を熱心に探し求めなさい。迷い出た羊の群れを再び連れもどしたいとキリストが望んでおられたその熱心な願いを考えてごらんなさい。神に言いひらきをすべき者として、魂のために目をさましていなさい。あなたの教会や近隣伝道の働きにおいて明瞭に、着実にあなたの光を輝かし、さばきの時に立つ者がだれも「あなたはなぜこの真理について私に教えてくれなかったのか、なぜ私の魂を心にかけてくれなかったのか」と言わせないようになさう。そして、われわれの信仰を持っていない人々のために用いるように慎重に用意された文書を熱心に配布しよう。未信者の注意をひく機会をことごとく利用し、文書を受け取る人にはだれにでもそれを配ろう。「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路

をまっすぐにせよ」という使命の宣伝に献身しよう。——原稿「未信者を導く献身的努力」一九一四年六月七日

### 成功に欠くことのできない要素

現代の真理と、発展する事件に関係した驚くべきみ摂理についての知識を他の人々に携えて行くために実行される計画に従うにあたり、まず、み名のあがめられるようにとわれわれが願う神に、われわれ自身を十分にささげよう。またわれわれが訪問しようとしている人々一人一人を生きた信仰によって神のみ前に導くよう、彼らのために熱心に祈ろう。主は人間の思想や目的をご存じであり、主はたやすくわれわれを溶かしてしまわれるのである。聖霊は火のように、堅い心を柔らげる事ができるのである。主は人の心を愛と柔和で満たす事がおできになる。神は聖霊の恵みを与えることも、魂のためにわれわれが立ち働くにふさわしいものにする事もおできになるのである。

——原稿「未信者を導く献身的努力」一九一四年六月五日

もしわれわれが賢く人々に近づき、みわざを人々に知らせ、みわざの進展のために行なうようにと彼らに勧めることがわれわれの特権となるような事をする機会を彼らに与えているなら、主のみわざは今日受けているよりはるかに大きな恵みを受けるであろう。もしわれわれが神のしもべとして、賢明で慎重な方針をとっているなら、主の思いやりあるみ手は、われわれの努力に対してわれわれを成功させてくださるであろう。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月一五日

主のみわざに携わる者がみな、彼らの忠誠と賢明な思慮がどれほどみわざに影響するかという事を認識していれば、彼らの努力はもっと成功するであろう。われわれは臆病で逡巡するために、しばしば、権利として得られる力を受けられずにいる。神は、われわれが自分にできること、自分の分としてなすべき事をいつでもできる準備をしている時、われわれのために働いてくださる。

——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月一五日

### 自国伝道対外国伝道

外国伝道を盛んにするためにもっと寛大で献身的犠牲的な精神が示される時、自国伝道の仕事はあらゆる方法でもっと進められるであろう。なぜなら、自国伝道の繁栄は、神のご指導のもとに、大いに遠い外国でなされる伝道事業の反射作用によるからである。われわれは、神のみわざのために必要なものを満たそうと活動的に働くときに、すべての力の源であられる方に魂を導くのである。

——教会へのあかし・第六卷・二七ページ

熱心なクリスチャンであつたあるアメリカ人の実業家が、仲間と話をしていて自分はキリストのために二十四時間働いているといった。「私は、自分の仕事のあらゆる面で、わたしの主を代表しようとしています。私は機会があるごとに、他の人々を主に導こうとしています。一日中私はキリストのために働いています。そして夜は、私が寝ている間に中国で主のために働いてくれる人がいます。」こう説明し、彼はさらに「若いころ私は宣教師として異教国に行く決心をしました。しかし

父が死んだので家族を養うために父の仕事を受け継がねばなりませんでした。そこで自分で出掛けるかわりに私は一人の宣教師を養っています。中国のある地方のある町に、私の働き人は派遣されています。ですから私は寝ている間でさえ、私の代理者を通してキリストのために働き続けています」とつけ加えた。

このようにするセブンスデー・アドベンチストはいないだろうか。すでに真理を知っている教会の仕事のために働く牧師を留めて置くかわりに、教会員たちは、この牧師たちにこう言おう「暗黒に滅びゆく魂のために出て行って下さい。私たちは自分たちの手で教会の行事を進めます。私たちは集会を続け、キリストのうちに住むことによって、霊的生活を保持します。私たちは周囲にいる人々のために働き、更に必要な、欠乏している伝道地で働く働き人たちをささえるために祈り、献金をささげます」と。——教会へのあかし・第六巻・二九、三〇ページ

### とうとい模範

主の金庫にレプタ二枚を投げ入れた貧しいやもめは、自分のした事に少しも気づかなかった。彼女の自己犠牲の模範は、あらゆる時代におけるあらゆる国の多くの人々の心に作用し、反応を起こしてきた。この模範によって、身分の高い者からも低い者からも、また金持ちからも貧しい者からも神の金庫にささげ物が携えられてきた。それは部会をささえ、病院を設立し、飢える者に食を与え、裸な者に衣を着せ、病人をいやし、貧しい人々に福音を説教する助けになった。多くの人々が

彼女の無私の行為によって祝福されてきた。——教会へのあかし・第六卷・三一〇ページ

### ネヘミヤの生涯からの教訓

ここ数年来、私は友人や隣人にわれわれの伝道事業とその進展ぶりをほめて紹介するとともに、ネヘミヤの模範を例証してきた。そして今、私はこの祈りと信仰と健全な判断の人の経験を新たに研究するよう兄弟姉妹がたに勧めたい。ネヘミヤは神のみわざへの関心を深めるために友人であるアルタシヤスタ王に勇敢に助けを求めた人である。——原稿「未信者を導く献身的努力」一九一四年六月五日

**ささげることのできる人々からの募金**——祈りの人は、行動の人でなければならない。いつでも自発的に働く用意のできている人々は、働く方法と資力を見つかるであろう。ネヘミヤは不確実なものには頼らなかった。彼は不足な資力をささげることのできた人々から受けた。——サザン・ウオッチマン一九〇四年三月一五日

**仕事に対する勇気が力を通して与えられた**——ネヘミヤとアルタシヤスタは向かいあって立った。すなわち一人は踏みにじられた民族の一しもべであり、もう一人は世界大帝国の君主であった。しかしこの二人を引き離していた精神的距離は、身分の不釣り合以上にはるかに大きなものであった。ネヘミヤは「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」という王の王であられるお方のご招待に応じたのである。彼が天に送った無言の願いは、彼が何週間もささ

げた同じ祈りであり、神がその願いをかなえてくださるような祈りであった。そして今、自分のために働いてくださる全知全能であられる友を持ったという思いに勇気を得て、神の人は、しばらくの間宮廷の事務室から出て、エルサレムの荒廃した場所を再建し、もう一度強い防備のできた町にしたいという願いを王に知らせたのである。ユダヤの町とその民族の重大な結果がこの願いにかかっていた。「わたしの神がよくわたしを助けられたので、王はわたしの願いを許された」とネヘミヤは言っている。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月八日

**公式の保証を得た**——王に対する彼（ネヘミヤ）の願いは実に都合よく受け入れられたので、彼は自分の計画を実行するために必要な、援助を求めるよう励まされたのである。彼は、旅行中の保護ばかりでなく、彼の使命に威厳と権威を与えるために軍隊の護衛を得た。彼は、ユダヤに行く途中通過しなければならぬ地方、ユフラテ川の向こうにある地方の知事たちにあてた王の手紙を手に入れた。またネヘミヤは、建てたいと思っていたエルサレムの城壁や建物に必要な材木を用意するよう、レバノンの山地に住む王の山林管理人にあてた手紙も手に入れた。ネヘミヤは自分の命令が不平のために実行されなくなることはないように、自分に与えられている、はっきり定められている権威と特権を周到に得た。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月一五日

旅行の途中に通る地方の知事たちにあてた王の手紙のおかげで、ネヘミヤは名譽ある接待を受け、すみやかに援助を受けた。だからペルシヤ王の力で保護され、地方の役人たちに特に慎重にもてなされているこの使者をどんな敵もあえて悩ますことはできなかった。ネヘミヤの旅は無事であり、

成功した。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月二二日

**障害に出会う**——しかし彼が軍隊の護衛を伴い、何か重大な使命を帯びてやってきたのだということを示しながらエルサレムに着いたことは、イスラエルの敵のねたみと憎しみをかきたてた。エルサレムの近くに定住していた異教徒の部族たちはこれまで事ごとくに故意に侮辱したり害を加えてユダヤびとに敵意を燃やしていた。この悪い仕事に真先に加わったのは、ホ口二びとサンバラテ、アンモンびとトビヤ、アラビア人ガシムの部族たちのある酋長たちであった。そして、この時からこれらの指導者たちはしつと目でネヘミヤの行動を見守り、彼らの力のできるあらゆる手段をつくして彼の計画を挫折させ、仕事を妨げようとした。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月二二日

彼らは職人たちに仕事の成功についての疑いを持ちかけ、不信をかき立てることで分裂させようとした。また建設者たちの努力をちよう笑し、その企画は不可能なことだと宣言し、不名誉な失敗に終わると予言した。……城壁の建設者たちは間もなく更に積極的な反対に悩まされた。彼らは油断のない敵の計画に絶えず警戒せざるを得なくなった。敵の密偵はうそのうわさをふれ回して彼らの勇気をくじこうとした。ネヘミヤを網にかけようといういろいろの事を口実に、陰謀が考え出された。そして信仰のないユダヤびとたちは反逆的計画にいつでも助力するという態度をとっていた。……敵の密偵は、味方であるといって建設者たちの間にまぎれ込み、計画の変更を提案したり、あらゆる手段を用いて職人の注意をそらそうとし、混乱と困惑を起こしたて、不信と疑いを起こさせよう

とした。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月一二日

**今日指導者たちは同じ障害に直面している**——ネヘミヤの経験は今の時代における神の民の歴史に繰り返される。真理のために働く人々は、敵の怒りを刺激せずにこれをなすことができないということを発見するようになる。彼らは自分たちの携わっている働きに神から召されていて、彼らの方法が神に承認されているにもかかわらず、彼らは非難やちよう笑をのがれることができない。彼らは、空想的だ、信頼のおけない、陰謀を企てる偽善的だとして、つまり一口で言えば、敵の目的にかなうあらゆる非難を受けるであろう。最も神聖なことがちよう笑的に見られて神を敬わない人を楽しませる。ごくわずかの皮肉や低級なしゃれでも羨望、ねたみ、不敬、憎しみといっしょになると神を汚すちよう笑者の歡喜を十分にわかすのである。そしてこれらのおうへいな道化師たちは互いに巧妙さをとぎすまし、冒瀆の働きに互いに大胆になる。軽べつとちよう笑は本当に人間の心に苦しいものであるが、神を信頼する者はみなこれに耐えねばならない。こうして主が彼らにゆだねておられる働きをしないように心をそむけることがサタンの方針なのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月一二日

**意気消沈した力を振起する**——ひそかに黙ってネヘミヤは城壁の巡回を完成した。彼は「つかさたちは、わたしがどこへ行ったか、何をしたかを知らなかった。わたしはまたユダヤ人にも、祭司たちにも、尊い人たちにも、つかさたちにも、その他工事をする人々にもまだ知らせなかった」と言っている（ネヘミヤ二ノ一六）。この骨の折れる検分の最中彼は友だちにも敵にも知らせたくな



いと思った。騒ぎが起こって彼の仕事をくじいたり、少なくともじやまをするような知らせが広まるといけないと思ったからである。ネヘミヤは夜の残りの時間を祈りにささげた。朝になったら意気消沈した、気持ちが分裂している同国の人々を目ざめさせ、統一しなければならぬのである。

——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月二二日

ネヘミヤはエルサレムの町の城壁再建に彼と協力するよう住民に求める王の任命を帯びていたが、彼は単に権威の行使にばかり頼るような事をしないようにしようと決めた。彼は手ばかりでなく心の一致が彼の企てた偉大な仕事を成功させるのに欠くことのできないものだという事をよく知っていたので、むしろ人々の信頼と共鳴を得ようとしたのである。

その朝彼は人々を呼び集めた時、人々の眠っている力をさまし、ばらばらに散っている人々を統一するに適するような話し方で説いた。……ネヘミヤは、自分がペルシヤの王の権威とイスラエルの神の権威を合わせたものにささえられていることを示し、彼らにこの問題をすべて打ち明けて、彼らがこの有利な機会を利用し、彼と共に立ち上がって、城壁を築くかどうかという質問を率直に人々に尋ねた。この訴えは彼らの心にまっすぐに入って行き、彼らに対する天のめぐみが表われて、彼らは自分たちが恐れていたことを恥じた。新しい勇気が出て彼らは声をそろえて「さあ、立ち上がって築こう」と叫んだ。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月二九日

ネヘミヤの聖なる力と高い希望は人々に伝えられた。彼らはその精神を理解した時しばらくの間彼らの指導者の心の標準にまで達した。おのおのは、それぞれの範囲においてネヘミヤのようであ

った。そしておのおのはこの仕事において兄弟を強め励ました。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月二九日

**イスラエルの祭司たちが最初に応じた**——ネヘミヤの熱情と熱心な精神を捕えた最初の人々の中にイスラエルの祭司たちがいた。このような人々は、彼らの占めている感化力ある地位からすれば、この仕事をいくらでもじゃますることも、進めることも自由にできた。仕事着工の当初から彼らが協力する態勢にあったことは、少なからず成功に役立った。聖なる事業はすべてこうなければならぬ。教会にあって感化力を持ち、責任ある地位にいる人々は神の働きにまっ先に立たねばならぬ。もし彼らが不精無精に行動すれば、他の人たちは全然動かないだろう。しかし「彼らの熱心は、多くの人を奮起させるであろう。」彼らの光が明るく燃える時、たくさんのたいまつにその炎がともされる。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月五日

**編制者としてのネヘミヤ**——一般の人々は一人の心と一人の愛国心と、また快活な活動に鼓舞された。才能のある、感化力のある人々がさまざまな階級の市民を仲間に加えて幾つかの団体を作り、各指導者に城壁の一部を築く責任をとらせた。くずれ落ちたエルサレムの城壁を築きなおすのにこれらの団体が一致して忙しく働いているのを見ることは、神や天使たちにとって喜ばしい光景であった。そして明け方早くから「星の出る時まで」工事道具の音を聞くことは楽しいことであつた。

——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月五日

**真の指導者たる実例**——仕事が実際に始められたからといって、ネヘミヤの熱心と精力は減じた

のではない。彼は重荷が軽くなったと思って手をつかねているようなことはしなかった。彼はうま  
ずたゆまず気を配り、職人をさしずし、障害をもれなく注意し、緊急の場合にいつでも用意ができ  
ているようにし、仕事を絶えず監督した。彼の感化は絶えず三マイルの城壁にくまなく行きわたっ  
ていた。彼は時になった言葉をかけて恐れる者たちを励まし勤勉な者たちを認め、ぐずぐずして  
いる者たちの気をかき立てた。そしてまた彼は驚のような目で彼らの敵の動きを見張っていた。敵  
は時々離れた場所に集まり、まるでいたずらでも計画しているかのように熱心にしゃべり合ってい  
てそれから職人に近づいては職人の注意をそらして仕事のじゃまをしようとした。

すべての働き人の目は、どんな小さな合図も見のがすまいと、時々ネヘミヤの方に向けられる一  
方、働き全体の偉大な監督者であられるお方、建築をそのしもべの心に思い立たせられた神にその  
目と心は向けられる。そしてネヘミヤは信仰と勇気が心の中で強められるごとに叫び、彼の言葉は  
くり返され、反響して、その働きに携わっているすべての働き人の心は感動し「天の神がわれわれ  
を恵まれる」と叫ぶのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月五日

ネヘミヤとその仲間たちは困難にしりぞみすることもなく、つらい奉仕をのがれることもしなか  
った。夜も、ましてや昼も、睡眠を取るわずかな時すらも、彼らは衣はもちろんのこと武具を手か  
ら離すことさえしなかった。「わたしも、わたしの兄弟たちも、わたしのしもべたちも、わたしを  
護衛する人々も、われわれのうちひとりも、その衣を脱がず、おのおの手に武器を執っていた」(ネ  
ヘミヤ四ノ二三)。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月二六日

**あらゆる宗教運動に反対する影響**——イスラエルの貴人や役人たちの大多数もりっぱに義務を果たしにやってきたが、テコアびとらの貴人たちで、「主の工事に服さなかった」者が、二、三人いた。忠実な建設者たちが神の書に名誉ある言葉を書かれている一方、これら怠惰なしもべたちの名声は恥ずかしい汚名がつけられてあらゆる子孫に警告として言い伝えられる。

あらゆる宗教運動において、それが神の働きだということを否定できないでいながら、それを進める努力を拒み、それを敬遠しようとする者がいる。しかし彼らの利己的利益を増進させる計画において、これらの人々はしばしば最も活動的で、精力的な働き人である。高き所に置かれている記録、神の書を思い出すことは良いことであろう。その書にはわれわれのあらゆる動機や働きが書きしるされている。——その書は一つも書きもれはなく、誤りがなく、その書によってわれわれはさばかれるのである。神のために奉仕するのを怠った機会がごとく忠実に報告されて、永久に覚えられるのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月五日

### 現代のネヘミヤたちの召し

今日教会はネヘミヤのような人たちを必要としている。祈ったり、説教することができるとばかりでなく、その祈りや説教が堅実な、熱心な目的にささえられている人である。このヘブルの愛国者が計画を完成させるにあたって実行した方法は、今もなお、牧師や指導者たちが採用すべきものである。彼らは計画を立てたら、興味と協力を得るような方法でそれを教会に提出しなければならな

い。人々にその計画を理解させ、仕事を分担させよう。そうすれば彼らはその仕事の繁栄に個人的な興味を持つようになるであろう。ネヘミヤの努力の成功は、祈りと信仰、また賢明で効果的な行動によってどういうことが成し遂げられるかということを示している。この指導者が示した精神は、大いに人々によって表わされるはずである。もし指導者たちが現代の世界を試みる厳粛で重大な真理を信じると告白しながら、神の日に立ち得るよう一つの民を準備させることに熱心な熱意を示さなければ、不注意で無活動で、快楽を愛する教会しか期待できない。——サザン・ウオッチマン・

一九〇四年三月二九日

## 第一六章

# 教会拡張運動

### 神の計画

神の民が大きな社会に移住し、かたまつて住むということは神の御目的ではない。キリストの弟子たちは、地上における神の代表者たちで、神は世界の暗黒の中にある光のように、町、都市、村全国いたるところに彼らが散らされるようにと計画しておられる。——教会へのあかし・第八卷・二四四ページ

わずかな力や感化力しかない場所から移住したり、引越してきて、一つの場所に多くの人々の感化力を集中させることは、神が輝かせようと計画しておられる光を取り去ることになる。——教会へのあかし・第二卷・六三三ページ

キリストの教会が主の目的をなしとげていたならば、暗黒の中に座し、死の地と死の陰にいるす

べての者の上に光が注がれたことであろう。ひと所に集まってしまつて、責任と十字架を負うことを避けるかわりに、教会員はすべての国にちらばり、キリストの光を輝かし、また魂の救いのために主が働かれたように働いて、この「み国の福音」はすみやかに全世界に伝えられたにちがいないのである。——祝福の山・五二ページ

兄弟姉妹がたよ、なぜ教会のまわりをうろついておられるのか。迷つた羊のたとえ話を学んで、本当の羊飼いのように出て行き、罪の荒野にいる迷える者を探しなさい。滅び行く者を救い出さない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月一二日

教会の信徒は、今のところほとんど始めていない仕事を完成することができる。世的な利益のためだけで新しい場所に移るようなことをしてはならない。しかし生計を立てるのによい場所があれば、真理に堅く立っている家族を行かせ、一か所に家族か二家族を宣教師として働かせよう。彼らは魂に対する愛と彼らのために働く責任を感じなければならない。また彼らを真理に導く方法を研究しなければならない。彼らはわれわれの印刷物を配布し、彼らの家で集会を開き、隣人と知り合いになり、その人々を集会に招くことができる。こうして彼らは良い働きをすることで彼らの光を輝かすことができる。——教会へのあかし・第八巻・二四五ページ

自分の住居を変えたいと望む人々、神の栄光を表わすことを目的とし、他人のためになり、キリストがご自分のとうとい命をお捨てになつた魂を救うことにめいめい責任を感じている兄弟がたは、光がほとんど、あるいは全然ない町や村に、また本当に奉仕ができる場所に移り、自分たちの働き

と経験を通して他の人々を祝福しなければならない。宣教師は町や村に出て行き、真理のみ旗を掲げて、神が全地に神のあかし人をまき散らすことがおできになるように、真理の光がまだ浸透していないところに達するように、そして真理のみ旗がまだ知られていないところに掲げられるように求められている。——教会へのあかし・第二巻・一一五ページ

他人のための働きに加わることほど自己犠牲の熱意を揺り起こし、品性を高め強めるものはない。クリスチャンと自称する多くの人が教会のまじわりを求めながら、自分のことばかりを考えている。彼らは教会のまじわりを求め、牧師の世話を受けたいと思い、盛んな教会の一員となりながら、他人のためにはほとんど何もしないで満足している。こうして彼らは最も尊い祝福を自分から奪っている。多くの人は楽しい、安逸に流れるような交際を捨てることによって大きな利益を受けるにちがいない。クリスチャン的働きのために力を用うべきところに行く必要がある。そうすれば、そこで責任を負うことを学びうるからである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二三、一二四ページ

アメリカには、まだ真理のみ旗が掲げられていないところ、真理がまだ宣伝されていないところで、これから入って行かねばならない場所がたくさんある。しかも収穫の地に入ることができずでありながら、今宗教的になまけていて、その結果天国へ行く途中でぐずついたり、自分がクリスチャンかどうかを疑っている人々がたくさんいる。彼らに必要なことは、イエス・キリストとの活気ある結合である。そうしてこそ彼らについてこう言えるのである。「あなたがたは神の同労



者である」と。私は多くの人々にこう言いたい。あなたはだれかがぶどう園まで連れて行って、仕事につかせてくれるか、あるいは、ぶどう園をあなたのところに運んでくれることを待っている、あなたは仕事において不自由な経験をしたくないからだ。あなたは待っても無益だろう。もし、目を上げれば、どこを見ても、かまを入れるばかりになっている収穫の実りを見るであろう。すぐ近くにも、遠くにも仕事を見るであろう。しかし、さばきの日にキリストは何人の人々について「良い忠実なしもべよ」とおっしゃるだろうか。天使たちは終わりが近づいているのを見て、また、神とそのおつかわりになったイエス・キリストについての知識を持っていると主張する者たちがごちやごちや集まり、移住してきて、集会に出席し、もし彼らの魂に益となる説教をあまり聞けないと不満を感じ、それでいて全く何もしない人々がいるのを見てどう思うだろうかと私は考えるのである。……真理が宣伝されなかったところ、あるいはごくわずかの光しか輝いていないところに移ったために彼らのこの世の経済上の見込みがうまく行かないとすれば、それはイエスが彼らをお救いになるためになさったと同じ仕事を彼らがしていないからではないだろうか。——世界総会会報・一八九三年・一三一ページ

われわれは真理を外国の国々ばかりでなく、われわれの近くににいる人々に伝える伝道の働きが大いに必要であることを知っている。われわれの周囲には、魂を救うために努力がなされていない都市や町がある。現時代の真理を知っている家族が、これらの都市や村に定住し、キリストのみ旗をそこにうち立て、彼らの方法を用いるのではなく、神の方法でけんそんに働き、光に関する知識を

持たない人々に光を携えて行くことをしてはいけないことがあるうか。

教会は使命の本当の精神を持つとき、キリストが犠牲となられた魂を救う働きに全精力を投げ出すであろう。彼らは新しい伝道地に入って行くであろう。按手礼を受けていない人々は教会を訪問したり、残っているもの、死にかかっているものを強めようとすることで神の同労者になるのである。町や都市や明らかに辺ぴなところに移り住み、神から授けられた光を他の人々に輝かす信徒もいるであろう。彼らが会う人々の中には有望な相手に見えない人々もいるだろうが、彼らはキリストと一致するようになるだろうか、キリストの精神にあずかり、教えや模範において彼らの影響が真理と義の主であられるお方の魅力を表わすだろうかと問うだけでよい。

真理が知られていない、いろいろの場所でみわざに携わるようにと採用された兄弟はホールを借りたり、その他やって来る人々がみないつしよに集まるにふさわしい場所を借りることができる。それから、人々を真理に導かせよう。彼らは説教する必要はない。聖書を取り、神に、み言葉から直接語っていただく。会衆が少ない場合、あまり誇示したり、刺激的にせず「主はこう言われる」と読むことができる。簡単な福音の真理を読み、説明し、彼らと共に歌い、祈りなさい。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九一年九月二九日

### とうとい模範・アブラハム

アブラハムにやってきた試みは決して軽いものではなかった。彼に要求された犠牲は決して小さ

いものではなかった。彼を国に、親類に、また家庭に結びつけていたきずなは強いものであった。しかし彼は召しに従うことをためらわなかった。彼は約束の地について、すなわち、地味が肥えているか、健康によい地か、その国が好ましい環境にあるか、すばらしい富を得る機会を与えてくれるかとたずねる質問を持っていなかった。神がお語りになったら、そのしもべは従わねばならない。彼のためにこの地上における最も幸福な場所は、神が彼に与えてくださる場所であった。

多くの者はアブラハムのように試みられる。彼らは神のみ声が直接天から下ってくるのを聞かないが、神はみ言葉の教えによって、またこの摂理の諸事件によって彼らを召しておられるのである。彼らは、富や名誉を得る見込みのある人生を捨て、気心の合った有益な仲間たちを去り、親族の人と別れ、ただ自制と困難と犠牲の道のように見える仕事を始めるよう求められるかもしれない。神は彼らのなす仕事を持っておられるが、安楽な生活や、友や親族の感化がその仕事を完成させるために欠くことのできない特色を発達させる妨げとなるかもしれない。神は人間の影響を受けさせぬよう彼らを召し、彼らを助けて、神の援助を必要とするよう感じさせ、神が彼らにご自身を現わすことがおできになるよう、神にのみより頼むよう彼らをお導きになる。

たいせつな計画や親しい交わりを捨てて神の摂理の召に従う用意のできている人はだれか。新しい義務を受け入れ、まだ試みられていない伝道地に入って行き、ゆるぎない、自発的心を持って働き、キリストのためにその損を益とみなす人はだれか。これをする者はアブラハムの信仰を持つ者であり、「今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現わされようとする栄光に比べると、言う

に足りない」(ローマ八ノ一八)。その「永遠の重い栄光を、あふれるばかりに」彼と共に分け与えられるのである。——創世時代と父祖の生活・一二六、一二七ページ

### あなたはここで何をしているのか

真実で忠実な人々のため活動に依存するところが大きい。この理由からサタンは、服従を通して達成される神の御目的を妨げようとあらゆる努力をする。彼はある人々に自分たちの高尚でよい使命を見失わさせ、この世の生活の楽しみで満足させようとする。彼は安楽な生活をするよう、あるいは、より大きい世的利益のために、彼らが善に対する力となるかもしれない場所から移るよう彼らを導く。その他の人々に対してサタンは、反対や迫害のために義務を離れさせ失望に迫りやる。しかしこれらの事はみな天から最もやさしく、あわれみ深く見守られている。魂の敵が声を沈黙させることに成功した神の子ら一人一人に「あなたはここで何をしているのか」という質問がなされている。私は全世界に出て行って、福音を宣べ伝え、神の日のために一つの民を備えさせるようあなたに任命した。なぜあなたはここににいるのか。だれがあなたをつかわしたのか。——預言者と王・一七一、一七二ページ

各個人にばかりでなく家族に対しても「あなたはここで何をしているのか」という質問がなされる。多くの教会には、神のみ言葉の真理についてよく教えられ、もし彼らが与えることのできる伝道が必要としている場所に移ることで、彼らの感化力の範囲を広めることができる家族がいる。

——預言者と王・一七二ページ

### クリスチャン家庭への召し

伝道する家族は未開墾の土地に住む必要がある。農夫、資本家、建築家、および各種の技術に熟練した人を未開な、荒廃した地に派遣し、その土地を改良し、産業施設を設け、自分のために質素な家を建て、また隣人を助けるようにすべきである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一六九ページ

神はクリスチャンの家族に、暗黒や誤りの中にある社会に出て行き、主のために賢く、しんぼう強く働くようにと召しておられる。この召しに答えるためには自己犠牲を必要とする。障害がごとごとく取り除かれるのを多くの人々が待っている間、魂は希望もなく、世の中に神もなく死にかかっている。多くの者が、非常に大勢の者が、世的な利益のために、科学的知識を獲得するためにあえて有害な地区に入って行き、困難や欠乏に耐えている。他の人々に救い主の事を告げようと、自発的にこの努力をする人々がいるだろうか。福音を必要としている地方に移り住み、暗黒にいる人々にあがない主を示す人々がいるだろうか。——教会へのあかし・第九巻・三三ページ

家中で働きに携わり、勤勉に手を動かし、活発に頭脳を働かせ主のために精出して働き、みわざを成功させるために新しい方法を計画し、宣教師になることのできる家族がいる。——教会へのあかし・第九巻・四〇ページ

もし家族が地球上の暗黒の場所、すなわち、霊的暗黒に隠されている人々のいるところに行き、キリストのご生涯の光をそれらの地方に輝かすならば、大いなる働きが完成されるにちがいない。彼らは静かに、控え目な方法で働きを始め、牧師の助けを借りなければ彼らの手に負えないほど求道者が多くなるまでは、年会の資金に頼らないようにしよう。——教会へのあかし・第六巻・四四二ページ

### 移植に賢明な養樹園主を必要としている

働き人たちに道やかきねのあたりに出て行かせよう。われわれは木々を異なった場所に移植させ、彼らが成長できるような利益を与える賢明な養樹園主たちを必要としている。かなたの地方に出て行くことは神の民がなすべきはつきりした義務である。新しい地を開発する仕事に取りかからせ、好機を見いだすことができる時はいつでも感化を与えることのできる新しいセンターを設立させよう。真の伝道熱意を持つ働き人を励まして、光と知識を遠く近くへ散らすために出て行かせよう。

——教会へのあかし・第九巻・一一八ページ

われわれの大きな教会の教会員の多くは比較的何もせずにいる。彼らは、一か所にかたまっていないで、まだ真理の伝えられていない場所に散るならば、良い働きを完成するにちがいないのである。密集して植えられている木々は成長しない。彼らは矮小になったり、病気になるに、成長する余地を持つことができるように、庭師に移植される。われわれの大きな教会にも同じ規則がうま

く当てはめられるであろう。教会員の多くは、この働きが足りないために靈的に死にかかっている。彼らは病氣になり、役に立たなくなっている。移植されれば、彼らは強く、活発に成長する余地を持つようになるはずである。——教会へのあかし・第八巻・二四四ページ

### 結果についての保証

もし教会の信徒が、彼らにできる仕事をするために立ち上がり、自費で戦い続け、おのあのガイエスに魂を導くことにどれだけの成果をあげることができるとき、われわれは、キリストのみ旗の下に立つためにサタンの列を去る者をたくさん見るであろう。われわれの民がこれら二、三の教えの中に与えられている光に基いて行動するならば、神の救いを必ず見るのである。すばらしいリバイバルが起こるであろう。罪人は改心し、多くの魂が教会に加えられるであろう。——教会へのあかし・第八巻・二四六ページ

われわれの教会員は自国と外国伝道に深い興味を感じなければならない。彼らが新しい地方に真理のみ旗を植えるために犠牲的努力を払うなら、やがて大いなる祝福が彼らにやってくるのである。この働きに投資した金銭は豊かに返ってくるであろう。新しい改心者は、み言葉から受ける光をたのしみ、今度は他の人々に真理の光を運んで行くために彼らの財力を与えるであろう。——教会へのあかし・第九巻・四九ページ

反対され、落胆させるような環境にあって、多くの働き人が行くことを拒むような伝道地におい

て、信徒の自己犠牲的努力により、驚くべき変化が起こり得るのである。これらのけんそんな働き人たちは多くの事を成し遂げるであろう。なぜなら彼らは忍耐を示し、努力を続け、人間の力に頼らず、恵みを与えてくださる神に頼るからである。これらの働き人たちの成し遂げる善行の量はこの世では知られないであろう。——教会へのあかし・第七巻・二二、二三ページ

### 古代イスラエルの失敗から学ぶ

イスラエルびとたちはカナンに入った時、全地を所有することで神の御目的を果たさなかった。彼らは一部分を征服した後、彼らの勝利の実を楽しむために定住してしまった。彼らは不信仰と安楽を愛したために、すでに征服した部分に集まり、新しい地を取るために前進しなかった。こうして彼らは神から離れ始めた。彼らは、神の御目的を遂行しなかったために、神が約束の祝福を彼らに成就なされないようにしてしまった。今日の教会は同じことをしていないだろうか。彼らの前にある全世界が福音を必要としているのに、クリスチャンだと公言する者たちは、福音の特権を自分たちで楽しめる場所に集まっている。彼らは新しい地方に行き、かなたの地方に救いの使命を運んで行く必要を感じない。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」というキリストの使命を彼らは果たすことを拒んでいる。彼らはユダヤ教会の人々より罪が少ないだろうか。——教会へのあかし・第八巻・一一九ページ



## 第十七章

### クリスチャンの援助の働き

#### 主の足跡に従う

キリストが地上で生活された場所をおとずれ、キリストが歩まれた場所を歩き、キリストが好んでお教えになった湖のほとりや、キリストがたびたび目をとめられた丘や谷を眺めることができた大きな特権だろうと思う人が多い。しかし、イエスの足跡を歩むために、ナザレやカペナウムやベタニヤに行く必要はない。病床のかたわらや、貧しいあばらやや、大都会の雑踏する横町や、人の心が慰めを必要としている場所ならどこにでも、イエスの足跡がみいだされる。イエスが地上におられた時にされた通りのことをすることによって、われわれはイエスの足跡を歩むのである。

—— 各時代の希望・第三卷・一一二ページ

イエスは苦しんでいる人々をごらんになるたびに彼らを救うために働かれた。イエスはお与えに

なるお金はほとんどなかったが、ご自分よりも困っているようにみえる人々を救うためにたびたび自分の食事をぬかれた。イエスの兄弟たちはイエスの感化力が自分たちの勢力のさまたげとなっていると思った。イエスは人の気持を察する能力をもってあられたが、それは彼らのうちのだれも持っていないし、また持とうとも思わないものだった。彼らがあわれな墮落した人々に荒々しいことばを投げかけると、イエスはその人たちのそばに行って励ましのことばを語られた。イエスは困っている人々に一杯の冷たい水を与え、ご自分の食物を静かに彼らの手におかれるのだった。イエスが彼らの苦しみをやわらげておやりになると、イエスのお教えになった真理はその情け深い行為とむすびつき、人々の記憶にきざみこまれた。——各時代の希望・第一巻・八五ページ

## 保証

イエスに従う者は、イエスが働かれたように働くのである。われわれは、飢えた者に食べさせ、裸の者に着せ、苦しみ悩む者を慰めるのである。われわれは、絶望している者に奉仕し、望みのない者に望みを起こさせるのである。そのときわれわれにもまた「あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる」との約束が成就される（イザヤ書五八ノ八）。——各時代の希望・第二巻・八一ページ

クリスチャンの奉仕に携わってきた人々は、主がなすようにと望んでおられることをしてきた。そして主はその働きをお受けになった。この方面でなされてきたことは、セブンスデー・アドベン

チスト一人一人が心から共鳴し、確認し、熱心に把握すべき働きである。彼ら自身のわく内にあるこの仕事を怠り、これらの重荷を負うことを拒むことで、教会は大きな損失を被っているのである。教会がなすはずだった通りにこの仕事を取り上げていたならばそれによって多くの魂が救いに導かれていたであろう。――教会へのあかし・第六巻・二九五ページ

神から与えられたたまものは、全部、人類を祝福し、なやむ者、欠乏の中にある人びとを助けるために用いるものである。わたしたちは、飢えたものに食べさせ、裸なものに着せ、やもめや孤児の世話をし、苦しむ者やおさえられている者のために奉仕しなければならない。神は、世界じゅうに不幸がゆきわたることをお望みにならなかった。また、ある一人がありあまるぜいたくな生活をする一方、他の人びとの子供たちがパンに飢えるようなことは、神のみこころではなかった。実際の生活に必要なもの以上の富は、善を行ない、人類を祝福するために用いるために、人に託されているのである。「自分の持ち物を売って、施しなさい」(ルカ二二ノ三三)。「惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び」(テモテ第一・六ノ一八)、「宴会を催す場合には、貧乏人、不具者、足なえ、盲人などを招くがよい」(ルカ一四ノ一三)と主は言われたのである。「悪のなわをほどこ」「くびきのひもを解き」「しえたげられる者を放ち去らせ」「すべてのくびきを折る」「飢えた者に、あなたのパンを分け与え」「さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ」「裸の者を見て、これに着せ」「苦しむ者の願いを満ち足らせ」(イザヤ書五八ノ六、七、一〇)「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ一六ノ一五)。以上のことばが主の命令で

ある。クリスチャンと称している者の大部分が、このような働きをしているであろうか。——キリストの実物教訓・三四七、三四八ページ

善行は、キリストがわれわれに結ぶようにと求めておられる実である。善行とは、親切な言葉、慈善行為、貧しい者、困っている者、悩む者へのやさしいたわりである。心が失望と悲嘆に苦しむ心に同情する時、手が困っている者に施す時、裸な者が着せられる時、見知らぬ人があなたの居間の座や、心の中に迎えられる時、天使たちはすぐ近くに来て、応答の調べは天で唱和される。正義と恵みと慈善の行ないはことごとく天でメロディーとなる。み座から天父はこれら恵みの行為をする人々をごらんになり、神の最も大切な宝でそれらを数えられる。「万軍の主は言われる。彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる」(マラキ三ノ一七)。困っている者、悩む者に対するあわれみ深い行為はことごとくイエスになされたもののようにみなされる。貧しい者を助け、悩む者、しえたげられている者に同情し、孤児の世話をする時自分をイエスとより近い関係にさせるのである。——教会へのあかし・第二巻・二五ページ

貧しい者、しえたげられている者、悩む者を集める仕事は、現代に対する真理を信じるすべての教会が、ずっと以前からやっていなければならなかった仕事である。われわれは、人間の悲惨などん底に達し、自分ではどうすることもできない人々を助けることができるように毎日神から恵みと力を受けつつ、肉体の必要を満たし、飢える者に食を与え、捨てられている貧しい者をわれわれの家に連れて来ることにサマリヤ人のようなやさしい同情を示さねばならない。この働きをするとき

にわれわれはキリストを十字架におつきになった方であると説明するよい機会を持つことができるのである。——教会へのあかし・第六巻・二七六ページ

多くの人々は、なぜ自分の祈りに生命がないのか、自分の信仰が弱く、動揺しているのか、自分のクリスチャン経験が暗く、不確実なのかをいぶかっている。「われわれは断食し」、「万軍の主の前に悲しんで歩いたではないか」と彼らは言う。イザヤ書五八章の中で、キリストはこの事の状態がどう変化するかをお示しになった。…六、七節。これは、キリストがおくびような、疑い深い、震える魂のためにおすすめた処方である。主の前に悲しんで歩く悲しみに満たされた人々は立ち上がり、助けを必要としているだれかを助けよう。——教会へのあかし・第六巻・二六六ページ

神の栄光は、倒れたものを起こし、苦しむ者を慰めることにあらわれる。人の心のなかにキリストが宿られるところは、どこであっても、キリストが同じようにあらわされる。キリストの宗教が活動するところは、どこにも祝福があふれ、その働くところにはどこにも輝きがみなぎるのである。

——キリストの実物教訓・三六三ページ

ザレパテのやめ女はエリヤにパンを分け与えて、その代わりに、彼女の命とおすこの命を守られた。だから、試みや欠乏の時に、もっと困っている他の人々に同情を寄せ、助ける人々みんなに、神は大いなる祝福を約束しておられる。神はお変わりになっていない。神の力はエリヤの時代より減じられてはいない。——預言者と王・一三一、一三二ページ

無我の奉仕にあらわされるキリストの愛は、悪人を改めさせるのに剣や法廷よりも力がある。こ

これらのものは、犯罪者を恐怖させるには必要だが、愛のある伝道者は、これ以上のことができないのである。しかられてがんこになった心も、キリストの愛にはとけることが多い。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七七ページ

## 覚えられる

「人と交際するとき、その人の経験の中に人間の目には封ぜられた部分があることを知らなければならぬ。その記憶の中には好奇心にもえた目から嚴重に守られている悲しい歴史があるものである。そこには苦しい境遇に対する長い間のつらい戦いの記録があつて、たぶん、それは家庭生活の中の悩みであろうが、それが勇気と信頼と信仰を弱めるのである。非常な困難の中に人生の戦いを戦っている人は、ちよつとした愛の行為によって力づけられ、励まされる。こういう人にとって、真の友人からの力強い助けの手は金や銀よりも尊く、親切な言葉は天使の微笑のようにうれしいものである。

貧困と戦い、わずかな報酬のためにひどく働かなければならず、しかも生活上の必要の最低しか満たすことができない人がたくさんいる。よくなる望みもなく、労苦、困窮に悩まされ、重荷が非常に強く感じられる。そして苦しみや病気が加わる時、その重荷にもう耐えられなくなる。思いわずらい、悩み、どこに助けを求めるかさえ知らない。こうした人の試練、心の痛み、失望に同情しなさい。そうするとき、彼らを助ける道が開かれる。神の約束を彼らに告げ、彼らのため共に祈り、

望みをもってその心を励ましなさい。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一三三ページ

多くの人にとって人生は苦しい戦いである。彼らは自分の無力を感じ、みじめで不信仰である。彼らは自分が感謝するほどのものは何も持っていないと考えている。これらの苦闘し、よるべのない多くの者にとって、親切な言葉や、同情のまなざし、感謝の表現はかわきにあえぐ魂への一杯の冷たい水のようになる。一つの同情の言葉、一つの親切な行為は疲れた肩に重くのしかかっている重荷を持ち上げる。無我の親切から出るすべての言葉や行ないは、失われた人類に対するキリストの愛の表現である。——祝福の山・二八ページ

### 援助の手をのべよ

罪ほどはなはだしく悪いものはないが、罪人をあわれんで助けるのは、わたしたちの務めである。しかし、すべての罪人に同じ方法で接近することはできない。心のかわきをかくしている者が多い。そうした人びとには、やさしいことばや親切な心づかいを示すことによって、大きな助けを与えることができる。また、非常な欠乏のなかにありながら、それを知らないでいるものもある。彼らは、自分の魂の恐るべき欠乏を自覚しない。深く罪に沈んで、永遠の世界の实在感を失い、神の像を失い、救うべき魂のあることさえわからない人びとが無数にいるのである。彼らは、神を信じなければ、人をも信用しない。この人びとには、おのれを忘れた親切な行為によってのみ近づくことができる。まず、彼らの肉体的必要を満たさなければならぬ。彼らに食を与え、体を洗い、人並みの

衣服を着せなければならぬ。彼らがわたしたちの無我の愛の証拠を見るときに、キリストの愛を信じることがやさしくなるのである。

あやまちにおちいり、はじと愚かさを感じている人びとが多い。彼らは、自分たちの過失や誤りをながめて、絶望するばかりになる。わたしたちは、このような魂をおろそかにしてはならない。流れに逆らって泳ぐものは、水流の全勢力と戦わなければならない。沈みゆくペテロに長兄イエスの手がさしのべられたように、このような人に助けの手をさしのべることにしよう。希望に満ちたことば、確信をうながし、愛をめざめさせることばを語ることにしよう。——キリストの実物教訓・三六四、三六五ページ

罪の生活に疲れ果て、しかもどこに救いを求めるかも知らない人にあわれみ深い救い主を紹介なさい。手をひいて引き上げ、励ましと望みの言葉を物語り、救い主のみ手につかまるように助けなさい。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一四三ページ

### もてなしはクリスチャンの義務

この世界におけるわれわれの仕事は、他人のためになる生活をし、他人を祝福し、もてなすことである。ところが、われわれの世話やわれわれの団体や家庭の施しをほんとうに必要としている人をもてなすためには、しばしば、われわれの側で何らかの不都合を忍ばねばならないかもしれない。ある人々はこのような必要な義務を避ける。しかしだれかはこれらの義務を負わなければなら



ない。一般に兄弟たちはもてなすことを好まず、これらクリスチャンの義務を平等に分け合わないために、自発的な心のある人たち、あるいは助けを求めている人々の事情を気持ちよく自分のことのように考えるわずかな人々にだけ重荷がかけられるのである。——教会へのあかし・第二巻・六四五ページ

「旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は、気づかないで御使たちをもてなした。」これらの言葉は時が経過してもその力を失ってはいない。われわれの天父は今もなおその子らの道に祝福となる機会を変装して絶えず置かれる。そしてこれらの機会を発見すること上に達する人々は大きな喜びを見い出すのである。——預言者と王・一三二ページ

## 試みの段階

神は日常生活のありふれた事件によってわれわれを試みられ、ためされる。心の状態を示すものは小さな事である。人生の幸福を築き上げるものは、人生の小さな注意、いろいろの小さなできごと、簡単な礼儀である。そして、人生の不幸を築き上げるに役立つものは親切なる愛情のある励ましの言葉を怠ることにある。結局、われわれの周囲のためになり幸福のために自己を否定することは天のいのちの書に大きな記録を残すことになるのである。——教会へのあかし・第二巻・一三三ページ

やもめ、孤児、盲人、つんぼ、びっこ、その他いろいろの状態で苦しんでいる人々が神の教会と

密接なクリスチャン関係に置かれていることは、神のみ摂理であるということを知った。それは神の民をためして、彼らの本当の品性を向上させるためである。神の天使たちは、われわれの同情と愛と私心のない慈善を必要としているこれらの人々を、われわれがどう扱うか見守っている。これはわれわれの品性をためす神のテストである。もしわれわれが聖書について真の宗教を持つならば、愛と親切と関心という借金をクリストの兄弟たちのためにクリストに支払うべきであると感じるであらう。そしてわれわれがクリストの恵みを受けるにふさわしくない罪人だったときにわれわれに示された主の測り知れない愛に対し、われわれの兄弟であり、われわれより薄幸な人々に深い関心と無私の愛を持つことによって感謝を示すほどのことができるのである。——教会へのあかし・第三卷・五十一ページ

### 効果的に用いられたたとえ

神の律法の二大原則は、神に対する至上の愛と、隣人に対する無私の愛である。十戒の初めの四条も後の六条も、これら二つの原則から生じたものであり、そこから起こったものである。キリストは律法学者に、隣人とはエルサレムからエリコに旅をしていた人で、強盗に襲われ、着物をはぎとられ、傷を負わされ、半殺しにされたまま置き去りにされた人についての例話の中にいる人だと説明された。祭司とレビ人はこの苦しんでいる人を見たが、心は旅人の望みに答えていなかった。この二人は向こう側を通過して旅人を避けた。サマリヤ人がそこを通りかかり助けを必要としている

旅人を見た時、彼は自分が親類か、同国の者か、信仰を同じくするものかを問題にしなかった。ただ彼は、なすべき必要のある仕事があったから苦しんでいる旅人を助けるために近づいたのである。サマリヤ人はできるかぎり旅人を楽にしてやり、自分の家畜に寄せ、宿に連れて行って、自分の費用で旅人に必要なものをととのえてやった。

キリストは、このサマリヤ人が強盗に襲われた旅人の隣人であると言われた。レビ人と祭司は、教会の中でも同情と助けを必要としている人々に無関心な態度を示す部類の人々を代表している。この部類の人は、教会における地位があっても、律法を犯している人々である。サマリヤ人はキリストの本当の助力者であり、良い行ないをするキリストの模範をまねている人々を代表している。不幸な者、盲人、あしなえ、悩む者、やもめ、孤児、困っている者に同情する人々をキリストは律法の遵守者で、永遠のいのちを受ける人たちだとおっしゃった。∴キリストは不幸な人、めくら、あしなえ、病人、やもめ、孤児のためになすすべてのあわれみある行為、慈善、思慮深い思いやりは、キリストご自身にしたものとお考えになる。そしてこれらの働きは天の記録に残されて、報いを受けるのである。一方、不幸な者に対する祭司やレビ人のような無関心を示す人々に対して、も書に記録され、利己的に利益を得ようとしてかえって自分たちの苦しみを増すのである。神はどんな不正な行為に対しても、われわれの間で苦しんでいる人に不注意に無関心であったり、彼らをなおざりにする行為はことごとく、確実に報いたもうのである。すべての者は自分のしたわざに応じて最後に報われるであろう。——教会へのあかし・第三卷・五一一―五一三ページ

## 第一八章

### キャンプミーティング——

### クリスチャンの奉仕における一つの助け

#### 重 要 性

キャンプミーティングはわれわれの働きの中で最も重要な働きの一つである。それは人々の注意を引く最も効果的な方法の一つである。——教会へのあかし・第六巻・三一ページ

われわれの働きにおいて、世俗的であることと偏見の障害を破り、また、人々に大きな意義のあるとうとい真理を彼らに紹介する方法を知ること、われわれは途方にくれていた。キャンプミーティングがこのみわざ完成のために最も重要な手段の一つであるということを主はわれわれに教えられる。——教会へのあかし・第六巻・三一、三二ページ

#### 目 的

共に集まるという目的はなんであろうか。神に報告するためだろうか、祈りによってわれわれの知っているすべての事を神に告げ、神に教えるためだろうか。われわれは思想や感想を交換して互いに徳を高め、互いの希望と抱負を知り合って、力と光と勇気を得るために集まるのである。信仰をもつてささげられた熱心な、心からの祈りにより、われわれは力の源であられる方から清新な力と活力とを受ける。――教会へのあかし・第二巻・五七八ページ

キャンプミーティングにはまた別の目的がある。……キャンプミーティングは信徒たちの中に霊的生活を促進させるためである。……神はわれわれの手に最も神聖な仕事をゆだねられた、ゆえにわれわれはこの働きを実行するにふさわしいものとなるために、共に集まって指示を受ける必要がある。われわれは地上に神のみわざを建設するために、神の聖なる律法を擁護するために、「世の罪を取り除く神の小羊」として救い主をあがめるために働くよう、個人的にどんな仕事に召されているかを知る必要がある（ヨハネ一ノ二九）。家庭における働きを理解するために、共に集まって、神聖な接触を受ける必要がある。――教会へのあかし・第六巻・三二、三三ページ

正しく指導すれば、キャンプミーティングは牧師、長老、執事がもっと完全に主のために働きをなすことができる学校である。それは教会員が老人も若い者も神の道をもっと完全に学ぶ機会の与えられる学校、信者たちが他人を助けるために役に立つ教育を受けることのできる場所でなければならぬ。――教会へのあかし・第六巻・四九ページ

過去何年間かのキャンプミーティングによって、神のしもべたちは、友人や知人に第三天使の使

命の救いの真理を紹介する実際的な方法を信徒に教えるいろいろ貴重な機会を利用してきた。多くの人々は自国の社会で自給伝道者として働く方法を教えられてきた。多くの者は以前よりもっと大きな熱意と知力を得て働くためにこれら定例の集会から家に帰って行った。もし過去においてこれまでいつも与えられてきたよりもっと多く、この実際的な指示がキャンプミーティングに出席する教会員に与えられれば、神をおよこばせするであろう。各教会の一般の働き人や兄弟姉妹がたは、みんなが個人的伝道の実際的な方法に関する知識を得ることがわれわれの定例集会の一目的だということを覚えていなければならない。——教会へのあかし・第九巻・八一ページ

われわれのある部会では、指導者たちがこうした指導の実際的な方法の紹介をためらった。ある人々は教えるというやり方ではなく、当然、説教するようになってしまった。しかし定例キャンプミーティングのような場合には信徒が住んでいる場所で実際的な伝道の働きをする方法を彼らに教える機会が与えられていることを決して見のがしてはならない。——教会へのあかし・第九巻・八二ページ

### 伝道方法の実際的実践

キャンプミーティングにおける働きに携わることにより、すべての者は各自の教会でりっぱに働く方法を学ぶことができるのである。——教会へのあかし・第六巻・四九ページ

あるキャンプミーティングでは、働き人のしっかりした団体が組織されて、町やその郊外に印刷

物を配りに出かけて行き、人々を集会に招いた。この方法によって幾百人もの人々が、集会の後半期の間、続いて出席するようになった。この人々は、われわれが接触しなければ、集会に出席することなど夢にも考えなかったであろう。――教会へのあかし・第六巻・三六ページ

われわれは、単に受けるだけでなく、分け与えるためにキャンプミーティングに行くことが出来る。キリストの罪をゆるす愛にあずかる者はすべて、神のみ霊により啓発され、真理に改心した者はみな、これら貴重な祝福に対して、接する一人一人の魂に負債があると感じるようになる。けれども人々は、按手礼を受けた牧師が接することのできない人々に接するよう主がお用いになる。彼らはキリストの救いの恵みを表わす言葉を語るよう動かされるのである。――教会へのあかし・

## 第六巻・四三ページ

主が工夫された諸計画に従うとき、われわれは「神の同労者」である。われわれの職業が何であろうと、部会の部長であろうと、牧師や、教師や、学生や、あるいは信徒であろうと、われわれは、現時代の真理を必要としている人々を啓発することにわれわれのほとんどの機会を用いる責任を神から負わされている。そして、われわれが用いるようにと神が定めておられる重要な働きの一つは、印刷物である。学校や病院において、各自の教会において、また特に例年のキャンプミーティングにおいて、この重要な働きを賢明に利用することを学ばねばならない。しんぼう強く、熱心に選ばれた働き人たちは、未信者に親切に心をとらえるような態度で接する方法や、現時代の真理が明瞭に、力強く書かれている文書をその人々の手に置く方法を信者に指導しなければならない。――教

会へのあかし・第九巻・八六、八七ページ

私たちのキャンプミーティングの働きは、人間の考案によるのではなく、キリストの働きの方法に従って行なわれるべきである。教会員が活動するように奨励しなければならない。——教会へのあかし・第九巻・一二〇ページ

### 世の終わりにあけるキャンプミーティングの特色

私はキャンプミーティングが興味と成功をますようにしなければならぬことを示された。世の終わりに近づくに従って、これらの集会では説教が少なくなり、聖書研究がもっと多くなることを示された。集会場では聖書を手に持っているいろいろの人々が自由に、対話的な聖書研究で指導している小さなグループがいたるところに見られるであろう。——教会へのあかし・第六巻・八七ページ

### 出席しないことで重大な損失を得る

キャンプミーティングは莫大な費用を使って準備され、開かれる。一般受けのしない真理を擁護する神の牧師は、あわれみのメッセージを、十字架にかけられたあがない主から墮落したあわれな罪人へ伝えるために、これらの大集会で非常に働く。これらのメッセージをおろそかにしたり、無とんちやくに扱うことは神の恵みや警告と懇願のみ声を侮ることである。あなたは、これらの集会を休むことで霊的恵みにおいて非常に損をしてきた。神のみ言葉が説教されるのを聞き、真理を信じる



者たちと交わることによって得ることができたかもしれない力を失ってきたのである。——教会へのあかし・第四巻・一一五ページ

未信者たちの社会の中で神の律法を守り、イエスの代表者として立つことは、家族にとって容易なことではない。われわれはすべての人々に知られて読まれる生きた書簡となるよう要求されている。この身分には大変な責任が伴う。光の中に住むためには、光の輝くところに行かねばならない。K兄弟はどんな犠牲を払っても、少なくとも、真理を愛する人々の毎年の集会に、家族と共に出席するという厳粛な義務を感じなければならない。それは彼とその家族を強め、試みや義務を受けるにふさわしいものとさせるのである。同じような信仰の持ち主たちと交わる特権を失うことは彼らにとって良くない。なぜなら真理は彼らの心の中で重要性を失い、彼らの心は啓発されなくなり、きよめの感化に励まされなくなり、靈性を失うのである。彼らは生きた説教者の言葉に強められない。世的な考えや世的な計画は絶えず彼らの心から靈的な主題を除外しようと働いているのである。

——教会へのあかし・第四巻・一〇六ページ

できる人々はみんなこれら例年の集会に出席しよう。みんなはめいめい、神がこれをみんなに要求しておられるのだということを感じなければならない。神と神のめぐみの力にあって強くなるようにと神が用意しておられるこの特権を彼らが利用しなければ、彼らはますます弱くなり、神にすべてをささげたいという欲望がますますなくなるのである。

兄弟姉妹がたよ、イエスを見い出すためにこれらの神聖な集会に集まってこられよ。主はその宴

に来てくださるであろう。主は来られて、あなたがしてほしいと最も望んでいることをしてください。魂にもっと関心を寄せることより以上にあなたの農場に大きな価値があると思つてはならない。あなたの持つてゐるすべての宝でも、それらがたとえ非常に価値のあるものであろうと、平和と希望を買うには十分ではないのである。平和と希望は、たとえあなたの持つてゐるすべて、あるいは一生涯のほねおりと苦しみを払わなくてはならなくても無限の利益となるものである。永遠のものに対する強い明確な観念とキリストに全く従う自発的な心はこの世のどんな富や快樂や栄光よりもつと価値のある祝福である。——教会へのあかし・第二巻・五七五、五七六ページ

(注) キャンプミーティングとは、部会単位で、戸外で行なわれる総会兼修養会のような集会。

## 第十九章

## 米国内の外国人伝道

## 外国伝道地におけると同様に重要な働き

目ざめよ、目ざめよ、兄弟姉妹がた、そして、まだ働きかけていないアメリカの伝道地に入って行かれよ。外国伝道地のために何かを与えた後でも、あなたの義務が終わったと考えてはならない。外国伝道地にはなすべき仕事がある。しかし、アメリカにもそれと同様に重要な、なすべき仕事があるのである。アメリカの都市には、ほとんどあらゆる国語を話す人々が寄り集まっている。これらの人は神がその教会にお与えになった光を必要としている。——教会へのあかし・第八巻・三六ページ 遠い地のいろいろな国々の住民に警告する種々の計画が実行されている一方、われわれの国の岸にやってきている外国人のために多くの事がなされねばならない。われわれの戸口のかげにいる人は中国にいる人々と同様に重要である。神の民は、み摂理が道を開くままに遠い地で忠実に働か

ねばならない。それと同時に彼らはまた、近くにある都市や村、いなかの地方にいるさまざまな外国人に対する義務も果たさねばないのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一九一八年七月二五日

シカゴのニューヨーク市や、その他人口の大中心地では、外国の要素がほかよりも大きい。すなわち、さまざまな国籍を持った人々がたくさんいるが、みな実際警告を受けていない。セブンスデー・アトベンチストの間では、外国で働く非常な熱意がある。——もちろん熱意がありすぎると言っているのではない。しかし、近くの都市で働くためにもつりあった熱意が示されるならば、神に喜ばれるであろう。神の民は賢く移動する必要がある。彼らはまじめに、熱心に、都市で働きに着手する必要がある。献身した、才能のある人々はこれらの町につかわされて、仕事に着手しなければならぬ。いろいろの種類の働き人が、人々に警告するよう力を合わせてこうした努力を払わねばならない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一九一八年七月二五日

## 天来の機会

われわれの国には、聖書やその神聖な教えについての知識を持たず、無知で迷信的なあらゆる国民、国語、民族の人々が大量にいる。神はこうした人々がアメリカにやってきて、み言葉に示された真理の啓発的な感化のもとに導かれ、救いの信仰にあずかるものとなるよう支配しておられた。

——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八七年三月一日

神はみ摂理によつて人々をわれわれの戸口に連れて来られ、その人々が真理を学んで、他の国語を話す人々にわれわれが光を与えることができなかった仕事をする資格を持つことができるように、その人々をいわばわれわれの腕にゆだねておられたのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一九一八年七月二五日

こうした外国の人々の多くは、現時代の真理を聞く機会を持ち、神のみ座から直接に輝き出るとうとい光を掲げる者として自国に帰って行くのにふさわしい準備を受けることができるように、神のみ摂理によつてこのアメリカにいるのである。——パシフィック・ユニオン・レコーダー・一九一〇年四月二一日

わが国（アメリカ）の都市で外国の人々のために忠実な努力がなされていれば、外国における神のみわざに大いに役立つであろう。こうした男女の中には、真理を受け入れるとすぐこの国やその他の国々にいる彼らと同国の人々のために働くのにふさわしい者となることのできる人々がいる。友だちを真理へ導きたいという希望をもって、それぞれ、もといた場所へ帰る人が多いであろう。その人々は親類や隣人を捜し、第三天使の使命についての知識を伝えることができる。——レビユー・アンド・ヘラルド・一九一八年七月二五日

## 怠 慢

一つの民としてわれわれの間には怠慢と不まじめな不信仰があり、他の国々の人々にわれわれの

光を輝かすことで、神から任せられている働きをしりごみしてやらない人々がいる。—— E・G・ホワイ特夫人略伝・二一三ページ

一つの民としてわれわれが他の国々の人々の前に光を携えて行くという義務に関して眠っていることをわたしは示された。—— E・G・ホワイ特夫人略伝・二一二ページ

われわれは神が摂理をもって門戸を開いておられるのにこれに歩調を合わせていない。イエスと天使たちは働いておられる。このみわざは、われわれがじっと立ちつくし、後に残されている間も前進している。神が門戸を開いておられる摂理に従おうと思えば、どんな糸口でもすみやかに見分け、他の国々に光を広く輝かすようわれわれの届く範囲において益となることを最善に生かさねばならない。—— E・G・ホワイ特夫人略伝・二一二、二一三ページ

### 働き人の手を強めよ

神はその民によって、過去になされてきた以上に現時代の真理がアメリカにいる外国の人々にのべ伝えられてよい成果をあげるのをご覧になれば、喜ばれるであろう。オルセン長老と同長老を助けている人々の働きを強めよう。その方々だけで苦勞されたり、大きな仕事を遂行されるのに乏しい補助金だけしか得られないままにほっておかないようにしよう。—— レビユー・アンド・ヘラルド・一九一八年七月二五日

オルセン長老はまた、イタリア人、セルビア人、ルーマニア人、ロシア人、その他いろいろの国

の人々の中で働きを始めたという励ましになる話をしてくださった。われわれはこれまでなされてきた事すべてを長老と共に喜んだ。しかしなされるはずの働きが資金不足のために、なされずにたくさん残されていることを知って悲しくなった。アメリカにあるわれわれのすべての教会において集められた……特別の献金によって、この部局の責任を持っているわが兄弟たちがこの国の大都市においてもっと積極的な働きをすることができるようにとわれわれは望んでいる。こうして多くの人々がわれわれの列に加えられ、この人々の中にはアメリカやその他地上の国々において彼らの国の人々に使命を伝えることができる働き人にまで成長することのできる人も出て来るかもしれないのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一九一八年七月二五日（注・O・A・オルセン長老は当時世界総会北アメリカ外国人伝道部の部長をしてあられた。）

## 第二十章

### 裕福な人、有力な人への伝道

おろそかにされてはならない

金持ちのためになすべき働きがある。彼らに、天のたまものをゆだねられたものとしての責任を自覚させる必要がある。生ける者と死人をさばかれるおかたに弁明しなければならぬことを、彼らに考えさせる必要がある。金持ちには神を恐れつつ愛をもって働きかけなければならない。多くの場合、金持ちには自分の富にたより、自分の危険を感じない。彼の心の目は、朽ちない価値をもつものにひきつけられる必要がある。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われた真の慈愛の権威を、彼ら



は認めなければならぬ（マタイーノ二八―三〇）。——キリストの実物教訓・二一〇ページ

教育、富、名声をもった高い地位にある人々は、自分の救いの重要性について語りかけられることはほとんどない。多くのキリスト教の働き人たちは、これらの階級に近づくことをためらっている。しかしそのようなことではいけない。もしだれかがおぼれていたら、彼が弁護士、あるいは商人、あるいは判事であるからといって、わたしたちは彼が死んでいくままに放っておいてよいだろうか。がけからとびおりようとしている人を見たら、その人の地位や職業がどうあろうと、わたしたちはすぐに彼をひきもどすであろう。わたしたちは魂の危機にある人々に警告することをためらってはならない。

見たところ世俗のことに没頭しているからといってなおざりにしてはならない。——キリストの実物教訓・二一〇、二一二ページ

われわれは高い地位にいる人々のために魂の苦しみを味わわねばならない。われわれは婚宴にやってくるようにというとうとい招待をその人々に出さねばならない。——サザン・ウォッチマン・

一九〇四年三月一五日

主は富める者が悔い改めて、他の人々をみちびく神の助け手として働くよう望んでおられる。改革・復興の働きを助けることのできる人々が、とうとい真理の光を知り、性格を変えられ、任せられている金銭を神の奉仕に用いるようになることを主は望んでおられる。主は彼らにお貸しになった財産を善行のために、あるいは近くや遠くにいるあらゆる階級の人々に福音がのべ伝えられる道

を開くことに投資させたものである。——教会へのあかし・第九巻・一一四ページ

社会の上層階級に属する者をやさしい愛情と兄弟に対するような心づかいをもって捜し出すべきである。実業家、責任ある高い地位にいる人々、大きな発明の才や、科学的知識をもつ人々、天才とよばれている人びと、現代に対する特殊の真理をまだ知らない福音の教師たち——これらの人々がまず最初に招待を聞くべきである。このような人々をまず招待しなければならない。——キリストの実物教訓・二一〇ページ

真理を牧師や上層階級の人々に伝えようとしなないことは誤りであつた。われわれの信仰を持つていない人々が全く閉め出されてきた。われわれは彼らと交わつて、感化されないようにしなければならぬが、魂に対する深い愛情をもって、周到に、賢明に、聡明に働きかけねばならない正直な人が至るところにいるのである。この国内あるいは他の国々にいるこうした上層階級の人々のために働く男女を教育するために資金を募らなければならない。——教会へのあかし・第五巻・五八〇、五八一ページ

### 働き人の特別の資格

特に上流階級の人々のために働くに適している人がいる。こういう人は彼らの心に触れる方法を知るため、またいいかげんな交わりではなく、個人的努力と生きた信仰によつて魂が必要としているものと呼び起こし、イエスの中にある真理の知識にまで導くために神に知恵を求むべきである。

——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一九一ページ

上流階級の人々のために働く者は天使が共にいることを覚えて、真の威厳を保つべきである。頭と心の宝庫の中には、「……と書いてある」という言葉を満たしておくべきである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一九二ページ

上流階級の人々に何としてでも接しようとするためには、神の働き人は強い信仰を持つ必要がある。外面的には近づきがたいように見えるかもしれないが、どんなに暗い時にも、頭上に光はあるのである。——使徒の働き・二四二ページ

神は、上流階級の人々に福音を伝える、熱心で、けんそんな働き人を求めておられる。——使徒の働き・一四〇ページ

### 結果は保証される

本当の改心には奇跡が働く。すなわち今はそれと見分けられない奇跡である。この地上にいるどんな偉大な人々でも不思議なことを行なわれる神の力にはおよばない。神と共に働く者たちが、勇敢に、忠実に自分の義務を果たし、機会を捕える人々であれば、神は責任ある地位にいる人々、知的で指導的立場にある人々を改心させられるのである。聖霊の力を通して多くの人々が神の原則を受け入れるであろう。真理に改心すると、その人々は、神のご支配のもとに光を伝達する働き手となる。その人々はこのなおざりにされていた階級にいる他の魂のために特別の責任を感じるようになる。

なる。時と金銭が神の働きのためにささげられ、有能な力が教会に新たに加えられるようになる。

——使徒の働き・一四〇ページ

高い社会的地位にある多くのものは深い悲しみをもっており、虚栄にあきっている。彼らは自分たちにはない平安を渴望している。社会の最上層の階級にも、救いを求めて飢えかわいているものがある。キリストの愛によって和らげられた心と親切な態度で主の働き人たちが個人的に彼らに近づくならば、多くのものが助けを受けることであろう。——キリストの実物教訓・二一—ページ

最も偉大な学者、政治家、世界的に最も傑出した人々の多くはこの終わりの時代に光に背を向けるであろう。人類は知恵の力で神を知ることとはできないからである。それでもなお神のしもべたちは、こうした人々に真理を伝える機会をことごとく利用しなければならぬ。ある人々は自分たちが神の事について知らないことを認識し、大教師・イエスのみ足もとでけんそんに学ぶ者となるであろう。——使徒の働き・二四一、二四二ページ

### 聖書時代の裕福な人々

このエチオピア人は評判のよい、広い感化力を持った人であった。神は、彼が一たん改心するや、自分の受けた光を他の人々に与え、福音のために強い感化をおよぼすであろうということを知らなかった。彼の天使たちはこの光の探求者に付き添い、そしてこの人は救い主のもとに導かれた聖霊の助けにより、主はこの人を光に導くことのできるある人と接触できるよう導かれた。——使徒

の働き・一〇七ページ

ユダヤ人たちが初代の教会を滅ぼそうとした時、ニコデモは教会を守るために現われた。何の警戒も疑いもなく、彼は弟子たちの信仰を励まし、エルサレムにある教会をささえる援助のために、また福音の働きを進展させるために自分の財産を用いた。それまで彼を尊敬していた人々は彼をちよう笑し、迫害した。そして彼は物質的に貧しくなったが、ひるむことなく自分の信仰を守り通した。——使徒の働き・一〇五ページ

## 第二一章

# 家庭は伝道者養成センター

### 第一に重要な事について

家庭は子供の最初の学校であって、奉仕の生涯の基礎が築かれるのはここにおいてである。

——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六九ページ

あなたの生涯における第一の大きな仕事は家庭において伝道者になることである。——教会へのあかし・第四巻・一三八ページ

人間の回復と向上は家庭から始まり、両親の働きはあらゆる仕事の基礎である。……社会の幸福と教会の成功、国家の繁栄は家庭の感化に左右される。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二三ページ

真の奉仕の精神が家庭にもっとみなぎれば、それだけ子供の生涯にもそれが養われ、子供は他人

を益するための奉仕や犠牲に喜びを見いだすことを学ぶものである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三七〇ページ

両親は、家庭内の彼らの目の前にある大きな伝道地を忘れてはならない。すべての母親は子供たちをゆだねられているということで、神から聖なる責任をまかせられている。「このおすこ、おすめを取り、わたしのために訓練しなさい。主の宮廷で永久に輝くように、宮の建物のために刻まれた品性を持たせなさい」と神は言われる。忠実な母親が悪の感化に抵抗するように子供たちを教育しようと努力する時神のみ座から輝く光と栄光がその忠実な母親の上にとどまる。——教会へのあかし・第九巻・三七ページ

キリストのための働きは家族から、家庭から始まらねばならない。……これよりたいせつな伝道地はない。教訓や模範によって両親は、改心していない人々のために働くよう子供たちを教育せねばならない。子供たちは老人や悩みのある人々に同情を寄せ、貧しい人や落胆している人々の苦しみを和らげる心の持ち主になるよう教育を受けねばならない。子供たちは伝道の働きに勤勉になるよう教えられねばならない。ごく幼ないころから他人の益となり、キリストのみわざを進展させるため無我と犠牲の精神を教えられ、神の共労者になるよう教えられねばならない。しかし子供たちは、他人のために本当の伝道の働きをしようと思えば、まず第一に家庭にいる人々、すなわち、愛の務めに対する当然の権利を持っているその人々のために働くことを学ばなければならない。

——教会へのあかし・第六巻・四二九ページ

われわれの家庭はきちんとせいとんされていなければならない。そして、家庭の者みんなに伝道計画に興味を持たせるよう熱心に努力しなければならない。救われていない人々のために熱心に働くよう子供たちの共鳴を得るようにし、子供たちがいつでも、どこでもキリストを代表するために最善をつくすことができるようにしなければならない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年七月四日

## 天使の記録

結婚した男性たちが家庭における子供の世話を妻にまかせて働きに出る場合、妻であり母親たるものは、夫であり父親であるものと同時に、大きなたいせつな仕事を十分になしているのである。たとえ一方が伝道地において、もう一方が家庭の伝道者であっても、後者の世話、心配、重荷はしばしば、夫であり父親であるもののそれよりはるかに大きい。妻たる者の仕事は厳粛なものであり、重要である。すなわち子供たちの精神をかため、品性を作り、この世で役立つ者とさせるために子供を養育し、未来に不滅の生命を受けるにふさわしい者にさせるのである。公の伝道分野で働く夫は、人々から尊敬を受けるかもしれない。一方、家庭で働いている者は、その労働に対して地上での名誉を受けないかもしれない。しかし、彼女が神の型に従って子供の品性を形造るようにし、家族の最大の利益のために働くならば、記録をつける天使はこの世における最も偉大な伝道者の一人として彼女の名を記すのである。神は、人間の限りある視力で彼らを見るように物事を見たまわな



い。——教会へのあかし・第五巻・五九四ページ

### 子供にも霊的、肉体的責任を負わせる

すべてのものは何かをすることができ。弁解をしようとしてある人は「家庭の仕事、子供たちの世話でわたしの時間も財産も使われてしまう」と言うかもしれない。両親がた、あなたの子供はあなたの助け手となり、主のために働くあなたの力と能力をまし加えるものとならなければならぬ。子供たちはみな主の家族の若い一員である。子供たちは神に献身するよう導かれねばならない。子供たちは創造により、あがないによって神のものである。肉体と精神と心のすべての力は神のものであることを子供たちに教えねばならない。あらゆる方面で無我の奉仕ができるよう訓練を受けねばならない。子供たちをじゃまもののような存在にしておいてはいけない。子供たちにも共に肉体労働ばかりでなく、精神的責任を負わせねばならない。子供たちは他人を助けることによって、彼らの幸福と他人の役に立つことをいっそう深く身につけるようになる。——教会へのあかし・第七巻・六三ページ

### 家庭の広い感化

規律正しいクリスチャン家族は、キリスト教の真実性を認める有力な論拠、すなわち、無神論者が反ばくできない論拠である。子供たちに影響をおよぼす家族には感化力が働いていること、また、

アブラハムの神が彼らと共におられることをすべての人々は知ることができる。クリスチャンであると告白した家庭が正しい宗教的な性格を持っていれば、非常に良い感化をおよぼすであろう。彼らは実に「世の光」となるであろう。——創世時代と父祖の生活・英文・一四四ページ

家庭の伝道はその家族だけにとどまらない。クリスチャンの家庭は生活の真の原則がすぐれている事を実証する実物教訓でなければならない。そういう実証は社会を益する力となる。真の家庭が人の心や生涯に及ぼす感化はどんな説教よりも有力であって、青年がこんな家庭から出ていくとき、その教訓を他に伝え、一段と高尚な生活原則が外の家庭に紹介され、進歩向上に導く感化が社会に及ぼされるのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二六ページ

クリスチャンの力についてこの世に提供できる最も大きな証拠となるものは、規律正しい、訓練の行き届いた家族である。これは、何物にも変えられない方法で真理を紹介する。それは心に働きかける実際のな力の生きたあかしだからである。——教会へのあかし・第四巻・三〇四ページ

神は地上の家族たちが天国における家族の象徴となるよう計画しておられる。神のご計画に従って立てられ、営まれているクリスチャンの家庭は、クリスチャン品性を形成し、みわざを進展させるために最も効果的な方法の一つに数えられる。——教会へのあかし・第六巻・四三〇ページ

わたしたちの感化する範囲も狭く、その力も小さく、与えられる機会が少なく学識がなくても自分の家庭に与えられた機会を忠実に利用するならば驚くほどの働きができる。もしその心と家庭を開いて神の生活様式を受け入れるならば、わたしたちは生命を与える力への水路となるであろう。

わたしたちの家庭から人々をいやす川が流れ出て、荒れはてた不毛の地に生命と美と収穫をもたらすのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二八ページ

### 家族の旗を選ぼう

わたしは、サタンが神に選ばれた者だと称する人々の家族中にサタンの旗を立てようとしているのを見た。しかし光の中を歩いている人々は、悪魔の黒い旗と血で汚れたキリストの旗との違いを見分けられなければならない。——教会へのあかし・第四巻・二〇〇ページ

### 家庭礼拝の重要性

神を愛すると告白するあなた方は、どこへ行くにもイエスを伴い、昔の父祖たちのように、天幕を張る所にはどこにでも主にささげる祭壇を築きなさい。この点において改革が必要である。すなわち深く、広い改革である。——教会へのあかし・第五巻・三二〇、三二一ページ

サタンは人々を神から引き離そうとあらゆる努力を重ねており、宗教的な生活が日常の仕事におぼれたとき、また、聖書を読み、密室の祈りをなし、朝夕祭壇に犠牲を燃やし、賛美と感謝のささげ物を絶えずささげる時間がないほどに仕事に没頭するとき、サタンは自分の目的を果たすのである。——教会へのあかし・第五巻・四二六ページ

家庭礼拝を楽しく、興味深くしよう。——教会へのあかし・第五巻・三三五ページ

彼ら（子供たち）には祈りの時間を重んじるよう教えねばならない。彼らには家族礼拝に間に合うように朝起きることを命じなければならない。——教会へのあかし・第五巻・四二四ページ

子供たちには胸を悪くするような宗教でなく、魅力のある宗教を持たせなければならない。家庭礼拝の時間を、その日の最も楽しい時間にさせなければならない。聖書の朗読には適切で簡単なものを選び、子供たちには一しよに賛美歌を歌わせ、祈りは短く要を得たものにしよう。——サザン

・ウォッチマン・一九〇五年六月一三日

家族の食卓や家族礼拝にお客を招くがよい。時にかなった祈りは、もてなしを受ける人々に感銘を与え、ただ一度訪問しただけで、死から魂を救うことになるかもしれない。この働きのために主は「わたし自身が報復する」と言われて報いてくださるのである。——教会へのあかし・第六巻・

三四七ページ

子供たちには、祈りの時間を重んじ、敬うよう教えねばならない。働きに出かける前に、家族一同が集まり、父親か、父親の留守の場合は母親が、その日一日家族一同を守ってくださるよう神に熱心に祈り求めねばならない。やさしさにみちた心で、また、自分自身や子供たちの前に誘惑や危険があるという気持ちでけんそんに主のみ前に来なさい。主が彼らを守りたもうよう、祈りつつ信仰によって彼らを礼拝の場に導きなさい。守護天使は、このように神にささげた子供たちを守るであろう。朝夕熱心に祈り、忍耐強い信仰によって、子供たちのまわりにまがきを設けることは、クリスチャン両親の義務である。両親はしんぼう強く子供たちを導き、——神を喜ばせるためにどう

生きるべきかを、親切に、うまずたゆまず教えねばならない。——教会へのあかし・第一巻・三九七、三九八ページ

「神の友」アブラハムはわれわれにりっぱな模範を示した。アブラハムの生涯は祈りの一生であった。彼が天幕を張るところにはどこにでも、その近くに祭壇を設け、みんなを自分の野営に呼び、朝夕の犠牲をささげた。彼の天幕が取りのけられた時、祭壇はそのまま残された。その後引き続き何年かの間、流浪するカナンびとたちの中には、アブラハムから教えを受けた者たちがいた。そして、こうした人々の中でだれか、その祭壇にやって来ると、彼は自分の前にだれがその祭壇にいたかを知った。そして、彼は天幕を張った時に、祭壇を修繕し、生ける神を拝した。——創世時代と父祖の生活・英文・一二八ページ

## 第二二二章

# 祈りと伝道集会

### 効果的な祈りの秘訣

神の王国建設は人間が不忠実に働くか、忠実に働くかによって、手間どったり、前進したりするのである。この働きは、人間が神との協力を欠くことで妨げられる。人々は「み国がきますように。みこころが天に行われるとあり、地にも行われますように」と祈るかもしれない。しかし彼らが生活においてこの祈りを実行しなければ、その祈りはかなえられない。——教会へのあかし・第六巻・四三七、四三八ページ

### 献身的な働きをはかる

全天は地の住民を見守っている。天にあられる天使や神は、クリスチャンであると公言する人々を見守り、その人々の献身的な働きをはかりではかっておられる。——オーストラリア・サインズ

・オブ・ザ・タイムズ・一九〇三年六月二二日

### 集会をおもしろくする

伝道集会を利用して、伝道方法を人々に教えよう。——教会への訴え・一ページ

われわれの祈りやあかし会は時期にかなった特別の助けや励ましとなるものでなければならぬ。これらの集会をできるだけ興味深く、有益にするためにあのおのには何かなすべき事がある。神に関する事で毎日新しい経験を持つことにより、また、神の民の集会において、神の愛をためらわずに話すことにより、これを最善になすことができる。暗いかげや不信を心に入れなければ、それらはあなただけの祈りやあかしの会に現われないであろう。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年三月七日

われわれの集会は特に興味深くない。それらの集会はまさに天のふんい気をかもし出すものでなければならぬ。ただ時間をつぶすような、無味乾燥な長たらしい説教や、形式的な祈りをしてはならない。すべての者は自分のなすべき事を怠なくする用意をしていなければならない。そして、自分のなすべき義務が終わったら、その集会を終えなければならない。こうして集会の終わりまで興味を保たせることができるであろう。これが神に受け入れられる礼拝をささげることなのである。礼拝は興味深く、魅力のあるものでなければならぬ。そして無味乾燥な形式に退化させてはならない。われわれは一分ごとに、時間ごとに、また、日ごとにキリストのために生活しなければならぬ。そうする時キリストはわれわれの内に住まわれるのである。そして、われわ

れが共に会う時、キリストの愛がわれわれの心に宿り、さばくの中の泉のようにわきいで、すべてのものを生きかえらせ、滅び行く人々にいのちの水をしたい求めさせることができるようになるのである。——教会へのあかし・第五卷・六〇九ページ

伝道集会に行き、長い説教をして若い人々の興味を起こすことができると思ってはならない。本当の興味が起こるような方法を計画しなさい。若い人々は毎週、救い主のために何をしたか、どんな成功をおさめたかを報告しなければならぬ。伝道集会がそのような報告を携えて来るための一つの機会になるとすれば、その集会は活気のない、たいくつで、興味のないものとはならないであろう。その集会は興味深いものとなり、出席者が少なくなることはないはずである。——福音宣伝者・英文・二一〇、二一一ページ

信仰がキリストをとらえた時、真理は魂に喜びを与え、宗教的集会は活気のない、興味のないものとはならない。あなたの教会の集会は、現在、おもしろ味がなく、活気のないものでも、聖霊によつて活気づけられるようになる。あなたが認めるキリスト教精神を実行するときに、日ごとに豊かな経験を得るようになる。——教会へのあかし・第六卷・四三七ページ

### 個人的体験のあかし

わたしたちは、キリストに従う者として、互いのクリスチャン生活の助けとなり、励ましとなることばを語るようにしなければならぬ。わたしたちは、受けた恵みについてこれまでよりも



と多く語らなければならない。——キリストの実物教訓・三一三ページ

教会は、いつも神と交わりのある教会員の、生きた、新鮮な体験を必要としている。キリストを表わさない、無味乾燥で新鮮味のないあかしや祈りは、人々の役に立たない。神の子供であると称する者めいめいが、信仰と、光と、生命に満ちているならば、真理を聞きにやって来る人々にどんなにかすばらしいあかしを与えることであろう。そして、どんなにか多くの魂がキリストに導かれることであろう。——教会へのあかし・第六巻・六四ページ

神の忠実さについて、わたしたちが告白することは、社会にキリストを表わすために神がお選びになった方法である。わたしたちは古代の聖者によって知らされた神の恵みを認めなければならぬが、最も有力なのは自分自身の体験のあかしである。自分の中に神の力が働いていることを表わすとき、わたしたちは神のために証人となるのである。人間は各自、他のすべての人とは異なる生涯を送る。その体験も本質的に他の人とは異なる。神はわたしたちの賛美が、わたしたち自身の個性を表わして神にささげられるように望んでおられる。キリストのような生活を送るとともに神の恵みの栄えを賛美するとうとい告白は、人々を救うために抵抗できない力となる。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・七〇、七一ページ

## 賛美と感謝

真心から神をたたえることは、祈りと同様の義務である。罪におちいった人類への神の驚くべき

愛を感謝するとともに、神の無限の富の中から、いっそう大きな祝福を受けることを待望していることを、わたしたちは世界と、そしてすべての住民たちに示さなければならぬ。わたしたちは今より以上に、もっと自分のとうとい体験を語る必要がある。聖霊が特別に注がれると、主にある喜びとその奉仕における能力とは、神の子らに対する神のいっくしみと驚くべきみわざをわたしたちが語ることによって、著しく増大するであろう。

こうしたことは、サタンの力を後退させる。それはつぶやきと不平の精神を取り去り、誘惑者を退却させる。それは地上の住民の品性を天の邸宅を継ぐにふさわしく涵養する。

こうしたあかしは人々に感化を及ぼす。魂をキリストにかち取るのに、これ以上有効な方法はない。——キリストの実物教訓・二七八、二七九ページ

主はわたしたちがそのいっくしみを述べ、その力を語るようにと望んでおられる。わたしたちが賛美と感謝を表現するときに主はあがめられる。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」と主は言われる（詩篇五〇ノ二三）。イスラエルの民は、荒野を旅したあいだ、聖なる歌をもつて神をたたえた。主の戒めと約束を曲に合わせて、イスラエルの人々が長い荒野の旅をしながらうたったのである。また、カナンにおいては、聖なる祭りに彼らがつどうごとに、神のくすしきみわざについて語り、その名への感謝をささげた。神は、その民の全生活が賛美の生活であるようにお望みになった。——キリストの実物教訓・二七七、二七八ページ

## 危険な方針

ある人々は、地上の宝が失われるであろうということをおそれて、自分の農場や仕事のためにもっと時間を使うために祈りや礼拝に出席することを怠っている。その人々は、自分の仕事によって、どちらの世界に高い価値を置いているかを示しているのである。彼らは、霊的成長に欠くことのできない宗教的特権をこの世の生活の事のために犠牲にし、神のみこころを知る知識を得ることができないでいる。彼らは完全なクリスチャン品性に到達せず、神の測りに足りない。彼らは一時的なこの世の利益を第一にし、神に仕えるためにささげるべき神の時間を盗んでいる。神はそのような人々を記されて、祝福ではなくのろいを与えられるのである。——教会へのあかし・第二巻・六五四ページ

## 慰めのみ約束

神は、共に集まり、神のみ名を心に留めていた人々を覚えておられて、大火をのがれさせられる。彼らは神の御目にはとうとい宝石となるのである。——教会へのあかし・第四巻・一〇七ページ

## 第二二二章

# 伝道事業の諸分野

### 盲人のための思いやり

天使たちは肉体的に目の見えない神の子らに仕えるためにつかわされる。天使たちはそのような人々の足もとを守り、彼らの知らない、行く手を悩ますさまざまな危険から彼らを救うのである。

——教会へのあかし・第三卷・五一六ページ

主はその民たちの中にいる盲人や病人が無視されている間は、民の祈りをお聞きにならない。

——教会へのあかし・第三卷・五一八ページ

盲人をつまづかせるような者が教会にいれば、罰せられなければならない。神はわれわれを盲人、悩む者、やもめ、孤児たちの保護者にさせておられるからである。神のみ言葉の中で述べられているつまづくものとは、目しいがつまづくように足もとに置かれた木片という意味ではなく、それに

はこれ以上の意味がある。それは、目しいの兄弟の感化を害したり、その兄弟の不利になるように働きかけたり、成功のじゃまをするような方法をとることすべてを意味している。——教会へのあかし・第三巻・五一九ページ

盲人は視力がないためにあらゆる面において不利な立場にある。暗闇におおわれた世界の中を手探りで歩いている盲人を見てもあわれみと同情の気持ちが起こらないような心は、実に無情な心であって、神の恵みで柔らげられなければならない。——教会へのあかし・第三巻・五二一ページ

### 孤児の世話

死が勝利にのまれるまでは、世話を受けなければならない孤児がいる。彼らは教会員が彼らに優しい同情と愛情のある親切な行為を示さなければ、いろいろの面で苦しむであろう。「さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ」と主は命じておられる。キリスト教的精神とは、こうした家のない者たちのために父親なり母親なりの代理役となるのでなければならない。やもめや孤児に対する同情を祈りや行為に表わすとき、これは神のみ前に覚えられ、やがて報われるのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年六月二七日

貧しい者を助け、悩み苦しむ者に同情を示し、孤児と友だちになるとき、あなたは自分とキリストとの間をいっそう親密にする。——教会へのあかし・第二巻・二五ページ

世話をしなければならぬ孤児がいる。しかし多くの者はそのような仕事をあえて引き受けよう

としない。彼らがしようと思っている以上に大変な仕事であり、自分の楽しみの時間がほとんどなくなるからである。しかし王であられる主が調査審判を始められると、これらの何もせず、物惜しみをし、利己的な人々は、天国がこれまで働き人であった人々や、キリストのためにおのれをおなしくした人々のために備えられているのだという事をはじめて知るであらう。自分を愛し、自分を守ることばかりに特別の注意を払ってきた人々のためには、何も備えられていない。王なる主が左にいる人々に言われた恐ろしい刑罰は、この場合、彼らの重い犯罪のためではない。彼らがやった事に対して罪を宣告されるのではなく、彼らがしなかった事に対して有罪に定められるのである。彼らは天からせよと命じられていた事をしなかった。自分を楽しませた彼らは、自分を楽しませた人たちと共に彼らのもうべき分を取ることができるのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年八月一六日

キリストが神から託されたものとして受けるように弟子たちにお命じになった孤児たちもいる。このような人びとは、とかく見過ごしにされがちである。彼らは、みすばらしく、粗野で、みたところ少しも好ましくない人びとのものであるかもしれないが、彼らも神の所有なのである。彼らも価値をもって買われたのであって、神の目の前には、わたしたちと同じように価値のあるものである。彼らは、神の大家族の一員であるから、クリスチャンは管理者として、彼らの責任を負っているのである。「わたしは、彼らの魂をあなたの手に求める」と神は言われるのである。——キリストの

主は教会員一人一人にこれらの孤児に対する義務を果たすようにと求めておられる。しかしただ義務だからやるというのではなく、彼らを愛しているから、またキリストが彼らをお救いになるためになくなれたから働くのだというのでなければならぬ。あなたの世話を必要としているこれらの魂をキリストはお買いになり、罪深い、わがままなあなたを主が愛されたように、あなたも彼らを愛するようにと期待しておられる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年六月二十七日

主はその民たちの中にいる**孤児**や父のいない者、足なえ、盲人、病人が無視されている間は民の祈りをお聞きになるようなことはなさらない。——教会へのあかし・第三巻・五一八ページ

こうした友のない子供や少年たちを世話し、正しい品性を形成するにふさわしい環境に彼らを置いて、彼らが神の子供たちになるようにと働く人々みんなの前に広い働き場が備えられている。優しく捜し出してもらふ必要のある、前途に望みのない子供たちがいる。そうでなければ見捨てられたまま成長し、悪と犯罪に導くような仲間の中に引き込まれる子供たちの多くがよい環境に導かれて、キリストのような、やさしい注意のもとにキリストに救われるかもしれない。……他人のためのこの働きは努力と無我の自己犠牲を必要とするであろう。ひとり子を与えてくださった神の大きな賜物に比べればわれわれにできる犠牲はまことに小さなものである。神は共に働く働き人になる特権をわれわれにさずけてくださったのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年六月二十七日

## 黒人

この国（米国）にはまだ働きかけていない広い伝道地がある。数知れない黒人は、本当に实际的にキリストを信じる者一人一人に思いやりと同情を求めている。このような人々は外国に住んでいるのではなく、また、木や石の像を拜んでいるのではない。彼らはわれわれの中に混じって住んでいるのである。神は、ここで人々が無視されているとおおせになり、くり返し、聖霊のあかしを通して、われわれの注意を彼らに向けるようにと求めておられる。この広大な地は、まだ働きかけられずにわれわれの前に横たわっており、神がわれわれにゆだねておられる光を求めているのである。

——教会へのあかし・第八巻・二〇五ページ

白人と黒人の間にはしきりの壁が建てられていた。至上の愛を造り主にささげ偏見のない愛を隣人にささげるようにと命じておられる神のみことばにクリスチャンが従うとき、エリコの壁がくずれたように、こうした偏見の壁は、くずれ落ちるのである。……現時代に対する真理を信じると主張する人々の教会はみな、奴隷制度の結果自分で考えたり行動することの特権を阻止されて、かえりみられず、踏みにじられていた民族を見落としてはならない。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九五年一月一七日

南部にいる人々のための働きを始めよう。ただ見守るだけ、あるいは、ただ決意するだけに満足して、それを行動に移すことをしないというのではなく、黒人の兄弟たちの気落ちした心を和らげ



るために、心から主にあって何かをしよう。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九六年二月四日  
黒人の名前は、白人の名前と並んで、いのちの書に記されている。すべての者は、キリストにあ  
って一つである。生まれ、地位、国籍、人種で人々を高く評価したり、低く評価したりすることは  
できない。品性が人を作るのである。インデアンや中国人や、あるいはアフリカ人が服従と信仰を  
誓って神に心をささげるならば、イエスはその人を人種の別なく愛される。イエスはその人を愛す  
る兄弟と呼ばれる。——サザン・ワーク・ハページ・一八九一年三月二〇日

やがて地の王たちや主権者たちが、福音の希望をつかんできた最も貧しいアフリカ人と身分を喜  
んで交換したいと思うようになる日が来る。——サザン・ワーク・ハページ・一八九一年三月二〇日  
神は、主に仕えるために導かれるアフリカ人たちを、イスラエルになさったと同じように、守り  
導いておられる。神はその民が南部にいるあらゆる階級の人々、特に黒人の間でこれまで働いてき  
た伝道よりはるかに多くの働きを民たちに要求しておられる。恵まれている人々のためよりも、黒  
人のためにもっと働く大きな義務がわれわれにはあるのではないだろうか。こういう人々を奴隷状  
態に置いていた者はだれだろうか。彼らを無知にしておいたのはだれだろうか。……もしその民族  
が低く見られたり、彼らの習慣や態度がいやな感じのものだとすれば、だれが彼らをそうさせたの  
だろうか。白人から黒人に対して当然支払うべき事がたくさんあるのではないだろうか。彼らにい  
ろいろ誤った事をしてきた以上、彼らを高めるために熱心な努力を払うべきではないだろうか。真  
理を彼らに伝えねばならない。彼らにはわれわれと同じように救われる魂があるのである。——サ

ザン・ワーク・ー、一二ページ・一八九一年三月二〇日

## 禁 酒 改 革

禁酒の友の中に加えられているという人々の中で、セブンスデー・アドベンチストはその前列に立っていない必要はない。——福音宣伝者・英文・三八四ページ

禁酒問題については動揺のない立場をとりなさい。岩のように堅固になりなさい。——福音宣伝者・英文・三九四ページ

われわれには公衆の中で説教する以外に、禁酒の分野においてなすべき仕事がある。パンフレットや印刷物にしてわれわれの主義を紹介しなければならない。われわれはあらゆる手段を用いて信徒たちが、真理を知らない人々に接する義務に目ざめるようにしなければならない。伝道事業においてこれまで収めた成功は、われわれが払った無私の犠牲的努力に全く比例するものである。われわれが一つの民として、神のみに謙遜であり、節制の真理を明確に、まっすぐに宣べ伝えていたならば、どれほどの事を成し遂げていたであろうかということを知っておられる方は主だけである。——福音宣伝者・英文・三八五ページ

禁酒問題は、神の民から決定的な支持を受けなければならない。不節制な事が優勢になってきた。いよいよ放縦がはびこり、健康改革について書かれた印刷物がぜひ必要になってきている。この点に言及している印刷物は、福音の助け手であり、真理をよりよく理解させるために聖書を探求させ

るよう人々を導くものである。不節制が大いに害になることを警告しなければならない。そして、これをするためには安息日を遵守する者めいめいが健康に関する定期刊行物や書物に書かれている教えを研究し、実行しなければならない。また彼らはこれ以上の事もしなければならない。すなわち、隣人たちにこれらの印刷物を紹介するために熱心な努力を払わねばならないのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇二年一月二〇日

絶対禁酒の誓約書を提出し、酒、たばこ、その他の欲望のために費やす金銭を病人や貧困者の救済および青少年を社会の有益な者に教育するためにささげるように求めなさい。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一八九ページ

### フアローアップの重要性

大会衆に真理を紹介すると、探求心に目ざめるから、この関心を個人的な働きによって育てることが特にたいせつである。真理を探求したいと望んでいる人々には神のみことばを熱心に研究するよう教えねばならない。しっかりした基礎を築くためにだれかが彼らを助けねばならない。彼らの宗教経験における重要な時期に伝道者が来て、賢明な指導をなし、神のみ言葉の宝庫を開いて理解させることは、実にたいせつなことである。——教会へのあかし・第九巻・一一一ページ

最上の瞬間は失われる。受けた感銘は続かない。関心を起こさせなかった方がましである。なぜなら、一たん罪の自覚がくじかれ、負かされると、心は二度と真理に感銘を受けにくくなるからで

ある。——教会へのあかし・第二巻・一一八ページ

## 財産の管理

財産のすべての消費にあたっては、クリスチャンのあらゆる働きのアルパであり、オメガであられる神の御目的にかなうよう努力しなければならない。——教会へのあかし・第九巻・四九ページ

金銭は、大いなる善をすることができから、大きな価値がある。それが神の子供たちの手にあれば、貧しい人の食事、かわいた人の水、裸の人の着物となり、圧迫されている人びとの防御となり、病人を助ける手段にもなる。金銭は、困っている人びとを助け、他を祝福し、キリストの働きを前進させるために用いてこそ、価値があるのであって、もしそうでないならば、金銭は砂と同様でなんの価値もないのである。——キリストの実物教訓・二三七ページ

神ご自身はみわざ進展の計画をお始めになり、その民たちに有り余るほどの資金を備えておられ、神が助けを求められる時に「ご主人様、あなたの一ミナで、十ミナをもうけました」と彼らが答えられるようにしておられる。——教会へのあかし・第九巻・五八ページ

金銭は来世にたずさえて行くことはできない。金銭はそこでは必要でない。しかし、キリストに魂を導くためになされた良い行ないは、天にたずさえられるのである。しかし、主のたまものを利己的に費やし、困っている同胞に助けを与えず、神のみわざの進展のために何もしい者は、造り主をはずかしめるのである。神から盗むことは、天の書に記録される。——キリストの実物教訓・

## 二四二ページ

魂の価値と比較すれば、現代のお金の価値は何ほどのことがあろうか。財産の一つ一つは自分のものではなく、主のものであり、神から預ったたいせつなものであると考えなければならない。必要な放縦のために浪費するのではなく、神のみわざのために、男女を滅亡から救う働きのために慎重に用いるのである。——エレン・G・ホワイト略伝・英文・二一四ページ

この世でなされる伝道の働きは、われわれの感化と支持を博するほどに重要なものではないだろうか。あらゆる放縦を断ち、われわれの賜物を神の宝庫に積み、真理が他の国々に伝えられ、自国の伝道がささえられるようにすべきではないだろうか。この働きは天の承認を受けるに値するものではないだろうか。これら終わりの時代に対する働きは大きな遺産によってささえられてきたり、世的な感化によって進展してきたのではない。無我の犠牲的精神から出たささげ物によってささえられてきたのである。神は地上における受難にキリストと共にあずかる者となる特権をわれわれにお与えになって、新たに造られる地を継ぐ資格を持つことができるようにしてくださった。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九〇年一月二日

神にささげられ、宝庫に積まれるささげ物はすべて、またこうして与えられた財産の最後の結果が記録をとる天使に忠実に記録されることを私は示された。神の御目は神のみわざにささげられる金銭を、たとえ一銭でも、また、ささげる者の自発的な心や不承不承の心をがさず見ておられる。ささげる動機も記録される。神のもので、神が返すようにと求めておられる通りに神にお返しする

犠牲的献身的な人々は彼らの働きに従って報われるのである。このようにしてささげられた金銭が、たとえ誤用されて、そのために寄付者が考えていた、つまり神のみ栄えと救霊のためという目的を遂げなくとも、真心からの犠牲を払って、誠心、誠意神のみ栄えを願ってささげた人々は報われな

いはずがないのである。——教会へのあかし・第二巻・五一八、五一九ページ

困っている兄弟を助けたり、真理をひろめる神のみわざに助力する機会はずべて、前もって送る事のできる真珠であり安全にしまっておくために天の銀行に預けることのできる貯金である。神はあなたを試み、ためしておられる。神は気前よく祝福を与えてこられたが、今、あなたがそれをどう用いるか、助けを必要としている人々を助け、魂への価値を感じ、神がゆだねておられる財産を用いてできるだけの事をするかどうかをじっとごらんになっておられる。そのような機会を利用するならば、それがことごとくあなたの天の宝に加えられる。——教会へのあかし・第三巻・二四九、二五〇ページ

## 天の報告方法

天使たちは一人一人の働きを忠実に記録している。——教会へのあかし・第一巻・一九八ページ  
あらゆる愛の行為、あらゆる親切な言葉、悩む者、しいたげられた者のために祈るあらゆる祈りは、永遠のみ座のみ前に報告され、天の永遠の記録にしるされる。——教会へのあかし・第五巻・

暗黒を晴らし、キリストの知識を広く伝えるためにわれわれの分を果たしたすべての努力は天に報告される。その行為がみ父の面前で報告されると、全天は喜びにわきかえるのである。——使徒の働き・一五四ページ

天使たちはわれわれの助け手となるよう命ぜられている。彼らは天と地の間を往来し、人の子らの行為の記録を天に運んでいる。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年四月二日

天に保管されている記録の書には、脱落も誤りもなく、その書によってさばかれるのだという事を覚えておくがよい。神へのなすべき奉仕で、怠った機会はことごとく記録される。また忠実な、愛の行為は永久に覚えられる。——預言者と王・六三九ページ

## 第二十四章

### クリスチャンの奉仕を

### りっぱに果たす資格

#### 有 能 さ

無力、無関心は信心ではない。われわれは、自分が神のために働いていると認めるとき、靈的奉仕の神聖さについて、以前持っていたより更に高いセンスを持つようになる。これを体得するとき、すべての義務の遂行に生命と注意深さとしんぼう強い精力が注ぎ込まれる。——教会へのあかし・第九卷 第九卷・一五〇ページ

時代は更に実力を高め、献身を深めることを要求している。ああ、わたしはこの問題で胸がいっぱいになり、こう神に叫ぶ。「立ち上がり、責任感に満ちた使者たちをつかわしたまえ、あらゆる罪の根本に横たわる自己崇拜の心を十字架につけた使者たちを」と。——教会へのあかし・第九卷・二七ページ



弟子たちにゆだねられた仕事にはりっぱな実力を要求される。悪の潮が深く強く彼らに逆らって流れているからである。——使徒の働き・三一ページ

### 教養のある言語

ことばの力を正しく修煉して用いることは、クリスチャン活動のあらゆる面に関係がある。これは、家庭生活の中にも、人との交際のどの場合にも必要なものである。わたしたちは、快い音声で話し、まちがいのない正しいことばを用い、親切で礼儀にかなったことばを使うようにしなければならない。——キリストの実物教訓・三一ページ

すべての牧師、すべての教師は、永遠の運命に関する使命を人びとに伝えていることを記憶しなければならぬ。語られた真理が、最後の審判の大いなる日に、人びとをさばくのである。そして、真理を語った人の態度いかにによって、真理を受け入れるか拒むかを決定する魂もある。であるから、人びとの理解に訴え、心に印象を残すように語らなければならない。真理は、ゆっくり、明りように、厳粛に語り、しかも、それは、その扱っている問題の重要性にふさわしい熱誠のこもったものでなければならない。——キリストの実物教訓・三一ページ

他の人をキリストの愛の社会に引き入れようと努力するときに、純潔な言葉、無我の奉仕、喜びにあふれた態度によってキリストの恵みの力をあかしなさい。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・グ・一二八ページ

すべてのクリスチャンは、キリストの無尽蔵の富を他の人びとにのべ伝えるために召されたのである。であるから、わたしたちのことばを完全にするように努めなければならない。聞く人の心を引きつけるような方法で神のことばを語らなければならない。神は、人間という通路がつかないものであることを望まれない。天からの流れが、人間を通じていくときにその人のために、それが軽んぜられたり、価値が低められたりすることは、神のみ旨ではない。——キリストの実物教訓・三一〇、三一一ページ

彼らは忍耐、親切、愛想のよさ、役に立つという点で教育される。また彼らの友であられるキリストは、無情で不親切な言葉や感情は認める事がおできにならないことを心に銘記して、真のクリスチャンとしての礼儀を実行する。彼らのことばはきよめられる。言語の力は、高尚できよい働きをするために彼らに貸与されるといふタレントであると考えてるのである。——福音宣伝者・九七ページ

## 知的教養

知的教養は、一つの民としてわれわれに必要なことであり、時代の要求に応じるために身につけねばならないものである。——教会へのあかし・第四卷・四一四ページ

行き当たりばったりに主の働きに携わって、成功を望んではいけない。主は知的な人々、思索的な人々を求めておられる。イエスは、そこつ者でなく、共労者を求めておられる。神は救霊のため

に必要な、たいせつな働きをしてもらうために正しい思想を持つ、知的な人々を求めておられる。

——教会へのあかし・第四巻・六七ページ

ある人々は心を働かすことによってこれを訓練する必要がある。考えるように心を仕向けなければならぬ。困難な問題を解決してもらおうと、自分の事を考えてくれる人にたよっているかぎり、また、頭を使って考えることを拒むかぎり、記憶力、予想する力、識別する力に欠けた状態が続くであろう。知的教育をするためにのおのほのゆる努力をしなければならぬ。——教会へのあかし・第二巻・一八八ページ

神はわれわれが怠惰な、訓練を受けない心の状態、活気のない思想、あいまいな記憶に満足するようには望みたまわない。——教師への勧告・五〇六ページ

神のしもべたちは研究に勤勉、知識を習得することに熱心でなければならぬ。決して一時間でもおだにしてはならない。しんぼう強い努力を重ねてクリスチャンとして、力と感化力のある人としての高い位置に達することができぬ。——教会へのあかし・第四巻・四一一ページ

ただ時間を重んじればよいのである。なんのあてもないおだ話、朝、床の中で浪費する時間、電車や汽車の中、駅で待つ間、食事を待つ時間、約束の時間に来ない人を待つ間などの時間を、本を手にしていて、研究、読書、思索などに活用するならば、どのようなことが成しとげられるかわからない。——キリストの実物教訓・三一九、三二〇ページ

固い決心をもって、たゆまぬ努力を重ね、注意深く時間を節約するならば、知識と知的訓練を受

けることができ、どのような地位にでも適した者となり、よい感化を及ぼし、りっぱに役立つ人物となるのである。——キリストの実物教訓・三二〇ページ

責任のある地位にいる人々は絶えず向上していなければならない。古い経験の上に固定してしまつて、科学的な働き人になる必要はないと思つてはならない。人間は、この世に生まれるとき最も力のない神の被造物であり、その性質は最もひねくれたものであるが、それでも絶えず進歩することのできるものである。科学によつて進歩し、徳によつて高められ、知的、道德的品位を高めて、天使たちの完全さ、きよらかさより少し低いかもしれないが、知的に完成され、きよい品性の完全な域にまで達することができるのである。——教会へのあかし・第四卷・九三ページ

神と共に働く者となることを願っている者は、体のすべての器官と精神の能力とを完全な状態にするように努力しなければならない。真の教育とは、あらゆる義務を遂行することができるように、体的、知的、道德的能力を準備することである。それは、体と心と魂を神の奉仕のために訓練することである。これは、永遠の生命につながる教育である。——キリストの実物教訓・三〇四、三〇五ページ

機械工・法律家・商人などあらゆる商売や専門的な仕事に携わる人々は、自分の仕事に熟達するよう教育を身につける。キリストに従う者たちはそれより劣つてよいだろうか、また、神の奉仕に専門的に携わつていながら、従事する方法や手段に無知でいてよいだろうか。永遠のいのちを得る計画はこの地上におけるどんな事よりもたいせつなものである。イエスに魂を導くためには人間の性

質についての知識を持ち、人間の精神を研究しなければならない。人々を真理の大いなる主題に近づける方法を知るには、深く考え、熱心に祈る必要がある。——教会へのあかし・第四巻・六七ページ

### クリスチャンの威厳と教養

安息日遵守者の持つべき本当の威厳とクリスチャン的教養に欠けているためにわれわれは一つの民として不利であり、われわれの告白する真理を味けなくさせている。精神や態度を教育する働きは、完全なところにまで達することができる。真理を告白する人々がイエス・キリストのうちにあって一人前の男女の背丈にまで成長する彼らの特権と機会を今利用しないならば、彼らは真理のために名誉とならないし、キリストのためにも名誉とならないであろう。——教会へのあかし・第四巻・三五八、三五九ページ

規則正しい生活ときよい会話によって仕事に威厳を保つようにしなさい。標準を高く上げ過ぎることを恐れてはならない。……粗野なこと、無作法な事はことごとく追い出さなければならぬ。礼儀正しく、上品で、クリスチャンの教養を身につけていなければならぬ。荒々しく、無作法な態度をとらぬよう注意しなければならぬ。そのような悪癖を徳と思ってはならない。神がそう思いたまわないからである。不必要に人を怒らせないようにしなさい。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九〇年十一月二五日

神のみこころについての知識を持っている男女が神のみわざにおけるりっぱな働き人となるために学ばねばならない最も大きな必要がある。彼らは洗練され、理解力のある人にならなければならぬ。人を迷わす外面的虚飾や、俗人の作り笑いの愛情を持つのではなく、天のかおりのする、またすべてのクリスチャンがきよい性質にあずかる者であるならば持つことのできる洗練さと、本当の上品さを持たなければならない。——教会へのあかし・第四巻・三五八ページ

われわれはかつてこの世界に与えられたことのない最も偉大な真理と望みがあり、最も大いなる信仰がある。そしてわれわれはこれをとうといものとして世に示したいものである。われわれは、このとうとい、神聖な真理を大胆に信じているのであるから、世に許しを請いながら暮らしているような態度ではなく、神と共にけんそんに歩み、いと高き神の子供であるようにふるまい、弱い器であるが、一時的、世的なテーマよりもっと高く、高尚な、最も重要で興味のある主題をとり扱っているもののようにふるまいたいものである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年七月二六日

魂のために働く者には献身、誠実、知性、勤勉、精力、気転が必要である。これらの資格があれば、劣った者になるはずはない。それどころか堂々たるよい感化力を持つようになる。——福音宣伝者・一一一ページ

個人や家族に近づく最善の方法について喜んで教える人々が働かなければならない。服装は小ざつぱりとして、しかも、おしゃれでなく、また、人々にあいそをつかされることのない態度を持たなければならない。われわれの間には一つの民として、本当の礼儀正しさが大いに欠けてい

る。この点を伝道事業に携わっている者みんなで改革しなければならない。——教会へのあかし・第四巻・三九一、三九二ページ

### 純 真 さ

われわれが召されて持っているような神聖で、厳粛な使命を持つ人々の生活にみせかけがあってはならない。世はセブンスデー・アドベンチストを見つめている。世は彼らの信仰の告白や、高い標準について何らかを知っているからである。だから世は、彼らの告白に従った生活をしていない人々を見ると、ちよう笑して指さすのである。——教会へのあかし・第九巻・二三ページ

人間はすぐれたたまもの、良い能力、すばらしい資格を持つことができる。しかし一つの欠点、一つのかくれた罪におぼれると、虫の食った板が船に及ぼすように品性に及ぼすのである——全くの災難と破滅である。——教会へのあかし・第四巻・九〇ページ

パウロは天のふんい気を身につけていた。彼と交わる人々はみな、キリストと結合している彼の感化力を感じた。パウロの生活が彼ののべ伝える真理を実証していたことは、彼の説教に信服させる力を与えた。ここに真理の力がある。きよい生活の自然で、何気ない感化は、キリスト教のためには与えられる最も信服させることのできる説教である。議論は、たとえ、反ばくできない場合でも、ただ反対の気持ちを扇動するだけかもしれない。しかしきよい模範には全面的に拒否できないような力がある。——福音宣伝者・五九ページ

眞の品性は、外部から形づくられて着せられるものではなく、内部から輝き出るものである。もしわれわれが人を義の道にみちびこうと望むなら、義の原則がわれわれ自身の心のうちに宿っていないとはならない。われわれの信仰告白は、宗教の理論を公言するかもしれないが、眞理のことは示すものは、われわれの実際の敬虔さである。矛盾のない生活、きよい行状、変わらない誠実、積極的で情深い精神、敬虔な模範——こうしたものが世に光を伝える手段である。——各時代の希望

・第二巻・一二ページ

祈り、勧告、談話は安い実であり、それはしばしば結びつけられるものであるが、良い働きや、困っている人、父のいない子、やもめの世話をすることの中に示される実は、まことの実であって、良い木に自然に成長する。——教会へのあかし・第二巻・二四ページ

## 積 極 性

神は眞理を進めるために一般に奇跡を働かれるのではない。もし農夫が土を耕すことを怠れば、神はその当然の結果に反するような奇跡は行なわれぬ。神はわれわれの知っている大原則に従って働かれる。ゆえに、賢明な計画が熟して、その手段が実施され、それによつて神が確実な結果を与えてくださるようにつくることがわれわれのなすべき分である。賢明な努力をせずに、聖霊に行動をしいられるまで、ただ待っているような人々は、暗黒のうちに滅びるのである。あなたはじつとすわって、神の働きを何もせずにはならない。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年一月一日



伝道の奉仕に携わっている人々の中には、弱く、勇気や元気がなく、すぐ失望するような人がいる。彼らは追求することに欠けている。彼らには何かをするために力を与える品性の積極的な特色、——熱意を燃やす精神と精力がない。成功を得ようと思う人々は勇気と希望に満ちていなければならない。消極的な徳ばかりでなく、積極的な徳を練磨しなければならない。——福音宣伝者・英文・二九〇ページ

主はキリストの十字架の勝利を追求する働き人を必要としておられる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九〇年五月六日

使命は、たいくつな、気のぬけたことばで伝えられるのではなく、はっきりと、確実に感動させるような言葉で伝えられなければならない。——教会へのあかし・第八巻・一六ページ

この使命を伝えるのに必要なのは流ちょうにしゃべれる雄弁家ではない。厳格にしっかりと真理が伝えられなければならない。行動の人、——教会のきよめ、世界への警告に熱心にたゆまぬ力を注いで働く人を必要としている。——教会へのあかし・第五巻・一八七ページ

神はみわざのために怠惰な人々をお用いにならない。神は思慮深く、親切で、愛情と熱意のある働き人を求めておられる。——教会へのあかし・第四巻・四一一ページ

## 決意

神の奉仕に携わる人々は救霊の働きに生氣と決意を示さなければならない。われわれが神の助け

手として、途中で坐礁したり、失望しないという、決意をいだいて働かないかぎり滅びゆく人々がいることを覚えていよう。——教会へのあかし・第六巻・四一八ページ

主はなすべき大きな仕事を与えておられる。それを正確に、決意をもってやろう。真理がわれわれのためにしてくれた事をわれわれの生活を通して示そう。——教会へのあかし・第六巻・四一八ページ

## 熱意

必要なものは熱心なクリスチャンの熱意である。——何かを行なうことによって示される熱意である。……ナイヤガラばくふの流れを止めることができないように、キリストを身につけている人に対して、主をあかしすることを妨げることはできない。——教会へのあかし・第二巻・二三三ページ

キリストを自分の救い主として受け入れた者はみな、神に仕える特権を切望する。天が自分のためにしてくださったことを考え、その心は無限の愛と、神を崇拜する感謝の念に動かされる。こういう人は、自分の力を神の働きにささげ、心から感謝の念を表わそうとし、キリストとキリストがあがなわれた者に愛をささげようと切望する。そして難事、苦労、犠牲を喜んで受けるのである。

——ミニストーリー・オブ・ヒーリング・四八九ページ

マルタのような人たちが熱心に宗教活動をする広い分野がある。しかし彼らをまずマリヤといっ

しよに、イエスの足下にすわらせなさい。勤勉と敏速と精力とをキリストの恵みによつてきよめなさい。そのとき、そのような生活は、征服されることのない善の力となるのである。——各時代の希望・第二巻・三三六ページ

主のみ名により、また、キリストが働かれるときに持つておられたあくことのない忍耐と、たゆまぬ熱意をもって、主のみわざを前進させなければならない。——教会へのあかし・第九巻・二五ページ

宗教的な働きの単調さを破る必要がある。われわれはこの世で一つの仕事をしているのであるが、十分な活気と熱意を示していない。もしわれわれがもっと熱心であれば、人々はわれわれのメッセーじの真理を認めるはずである。神への奉仕に気力がなく、単調なために、深く、熱心な、きよめられた熱意を見せなければならぬ高い階級の人々の多くに不快を感じさせるのである。——教会へのあかし・第六巻・四一七ページ

## 忍 耐

イエスの共労者になるためには、仕事の単純さを軽べつしないで、祝福ある結果を期待しつつ、あなたが働きかける人々のことを忍耐しなければならぬ。あなたが働きかける人々があなたの心にじっくり合わない、「彼らを好きないようにさせよう。彼らを救う価値はない」とあなたはよく心の中で言う。もしキリストが同じ方法であわれな人々を扱われたとしたらどうであろうか。主は

不幸な罪人を救うためになくなられた。だから、もしあなたが、従って行く主の模範に示された通りの精神と方法で働き、その結果を神にゆだねるならば、あなたはこの一生において測り知ることのできないよいものを完成するのである。——教会へのあかし・第四卷・一三二ページ

あなたが交わるようになるすべての人のために、私心なく、愛情と忍耐をもって働きなさい。いらした態度を見せてはならない。不親切な言葉をひと言でも言ってはならない。キリストの愛を心にとめ、親切の法則をくちびるにとめなさい。——教会へのあかし・第九卷・四一ページ

## 気 転

神に全く服従している人々は思慮と祈りと熱心な献身的気転をもって働くであろう。——サインズ・オブ・ザ・タイムズ・一八九三年五月二九日

もし気転があり、勤勉で熱心な人であれば、臨時の仕事もうまくできるであろう、またその同じ技能は、神の働きに献身するときに、二倍の有能さをも発揮するであろう。神の力が人間の努力と結び合わされるからである。——教会へのあかし・第五卷・二七六ページ

救霊の働きにおいては、気転と知恵が非常に必要である。救い主は決して真理を隠されたのではなく、いつも愛をもってそれを語られた。主は他人との交わりにおいて、最も気のきいた事をなされ、いつも親切で、思慮深くあられた。主は決して荒々しい方ではなく、不必要に激しい言葉を語られたり、感じやすい心を不必要に痛めるようなことはなさらなかった。主は決して人間の弱点を

非難なさらなかった。主は偽善、不信、不義を恐れなく非難されたが、痛烈な叱責をされる時にも、そのお声は涙にぬれんでおられた。主は真理を残酷なものにされるのではなく、常に人類のために深いあわれみをお示しになられた。主の目にはすべての魂が貴重なものであった。主は聖なる威厳を持っておられたが、最もやさしい同情をもって身をかがめられ、一人一人を神の家族と考えておられた。主はだれをごらんになっても、その魂を救うのがご自分の使命であるという事をお感じになった。——福音宣伝者・一一七ページ

正直であるがせつかちで衝動的な人々は、痛切な説教が与えられると、われわれと共にいない人にぶつきらばうに話しかけて、われわれがそういう人々に受け入れてもらいたいと望んでいる真理をその人々にとっていとわしいものにさせてしまう。「この世の子らはその時代に対しては、光の子らよりもりこうである。」実業家や政治家は礼儀を学ぶ。自分たちをできるだけ魅力的にするのが彼らの政策である。彼らは自分たちの周囲にいる人々の心に最も大きな影響を与えるような話し方や態度をとるよう研究する。彼らはこの目的を達成するために自分たちの知識と才能をできるだけじょうずに用いる。——教会へのあかし・第四巻・六八ページ

この使命は与えられねばならないが、それが与えられねばならないと同時に、われわれの持っている光を持っていない人々に突き出したり、詰め込んだり、彼らを非難しないように注意しなければならぬ。われわれはカトリック教徒たちを酷評しようとして自分の道からはずれてはならない。カトリック教徒たちの中にも良心的なクリスチャンや、彼らの上に輝いている光の中を歩んでいる

人々がたくさんいる。そして、神は彼らのために働かれるのである。——教会へのあかし・第九巻・二四三ページ

## 不 変 性

真のクリスチャンは衝動的ではなく、主義から、また、一日や一か月間ではなく、全生涯を通して神のために働く。——教師への勧告・五一八ページ

救い主はうまずたゆまず働く方であった。主はご自分の仕事を時間で計ることはされなかった。主はご自分の時間と心と力を人類の利益のために働くことにささげられた。主はあらゆる欺瞞の手をつくして働くこうかつな敵に立ち向かう力が与えられるように、また、人類を高め、回復するご自分の働きをなさるための堅固な備えができているようにと、昼は全時間働きにささげられ、また夜も全時間祈りに費やされた。神を愛する者は自分の働きを八時間制で計ることはしない。彼は全時間働き、決して義務を離れることはない。機会のある時にはよい事をする。いつでも、どんな場所でも、神のために働く機会を見つける。自分の行くところにはどこにでも芳香を携えて行く。

——教会へのあかし・第九巻・四五ページ

不注意な行動によって神の働きを非難させるような目にあわせたり、同信の働き人たちの手を弱めたりする人は、自分の品性に容易にぬぐうことのできない汚れをつけ、未来の有用な道に重大な障害物を置いているのである。——預言者と王・六五九ページ

「わたしのくびきを負いなさい」とイエスは言われる。くびきは奉仕の道具である。牛は労働するためにくびきを負わされるが、それは牛が効果的に働くために必要なものである。この実例によって、キリストはわれわれが、いのちのあるかぎり、奉仕に召されていることをお教えになっている。われわれはキリストと共に働く者となるために、キリストのくびきを身に負うのである。——各時代の希望・第二巻・四九ページ

### 同情と社交性

神の働きのどの部門においても、人間の苦悩に同情する人々を必要としている。しかしそのような同情はめったにないのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九〇年五月六日

われわれにはもっとキリストのような同情が必要である。われわれの目から欠点のないもののように見える人々のためにだけでなく、しばしばあやまちに陥り罪を犯して悔いたり、誘惑を受けて失望し、悪戦苦闘する気の毒な人に同情しなければならぬ。われわれの弱さを思いやられるあわれみ深い大祭司のような同情をもつて同胞に接しなければならぬ。——福音宣伝者・一四一ページ

一つの民としてわれわれは相互の同情と社交性に欠けているために多くのものを失っている。自立を唱えて、自分を閉じ込める者は、神が彼のために計画しておられた地位を満たしていないのである。われわれは神の民であって、お互いに幸福のために依存し合っている。神と人間の要求はわれわれの上にかかっている。この世の生活においてわれわれは自分の分をことごとく果たさなければ

ばならない。われわれの性質の社会的要素を正しく教育することによって、兄弟への同情心が起こり、他人を祝福しようと努力することによるこびを感じる余裕が出て来るのである。——教会へのあかし・第四巻・七一、七二ページ

救い主はあるパリサイ人の宴会の客となっておられた。救い主は貧しい人の招待も、金持ちの招待も同様におうけになった。そしてその場その場の光景を真理に結びつけてお教えになるのが常であつた。——キリストの実物教訓・一九九ページ

## 単 純 さ

キリストが弟子たちに、信じるものたちを集めるためにわたしの名によって出て行きなさいと命じになったとき、彼は単純さを保つことの必要を彼らにわかりやすく説明になった。虚飾やみせびらかしが少なければ、それだけ彼らの良い影響を高めることになる。弟子たちはキリストと同じように単純に話さねばならなかつた。——使徒の働き・二八ページ

もつとも単純でささやかな方法によつて幾千という人々の心にふれることができる。世のもつとも才能のある男女と見られている人々、もつとも知能のすぐれた人々は、世の人が自分の一番興味をもつ事について自然に話すのと同様に、神を愛する人が神の愛について話すその単純なことはに新鮮な感動をうけることがよくあるのである。

ときどき、よく準備され、研究されたことばが少しも感化を与えないことがある。しかし自然の



単純さで語られた神のむすこ、娘の、真実で正直な話は、キリストとその愛に対して長く閉じられてきた心の扉を開く力をもつのである。——キリストの実物教訓・二一—ページ

## 信 仰

神の働き人は神を信じる信仰を持たなければならない。神は彼らの働きを注意して見ておられ、その働きの価値を認めておられる。天使たちは、神の共労者たちに協力するように任命されている。神がおおせになったことをなさらずご自分の働き人たちに心を留める時間をお持ちにならないと思うときに、われわれは神をはずかしめているのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年八月二日

神の働き人は強い信仰を持たなければならない。見たところ望みがないように見えるかもしれないが、最も暗いときにもかなたに光がある。信仰によって神を愛し、奉仕する人々の力は、日ごとに新たにされるのである。——福音宣伝者・英文・二六二ページ

真の信仰は、どんなに年月がたち、また、どんな苦労があってもゆるがない快活さ、主義に対する忠実さと忍耐強さを持ちつつける。——キリストの実物教訓・一二六ページ

クリスチャンの生活には、危険のつきまとうことがよくあり、義務をつづけることが困難なように思えることがある。想像は、前方に切迫した破滅、背後に束縛か死を描く。それでもなお神の声は、「前に進め」とはつきり命じておられる。たとえわれわれの目が、やみを見通すことができな

くとも、また、足もとに冷たい波を感じていても、この命令に従わなければならない。われわれの前進をはばむ障害物は決してちゅうちよしたり疑う心を持つ者の前から消えることはない。すべての不確実な影が消えて、失敗や敗北のおそれがなくなるまで、服従を延ばす人々は、決して服従しないだろう。不信は「障害物が取り除かれるまで待っていよう。そうすれば、われわれの道をはっきり見ることができる」とつぶやくかもしれない。しかし信仰は勇敢に前進をすすめ、すべてを望み、すべてのことを信じる。――創世時代と父祖の生活・二九〇ページ

## 勇 気

偉大な働きが完成されなければならない。もっと広い計画が立てられなければならない。国々を目ざめさせるために、一つの声が出て行かねばならない。信仰の弱い、動揺している人々は、この重大な危機にみわざを進めるにふさわしい者ではない。われわれは英雄のような勇氣と殉教者のような信仰が必要である。――教会へのあかし・第五卷・一八七ページ

信仰によってわれわれが主の力をつかむとき、主はほとんど希望のない、失望するように見えるものをすばらしいものに変えてくださる。主は、ご自分のみ名の栄えのためにこれをしてくださる。神は主を信じる忠実な者たちに、信仰のない希望のない人々に勇氣を語るようにと求めておられる。どうか主のみ助けによりわれわれが互いに助け合い、生きた信仰によって主をあかしするように。

――教会へのあかし・第八卷・一二ページ

神のために完全な奉仕をするためには希望と勇氣は欠くことのできないものである。これらは信仰の実である。落胆は罪深いものであり、不法なものである。——預言者と王・一六四ページ

勇氣と活気と忍耐こそ彼らが持たねばならない。見たところ彼らの道には前進をはばむ障害があるように思えても、神のめぐみにより、彼らは前進しなければならない。困難を悲しむのではなく、そのような困難に打ち勝つよう求められている。彼らは何も失望することはなく、すべてのことに希望を持たねばならない。類のない愛の金のくさりで、キリストは彼らを神のみ座に結びつけられた。すべての力の源であられるお方から出る全宇宙の最高の感化力を彼らに持たせることが、神の目的である。彼らは、悪に抵抗する力、地も死も、よみも勝つことのできない力、キリストが打ち勝たれたように、彼らもうち勝つことができるような力を持たねばならない。——福音宣伝者・三九ページ

## 献 身

真のきよめとは、神への奉仕に専心することである。これが真のクリスチャン生活の条件である。キリストは、何一つ保留しない献身、完全な奉仕を求めておられる。キリストは、心と思いと魂と力とをご要求になる。自己に執着してはならない。自己のために生きるものは、クリスチャンではない。——キリストの実物教訓・二五、二六ページ

神と共に働く者になりたいと思う者がだれでも学ばねばならない第一のことは、自分にたよらな

いという教訓である。その時彼らはキリストの品性を与えられる用意ができる。これはどんなに科学的な学校の教育によっても得られないものである。それは天来の教師イエスからのみ得られる知恵の実である。——各時代の希望・第一巻・三一〇ページ

異常な環境のもとに靈的歡喜を示すからといって、それがクリスチャンであることの結論とはならない。きよいということは歡喜ではない。それは神のみこころに完全に服従することである。それは神のみ口から出る一つ一つのことばによって生きることである。それは天父のみこころを行なうことである。光の中にある時ばかりでなく、試みや、暗やみの中にあるときにも神に信賴することである。それは見えるものによらないで、信仰によって歩くことである。それは疑いのない確信をもって神にたよることであり、神の愛の中に身を落ち着けることである。——使徒の働き・五一ページ

## 誠 実

神の民は、自分に名譽をきせるのではなく、また最も厳肅な契約によつて、主にしかも主のみ仕えるよう定められていることを覚え、全く、心から神に奉仕する民として區別されていなければならない。——教会へのあかし・第九巻・一七ページ

今立つことのできる人は、心から全く決心している男女である。キリストはしもべたちを何度もふるわれて、ある時には、クリスチャン教会の基礎を置くのにわずか十一人と二、三の忠実な婦人

しか残らなかった。負わねばならない重荷に会うとしりぞくが、教会のすべてが燃えているときには、彼らは熱中して歌い、叫び、有頂天になる。しかし彼らを見つめてみよ。その熱がさめたとき、わずか少数の忠実なカレブたちだけが前に出てきて、ゆるぎない節義を示すであろう。こういう人は風味を保つ塩である。教会に本当の助けが現われるのは、みわぎの進展が困難なときである。

——教会へのあかし・第五巻・一三〇ページ

全心全霊を働きにうちこみ、「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思」うようであれば、だれも神への奉仕に成功することはできない（ピリピ三ノ八）。自分のために少しでも取って置く者はキリストの弟子になることはできないし、ましてや共労者となることはできない。——各時代の希望・第一巻・三四六ページ

投機に携わったり、未信者と商売に携わってはならない。これは神から与えられた彼らの働きにおいてさまたげとなるからである。——教会へのあかし・第九巻・一九ページ

あがない主は分割された奉仕をお受けにならない。神のために働く者は毎日、自己を服従させることの意味を学ばねばならない。——福音宣伝者・一一三ページ

## 忠 誠

主はみわぎにおける危機のときに無関心であったり、不忠実なことをきらわれる。全宇宙は善と悪の大闘争の最後の場面を言い表わせないほどの興味をもって見つめている。神の民は永遠の世界

の境に近づいている。天の神に忠誠をつくすことよりたいせつなことが彼らにあるだろうか。各時代を通じて、神には道徳的英雄がいた。現在もそういう人々がいる。すなわち、ヨセフ、エリヤ、ダニエルのような人々は、自分たちを神の特別の民と認めて恥じない。行動の人すなわち、義務のまっすぐな線からそれずに、神の力によって「主の側に立つ者はだれか」ときく人、ただきくだけでやめてしまわずに、神の民と一体になることを選ぶ人々を前に進み出させて、王の王、主の主であられるお方に、はっきりと忠誠を示すように求める人、こういう人々の働きに神の特別の祝福がある。そのような人々は、自分の意志と計画を神の律法に従わせる。神への愛のために彼らは自分のいのちを惜しいと思わない。彼らの仕事はみことばから光を得て、明るい、着実な光線として世にそれを輝き出させることである。神への忠誠が彼らのモットーである。――預言者と王・一四八ページ

## 鋭 敏 さ

整頓、徹底、敏速の習慣をつけることは、すべてのクリスチャンの義務である。たとえば、どのような仕事にせよ、だらだらと不手ぎわにしてよい理由はない。常に仕事をしていながら、仕事が完成されないとすれば、それは、仕事に心を入れていないからである。仕事がおそく、思うように運ばない人は、このような欠点を改めるべきであることを自覚しなければならない。最大の結果を得るためには、どのように時間を用いるべきであるかを計画して、頭を働かせなければならない。気

転と方法いかんによつては、他の人が十時間かかる仕事を、五時間で仕上げることもできる。家庭の仕事をしている人で、仕事はそれほど多くはないが、時間を節約して計画しないために、一日じゆう仕事をしている者がある。彼らはおそくぐずぐずしているために、わずかのことを、たいへんな仕事のようにしている。けれどもだれでも意志さえ働かせれば、このような手数のかかるぐずぐずした習慣に打ち勝つことができる。それには仕事をするにあたつて、はっきりした目標を立てることである。この仕事にはなん時間必要であるかを定め、その時間内に、仕事を完成するように全力を注ぐのである。意志を働かせるならば、手も器用に動くようになるのである。——キリストの実物教訓・三二〇ページ

キリストに奉仕するためには、すみやかに従わねばならない。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年八月九日

主はご自分のしもべたちの中に、魂の価値をすみやかに感じ、なすべき義務をすみやかに認め、主が彼らに与えておられる義務にすみやかにこたえる精神を見い出すことができるようにと要求しておられる。——教会へのあかし・第九巻・一二三ページ

神の任命された仕事に勤勉であるということは、真の宗教の重要な部分である。人間は神のみ心を行なう、神の器として状況をつかまねばならない。ちようどよいときに、迅速で、果敢な行動をとれば、輝かしい勝利を得るが、遅れたり、怠ったりすると失敗を招き、神をけがすのである。

——預言者と王・六七六ページ

## 高い標準を保持する

優秀な働きをする資格のある多くの人々が、少ししか試みないために、少ししか完成しないでいる。幾千もの人々が生きるための大きな目的、達成すべき高い標準を持っていないかのように人生を過ごしている。この理由の一つは、彼らが自分を低く評価していることにある。キリストはわれわれのために無限の価を支払われた。そして、支払われたその価に従って自分を価値づけるようにと主はわれわれに望んでおられる。——福音宣伝者・二九一ページ

イエスは、地上生涯の間じゅう、熱心にたえず働きになった。彼は多くのことを期待された。だから多くのことを試みられた。——各時代の希望・第一巻・六六ページ

主のために奉仕する者は、多くの人々が思っているよりもっと高く、深く、広い経験が必要とする。すでに神の大家族の一員となっている者でも主の栄光を見て、栄光から栄光へ変えられるというこの意味をほとんど知らない者がたくさんいる。またキリストのすぐれておられることをわずかり理解して喜びに心をおどらせている者もたくさんいる。このような人々は更に十分に、更に深く救い主の愛を知りたいと欲求する。彼らは神を求める魂の欲求を常に心にいだかねばならない。——福音宣伝者・英文・二七四ページ

牧師、医師、教師その他主の奉仕に携わるすべての者にささげたいメッセージがある。主はもっと聖なる標準に達するように、もっと高くのぼるようにとあなたがたに命じておられる。あなたが



たはこれまで思っていたよりもっと深い経験を持たねばならない。神の大家族の一員となっている者でも、主の栄光を見て、栄光から栄光へ変えられることの意味をほとんど知らない者がたくさんいる。またあなたがたのうちにはキリストの卓越しておられることをわづかばかり理解して、喜びに心をおどらせている者もたくさんいる。あなたがたはもっと十分に、もっと深く救い主の愛を知りたいと求めている。あなたがたは満足していない。しかし失望してはならない。イエスに最上の最もきよい愛情をささげなさい。光をことごとく貯えなさい。神を求める欲求を常にいだきなさい。霊的思想や聖なる交わりという教養を身につけなさい。あなたがたはまだ主の栄光のわずか最初的光線しか見ていない。主を知るところを求めるならば、主はあしたの光のように出現されることを知るのである。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」(箴言四ノ一八)。われわれは自分の罪を悔い、悪かったことを認めて罪のゆるしを得、完全な福音信仰の真昼に達するまで、キリストの事を学び続けねばならない。——教会へのあかし・第八巻・三八ページ

### 慎重と用心

ネヘミヤは神の助けを懇望する一方、エルサレムを回復するという目的を遂げることに、彼にはこれ以上の心配も責任もないと感じて、ただ手をつかねているようなことはしなかった。実にりっぱな慎重さと用心深さで、その企ての絶対的な成功を得るために必要なあらゆる準備をととのえる

ことにとりかかった。あらゆる行動には非常な用心深さが目立っていた。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月一五日

この聖徒（ネヘミヤ）の模範は、神の民がみな、ただ信仰をもつて祈るだけでなく、勤勉に、忠実に働かねばならない事を教える教訓としなければならない。慎重さ、用心、骨折りが宗教とほとんど関係がないとみなされているために、どんなにたくさんの困難にぶつかったり、われわれのためにより無理の働くことをわれわれはどんなにしばしばまたげたことであろう。これは重大な誤りである。神のもっと有能な働き人になるようにあらゆる能力を養い、訓練することは、われわれの義務である。ネヘミヤの時代と同様に、今日も聖なる事業に成功するために、慎重に考慮した、賢明な計画は欠くことのできないものである。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年三月一五日

### 失望をくじく方法

主のしもべはあらゆる種類の失望に会う覚悟をしなければならない。彼らは怒りや、けいべつ、敵の残酷な行為ばかりでなく、怠惰、矛盾、なまめるさ、友や援助者の裏切りによっても試みられる。……神のみわざの発展を望んでいるように見える人々の中にも反对者たちの中傷、自慢、あるいは彼らの脅迫に耳をかたむけたり、うわさしたり、なかば信じたりすることによって、神のしもべたちの手を弱める者がある。……失望のさ中であって、ネヘミヤは神を信頼した。ここにわれわれの避け所がある。主がわれわれのためになさった事を思い出せば、それは危険のたびにわれわれ

のささえとなる。「ご自身のみ子をさえ惜しまないで、わたしたちのすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、み子のみならず万物をも賜わらないことがあるのか」そして「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか」(ローマ八ノ三一、三二)。サタンの陰謀がどんなに巧みに立てられようとも、神はそれらを見破られ、彼らの計画をすべて無効にされる。——サザン・ウォッチマン・一九〇四年四月一九日

戦いの第一線に立って、聖霊に促されて特別の働きをする人々は、その圧力が取り除かれると、しばしば反動を感じるであろう。落胆は最もおもしろい信仰をぐらつかせ、最も堅固な意志を弱める。しかし神は理解され、なおもあわれまれ、愛される。神は心の動機と目的を読みとられる。すべての事が暗く見えるときに神の働きに携わる指導者たちは、しんぼう強く待ち、信頼する事を教訓として学ぶべきである。天は彼らが逆境にあるときにも彼らを忘れることはない。魂がおのれのむなしさを感じて、全く神によりたのむことほど、見かけは力がないように見えて、実際にはこれほど強いものは他にない。——預言者と王・一七四、一七五ページ

主は失敗したり、落胆したりせず、その仕事が全く気に入らない性質のものであるうとも、それを引き受ける兵士たちを求めておられる。神はわれわれみんながキリストを模範とするように望まれる。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九四年七月一七日

今日一般に好まれていない真理を教える人々は、パウロとそのでしたちが働きかけた人々からあまりよく受け入れられなかったように、たとえば、クリスチャンだと称する人々からさえ時にはここ

ろよく受け入れられないことがあっても、失望することはない。十字架の使者たちは用心深さと祈りで身をかため、常にイエスのみ名によって働きつつ、信仰と勇気をもって前進しなければならぬ。——使徒の働き・二三〇ページ

## やさしさ

腹が立つようなことがあってもやさしさを失わない精神は、どんな力強い議論よりも、真理のためにずっと効果的に語るのである。——各時代の希望・第二巻・八五、八六ページ

露や静かな雨が枯れかかった植木に降り注ぐように、人を過失から救おうとするときは、やさしいことばを語るべきである。神の計画がまず心を動かす。わたしたちは、神が生活を変化さす力をお与えになるのであると信じながら、愛をもって真理を語るべきである。愛より語られた言葉を聖霊が心にお働かせになるのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二九ページ

優しい精神、穏やかな、人を引きつける態度は、あやまちに陥っている人を救い、多くの罪をおうことができる。あなたは自身の品性のうちにキリストがあらわされる時、それは、あなたの接するすべての者を変化させる力を持つのである。キリストが日ごとにあなたのうちにあらわされるようにしよう。そうすればキリストはあなたを通してそのみことばの創造的な力——他の人々をわたしたちの神である主のうるわしさを持つように再創造する静かな、説得力のある、しかも力強い感化力——をあらわされるのである。——祝福の山・一六〇ページ

## 公 平

救い主は、人々の中に暮らしておられた間ずっと、貧しい人たちと同じ身分になられた。彼は自分の経験から、貧しい人たちの心配や苦勞をご存じだったので、いやしい労働者たちをみな慰めあげますことがおできになった。イエスの一生の教えをほんとうに理解している者は、階級差をつけたり、お金持ちが、貧しくてもりっぱな人たちよりとうとばれるようなことがあったりしてはならないと考える。——各時代の希望・第一巻・六六、六七ページ

見込みもなく、見ばえもないと思われる人びとに背を向けることは、キリストがさがしておられる魂をないがしろにすることであるのを自覚しておられるだろうか。あなたが、彼らをかえりみないそのときこそ、おそらく彼らがあなたの同情を一番必要としているときである。どの礼拝集会のときにも、休息と平安を求める魂がいる。彼らは、見たところ、不まじめな生活を送っているようではあるが、聖霊の働きに無感覚でいるわけではない。彼らの中にも、キリストに導かれる人が多くいることであろう。——キリストの実物教訓・一七一ページ

福音の招きは、狭い範囲に限定され、相手が受け入れたらこちらの名誉になるような少数のえらばれた人たちだけに与えられるのではない。福音はすべての人に与えられるのである。真理を受け入れるように心の開かれているところならどこでも、キリストは彼らを教えようとしておられる。

——各時代の希望・第一巻・二三二ページ

正直——忠実——勤勉

責任が、ある一人にゆだねられるとき、その人が雄弁であるとか、お金持ちであるとかということではなく、正直で、忠実で、勤勉であるかどうかということが問題になるのである。この人の成し遂げたものが何であろうと、このような適性を持っていなければ、責任のある地位に着くには全然適しないからである。——教会へのあかし・第四巻・四一三ページ

無 我

キリストの働きをわれわれの模範としなければならない。主は絶えず良いわざをされるために出て行かれた。宮や会堂で、市の街路で、市場や作業場で、海辺や山の中で、主は福音を宣べ伝え、病人をいやされた。主のご生涯は、無我の奉仕の生涯であり、われわれの教科書となるべきものである。主のやさしい、あわれみ深い愛がわれわれの利己的で無情なことを非難する。——教会へのあかし・第九巻・三一ページ

神のために働くこうとする動機には、自己奉仕に似たものがあってはならない。無我の献身と犠牲の精神は、受け入れられる奉仕には第一に欠くことのできないものである。われわれの主は、そのみわざに利己心という一本の糸すらも織り込まれないようにと計画しておられる。われわれは機転と巧みさ、正確さと賢さを持つよう努力しなければならない。これは全き神が地上の神殿を造る者

たちに要求されたものである。しかしわれわれはすべての働きにおいて、どんな大きな才能、あるいはどんなすばらしい奉仕も、自己が祭壇の上に、生きた焼きつくされるいけにえとしてのせられなければ受け入れられないという事を覚えていなければならない。――預言者と王・六五ページ

改革者は世界の人々の間で最も無我で親切で礼儀正しくなければならない。その生活には無私の行為という真の良さが現われなければならない。――ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二九ページ

## 案 ず る な

献身的でない働き人のために物事がうまくいかないことがある。あなたはこの結果に涙を流すかもしれない。しかし心配してはならない。祝福の主はそのみわざを端から端までご自分の老練な監督の下に置いておられる。主がお求めになることは、働き人に聖職のために主のもとに來させ、主のさしずに従わせることだけである。あらゆる事、すなわち教会、ミッション、安息日学校、諸機関は、神の聖なるみ心によつて推進されているのである。なぜ心配するのか。神がそうさせたいと計画しておられる通りに、生き生きと輝く光のような教会を見たいという切なる願いには、神に全くより頼む信頼が混じり合わねばならない。――レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月一四日

穏やかさをつちかい、真実であられる創造者に自分のたましいをゆだねなさい。神はご自分の責任としてゆだねられたものを守られるであらう。神は祭壇を涙と不平でおおうことをよろこばれない

い。たとえまだ他の魂が改心しているのを見なくとも、すでに改心したもののために神を十分賛美できるのである。しかし、すべての事を自分の考えに合わせようとするのではなく、ただ前進しさえすれば良い働きが進められるのである。神の平和があなたの心を支配し、感謝がみなぎるように。主に働きたもう余地を与え、主の道を妨げてはならない。われわれさえその気になれば、主は働くことがおできになるし、働いてくださるのである。——教会へのあかし・第九卷・一三六ページ

### 神の信任状を受けよ

神は魂の宮に聖霊をさずけることがおできになると全く比例して、すべての人を用いることがおできになる。神が受け入れてくださる働きは、神のみかたちを反映している働きである。神のしもべたちはこの世に対する信任状として、神の不滅の原則の消すことのできない特性を持たねばならない。——教会へのあかし・第七卷・一四四ページ

キリストのみ名は、彼らの合い言葉、彼らの特性のバッジ、結合のきずな、行動の権威、成功の源泉となるはずであった。神の王国においては、神のみ名と表題のついていないものは何も認められないはずであった。——使徒の働き・二八ページ

### 民 兵

暗黒からおどろくべき光の中に呼び出してくださったお方を賛美しに出て行くよう、忠実な民兵



になりなさい。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月二四日

神のしもべは、神のみ摂理により道が開かれるとすぐ活動しはじめる民兵でなければならない。彼らの側に何か手遅れがあると、彼らを打ち負かす仕事をする時間をサタンに与えることになる。

——創世時代と父祖の生活・四二三ページ

神の律法を守る人々は、絶えず奉仕をする準備ができていなければならない。——教会へのあかし・第八巻・二四七ページ

キリストの真の代表者たる者は、他人の幸福のために働いている。彼らは国内の伝道であっても、外国の伝道であっても神のみわざを喜んで前進させる。彼らは人に見られ、人に聞かれ、祈祷会において是人に感化力を与える。彼らは自分たちがすることのできない働きをする牧師の代わりをとめようと試みる。彼らは自己を高揚しようとしたり、大きな仕事をして信用を得ようとするのではなく、キリストが彼らのために多くの事をしてくださったからこそ、小さな使いをしたり、あるいは必要ならば更に大きな働きをして、けんそんに、温順に、忠実に働くのである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年九月六日

## 勇気と眞実

この危機の時代に教会が必要なものは、パウロのように役に立つために教養を積み、神のことに深い経験をもち、熱意と情熱で満たされている働き人の軍隊である。聖別された、献身的な人々が必

要である。すなわち試みや責任を回避しない人々、勇敢で、誠実な人々、心の中でキリストを「栄光の望み」としている人々、聖なる火に触れたくちびるで「み言葉をのべ伝える」人々である。このような人々が不足しているために、神のみわざは衰えて、猛毒のように致命的な誤りによって道徳は腐敗し、人類の大部分の人々の希望がくじかれている。——使徒の働き・五〇七ページ

積極的な戦いにより、対立、危機、損失、人類の苦しみのさ中であって、救霊事業は推進されるのである。ある戦いにおいて、攻撃する連隊の一つが敵軍に打ち負かされようとした時、前線の旗手はその軍隊が退却するのに自分の位置に踏みとどまっていた。隊長が軍旗を持ち帰るように叫んだにもかかわらず、旗手は「兵士を軍旗のもとに来させよ」と彼に叫んだのである。兵士を軍旗のもとに行かせること、これこそ忠実な旗手一人一人にゆだねられた仕事である。主は心からの献身を求めておられる。信仰をあかしした多くのクリスチャンは、自分自身と彼らにつながる人々をみ旗のもとに行かせる勇氣と力に欠けているという罪を犯していることをわれわれみんなは知っている。——教会へのあかし・第九卷・四五、四六ページ

危機の時代にすべての人の力と勇氣と感化力を必要とする時にあたって、正義のために堅く立つことを恐れる人々を神は用いることがあできにならない。神は悪に対して忠実に戦うもの、もろもろの支配と権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対して戦う人々を求めておられる。神がこのみ言葉、「よくやった、善かつ忠なるしもべ」と言われるのはこのような人々に対してなのである。——預言者と王・一四二ページ

神はエリヤ、ナタン、バプテスマのヨハネのような人、すなわち、結果のいかにかわらず、忠実に使命を伝える人々、持てるすべてのものを犠牲にするよう要求されても、真理を勇敢に語る人々を求めておられる。——預言者と王・一四二ページ

### 羊飼いのような思いやり

羊が一匹いなくなったことを知った羊飼いは、おりの中に安全にはいつている羊の群れをながめて、少しも驚いた様子もなく、「ここに九十九匹いる。迷った一匹をさがしに行くのはたいへんだ。そのうちに帰ってくるだろう。おりの戸をあけておいてはくれるようにしておこう」などとは言わない。一匹が迷い出たことを知るや否や、羊飼いはそれを悲しんで心配し出す。彼は、なん度も羊を数えなおす。いよいよ一匹が迷ったことが明らかになると彼は眠ることができない。九十九匹をおりに残して、道に迷った羊をさがしに出る。夜は暗く、あらしははげしい。道がけわしくなるにつれて、羊飼いの不安はつのり、ますます熱心に捜し求める。彼は、道に迷っている一匹の羊を見いだすために全力をつくすのである。

やつのことで遠方から羊のかすかななき声が聞こえたときに、羊飼いはどんなに安心したことであろう。彼は、そのなき声をたよりに、自分の身の危険もかえりみないで、けわしい坂をよじ上って、絶壁の頂上まで行く。こうして捜しているうちに、なき声はいよいよ弱まり、今にも死にそうになっているのがわかるが、ついに、彼の努力は報いられ、いなくなった羊が見いだされる。さ

て、彼は、その羊に向かつて、お前は、ずい分わたしにやっかいをかけたといつてしかったりはない。おちでかりたてようもしない。また、おりにひいていこうもしない。彼は、喜びのあまり、ふるえる羊を肩にのせる。もし、傷ついていたりすると、しっかり自分の胸にだきしめて、自分の心臓の温まりで、元気づけてやろうとする。羊飼いは搜索がむだにおわらなかつたことを感謝して、羊をおりまでかかえて帰るのである。——キリストの実物教訓・一六六、一六七ページ

## けんそん

奉仕のために男女を選ぶにあたって、神は、学問があるかとか、雄弁であるかとか、世的な富があるかとかをお尋ねになるのではない。神は「わたしが彼らにわたしの道を教えることができるようないけんそんさで歩くだろうか、わたしは言葉を彼らのくちびるにおくことができるだろうか、彼らはわたしを代表するだろうか」とおたずねになる。——教会へのあかし・第七巻・一四四ページ

貧しいもの、さげすまれているもの、見捨てられているものを助けようとするにあたって、威厳や優越という竹馬にのつて彼らのために働くのではない。この方法では何も成し遂げることはできないのである。——教会へのあかし・第六巻・二七七ページ

われわれの教会を活気のあるものにさせ、成功させようと努力することは、騒ぎ立てることではなく、静かな、つつましい働きである。誇示したり、豪語することではなく、忍耐し、祈り、しんぼう強く努力することである。——教会へのあかし・第五巻・一三〇ページ

敗北の屈辱は、神のみ助けなしにみこころを行なうことができないのだという事をわれわれに示してくれるので、かえって祝福となることがよくある。——創世時代と父祖の生活・六三三ページ

戸別訪問の働きには、粗末ないなか家に住む人々のタレントが必要であり、この働きにおいては、すばらしい賜物を持っている者よりもっと多くの事を成し遂げることができ。——教会へのあかし・第九卷・三七、三八ページ

神の使者たちが、ナザレのイエス・キリストのみ名によってこの世で推進させているこのみわざに全天は関心を持っている。兄弟、姉妹がた、これは偉大な働きであり、われわれは神のみ前にけんそんになり、われわれの知恵が完全なものだと思ってはならない。みわざを熱心にとらえなければならぬ。われわれは神がわれわれをまずしくするようにと祈ってはならない。神はわれわれをとらえられると、われわれが喜ばないかもしれないような方法でわれわれをまずしくされるからである。だからわれわれは、日ごとに神の偉大なみ手のもとに自らけんそんでなければならぬ。われわれは恐れ、おののいて、自分自身の救いのために働かねばならない。われわれの中にみこころを行ない、神のよるこばれることをなさろうと働かれるのが神であり、一方、われわれは、神がわれわれを通して働かれるあいだ神と協力するのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八八七年七月一二日

われわれは狭い門から入るよう努力しなければならぬ。しかし、この門はちようつがいでは開くのではない。それは疑わしい性格のものを認めない。われわれは、目の前にあるすばらしい

ものの価値にふさわしく熱心に永遠のいのちを求める努力をしなければならぬ。パラダイスの門をわれわれに開くものは金銭や、土地や地位ではなく、キリストのような品性を持っていることである。われわれが不死という冠を獲得できるのは威厳によるのでもなければ知的な学識によるのでもない。柔和でへりくだり、神をわが力とした人々だけがこの賜物を受けるのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年四月一六日

伝道の仕事を終えて帰ってきた時、自分を賛美するのではなく、イエスをあがめなさい。カルバリーの十字架をかがげなさい。——教会へのあかし・第五巻・五九六ページ

榮譽の前に謙遜がある。人の前で高い地位を占めさせるために、天は、バプテスマのヨハネのように、神の前に低い地位を占めている働き人をお選びになる。最も子供のような弟子が、神のための働きにおいて最も有能な者である。天使たちは、自分がえらくなろうとする者ではなく、魂を救おうとする者と協力することができる。——各時代の希望・第二巻・二一三ページ

## 節 制

神のみわざのために最善の働きをすることができるよう、神の子らはめいめい食べる事、着る事、働くことに節制する必要があることを心に留めてもらいたい。働く者が仕事に忙殺されたり、心労のために圧迫を感じている時に、また、心身が過労しているときは、利己的な満足のためでなく、次になすべき仕事に対し、もっと良い準備ができるように、しばらく離れて、休息するがよい。わ

れわれには油断のない敵がいて、絶えずわれわれのあとをつけ、弱味につけ込み、悪への誘惑に引き入れようとしている。精神が過労したり、からだが弱っているとき、彼はそれにつけ込んで、神のしもべを堕落させるような最も恐ろしい誘惑で魂を悩ますことができる。神の働き人は自分の力を控え目に注意深く出し、負わされた労苦に疲れた時わきへ立ちのき、休息して、イエスと交わる。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月一四日

身体 of 諸機能を誤用するならば、神の栄光のために用いることができるはずの寿命をちぢめ、神からゆだねられた仕事を果たすことができなくなる。悪い習慣をつづけたり、夜ふかしをしたり、健康を犠牲にしてまで食欲を満足させたりすることは、体を虚弱にする原因である。運動を怠ったり、心身を過度に疲れさせたりすると、神経系統の平衡が失われる。このようにして、自然の法則を無視したために寿命をちぢめ、奉仕ができなくなった人びとは、神に対して盗みの罪を犯している。彼らは、また、同胞からも盗んでいることになる。他を祝福する機会、すなわち神がこの世界に彼らをお送りになったたいせつな仕事を、自分自身で短縮してしまった。そればかりではなくて、その短い期間に果たし得たはずのことさえできなくなってしまった。こうして、わたしたちが有害な習慣のために、世界から善を奪うときに、神はわたしたちに有罪の宣告を下されるのである。

——キリストの実物教訓・三二二、三二三ページ

われわれの神はどんなご要求の場合でも常にめぐみ深く、あわれみ深く、道理にかなってあられる。神はわれわれに健康をそこねたり、知力の減退するような行為を続けるようにとは求められない。

い。主は消耗するまで繁忙や緊張下に働かせようとはなさらない。主はわれわれに理性を与えてくださり、その理性を働かせて、良く平衡のとれた組織を持つようにわれわれのうちに植え付けられた生命の法則に従って、調和した行動をとるようにと望んでおられる。日一日と続き、毎日その日の責任と義務はやって来るが、あすの仕事がきょうという日にまじり込んではいならない。神のみわざに携わる働き人は、仕事に神聖なものであることを知って、きょうの力を賢明に用い、あすの仕事のために備えなければならぬ。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月七日

## 休息と内省

イエスのでしたちはいかに働き、いかに休息すべきかという事について教育される必要があった。今日神の選ばれた働き人は離れて行き、しばらく休息せよというキリストのご命令を聞く必要がある。このご命令を無視したために、その必要がなかった多くのとうとい生命が犠牲にされてきたのである。……収穫が大きく働き人が少ないけれども、健康や生命を犠牲にしては何も得られない。……体の弱い、疲れた働き人で、しなければならぬ仕事がたくさんあるにもかかわらず彼らには全くわずかしかなければならないのを見て、すっかり失望している人々がたくさんいる。彼らはもっと仕事をやり遂げられるような体力を求めているのであるが、この階級の人々にこそイエスは「さあ、あなたたちは、人を避けて寂しい所へ行つて、しばらく休むがよい」と言われるのである（マルコ六ノ三二）。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月七日



クリスチャン生活は、絶えず活動したり、あるいは、めい想し続けることから成っているのではない。クリスチャンは失われた者の救いのために熱心に働かねばならない。また、めい想や祈りのために、また神のみことばの研究のために時間をとらなければならない。いつも仕事で緊張し、興奮した状態にいるのは良くない。こうして、一個人の敬けんさが無視され、心と体の力がそなわれるからである。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月七日

神に訓練されている者はすべて自分自身の心や自然や神とまじわる静かな時が必要である。彼らはこの世やその習慣や行動と調和しない生活をなすべきであって、神のみ旨を知るには個人的な経験が必要とする。われわれは各自その心に、神がお語りになっているのをきかねばならない。他のすべての声が静まって神の前でわれわれが静かに待つとき、心の静けさは神のみ声をいつそう明りように聞こえさせてくれる。神は『静まって、わたしこそ神であることを知れ』とお命じになる。神のためになすすべての働きにはこれが有効な準備となる。こうして心を新たにした者は、忙しい人々の間にあつても、また、人生のはげしい活動の中にあつても、光と平安のふんい気にかこまれる。そうして体力も精神力も、新たな力を増し加えられる。その生活はよいかおりを放ち、人々の心を感動させる神の力を表わすのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三ページ

## 第二十五章

聖

霊

### 約 束

聖霊の約束は、ほんとうに最初のものであったように、今日、われわれのためのものでもある。神は、ペンテコステの日に救いの言葉を聞いた人々にお授けになった天来の力を今日の男女にも授けてくださる。たった今の時間においても、聖霊とその恵みは、それを必要とし、神のみことばを受け入れる人々みんなのものである。――教会へのあかし・第八巻・二〇ページ

聖霊の約束は年齢や人種に限られたものではない。聖霊の聖なる感化力は世の終わりまで神のしもべたちと共にあるとキリストは述べられた。ペンテコステの日から現代に至るまで、助け主は、主とその奉仕におのれを全くささげている者すべてにつかわされてきた。――使徒の働き・四〇ページ

神はその民を聖霊の賜物によって活気づかせ、新たに神の愛で洗礼を授けたいと望んでおられる。教会では聖霊の不足に困ることはない。キリストの昇天後、聖霊は、一人一人の心に達する充実した力をもって、待ち望み、祈り、信じているでたちに臨んだ。将来この地上は神の栄光で照らされるのである。真理によってきよめられた人々から聖なる感化がこの世に伝わって行くのである。この地はめぐみのふんい気につつまれるのである。聖霊は神に関することがらをとりあげ、それを人々に示すために人間の心に働きかけるのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年九月五日

地上における神のみわざが終わろうとしているこの終わりの時代に、聖霊の導きのもとに献身した信徒がささげる熱心な努力には、神の特別の恩寵のしるしが伴うのである。前の雨、後の雨のひゆとしてそれは、種まき時と収穫時に東部地方に降るのであるが、ヘブルの預言者たちは神の教会に非常に豊かに霊的めぐみが授けられることを預言した。使徒たちの時代における聖霊の降下は、前の雨または秋の雨の始まりであり、その結果はすばらしいものであった。聖霊の臨在は終わりの時代までまことの教会とともにあるのである。——使徒の働き・五四、五五ページ

使徒時代における聖霊の降下は「秋の雨」で、その結果はすばらしいものであった。しかし春の雨はもつと豊かに注がれるはずである。この終わりの時代に住んでいる人々への約束は、何であるうか。「望みをいだく捕われ人よ、なんじら城に帰れ。われ今日もなお告げて言う、われ必ず倍して、なんじらにたもうべし」（ゼカリヤ九ノ一二・文語訳）。「あなたがたは春の雨の時に雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる」（ゼカリヤ一

〇ノ二。——教会へのあかし・第八卷・二一ページ

## 神は気持ちよく与えられる

主は、両親がその子供に良い賜物を与えるよりもっと気持ちよく、主に仕えるものに聖霊を与えられる。——使徒の働き・五〇ページ

どんな時にも、どんな場所でも、どんな悲しみにも、どんな苦しみにも、前途が暗く将来が困難に見えて無力と孤独を感じるときにも、信仰の祈りに答えて、助け主が送られる。この世のすべての友から離れるような事情が起こるかもしれない。しかしどんな事情もどんな距離もわれわれを天の助け主から離れさせることはできない。どこにいようと、どこへ行こうとも、主はいつもわれわれの右にあつて、力づけ、助け、ささえ、励まされる。——各時代の希望・第三卷・一五四ページ

朝ごとに福音の使者たちが主のみ前にひざまずき、主に献身の誓いを新たにするとき、主は元気づけ、きよめる力をもって、聖霊を彼らにさずけられる。彼らはその日の仕事に出て行く時、聖霊の见えない力が彼らを、「神の共労者」にさせてくれるのだという確信を持つのである。——使徒の働き・五六ページ

われわれは聖霊の力の時代に住んでいる。それは人間という器を通してその力を満ちわたらせようとしている。こうしてこの世界にその感化力を増すのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年一月三日

## 受けるための条件

聖霊は、隣人に与えるためにいのちのパンを求めている人々みんなに臨む。——教会へのあかし・第六巻・九〇ページ

われわれが心をキリストに結合させ、われわれの生活を主のみわざに調和させるとき、ペンテコステの日にでしたちの上に降下した聖霊が、われわれの上にも降下する。——教会へのあかし・第八巻・二四六ページ

神の恵みの富が、地上の人びとに流れないのは、神の側に何か制限があるためではない。——キリストの実物教訓・三九四ページ

聖霊は、わたしたちが聖霊を求めて、受けることを待っており。——キリストの実物教訓・九八ページ

これが力を受ける方法であるのに、なぜわれわれは聖霊の賜物に飢えかわかないのだろうか。なぜわれわれはそれについて語り、そのために祈り、またそれについて説教しないのだろうか。

——使徒の働き・五〇ページ

もし成就すべきはずの約束が成就しないとすれば、それは、その約束が感謝されるべきように感謝されていないからである。もし全部が望みさえすれば、みたまはみんなに満たされるのである。

——使徒の働き・五〇ページ

毎日みたまのバプテスマを求めるには、すべての働き人は神に願いをささげねばならない。クリスチャンの働き人同志は、賢明に計画し、実行する方法を知るために集まって、特別の助け、天来の知恵を求めねばならない。特に彼らは、神が伝道の分野に選ばれた使者たちにみたまを豊かに注いでくださるようと祈らねばならない。——使徒の働き・五〇、五一ページ

クリスチャンは不和を全く取り除き、失われた者の救いのために神に自分をささげよう。信仰をもって約束の祝福を求めよう、そうすれば、それは与えられるのである。——教会へのあかし・第八巻・二一ページ

弟子たちは自分たちのために祝福を求めなかった。彼らには魂の重荷がかかっていた。福音は地の果てにまで伝えられるはずであった。そして彼らはキリストが約束しておられた力を授けられるようにと求めた。それから聖霊がそがれて、多くの人々が一日に改心したのである。——サザン・ウオッチマン・一九〇五年八月一日

キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束されたが、その約束は、最初の弟子たちと同じようにまたわれわれのものである。しかしほかのすべての約束と同じように、それは条件つきで与えられている。主の約束を信じ、これをわがものと主張する人は多い。彼らはキリスト**について**語り、聖霊**について**語るが、何の益も受けない。彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらっために魂をあけわたそうとしない。われわれが聖霊を用いることはできない。みたまがわれわれを用いてくださるのである。みたまを通して、神は民のうちに働き、「その願いを起させ、かつ実現に

至らせ」てくださるのである（ピリピ二ノ一三）。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、彼らが天の賜物を受けない理由である。みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受け入れる能力にしたがっていつでも与えてくださる。——各時代の希望・第三巻・一五八ページ

全地を神の栄光で照らす神のみたまの大いなる降下は、神との共労者になることがどんなことであるかを経験を通して知る、啓発された民をわれわれが持たないかぎり、やってこないであろう。われわれがキリストの奉仕に完全に、心から献身するとき、神はみたまをあふれるばかりに注いでくださり、その事実を認めてくださる。しかし、教会の大部分が神の共労者になっていなければ、これは認められない。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九六年七月二一日

### 成功に欠くことのできないもの

みたまが神の働き人と共にいるという事は、この世のどんな名誉も栄光も与えることのできなかった一つの力を真理の宣伝に与えるであろう。——使徒の働き・五一ページ

神は目の前にある仕事を自分の力でするようにとは、われわれにお求めにならない。人間の資力

では堪えられないあらゆる緊急時に神は聖なる援助を用意しておられる。神は窮境にあるときにいつでも助けて、われわれの希望と確信を強めわれわれの知力を啓もうし、心をきよめる聖霊を与えてくださる。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年八月一日

聖霊の降下後、弟子たちは彼（キリスト）に対する愛とキリストが犠牲となられた人々に対する愛に満たされたので、人々の心は弟子たちの語る言葉によって、また、弟子たちのささげる祈りによって和らげられた。彼らはみたまの力で語り、その力の感化により多くの人々が改心した。

——使徒の働き・二二ページ

自我を捨てて、聖霊が働くための余地を心に作り、全く神に献身した生活をする人は限りなく役に立つのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年八月一日

ペンテコステの日に聖霊が降下した結果はどうであったか。——よみがえられた救い主についてのよろこばしいおとずれが、既知の世界のほとんどの部分に運ばれた。……彼らの働きによって選ばれた人々が教会に加えられ、その人々は、いのちのみ言葉を受けて、平和とよろこびに満ちた希望を他の人々に与える働きにその生涯をささげた。多くの人々が、「神の国は近づいた」という使命を宣伝した。彼らはおどしによってけん制されたり、威嚇されることはできない。主は彼らを通して語り、彼らの行くところではどこでも、病人がいやされ、貧しい者は宣べ伝えられる福音に接した。人々がみたまの支配に身をまかせるときに、神は実に偉大な働きをされるのである。

——サザン・ウォッチマン・一九〇五年八月一日



聖霊は、魂の中の霊的生命の呼吸である。みたまを与えることはキリストのいのちを与えることである。それは、受ける者にキリストの属性を吹き込む。このように神から教えられる人たち、心のうちにみたまの働いている人たち、その生活にキリストのような生活をあらわす人たちだけが、教会を代表する者として立ち、教会に代わってその任務を行なうのである。——各時代の希望・第三卷・三四二、三四三ページ

独特の、急速な変化がまもなく起こり神の民たちは、天来の知恵で現代の緊急に直面し、破壊的な世の活動ができるだけくじくことができるように、聖霊をさずけられるのである。教会が眠らず、また、キリストの弟子たちが目をさまして祈るならば、彼らは敵の行動を知り評価するのに光を持つことができるであろう。——教会へのあかし・第六卷・四三六ページ

### 理解されていないみ約束

キリストは、みたまの聖なる感化力は終わりまで弟子たちとともにあると述べられた。しかしこのみ約束は、あるべきようには理解されていない。ゆえにそのみ約束は成就されるべきように成就されていないのである。みたまの約束はほとんど考えられていない問題であり、その結果は当然期待されることに過ぎない。すなわち、霊的なかわき、霊的暗黒、霊的墮落と死である。重要でない事に注意が払われて、教会の成長と繁栄に必要であり、それに引き続いて限りなく十分にその他すべての祝福をもたらす神の力が欠けている。——教会へのあかし・第八卷・二一ページ

## おなしく聖霊の降下を待っている人々

現在の機会を賢明に活用せずに、他人を啓発する能力を大いにまし加えてくれる霊的清新の特別の時期をおなしく待っている人々がいる。彼らは現在の義務と特権を怠り、彼らの光が薄暗くなるままに放っておき、一方では、彼らの側で何の努力もせずに、特別の祝福を受けて、それによって彼らが変わられて、奉仕にふさわしい者となるようにと、待ち望んでいる。——使徒の働き・五四ページ

## キリストの後継者

聖霊はキリストの代表者であるが、人間の個性を備えておられないので、これに拘束されない。キリストは、人性の制約を受けておられたので、どこへでもみずから行かれるわけにかなかった。だから、キリストが父のみもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。そうすれば、場所やキリストとの個人的接触などによる特典はだれにもないのであった。みたまによって、救い主はだれにでも近づかれるのであった。この意味において、主は、天にのぼられなかったとした場合よりも一層近く彼らのそばにおられるのであった。

——各時代の希望・第三卷・一五三ページ

## 初めから聖霊が働く

神は初めから、墮落した人類のために神の御目的を達成なさろうと、人間を通し、聖霊によって働いておられる。これは父祖たちの生涯に明らかに示されている。モーセの時代の荒野における教会にも、神は「良きみたまを賜わって彼らを教え」た。そして使徒の時代には、聖霊の力を通して教会に大いに働きかけられた。父祖たちをささえ、カレブとヨシユアに信仰と勇気を与えられ、また、使徒時代の神の忠実な子らをささえてきた。暗黒時代にフルド派のクリスチャンが改革の道を備える助けをしたのは聖霊の力によってであった。近代の伝道事業を確立し、聖書をあらゆる国々、民族の国語や方言に翻訳するために道を開拓したりっぱな人たちの努力を成功させたのも同じ力であった。——使徒の働き・五三ページ

## 第二十六章

# 成功の保証

### 神の保証

神はわれわれが自分自身を神にささげるならば働きをなさるのである。——教会へのあかし・第九卷・一〇七ページ

神は真心こめた奉仕を受け入れ、自らその不足を補われる。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一二三ページ

正しい行為は、たとえ行為者が自分のした事に取り立てるほどの価値があると思わなくとも、その一つ一つに永遠性が与えられる。——教会へのあかし・第二卷・六八三ページ

もしあなたが本当に献身しているならば、神はあなたを通して、暗中模索している多くの人々に光を伝える通路として神がお用いになれる他の人々を真理にみちびかれる。——教会へのあかし・

## 第七巻・六三ページ

真理は間もなくりっぱに勝利する。そして今神との共労者になることを選んでいる者はみんな真理と共に勝利するのである。——教会へのあかし・第九巻・一三五ページ

出し惜しみすることなく、奉仕のために主に献身する者はみな、測り知れない結果に達する力を与えられる。——教会へのあかし・第七巻・三〇ページ

われわれが同胞の救いのために勤勉に働くとき、神はわれわれの努力をむだなく成功させてくださる。——教会へのあかし・第九巻・八六ページ

主はその偉大なご計画の中に一人一人のための場所を持っておられる。必要のないタラントは授けられない。そのタラントは小さいと仮定しても、神はそれのための場所を持っておられて、その一タラントを忠実に用いるならば、それは神がそうあるようにと計画される通りの働きをするのである。——教会へのあかし・第九巻・三七ページ

最も質朴な働き人がキリストと協力するとき、地の果てに響くような震動を起こす絃に触れることができ、永遠にメロディーをかなでるのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・一三一ページ

みわざの分野においては、どんな仕事であろうと、その本当の成功は、機会とか偶然とか運によるものではない。それは神のみ摂理が現われたものであり、信仰や思慮分別、徳や忍耐の報いなのである。優れた知的な素質とか高い道徳的気品は偶然の結果ではない。神は機会を与えられる。成

功はそうした機会を活用することによるのである。——預言者と王・四八六ページ  
 感銘を受けて、みわざに携わる人々は国内においても外国においても、主のみ名によって前進しなければならぬ。もし彼らが神のめぐみと力にたよるならば彼らは成功するであろう。彼らの働きは初めは小さいかもしれないが、彼らが主の計画に従えば、その働きは大きくなるのである。神は生きておられる。神は無我で、献身的な働き人のために、それがだれであろうと、どこであろうと、働いてくださる。——サザン・ウオッチマン・一九〇三年四月九日

### 天使たちの協力

われわれは、天使たちの使命をもっと良く理解しなければならない。神の本当の子供には天使たちの協力があるということを知っているとよいであろう。光と力の目に見えない軍勢は、神のみ約束を信じて求める、柔和で謙そんな人々につきそうのである。ケルビムとセラピム、そして力にすぐれた天使たちは神の右に立ち、「すべて仕える霊であつて、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するために、つかわされたもので」ある（ヘブル一四）。——使徒の働き・一五四ページ

主、イエスは主なる働き人であられることを覚えていよう。主はまかれた種に水をかけられる。主は人々の心に触れる言葉をあなたの頭に入れられる。——教会へのあかし・第九巻・四一ページ  
 神の働きにあなたのすべてをささげなさい。主はあなたの力であられ、主はあなたの右の手であられ、あなたを助けて、ご自分のあわれみ深いご計画を進めてくださる。——教会へのあかし・第

## 九巻・四一ページ

完全な品性は、人を完全な行動にまで高めるから、それを確固たる信仰をもって求める者には、天使も協力して働くのである。この働きに加わっているすべての者に対して、わたしはあなたの右にあってあなたを助けると、キリストは言われる。——キリストの実物教訓・三〇七ページ

人間の意志が、神の意志と協力すると、どんなことでもできるようになる。神がお命じになったことは、神の力によって完成することができる。神のお命じになることはどんなことでも、成しとげることができるのである。——キリストの実物教訓・三〇七ページ

滅びゆく魂のために働くにあたって、あなたには天使という仲間がいる。幾百万、幾千万もの天使たちは、一つの民がキリストの再臨の準備ができるようにと神が惜しみなく与えておられる光を伝えることにわれわれの教会員と協力しようと待っている。——教会へのあかし・第九巻・一二九ページ

このような働きには、天のすべての使いたちが常に協力しようとしている。全天の資源は、失われた者を救おうとする人びとが、いつでも自由に使用できるように提供されている。天の使いたちは、どんなに軽率で、どんなにがんこな人にも、あなたが近づくことができるように助けを与えらる。そして、道に迷ったものが一人でも神のところに連れもどされると、天全体が歓喜の声をあげる。セラピムやケルビムは、金の立琴をかきならし、人の子らに対する神のあわれみといつくしみに対して、神と小羊をほめたたえるのである。——キリストの実物教訓・一七七、一七八ページ

ガリラヤの漁師をお召しになったイエスは、いまもなお人々をご自分の奉仕に召しておられる。しかもイエスは、最初の弟子たちを通して力をあらわされたのと同じに、われわれを通してよることのできる力をあらわされる。われわれがどんなに不完全で罪深い者であろうと、主はわれわれに、キリストとの共労者、キリストに見習う者となるようにとの招きを提供しておられる。キリストと一つになって神のみわざに働くことができるように、神の教えを受けなさいと、主はわれわれを招いておられる。——各時代の希望・第一巻・三八四ページ

主のためにすべてをささげて生活する人々をキリストが高く評価されることをあなたがたは考えないのだろうか。愛されていたヨハネのように主のために困難な、試みの多い場所にいる人々を主がたずねられるということを知らないのだろうか。主はご自分の忠実なしもべたちを見つけて、彼らと親しくされて、勇気づけられ、力づけられる。そして神の天使たちは、力においてすぐれており、真理を知らない人々に真理を語る働き人に仕えるよう神からつかわされる。——教会へのあかし・第八巻・一七ページ

全天は活動している。そして神の天使たちは、キリストが犠牲となられた魂が救いのよきおとずれを聞くことができるように、計画を立てるすべての人々に協力をしようと待っている。救いを受け継ぐものとなる人々に仕える天使たちは、まことの聖徒に「あなたにする仕事がある」「さあ行きなさい。そして……この命のことはを漏れなく、人々に語りなさい」と言っている（使徒行伝五ノ二〇）。こう語りかけられた人々が、この命令に従うならば、主は彼らの前に道を備えて、進む方



法を与えられる。——教会へのあかし・第六卷・四三三、四三四ページ

このような時代にあつて神の子供はみな他人を助ける仕事に携わるべきである。聖書の真理を理解している人々が、光を求めている男女を探し出そうとする時に、神の天使たちは彼らに仕えるのである。そして天使の行くところはどこでも、だれも前進を恐れる必要はない。働き人が献身して忠実に努力する結果、多くの人々が偶像礼拝から生ける神を礼拝するようになるのである。多くの人々は人間の作った制度に忠誠をつくすことをやめて、神と神の律法の側に恐れなく立つのである。

——預言者と王・一七一ページ

天の支配と権威とは見かけは失望に値するような状況のもとにあつて神のしもべたちが続けている戦いを見守っている。クリスチャンが救い主のみ旗の回りに集まり、信仰のりっぱな戦いを戦うために出かけて行くとき、新しい勝利が遂げられ、新しい名誉が得られる。全天使は神をけんそんに信じる人々に仕える。そしてこの地上における主の働き人の軍勢が賛美の歌を歌うとき、天にいる聖歌隊も彼らに和して、神とみ子への賛美をささげる。——使徒の働き・一五四ページ

みわざを成功させるものは人々から出た力ではない。みわざを完成させるものは、人間と共に働く天使たちの力である。パウロなる人が植えつけ、アポロなる人が水をかけるかもしれない、しかし、成長させるものは神である。人間には神のなされるわざをすることはできない。人間として彼は聖天使に協力することはできるであろう。そして単純に、柔和に最善をつくし、神が偉大な主なる働き人であることを認めなさい。働き人たちは葬られて行くが、みわざは中止することなく、

完成へと進展するのである。——レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年一月一四日

クリスチャンには常に主にあつて強い助け手がある。主が援助される方法はわれわれにはわからないかもしれないが、この事だけはわかる、つまり、神に信頼する人々を神は決して失望させたまわないということである。クリスチャンに関する敵の目的が達成しないようにと主が幾度も彼らに行くべき道を示されたことをクリスチャンが認識することができれば、彼らは不平そうにつまづきながら行くことはないであろう。彼らの信仰は神の上にとどまり、どんな試みも彼らを動かす力はないであろう。彼らは神を彼らの知恵であり有能な力と認めるであろう。また神は彼らを通してやり遂げたいと思つておられることを成就されるであろう。——預言者と王・五七六ページ

伝道に従事する者はすべて神の助手である。彼らは天使と共なる働き人であり否それ以上に、天使がその使命を達成するための人間の器である。天使たちは彼らの声を通して語り、彼らの手によつて働くのである。こうして働き人は、天使たちと協力することによって、彼らの教育と経験にあずかることができるのである。——教育・三三七ページ

キリストはすべての男女が主の義のよいいをまとい、働きを始めるようにと召しておられる。「わたしはあなたを助ける右の手である」と主は言われる。あなたの試みや困惑をすべて神に話しなさい。主はあなたの信頼を裏切ることとはなさない。キリストにとってご自分が買い求められたもの、ご自分の教会、真理の種をまくために出て行く働き人ほどたいせつなものはない。……イエスのことを考えなさい。イエスは聖なるみ座にあられる。しかも孤独の状態ではなく、イエスの命令を行

なうために待っている幾千幾万の天使たちに取り巻かれておられるのである。そして主は、神に信頼する最も弱い聖徒のために働きに行くようにと天使たちにお命じになるのである。身分の高いものにも低いものにも、富める者にも貧しい者にも、同じ助けが用意されている。——サザン・ウォッチマン・一九〇五年十一月七日

### 失敗について考える必要はない

キリストのために働く者は自分たちの仕事について決して失敗することを考えてはならない。ましてや、それについて話してはならない。主イエスはすべての事においてわれわれの力であられ、そのみたまはわれわれを感動させる。そしてわれわれが主のみ手に身をゆだねて、光の通路となる時、善を行なう方法はつきることがない。そして主の満ちみちている徳に近づき、限らないめぐみを受けることができる。——福音宣伝者・英文・一九ページ

しかし、わたしたちが自分を全く神にささげて、神の指導に従うならば、その達成については、神が責任を負ってください。わたしたちが、忠実に働くならば、これが成功するかどうかを気にすることを神は望まれない。失敗のことは一度でも考えてはならない。わたしたちは、失敗することのないお方と協力しなければならぬ。——キリストの実物教訓・三四〇ページ

神の民が自分自身を低く評価するときに神は失望される。神はご自分の選民が、彼らの上に神がおかれた評価にしたがって自らを評価するように望まれる。神が彼らを所望されたのである。そう

でなければ、神は彼らをあがなうために、ご自分のみ子をあのように高価な使命におつかわしにはならなかったのである。神は彼らに用があるものであって、彼らが神のみ名の栄えをあらわすために、神に最高の要求をするときに神はよろこばれる。神の約束に対して信仰を持つときに、大きなことを期待できるのである。——各時代の希望・第三卷・一四九、一五〇ページ

## 相 応 の 成 功

神がある仕事を成し遂げるための道を開き成功の確信をお与えになったら、選ばれた者は、約束の結果を遂げるようにあらゆる努力を払わなければならない。みわざを推進させる熱意と忍耐に応じて成功が得られるのである。——預言者と王・二六三ページ

## 成功する奉仕の基礎となる動機

純粹の愛から出たものは何であろうと、たとえそれが人間の目から見て、小さなまずしい事であっても、完全に実を結ぶのである。なぜなら神は人の行なう量よりも、どれほどの愛をもって働くかということ重視されるからである。——教会へのあかし・第二卷・一三五ページ

本当に改心し、自発的な心を持った、献身的な十人の働き人は、伝道分野において形式をととのえるために力を注ぎ、機械的な規則を保存し、魂に対する深い愛情もなく働く百人の働き人よりもっとよい働きをすることができ。——教会へのあかし・第四卷・六〇二ページ

成功するか否かは、あなたが今持っている能力とか、または、将来の能力によるものではない。

それは、主があなたのために何をなし得るかということによる。わたしたちは、人間のできることには、信頼をおかないで、信じるすべての魂のために、神がおできになることにもっともっと信頼をおかなければならない。神は、あなたが信仰によって、神にたよることを望んでおられる。神は、あなたが、神に大きなことを期待することを望んでおられるのである。神は、霊的なものと同様に、この世のものに対する理解をも与えようと望んでおられる。神は、知性を鋭敏にすることがおできになる。また、手腕と技巧とを与えることがおできになる。あなたの才能を大いに働かせて、神に知恵を祈り求めなさい。そうすれば、知恵は与えられるであろう。——キリストの実物教訓・一二五ページ

めぐみの油は神から任命された仕事を毎日行なうための勇気を人々に与え、また、彼らに動機を与える。五人の愚かなおとめはランプを持っていた（これは聖書の真理についての知識という意味）。しかし彼らはキリストのめぐみを持っていなかった。日ごとに彼らは一連の儀式や、表面的な義務をくりかえしていたが、彼らの奉仕には生命がなく、キリストの義に欠けていた。義の太陽は彼らの心や精神に輝いていなかった。また、彼らはキリストのご生涯とご品性に、その像と銘に一致する真理に対する愛を持っていなかった。めぐみの油は彼らの努力とまざらなかった。彼らの宗教は、真理の心髄がないためにかさかさの皮であった。彼らは教理の形式を固守したが、クリスチャン生活においてまどわされ、全く独善的で、もし実行しさえすれば、救いに至る知恵を得たはずのキリ

ストの学校における学科を学ばなかった。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九四年三月二七日

神のみわざは、神と人間の協力によって完成へと進められねばならない。うめぼれの強い人々は外見は神の働きに活躍しているように見えるかもしれないが、彼らに祈りがなければ、その活動は役に立たない。もし彼らに、虹の輪に取り巻かれたみ座の前の金の祭壇に立っている天使の香炉をのぞき見ることができれば、彼らはキリストのいさおがわれわれの祈りと努力にまじり合わねばならない事、でなければ、彼らはカインのささげ物と同様に価値がないということを知るのである。もしわれわれが人間のすべての行為を神のみ前に現われる通りに、見ることができれば、その働きが多く、祈りによって成し遂げられ、キリストのいさおによってきよめられるときのみ、さばきの試みに堪えるのだということを知るのである。厳粛な検査が行なわれるとき、あなたがたは義人と悪人、神に仕える者と仕えない者との区別を知ようになる。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年七月四日

律法的な宗教はこの時代にはききめがないであろう。われわれは外形的な奉仕の行為をことごとく行なうことはできるかもしれないが、ギルボアの山に露と雨が欠けていたように聖霊のすみやかな感化力に欠けるのである。われわれはすべて霊的なしめりが必要である。そしてわれわれはまた心を柔らげ、しずめる義の太陽の輝かしい光線も必要なのである。われわれは主義において岩のように常に堅固でなければならない。聖書の原則が教えられて、聖なる実践によって裏づけられねばならない。——教会へのあかし・第六巻・四一七、四一八ページ

成功は精力と自発性によるもので、あまり才能によるものではない。受け入れられる奉仕をすることができるようになるものは、すばらしい才能を持っているからではなく、日常の義務を良心的に行ない、満足する気持ちを持ち、気取らずに、他人の幸福に真心からの興味をもつことである。最もまずしい運命の中に真にすぐれたものが見いだされる。最も平凡な仕事でも愛をこめて忠実に行なわれたものは、神の御目に美しいのである。――預言者と王・二一九ページ

強く美しい品性の均整のとれた構造はおのの義務行為によって築き上げられる。そして、最も大きな事においてばかりでなく、最も小さな事においても忠実であるということがわれわれの生涯の特徴とならなければならない。小さな事にも誠実で、忠実に行ない、ささやかなやさしい行為を示すことは、人生行路を楽しむのである。そして、地上におけるわれわれの働きが終わるとき、忠実になされた小さな義務がことごとく良い結果、すなわち決して滅びることのない結果になったという事を知るのである。――創世時代と父祖の生活・五七四ページ

### 結果を神にゆだねる

よい種は、しばらくの間は、冷淡で利己的な世俗を愛する心の中に置かれて、それが根をおろしている様子を外部からは見ることができないが、やがて、神の霊が魂の上に吹きかけられると、埋もれていた種から芽がはえてきて、神の栄光のために、実を結ぶようになるのである。わたしたちの一生の仕事の中でも、どれが実るようになるのかよくわからない。これであるか、あれであるか

がわからない。しかしこれは、わたしたちの決定すべき問題ではない。わたしたちは、自分の本分を尽くして、結果を神にゆだねればよいのである。「朝のうちに種をまけ、夕まで手を休めてはならない。実るのは、これであるか、あれであるか、あるいは二つとも良いのであるか、あなたは知らないからである」(伝道の書一一ノ六)。「地のある限り、種まきの時も、刈入れの時も、…：…やむことはないであろう」と神のお与えになつたお約束は語っている(創世記八ノ二二)。農夫は、この約束を信じて、土地を耕し、種をまくのである。わたしたちも、霊的の種まきを、これと同じようにすべきである。「このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す」(イザヤ書五五ノ一一)。「種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう」(詩篇一二六ノ六)という神の約束を信じて働かなければならない。——キリストの実物教訓・四四、四五ページ



## 第二十七章

# 奉仕の報い

### 金で買えない

神に奉仕することは無益なことではない。神の奉仕に生涯をささげる人々のためには金で買えない報いがある。——教会へのあかし・第四卷・一〇七ページ

主の奉仕に払われたすべての犠牲は「神の恵みの絶大な富」にしたがってつづのわれるのである（エペソ二ノ七）。——各時代の希望・第一卷・三〇九ページ

この地上でキリストと共に働くことの報いは、来たるべき世界で、キリストと共に働くという、より大きな力と特権が与えられることである。——キリストの実物教訓・三三八ページ

### 評価の基礎

神への奉仕の価値は、働きに費やされた時間の長さによるよりむしろ、奉仕のなされる精神によ

って測られる。——教会へのあかし・第九巻・七四ページ

彼らがきよい生活に進むことができるかどうかは、自分たちに与えられた才能をみがくことにかかっている。彼らが未来に受ける報いは、主に仕える誠実さ、熱心さの度合いによる。——レビユ

Ⅰ・アンド・ヘラルド・一八八七年三月一日

主は、大事業をなしとげようとしておられる。そして、この世で、忠実に真心から最大の奉仕をする者には、来世において、最大のものを主はお与えになる。——キリストの実物教訓・三〇四ページ

夕方の五時にぶどう園に来た労働者は、働く機会が与えられたことを感謝した。彼らの心は、彼らをやとってくれた人に対する感謝でいっぱいであった。そして、その日の終わりに、主人が彼らに一日分の賃金を払ったとき、彼らはたいへん驚いた。彼らは、そのような賃金をかせがなかったことを知っていた。雇い主の顔に表わされた親切心を見て、彼らの心は喜びにあふれたのである。彼らは、主人の親切と分にあまる報酬をいつまでも忘れることはできなかった。自分の無価値なことを知りながら、五時になって、神のぶどう園にはいった罪人もこれと同じである。彼の奉仕の時間は短く、報酬を受ける価値のないことを感じるのであるが、自分のようなものでさえ、神が受けいれてくださったことに大きな喜びを感じている。彼は、けんそんと信頼の念をもって働き、キリストと共に働く特権を感謝しているのである。神は、このような精神を嘉納なさるのである。

——キリストの実物教訓・三七六、三七七ページ

## 確かな報い

能力に応じて「それぞれ仕事」を割り当てられたお方は忠実な働きに無報酬ですますことは決してなさらない。忠義、忠実な行為にはことごとく神の恩寵と賛成の特別なしを受ける榮譽が与えられる。すべての働き人に「種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう」というみ約束が与えられている（詩篇一二六ノ六）。——教会へのあかし・第五卷・三九五ページ

わたしたちの働きは、どんなに短く、またどんなに卑しいものであっても、単純な信仰をもって、キリストに従っていくならば、必ず報酬を受けることができる。いかに偉大で賢明な人びとでさえも、得ることができなかったものを、最も弱く卑しい者が受けることができるのである。天の黄金の門は、自己を高める者のためには開かれない。また、高慢な心の者にもあげられない。しかし、永遠の門は、小さな子供のふるえる手が触れたときに広く開かれるのである。単純な信仰と愛とをもって神のために働いた者のうける恵みの報酬は、実に祝福されたものである。——キリストの実物教訓・三八三ページ

この働きをする人々のひたいには犠牲の冠がかぶせられる。しかし彼らはその報いを受けるのである。——教会へのあかし・第六卷・三四八ページ

神のための働き人ひとりびとりにこの思想が刺激となり、励ましとならねばならない。この世で

は神のためのわれわれの働きは、ほとんど成果がないように見えることがよくある。われわれは熱心に根気よくよい事をしようと努力するが、それでもなお、その結果をまのあたり見ることを許されないこともある。われわれにとってその努力はむだになったように見えるかもしれない。しかし救い主はわれわれの働きが天に知られていて、その報いが必ず与えられるとわれわれに確証しておられる。——教会へのあかし・第六巻・三〇五ページ

すべての行為、正義、慈悲、慈善の行ないは、ことごとく天において音楽となる。天父はみ座からごらんになり、そうした行為者を神の最もとうとい宝物とみなされる。「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる」(マラキ三ノ一七)。困っているもの、苦しんでいるもののためになされるあわれみの行為はみな、キリストにささげられたことになる。貧しいものを助けたり、苦しむものやしいたげられたものに同情し、孤児と友だちになる人はだれでも、自分を更にキリストと密接な関係に置いているのである。——レビュ  
I・アンド・ヘラルド・一八八一年八月一六日

キリストは、不幸なもの、盲人、足なえ、病人、やもめ、孤児に対してなされる慈悲、慈善、思いやりの行為をすべてご自分のためになされたとみなされる。そしてこうした働きは天の記録に保存され報われるのである。——教会へのあかし・第三巻・五一二、五一三ページ

## 公平な報い

主は恵みふかいかたであられる。主は慈悲深く、やさしい心を持っておられる。主はその民をもれなく知っておられる。主はわれわれの各個人がしていることも知っておられ、おのおのにどれだけの信頼をおくかということも知っておられる。あなたは、良い事、悪い事を書いた自分の評価表を捨てて、神ご自身に働きをゆだねないのであるうか。神から与えられている働きに従事しさえすれば、あなたは栄光の冠を与えられるのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年五月一四日

報酬のことは全く神におまかせして安んじていることを、主はわたしたちに望まれる。キリストが魂に宿られると、報酬のことは、第一の関心事ではなくなる。それがわたしたちの奉仕の動機ではない。——キリストの実物教訓・三七七ページ

屋根裏のへや、あばらや、牢獄、処刑台、山々、荒野、地のほら穴、海の洞窟の中から、キリストは、ご自分の子供たちをお集めになる。地上にあつて、彼らは、貧しくなやみ苦しんだ。また、サタンの偽りの要求に従わなかったために、恥辱をこうむって墓に下っていった者が、幾百万とあった。こうして、神の子供たちは、地上の裁判官によつては、極悪の犯罪人であると宣告された。しかし、「神はみずから、さばきぬし」になられるときが近い（詩篇五〇ノ六）。そのときに地上の判決は、くつがえされる。「その民のはずかしめを全地の上から除かれる」（イザヤ書二五ノ八）。すべての者に白い衣が与えられる（黙示録六ノ一）。「彼らは『聖なる民、主にあがなわれた者』となえられ」る（イザヤ書六二ノ一二）。——キリストの実物教訓・一六一ページ

## 現在の報い

**幸福**——キリストのような、伝道に生涯をささげる人々は、本当の幸福の意味を知っている。彼らの関心や祈りは自己をはるかに越えるものである。彼らは他人を助けようとするときに、自分も成長している。彼らは最も大きな計画、最も感動的な計画を熟知するようになって、自分自身を光と祝福の聖なる通路とする時、どうして成長しないはずがあるうか。そのような人々こそ天来の知恵を受けるのである。彼らはキリストのすべてのご計画においてますますキリストと提携するようになる。霊的不振の機会はない。——教会へのあかし・第九卷・四二ページ

この働きに首尾よく携わる教会は幸福な教会である。誤りを犯した者に同情と愛の心を持っていく男女、またその人々を偉大な羊飼いでいらっしゃるお方の羊のおりに伴ってくる人は祝福された働きに携わっているのである。そして、一人の罪人がこうして改心すると、九十九人の正しい人々に対するよりもっと大きなよろこびが天にあるということとは、何と心おどる楽しい思いではないか。

——教会へのあかし・第二卷・二二ページ

神のみこころに従う人にとっていやな仕事は一つもない。「主のためにそれをする」とは、神からなすようにと与えられた仕事がどんな仕事であろうとそれに魅力を感じるといふ思想である。

——教会へのあかし・第九卷・一五〇ページ

クリスチャンの働き人は天から任命された仕事をいやな仕事だと思わない。彼は罪の奴隷から解

放される魂を見て主と一緒に喜ぶ。そしてこの喜びは彼の一つ一つの自制に対して報いてくれるのである。——サザン・ウォッチマン・一九〇三年四月二日

惜しみなく働く者になること、犠牲的な働きを求める善行をしんぼう強く続けることは、輝かしい働きであり、天がほほえみかける仕事である。——教会へのあかし・第二巻・二四ページ

サタンが堕落させてきた人々、しかもその人々を通して働いてきた人々、そのように見たところ望みのないものを取り上げて、主のめぐみを受けるものにさせることをキリストはおよるこびになる。……主はそのしもべたちを、みわざを完成させる行為者にさせてくださる。そしてこの世においてさえ、彼らは、その成功の中にとつとい報いを見いだすのである。——教会へのあかし・第六巻・三〇八、三〇九ページ

**祝福**——キリストのための努力は、すべて祝福となつてわたしたちにもどってくる。——キリストの実物教訓・三三〇ページ

履行した義務、イエスのみ名によつてなされたすべての犠牲にはすべて、特に大きな報いが与えられる。その義務行為そのものにおいて神は語り、祝福を与えられるのである。——教会へのあかし・第四巻・一四五ページ

われわれは魂を救い主に導くためにこの世に生きていなければならない。もし他人を傷つけるならば、それは自分も傷つけることになる。他人を祝福するならば、それは、自分も祝福することになる。良い行ないはことごとくその影響がわれわれの心に反響されるからである。——教会へのあ

かし・第四巻・七二ページ

他の人々に注がれた光線はことごとくわれわれの心にも反射する。悲しむ者に語りかける親切で同情深い言葉、しいたげられた者の心を和らげる行為、同胞の必要とするものを補うための贈り物、神のみ栄えのために与えられたり、なされた事はことごとく、与えた者に祝福となってもどつてくる。このように働く人々は天の律法に従っているものであり、神の承認を受けるのである。——教会へのあかし・第四巻・五六ページ

最後の大きな報いは、キリスト再臨の時に与えられるのであるが、神に対する真心からの奉仕には、現在の生活においても報いが与えられる。働き人は障害、反対、苦い胸の張り裂ける思いのする失望に会わねばならないであろう。彼は自分のほねおりに対する実を見ないかもしれない。しかしこうした事に直面しているときに、彼は自分の労働に祝福ある報いのあることを見いだす。人類のための無我の奉仕をするにあたって神に自分のすべてを任せる者はみな、栄光の主と協力しているのである。この思いがすべてのほねおりをこころよいものにし、意志を強め、どんな事が起ころうともそれに対して勇気をかき立ててくれるのである。——教会へのあかし・第六巻・三〇五、三〇六ページ

**健康**——良い事をすることは病気に対する最もすぐれた療法である。みわざに携わる人々は神をたずねるようにと招かれている。そして神ご自身は、彼らにこたえたと誓っておられるのである。彼らは良き物をもって満たされ、潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。——教会への



あかし・第二巻・二九ページ

神やキリストや天使たちとの交わりにおいて、彼らは天のふんい気、すなわち体に健康的で、知的に活気づき、魂に喜びを与えるふんい気につつまれる。——教会へのあかし・第六巻・三〇六ページ

他人のためになる事をする喜びは、神経にひらめきを与え、血液の循環を活発にし、心身を健康にする輝きを感じに与える。——教会へのあかし・第四巻・五六ページ

**力**——丈夫な人に労働をさせないようにしてごらんさい、そうすると彼は弱くなる。他人のために重荷を負うことをしない教会や人々、また、自分のからの中に閉じこもる人々はすぐ靈的な弱さに悩むようになる。丈夫な人を丈夫にしておくものは労働であり、靈的労働、ほねおり、重荷を負うことは、キリストの教会に力を与えるものである。——教会へのあかし・第二巻・二二ページ

**平和**——他人のためになることをすることによって、心地よい満足を経験し、十分の報いとなる心の平和を味わうものである。他人の益となることをしようという高尚な希望が動機となって行いがなされるとき、彼らは人生の多種多様の義務を忠実に行なうことに本当の幸福を見いだすであろう。これはこの世のどんな報いよりもっと大きなものをもたらず。なぜなら、義務を忠実に、無我な気持ちで行なうとき、そのことごとくが天使たちに認められ、いのちの記録の中で輝くからである。——教会へのあかし・第二巻・一三二ページ

## 未来の報い

**永遠のいのち**——助けを必要としているところで熱心に思慮深く助ける努力をすることにより、まことのクリスチャンは神に対し、また同胞に対し自分の愛を示すのである。彼は奉仕のために命を失うかもしれない。しかし、キリストがご自分の宝をご自分のもとに集めにこられるとき、彼はその命を再び見いだすのである。——教会へのあかし・第九巻・五六ページ

**恵み深い招待**——永遠への門口に立ち、恵み深い招待の声を聞きなさい。それはこの地上でキリストのために苦しむことを特権とし、名誉と思い、キリストと協力した人に与えられる恩恵の招待である。……そこではあがなわれた人たちは十字架にかけられた救い主に自分らを導いてくれた人と対面し、彼らは一つとなって人間が神の生命と同じ生命を持つことができるために死なれた救い主を賛美する。戦いは終結し、すべての災いも争いも終わりを告げ、あがなわれた者が神のみくらのまわりに立つ時、勝利の歌は全天に満ちあふれ、「ほふられた小羊」われらを神にあがなってくださった「小羊こそは、……栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」と喜びの曲を歌うのである。

——ミニストリー・オブ・ヒーリング・四九二、四九三ページ

もし記録に、これが彼らの生涯であり、彼らの品性には柔和、克己、情け深さがみられたということが書かれているなら、彼らは「よくやった」「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」というキリストからのありがた

い保証と祝福とを受けるのである（マタイ二五ノ三四）。——教会へのあかし・第三卷・五二五ページ

**天の環境**——いま教会は戦っている。いまわたしたちは暗黒の世界、ほとんど全部が偶像礼拝に身をささげている社会に当面している。しかし、戦いが終わり勝利を勝ち得る日がきている。神のみこころが天に行なわれるとあり、地にも行なわれなければならない。救われた諸国民は天の律法のほかには、どんな律法も知らない。すべての人が幸福な、一つに結ばれた家族となり、感謝と賛美の衣、すなわちキリストの義の衣をまとう。自然はすべてそのすばらしい美の中に神を賛美し、礼拝するのである。世界は天の光をあび、月の光は日のようになり、日の光は今の七倍の光を放つにいたる。喜びのうちに年は進み、その光景を見て、あけの明星はともに歌い、神の子は喜びの声をあげるのである。神とキリストが声を合わせて、「もはや罪もなく、死もない」と宣言されるのである。——ミニストリー・オブ・ヒーリング・四九二ページ

**よろこび**——主のよろこびに入ることがキリストの働き人の報いである。キリストご自身が熱心に求めておられるそのよろこびは、み父に願われたキリストの願いの中に現わされている。「あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」（ヨハネ一七ノ二四）。

——教会へのあかし・第六卷・三〇九ページ

罪のために制限されてはいるものの、この地上の人生における最大の歓喜と最高の教育は奉仕の中にある。罪のある人間としての制限に拘束されない来世においても、奉仕の中に最大の歓喜と最高の教育が見いだされる。それはあかしをたてることであり、あかしをたてるとともに「この奥義

の栄光の富」を新しく学ぶのである。「この奥義はなんじらのうちにいますキリストにして栄光の望みなり」と言われている。——教育・三七九ページ

彼らは、キリストの苦難にあずかると同時に、やがてあらわれる栄光にもあずかるのである。主と共に悲しみの杯を飲み、主のみわざにおいて一つになる彼らは、主の喜びにも共にあずかるのである。——祝福の山・一五ページ

**種まきの実り**——人々を良い事に、また神へと導く聖霊の働きは、ことごとく天の書にしろされ、神の日に、聖霊の働く器としておのれをささげてきた者はもれなく、自分の一生涯働いてきた成果を見上げることを許される。——教会へのあかし・第六巻・三一〇ページ

あがなわれた者が神のみ前に立つ時、彼らになした忠実で忍耐強い努力、要塞であられるおかたのもとに身を避けるようにという懇願や熱心な説得のおかげで、そこにいる尊い魂は、自分たちの名を呼ばれるとそれに答えるであろう。そしてこの世で神と共に働く共労者であつた人々はその報いを受けるのである。——教会へのあかし・第八巻・一九六、一九七ページ

あがなわれた人々が自分たちのために重荷を負ってくれた人々に会って、あいさつをするとき、どんなにかすばらしい喜びがわくにちがいない。そして自分の楽しみのためでなく、祝福をほとんど持ち合わせない不幸な人々の祝福となるために生きてきた人々は、どんなにか心を満たされて感激することであろう。「彼らは返礼ができないから、あなたは幸いであろう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう」というみ約束に彼らは思い当たるであろう。——福音宣伝

者・五一九ページ

天においてわれわれは、助けてあげた若い者たち、家に招いたり誘惑から救ってあげた人々に会うであろう。われわれは彼らの顔が神の栄光の輝きを反映しているのを見るであろう。――教会へのあかし・第六巻・三四八ページ

救いの大計画の中でキリストと天使たちとの共労者になりなさい。これに匹敵できる仕事があるであろうか。救われた魂すべてから彼のもとに栄光が入って来る。その栄光は救われた者の上にも、その救いのため助け役となった者の上にも反映するのである。――教会へのあかし・第二巻・二三二ページ

あがなわれた人々は、自分たちがあげられた救い主に心を向けさせてきた魂に会って、それと知るのである。彼らはこうした人々とどんなにか祝福に満ちた会話を取りかわすことであろう。「神もなく、この世に希望もなく、わたしは罪人であった。しかしあなたがわたしのところに来られて、わたしの唯一の希望としてわたしの心をとうとい救い主に向けさせてくださった。わたしは自分の罪を悔いた。そして、イエス・キリストにあって、天国における主の聖徒と共にすわらせてくださったのだ」とその魂は言うであろう。他の人々はこう言うであろう。「わたしは異教国の異教徒だった。あなたはあなたの友を去り、心地よい家庭を去って、わたしのもとに来られ、イエスを見だし、唯一の真の神として主を信じる方法を教えてくださった。わたしは自分の偶像をこわし、神を拝んだ。そして今こそわたしは神に直面しているのだ。わたしは救われた、永遠に救われて、わ

たしの愛する神を常に見上げている。あのころ、私は信仰の目だけで神を見ていたのだが、今は現実におられる神を見ている。わたしを愛し、ご自分の血潮で私の罪を洗い流してくださったおかに、今こそ私はそのあがないの恵みに対する感謝の気持ちを表わすことができるのだ」と言うであろう。——福音宣伝者・英文・五一八ページ

他の人々は、飢えている者に食を与え裸な者に着物を着せた人々に感謝を表わすであろう。「信仰を持たずに失望していたとき、主はあなたをわたしに送ってください、希望と慰めの言葉を語ってください。あなたはわたしの肉体的必要を満たすための食事を持ってきてください。また、神のみ言葉をわたしに開いて、霊的に目ざめさせてください。あなたはわたしを兄弟として扱い、わたしが悲しんでいる時に同情し、打撲傷を受けて傷ついたわたしの心を回復させてください。だからわたしを救ってくださいさろうと差しのべておられたキリストのみ手をわたしはつかむことができたのだ。私が無知であったときに、天国にはわたしを養ってくださいさるみ父があられることをあなたはしんぼう強く私に教えてくださった。あなたは神のみ言葉のとうといみ約束を読んでくださった。神がわたしを救ってくださいさるのだという信仰を私に吹き込んでくださった。キリストが私のために払ってくださいさった犠牲のことを考えたとき、心は和らぎ、しずめられ、くだかれた。私はいのちのパンを求めて飢えるようになり、真理が私の魂になくではならないものとなった。私は救われてここにいます。永遠に救われ、永遠に神と共に住み、わたしのためにご自分のいのちを与えてくださったおかたを賛美するのである。」——福音宣伝者・英文・五一八、五一九ページ

## 忍耐して報いを待つ

救い主の来臨をあまりにも長く待っていると思うようなとき、すなわち、悩みに負け、骨折りに疲れ果てて、もうわれわれにゆだねられた仕事を終え、名誉ある免除を受けるために戦いから身を引くことに待ちきれないと思うならば、次のことを思い出そう——また不平が出るごとにそれを思い出そう——神はわれわれがあらしや闘争に会い、クリスチャン品性を完成し、み父であられる神と兄であられるキリストとよりよく知り合うように、また、主のために多くの魂をキリストに導く仕事をするように、そうして、「良い忠実な僕よ、よくやった。主人と一緒に喜んでくれ」という言葉を喜びの心で聞くことができるように、われわれをこの地上に残しておられるのだという事を。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年一〇月二五日

クリスチャン兵士よしんぼう強くあれ、もうしばらくすれば、来たるべきおかたは来られるのである。待ちくたびながらも眠らずに待ち、また不平を言った夜はもう終わろうとしている。報いはすぐに与えられる。永遠の日の夜明けが来る。今、あえてまどろむ者は、良い事をする尊い機会を失ってしまう。この大いなる収穫時にわれわれは穀物の束を集める祝福ある特権を授けられている。そして、救われたすべての魂は崇拜する救い主、イエスの冠の星として加えられる。戦いをも少し推進させれば、新しい勝利を得て永遠の新しい賞杯を集めるといつときにだれが武具を脱ぎ捨てたいと思うだろうか。——レビユー・アンド・ヘラルド・一八八一年一〇月二五日

原著	本書	原著	本書	原著	本書	原著	本書
123	175-177	161	231,232	199	285,286	237	344,345
124	177,178	162	232,233	200	286-288	238	345-347
125	178-180	163	234,235	201	288,289	239	347,348
126	180,181	164	235,236	202	290-292	240	348-350
127	181,182	165	237,238	203	292,293	241	350,351
128	183,184	166	238,239	204	293,294	242	351-353
129	184,185	167	240,241	205	295	243	353,354
130	185-187	168	241-243	206	296,297	244	355,356
131	187	169	243,244	207	297-299	245	356,357
132	188,189	170	244-246	208	299,300	246	358,359
133	189-191	171	246,247	209	300-302	247	359-361
134	191,192	172	247,248	210	302,303	248	361,362
135	192-194	173	249,250	211	304,305	249	362,363
136	194,195	174	250,251	212	305-307	250	364,365
137	195-197	175	251,252	213	307,308	251	365,366
138	197,198	176	253,254	214	308,309	252	367,368
139	198-200	177	254,255	215	310,311	253	368-370
140	200,201	178	256,257	216	311-313	254	370,371
141	202,203	179	257,258	217	313,314	255	371,372
142	203-205	180	259,260	218	314-316	256	373
143	205,206	181	260,261	219	316,317	257	374,375
144	206,207	182	262,263	220	317-319	258	376,377
145	208,209	183	263,264	221	319,320	259	377,378
146	209-211	184	265,266	222	320,321	260	379,380
147	211,212	185	266	223	322,323	261	380,381
148	212-214	186	267,268	224	323-325	262	381-383
149	214,215	187	268-270	225	325,326	263	383,384
150	215,216	188	270,271	226	326-328	264	384-386
151	217,218	189	271-273	227	328,329	265	386
152	218,219	190	273,274	228	330,331	266	387,388
153	220,221	191	274-276	229	331,332	267	388-390
154	221,222	192	276,277	230	332-334	268	390,391
155	223,224	193	277	231	334-336	269	391-393
156	224,225	194	278,279	232	336,337	270	393,394
157	225-227	195	279,280	233	337-339	271	395,396
158	227,228	196	281,282	234	339,340	272	396,397
159	228,229	197	282,283	235	340-342	273	398,399
160	229-231	198	283,284	236	342,343	274	399-401
						275	401



# 英和ページ対照表

E・G・ホワイトの全著書に対して、英文のインデックスが発行されていますので、そのインデックスを使用して本書から引用されたいかた、および、英文原著を対照、または引用なさりたいかたのために、原著ページとの対照表を作成しました。

原 著	本 書	原 著	本 書	原 著	本 書	原 著	本 書
7	1,2	36	44-46	65	89-91	94	132,133
8	3,4	37	46,47	66	91,92	95	133-135
9	4,5	38	47-49	67	93,94	96	135,136
10	5-7	39	49,50	68	94-96	97	136,137
11	7,8	40	50-52	69	96,97	98	138,139
12	9,10	41	52,53	70	97,98	99	139,140
13	10,11	42	54,55	71	98,99	100	141,142
14	11-13	43	55,56	72	100,101	101	142,143
15	13,14	44	56-58	73	101-103	102	144,145
16	14-16	45	58,59	74	103,104	103	145,146
17	16,17	46	60,61	75	104,105	104	146-148
18	17-19	47	61-63	76	105,106	105	148,149
19	19,20	48	63,64	77	107,108	106	149-151
20	20,21	49	64-66	78	108-110	107	151,152
21	21-23	50	67,68	79	110,111	108	152-154
22	23,24	51	68,69	80	111-113	109	154-156
23	24-26	52	70,71	81	113,114	110	156,157
24	26,27	53	71,72	82	115,116	111	157-159
25	27-29	54	72-74	83	116,117	112	159,160
26	29,30	55	74,75	84	117-119	113	161,162
27	30-32	56	75,76	85	119,120	114	162-164
28	32,33	57	76-78	86	120-122	115	164,165
29	33,34	58	79,80	87	122,123	116	165,166
30	35,36	59	80-82	88	123-125	117	166-168
31	36-38	60	82,83	89	125,126	118	168,169
32	38,39	61	83,84	90	126,127	119	169-171
33	39-41	62	84-86	91	128,129	120	171,172
34	41,42	63	86,87	92	129,130	121	173,174
35	43,44	64	88,89	93	130,131	122	174,175



# クリスチャンの奉仕

転載  
複製を禁ず

---

1970年9月1日発行

- 著者 イー・ジー・ホワイト
- 発行者 稲田実
- 印刷・制本 福音社工場 代表者 前畑 忠
- 発行所 郵便番号241  
横浜市旭区上川井町1966番地 福音社  
電話(045)951-1385 振替口座横浜599番
- 発売所 郵便番号241  
横浜市旭区上川井町846番地  
健康と品性向上協会本部  
代表者P・L・ジェンセン

(落丁、乱丁がありましたら、お取り替えいたします)

---

PRINTED IN JAPAN